### 10月28日(土)

10/1201 (1)										
口頭発表	A会場(Zoom1)		B会場(Zoom2)			C会場(Zoom3)	D会場(Zoom4)			
司会		太田 陽子		池上 尚	松浦 年男			田中 祐輔		
11:00       11:40	A-1	動作主を抑制する結果表現	B-1	文雄『磨光韻鏡』華音における 入声韻尾の仮名表記について	C-1	補助動詞として使われる 「きる」の意味と結合制約	D-1	児童作文における学齢別の話の 展開の仕方 ―「学校生活・学校行事」に ついての作文を資料として―		
	p.1	新山 聖也	p.31	王 曹傑	p.61	張 栩	p.91	加藤 恵梨 角谷 昌範		
11:50     12:30	A-2	能動態・受動態の選択に 影響する諸要素と 文脈との関わりについて	B-2	荷田春満の資料にみる 近世京都方言の低起式音調	C-2	「名詞+で」句による文中成分に 対する描写表現	D-2	新語「まである」の意味機能に関する一考察 一肯定文におけるレトリック的 現象の例として一		
	p.7	劉 志毅	p.37	中村 明裕	p.67	難波 えみ	p.97	肥田 栞奈		
司会		苅宿 紀子	鴻野 知晓		坂井 美日		大田垣 仁			
13:30   14:10	A-3	「てあげる」の恩恵性と方向性に 着目した「てあげてください」の 使用動機 ―ポライトネスの観点から―	B-3	係り結び史から見たサゾの文 ―古典語と現代語を通じて―	C-3	日本語自然発話における 「か」疑問文の 文末イントネーションとその機能	D-3	機能語の使い分け問題において 機械学習でのアプローチに シソーラスを用いる有効性 - 受身文における「によって」と「に」 を中心に		
	p.13	数納 風香	p.43	蔦 清行	p.73	彭 涛	p.103	陳 柏丞		
14:20   15:00	A-4	テクレルの使用条件について	B-4	人称詞「こなた」の成立	C-4	終助詞による命令文の 意味の規定 ―福井県嶺北東部方言における 共通語「ヨ」相当終助詞の分布―	D-4	新聞コラムに見られる文体特徴 ―社説との比較を通して―		
	p.19	楊 世沢	p.49	山中 梓	p.79	福田 建	p.109	劉 宵妮		
15:10     15:50	A-5	被使役者が無情物の使役構文の用法とその周辺化	B-5	現代語において使用が衰えた 形容詞・形容動詞について	C-5	「要するに」の使用実態と 用法の分析 ―『日本語日常会話コーパス』を 用いて―	D-5	現代日本語におけるキャラ語尾 の位置づけ およびリソースについて		
	p.25	李 翹彤	p.55	中川 秀太	p.85	李 琦	p.115	劉 天陽		

					10月29日	(日)						
ワークショップ	A会場(Zoom1)					B会場(Zoom2)						
会場担当		澤村 美幸 中川 奈津子							中川 奈津子			
9:30	W-1	ワークショップ 1 コーパスと語彙資源の連携			W-2	W-2 ワークショップ2 縦断作文コーパスに見る学習者の日本語習得過程						
11:00		発表者:小木曽 智信 近藤 明日子 高橋 雄太 片山 久留美 浅原 正幸					発表者:本多 由美子 陳 燕青 ライ・タイン・ホア レー・ティ・トゥー・ハー 呉丹					
	p.145	司会		p.159 司 会: 本多由美子								
			:	ポスター争	表・オープン学生	セッション	会場	(oVice)				
会場担当					北崎 勇	帆李婷	田	中 啓行				
	ポス	ター発表			<b>.</b>	オープン	学生	セッション …予稿集	原稿はありません			
	P-1			0-1 なし						万巨鳳		
		現代語における二重撥音化と 撥音連続回避現象		0-2 なし 0-3	―学習者の多元的な関わりへの分析を中心に―				何佳欣			
				なし	人教版日本語教科書における副詞の実態について				洪秀雅 李雪晴			
	p.121	坂本 麻輝	11:30	0-4 なし	文系学術論文に ―「と思われる」					湯家未		
	P-2		12:20	0-5 なし	『狭衣物語』諸本	野田太暉						
	P-2	近代における日本と中国の 外来語・翻訳語形成に関する 一考察 「経済」「政治」「大学」などの		0-6	言語の逆向遷移 ―日中新聞ニコ	張雅芝						
				0-7 なし	創作物における魔法の呪文の形態・音声的分析—「女神転生」の場合—				湯本華			
		言葉を例として一		0-8 なし	井波陵一訳『紅楼夢』のパラテクストの研究				王春蘊			
11:30	p.127	鄭 祚明	(10分)									
13:00	P-3	訓点データベースの 作成と活用について		0-9 なし					の自称の選好について—	古谷創		
			12:30     13:20	0-10 なし	「話す」課題と「書く」課題に見られる中国語母語話者の日本語受身文の使用実態				李悦莹			
				0-11 なし	日本語オノマトペの韓国語訳 ―『ハチミツとクローバー』『ハイキュー!!』のオノマトペを対象に―				佐藤奈波			
		蛭沼 芽衣 藤田 優子		0-12 なし 0-13	中国人日本語学習者コーパスに基づいた「自分」の用法分析					李雪晴 洪秀雅		
	P-4	『辞書語彙データベース』の 構築と展望 ―異種古辞書連携のための キー策定を目指して一		なし	一般言語字的な「焦点」から見る係り結びの「焦点」				小原真佳			
				0-14 なし	日本語アカデミック・ライティングにおける論証の展開 中国語を母語とする日本語学習者のピア・レスポンスに着目して					李嘉璇 聶梓晴		
				0-15 なし	映画ポスターにおけるキャッチフレーズに関する中日対照研究					周源		
		, were		0-16 なし	「の」と「に」の混用からみる学習者の誤用メカニズム				孫之依			
	p.139	藤本 灯 久保 柾子 劉 冠偉		O-17 首都圏在住女子大学生における「これはあなたの傘ですか? 番号B-D-5-2 青井上(あおいうえ)と書いてあります。」に該当する表現の言語行動					陳麗娟 長倉莉子			
フリータイム		(20分)		なし				こよるスタイル・シフティン		富岡乃菜 犬塚しおり		
					シンポシ	ジウム会場	号(Zc	oom1)				
ホスト		2.5.42554.1				中川 奈瀬	孝子					
		シンポジウム 日本語学と国語教育との接点(	学会創立80周:	年記念大	<u>会プレ企画)</u>							
		日本語学と国語教育学との接点 教育科学研究会・国語部会における言語教育について—文法教育のばあ 多様な子どもたちが学ぶ「国語」の当事者として—日本語学からみた国語						パネリスト 勘米良 祐太 (武蔵野大学)				
14:00												
17:00												
								司会	山東 功 (大阪公立大学)			
								企画担当	山東 功 小林 正行 佐藤 栄作 田中 st (中高生日本語研究コン			
	n 173	p.173							池上 尚 澤村 美幸 (大会企画運営委	員)		

# 動作主を抑制する結果表現

筑波大学非常勤研究員 新山聖也

### 1. はじめに

日本語では、「ぱなしだ」「てある」「ままだ」のように結果を表す表現において、他動詞の動作主項が抑制され、他動詞の対象項がガ格で標示される現象が観察できる。

- (1) 部屋に入っていくと、電気がつけっぱなしです。(BCCWJ)
- (2) 壁の半分には、十枚以上の図表がはってある。(BCCWJ)
- (3) 明りが消え、<u>カーテンが開けたままで</u>、ノラが昼間出てから、それきりなのだろう。 (BCCWJ)

これらの形式は、個別形式の研究がなされている一方、動詞連用形接続、動詞テ形接続、動詞タ形接続という異なった構造を持つ日本語の結果表現において、共通して動作主の抑制が起こる事実について、日本語文法の体系の中でどのように位置づけられるかについては、今まで十分に取り扱われてこなかった。本発表では、結果表現において動作主が抑制される現象について、以下の3つの観点から議論を行い、日本語における動作主を抑制する結果表現の位置付けを明らかにすることを目的とする。

- (4) ヴォイス形式やアスペクト形式との比較から、動作主を抑制する結果表現がアスペクト形式として位置付けられることを示す。
- (5) アスペクト形式内部の観察から、テイル文と動作主を抑制する結果表現に共通する、 結果表現と動作主の関係を明らかにする。
- (6) 過程の言語化という観点から、動作主を抑制する結果表現の位置付けと棲み分けについて示す。

### 2. 研究の背景

#### 2.1 結果表現に関する先行研究

2.1 節では、本発表で取り上げる「ぱなしだ」「てある」「ままだ」の先行研究を確認する。まず、「ぱなしだ」の記述的研究においては、「ぱなしだ」が持つ「放置」の意味とアスペクト的な意味解釈の関係が中心に取り上げられてきた。アスペクト的意味解釈とは、(7)のようなテイル形の動作継続と結果継続に相当する「ぱなしだ」の解釈のことを指す(cf.中村2009)。また、類義表現として「ぱなしだ」と「ままだ」を比較する渡邊(2000)のような研究もあるが、動作主を抑制する現象については中心的に扱われてこなかった。

- (7) a. 子供が笑いっぱなしだ。(動作継続)
  - b. ドアが開きっぱなしだ。(結果継続)

それに対し、統語論的な観点に立つ新山(2020,2022)は、(1)のように「ぱなしだ」において動作主が抑制される現象に着目し、「ぱなしだ」の統語構造について議論を行っている。一方で、新山(2020,2022)は名詞性を持つ形式に着目するものであり、「てある」との関係は議論の対象とされず、また、「ままだ」についても「ぱなしだ」との比較対象として部分

的に取り上げられるものに留まっている1。

続いて、「てある」においては、(8a) のように他動詞の動作主が抑制される受動型の「てある」と動作主が主語となる能動型の「てある」が存在することが指摘され、意味論的研究や統語論的研究の対象となってきた。

- (8) a. 崩した古材や板が積み上げてあった。(松本清張「投影」)
  - b. 水曜日はお勤めが休みだと聞いたから、私は一日中、身を明けてあるのだよ。(柴田翔「立ち壷す明日」)

(益岡 1984:123)

近年まで意味に着目する研究が中心であった「ぱなしだ」に対し、「てある」では動作主が抑制される現象について統語論的観点から分析も行われてきた。このように、「ぱなしだ」、「ままだ」、「てある」の研究はそれぞれ蓄積を持つものの、統一的に扱うことには関心が持たれてこなかった。よって、本発表では、「ぱなしだ」「ままだ」「てある」の関連を探るため、動作主を抑制する結果表現が日本語でどのように位置づけられるのかを分析する。

### 2.2 他言語における動作主の抑制と結果表現の関係

2.2 節では、動作主を抑制する結果表現を取り扱う上で、日本語以外の言語における動作 主の抑制と結果表現の関係を確認する。Embick (2004) によると、英語の"The door was opened." のような文には、日本語の受動文に相当する (9a) の解釈とテイル文の結果継続に相当する (9b) の解釈が存在することが指摘されている。

- (9) The door was opened.
  - a. Eventive passive

Someone opened the door.

b. Resultative

The door was in a state of having become open.

(Embick2004: 305)

このように、結果継続の解釈を持つことと動作主の抑制は、日本語に限らず、他言語においても何らかの関連を持っているものと考えられる。他にも、Haspelmath and Müller-Bardey (2004)は、動作主を抑制する形式として、逆使役の他に、結果に関わる形式の存在を指摘している。このように、動作主を抑制する結果表現に着目することは、結果表現と動作主の関係を整理する上でも重要な観点であると考えられる。

### 3. ヴォイス形式・アスペクト形式との比較による位置付け

動作主を抑制する結果表現は、項構造に関わる点で広義のヴォイス形式の特徴も持っているが、結果を表すという点でアスペクト形式の特徴も持っている。3節では、広義のヴォイス形式やアスペクト形式との比較から、動作主を抑制する結果表現の位置付けを図る。

<sup>1</sup>また、動作主が抑制される現象について認知言語学の観点から取り上げた研究として、平野(2023)も挙げられる。しかしながら、平野も新山と同じく「てある」を射程に含めたものではない。

まず、形態(統語)的な接続について観察する。(1)~(3)の通り、動作主を抑制する結果表現は、動詞連用形、動詞テ形、動詞タ形など、個別の形式に従って接続が決定する。この形態(統語)的な接続の特徴は、日本語のアスペクト形式と共通している。典型的なアスペクト形式であるテイルはテ形に接続するが、「続ける」のようにアスペクト的意味を表す複合動詞(影山 2019:8)は連用形、「ばかりだ」のようにアスペクト的意味を表す体言締め文(cf.角田 2011)。は夕形やル形に接続する。

- (10) a. ジュースを冷やし続ける。
  - b. ジュースを冷やしている。
  - c. ジュースを冷やしたばかりだ。

一方で、ヴォイスは動詞語幹に-(r)are-や-(s)ase-が後接する形となる。これは (12) のような北海道方言における逆使役-(r)asar-も同様であり、動作主を抑制する結果表現はヴォイスと異なった形態 (統語) 的な接続の特徴を持っている。

- (11) a. ジュースが冷やされる。
  - b. ジュースを冷やさせる。
- (12) 床がきれいに磨かさっている。 (佐々木 2015:163)

また、動作主を抑制する結果表現は、常に動作主を抑制するわけではなく、動作継続や完 了のようなアスペクト的意味を表すこともある。このような事実からも、動作主を抑制する 結果表現は、項構造の変更を中心的機能としているわけではなく、あくまでアスペクト形式 として位置付けられるものと考えられる。

- (13) a. 太郎が走りっぱなしだ。
  - b. 太郎は昨日のうちにたっぷりと寝てある。

しかしながら、動作主を抑制する結果表現がアスペクト形式であるとすれば、どうして動作主を抑制するという機能を持つのか。続いて、4節では、この点について分析を行う。

### 4. 結果継続と動作主の関係

4節では、アスペクト形式において動作主が抑制される現象が起こる事実について説明するために、アスペクト形式内部の観察から、テイル文と動作主を抑制する結果表現に共通する、結果表現と動作主の関係について分析を行う。

前提として、テイル文には、動作継続の解釈と結果継続の解釈が存在する。

- (14) a. 子供が走っている。(動作継続)
  - b. 枯れ葉が地面に落ちている。(結果継続)

テイル文の解釈の可否は、動詞の種類によって説明できる例も多い。一方で、以下のように、「受動文+テイル」については動詞の種類だけで解釈の可否を説明することができない例が存在する。杉本(2002)は、(15)(16)のように、動作主が表示される場合に結果継続の解釈が難しく、動作主が表示されない場合に結果継続の解釈が許容されることを指摘し、

- (17) の動作主不在仮説を仮定している。
  - (15) a. 外堀が徳川軍に埋められている。(動作継続)

- b. 外堀が 埋められている。(結果継続)
- (16) a. 人質が強盗に縛られている (動作継続)
  - b. 人質が 縛られている。(結果継続)

(杉本 2002:42 解釈の付記と下線は発表者による)

(17) 「ている」形の結果相解釈

変化動詞文において動作主が存在しない場合、結果相解釈が許される。

(杉本 2002:43)

結果継続の解釈と動作主の関係については、もう一つ、興味深い事例が存在する。それは「可能文+テイル」である。竹沢(2015)は、「可能文+テイル」に、動作継続を表すタイプと結果継続を表すタイプの2種類が存在することを指摘している。

- (18) a. フォワードの選手がよく動けている。(動作継続)
  - b. あの役者さん、今度は間違えずに演技できている。(動作継続)
- (19) a. そのぞうきんはきれいに縫えている。(結果継続)
  - b. この帯は上手に結べている。(結果継続)

(竹沢 2015:267 解釈の付記は発表者による)

この「可能文+テイル」においても、結果継続の解釈は動作主の表示によって影響を受ける。

- (20) において、「縫う」や「結ぶ」が要求する動作主は表示されない必要がある。
  - (20) a. \*花子(に)はそのぞうきんはきれいに縫えている。(結果継続)
    - b. \*花子(に)はこの帯は上手に結べている。(結果継続)

(竹沢 2015:272)

以上の観察を踏まえると、結果継続の解釈と動作主の不在を関連づける動作主不在仮説は、一定の妥当性を持つ。そして、これは3節で得られた「結果表現がどうして動作主を抑制するのか」という疑問に対する回答にもなる。すなわち、結果継続の解釈と動作主の不在は連動していることが要因と考えられる。

しかしながら、動作主を抑制する結果表現と「受動文+テイル」の間には、動作主の抑制に関するメカニズムの違いがある。まず、(21a)のように、受動文の時点で動作主は任意項となり、その上で、「受動文+テイル」においては、(21b)のように、任意項である動作主を表示するか否かによってテイルの解釈が決定する。この場合、テイル自体は動作主を抑制する機能を持っていない。

- (21) a. 外堀が {徳川軍に/φ} 埋められた。
  - b. 外堀が {徳川軍に/ø} 埋められている。 (動作継続/結果継続)

一方で、(22a)の他動詞文において必須項である動作主が、(22b)の結果表現において義務的に抑制されている。「受動文+テイル」とは異なり、結果表現自体が動作主を抑制する機能を持っている点が、動作主を抑制する結果表現の特徴的な点である。

- (22) a. {太郎が/\*φ} 窓を開けた。
  - b. {\*太郎が/ø} 窓が開け {っぱなしだ/てある}。(結果継続)

以上の議論を踏まえると、日本語の結果表現には、動作主を取らない動詞のテイル形(23a)、

受動文や可能文とテイル形によって合成的に構成される結果表現 (23b)、結果表現そのものが動作主を抑制する形式 (23c) の3 種類が存在することになり、このうち「ぱなしだ」「てある」「ままだ」は3つ目に当たるものとして整理することができる。

- (23) a. 窓が開いている。
  - b. 窓が開けられている。
  - c. 窓が開け {っぱなしだ/てある/ままだ}。

### 5. 過程の言語化と動作主を抑制する結果表現

4節では、結果表現と動作主の不在の関係が明らかとなった。同時に、結果表現自体が動作主を抑制するパターンは特殊なものであり、その特殊なパターンが日本語においてどのように役割を担っているのかという点には疑問が残る。5節では、過程の言語化という観点に立ち、結果表現における棲み分けについて分析する。

佐藤(2022)によると、日本語話者は、知覚していない過程を言語化する傾向が強いとされている。(24)はいずれもお客さんがその場に存在することを表す文であるが、(24a)は過程を言語化せず、(24b)はその場に存在するまでの「来る」という過程を言語化している。

- (24) a. お客さんがいる。
  - b. お客さんが来ている。

陳(2009)は、玄関に見たことのない靴を発見した場面をどのように表現するかについて調査したところ、中国語母語話者は50%が(24a)に相当する表現を選んだのに対し、日本語母語話者87.6%が(24b)に相当する表現を選んだことを報告している。この事実も、日本語話者が知覚していない過程を言語化する傾向を示している。

このような傾向を踏まえ、動作主を抑制する結果表現を見ると、動作主を抑制する結果表現も、過程を言語化する表現の一種であると考えられる。例として、本の存在を表す文において、過程を言語化しない(25a)に対して、(25b)は過程を言語化する表現として位置付けられる。また、窓の状態を表す文において、窓の開閉の状態を示す(26a)に対し、(26b)は動作主の存在を示唆する点で、強く過程を言語化する表現であると考えられる。

- (25) a. 本がある
  - b. 本が {置きっぱなしだ/置いてある/置いたまま} だ。
- (26) a. 窓が開いている。
  - b. 窓が {開けっぱなし/開けてある/開けたまま} だ。

このように、動作主を抑制する結果表現は、過程の言語化を行う表現である。そのため、過程を言語化する傾向が強い日本語において、一定の役割を持つことになる。更に、動作主の非意図的な放置に由来する状態を表す「ぱなしだ」と動作主の意図的な準備に由来する状態を表す「てある」は、結果状態が実現されるまでの過程に対立がみられる。この対立も、眼前にある状態を表しながらも、その過程を言語化する日本語の傾向に合致するものであり、どのような過程を言語化するのかという点において棲み分けが存在するものと考えられる。

### 6. まとめ

本発表では、以下の3点の指摘を行い、動作主を抑制する結果表現の日本語における位置づけを行った。

- (28) ヴォイス形式やアスペクト形式との比較から、動作主を抑制する結果表現がアスペクト形式として位置付けられることを示した。
- (29) アスペクト形式内部の観察から、結果表現と動作主の不在が連動しており、テイル 文と動作主を抑制する結果表現が共通する面を持つことを示した。
- (30) 過程の言語化という観点から、動作主を抑制する結果表現が過程を言語化する表現の一種であり、どのような過程を言語化するのかに関して棲み分けを持つことを指摘した。

本発表においては、あくまで「ぱなしだ」「てある」「ままだ」のような動作主を抑制する結果表現の存在を指摘し、その位置付けを行うことを目的としていた。そのため、「ぱなしだ」や「てある」の個別形式における統語論的分析の関連などについては触れることができなかった。特に、新山(2020)が主張する「ぱなしだ」の構造と近藤(2018)が主張する「てある」の構造は異なったメカニズムが提案されており、そのような違いが結果表現と動作主の不在の関係を扱う上で問題となるのかなどは、今後の課題となる。

### 参考文献

影山太郎(2019)「日本語の述語膠着とモジュール形態論」岸本秀樹・影山太郎(編)『レキシコ ン研究の新たなアプローチ』pp.1-25, くろしお出版. /佐々木冠(2015)「北海道方言における形 態的逆使役の類型的位置づけ」中村渉・佐々木冠・野瀬昌彦 (著)『認知日本語学講座第 6 巻 認 知類型論』pp.163-211, くろしお出版. /佐藤琢三 (2022) 「叙述類型選択原理の諸相と展開可能性」 『國語と國文学』99-5, pp.45-57./杉本武(2002)「「ている」形の解釈と動作主性について」『文藝 言語研究 言語篇』42, pp.37-50./竹沢幸一(2015)「2種類の「可能動詞+テイル」構文」深田智, 西 田光一, 田村敏広(編)『言語研究の視座』pp.266-279./陳昭心(2009)「「ある/いる」の「類義表 現」としての「結果の状態のテイル」: 日本語母語話者と中国語を母語とする学習者の使用傾向 を見て」『世界の日本語教育』19, pp.1-15./角田太作(2011)「人魚構文:日本語学から一般言語学 への貢献」『国立国語研究所論集』1, pp.53-75. /中村愛(2009)「「~っぱなし」の意味・用法に 関する研究」『實踐國文學』75, pp.99-114. /新山聖也(2020)「「-ぱなしだ」と「-ままだ」におけ る内項主語構造と外項の削除」KLS Selected Papers 2, pp.71-85. /新山聖也 (2022)「複雑述語の補 文構造と範疇形式」『日本語文法』22-2, pp54-70./平野啓太 (2023)『句を内包する接尾辞群に関す る認知言語学的研究』大阪大学博士論文./益岡隆志(1984)「「-てある」 構文の文法」 『言語研究』 86, pp.122-138./渡邊ゆかり(2000)「「動詞の過去形+ままだ」述語文と「動詞の連用形+っぱなし だ」述語文の意味的相違」『広島女学院大学日本文学』10, pp.1-20. /Embick David (2004) "On the structure of resultative participles in English." Linguistic Inquiry, 35-3, pp.355-392./Haspelmath Martin. and Thomas, Müller-Bardey (2004) "Valence change." Morphology: A handbook on inflection and word formation, 2, pp.1130-1145.

### 能動態・受動態の選択に影響する諸要素と文脈との関わりについて

劉 志毅(早稲田大学大学院生)

### 1. 問題提起

能動・受動の選択に影響する要素に関しては、「動詞の他動性」(工藤(1990))「名詞句階層」(角田(1991))「連体修飾節構造の類型」((劉(2022a))「文脈」(角田(1991))等がこれまで挙げられてきた。特に角田(1991)・古賀(2013)では、述定においては、「文脈」が「名詞句階層」より影響力が強いと指摘されているが、それ以外の諸要素の影響力と文脈との関わりについては、まだ検討する余地があると思われる。また、装定においては、大塚(1996)・加藤(2003)・劉(2021a)では、前文の談話の主題が主名詞と同様であるか否かで話の重点が異なっていることや、世界知識に関わる語用論的要因が連体修飾節の成立に最も関わっていること、及び能動・受動の選択に影響を与える意味論・統語論的要素間の序列等が指摘されているが、能動・受動の選択に影響する要素の影響力が、文脈との関わりにおいてどのように変化するのかについてはまだ不明な点が多い。そこで本研究では、能動・受動の選択に影響を与える諸要素と「文脈」との関わりに焦点を当て、文脈に置かれた場合に諸要素の影響力がどのように変化するかについて記述的に考察し、変化のある場合の条件や変化の有無の原因を解明することを目的とする。

#### 2. 先行研究と問題の所在

述定においては、角田(1991、2009:49-50)では、文脈の影響によって、「名詞句階層」に違反していても、自然と見られる用例があるという。「藤本は ∅ 私に叱られながら、成長していったのです。(角田(2009:214))」がそれである。また、古賀(2013:18)では、テクストレベルの要請、すなわちテクストの結束性を保ちたいという要請が視点の序列と視点固定の原則より優先される場合があると指摘されている¹。このことから、「文脈」は影響力が強く、「名詞句階層」より強いと読み取れる。まとめて言えば、述定においては、「文脈」の影響力が「名詞句階層」の影響力より強いという点が指摘されているが、「名詞句階層」以外の諸要素の影響力についても、テクストにおいて何か変化があるのかという点は、まだ検討する余地があると思われる。

次に、装定においては、大塚 (1996:108) によれば、前文の談話の主題と主名詞が同じである場合には、受動態の方が自然であるが、前文の談話主題と主名詞が異なる場合には、能動・受動は両方とも使用できるが、話の重点が異なるという。また、加藤 (2003:268、273、287-288) では、連体修飾節構造の成立には語用論的な要因 (世界的知識) が最も深く関わっているが、統語論的な要因も無関係ではなく、連体修飾節の解釈のコストをデフォルト値として決める際に、統語論的要因が強い影響力を果たしていると指摘されている。加えて、劉 (2021a) では、意味論・統語論的要素を扱い、能動・受動の選択に影響する諸要素の影響力を比較した結果、述定では「「名詞句階層」>「動詞の他動性」>「アスペクト」」、装定では「「連体修飾節の類型」 ≒ 「名詞句階層」>「動詞の他動性」>「テンス・アスペクト」>「否定」」と序列化できると指摘されている。さらに、劉 (2023a:182) では、動作が反復的である場合、「テンス」の影響による不自然な用例が自然になることがあり、その成立には文脈の支えが必要であること、劉 (2023b:56-57) では、「アスペクト」の影響による不自然な連体修飾節構造を別の文の中に入れれば自然になるという指摘もある。これらのことから、「テンス」「アスペクト」の影響が文脈によって解除されることは明らかであるが、それらはわずかな作例に基づいた結論に過ぎないため、反復的な意味が読み取れる場合以外に、他の文脈的条件が存在しうるか否かについては、コーパス等の実例を通して、さらなる検討が必要と思われる。

以上のことから、述定であれ装定であれ、影響要素と文脈との関わりに関しては、「文脈」と「名詞句階層」との関係についてはある程度解明されているものの、「文脈」とそれ以外の要素との関係、すなわち、「文脈」に置かれることによって生じる、能動・受動の選択に影響する要素の影響力の変化について

<sup>1</sup> 古賀 (2013:2、7、9) によれば、「視点の序列」は、「E:[+有情]>[-有情]」の序列と「E:一人称>一人称以外」の序列のことを指しているという。

#### 3. 研究対象と研究方法

本発表では、劉(2021a等)に基づき、紙幅の関係から、考察する要素を「動詞の他動性」「連体修飾節構造の類型」「テンス」「アスペクト」「否定」という五要素に絞る。また、動詞の項の「名詞句階層」に関しては、劉(2022a等)を参考に、動作主と対象/相手/所有者が同じ有情物である場合を対象とする。次に考察の方法としては、母語話者へのアンケート調査と現代日本語書き言葉均衡コーパス(BCCWJ)の両方を利用する。具体的には、ある要素の影響により能動・受動が「片方選択可能」<sup>2</sup>になる場合、すなわち、能動あるいは受動の片方が不自然になる場合は、多様な文脈を含むコーパスの実例を観察することによって、自然な用例があるか否かを判断するということである。影響要素が影響を及ぼすパターンが複数ある場合には、そのうちの一つに絞って考察を行う。また、コーパスが使用しにくい場合には、母語話者へのアンケート調査に基づいて考察を行う。さらに、劉(2022a:62-63、2023b:50-51)を参考に、コーパスで検索する際のキーワードとしては、工藤(1990)の「動詞の他動性」と角田(1991)の「名詞句階層」を考慮した上で、小泉ほか(1989)の『日本語基本動詞用法辞典』から(1)の動詞を抽出する。なお、(1)のA類とB類はそれぞれ工藤(1995)の主体動作・客体変化動詞と主体動作動詞にあたる。

(1) A 類 預ける、奪う、隠す、囲む、殺す、縛る、絞める、育てる、倒す、騙す、逃がす、盗む、雇う、渡す(14語) B 類 愛する、謝る、追う、感謝する、嫌う、蹴る、誤解する、断る、刺す、誘う、叱る、救う、攻める、責める、助ける、尋ねる、叩く、頼む、注意する、殴る、憎む、踏む、褒める、招く、見せる、認める、求める(27語)

#### 4. 考察

#### 4.1「連体修飾節構造の類型」

劉(2022a:67-68)では、主名詞が連体修飾節にある動詞の「手段(道具/方法)」を表す場合には、(2)(3)のように、能動・受動は基本的に「片方選択可能」になると指摘した。しかし、実際にコーパスでは、(4)のように動作主が非明示な例が確認できる。よって、動作主が非明示である文脈においては、影響要素による不自然さが解消できると言えるもまた、アンケート調査結果を考察した結果、①「手段(道具)」の場合には、動詞が「シタ形」、かつ主名詞に何らかの特徴が想定しやすいという条件において、影響要素の影響力は解除されやすい((5)(6a))。それは過去に起こったという既然性が主名詞の真部分集合を作り出す基準として明確であるという点がに関わっていると思われる。②「手段(方法)」の場合には、動詞が「スル/シタ形」、かつ連体修飾節の表す事態がプラス的な事態であるという条件において、影響要素の影響力は解除されやすい((7))。上の動作主が非明示の場合も同様であるが、それは事態がプラス的である場合、被動者が「わざと誰かに悪影響を与えてもらう方法を考える」という不自然さが解消されるからである。ちなみに、①②共に動詞のアスペクト的意味は影響を及ぼしていない。

- (2) a.太郎が次郎を<u>縛るロープ</u> b.??次郎が太郎に<u>縛られるロープ</u>(劉(2022a:71))
- (3) a.警察隊が犯人を囲む方法 b.?犯人が警察隊に<u>囲まれる方法</u>(劉(2022a:71))
- (4) それが最近の研究によって、油性の物質に融合させて、皮膚へ直接塗っても吸収される方法が考

 $^2$  本発表では、劉 (2023b:47-48) に従い、能動・受動が共に自然である場合を「両方選択可能」、両者の片方しか自然でない場合を「片方選択可能」とする。

<sup>3</sup> あらかじめ断っておくが、コーパスで用例を収集する際には、すべての動詞を用いて検索を行ったわけではない。本研究では、先行研究で挙げられている用例に関連する動詞を検索のキーワードとして適宜使用している。もちろん、先行研究で挙げられた動詞を含む適切な用例がない場合には、他の動詞の用例を使用する。また、「動詞の他動性」に関する考察では、工藤(1990)で挙げられている他動性の弱い動詞、「受ける」「教わる」等も対象とする。

<sup>4</sup> 劉 (2022c) では、「音楽が演奏される方法」のような例をきっかけに、「方法」といった主名詞を含む連体修飾節構造における能動・受動の実態調査を行っている。劉 (2022c) は主に実態の把握に着目しているため、本発表で扱う要素の影響力の解消については言及していない。

<sup>&</sup>lt;sup>5</sup> 劉 (2023a:182) では、「先生に叱られた」の場合、動詞の「シタ形」が過去の経験を表し、連体修飾節が主名詞を限定する際の、真部分集合を作り出す基準となると指摘した。「真部分集合」の概念は金水 (1986) によるものである。

案され、早い市販が望まれるようになりました。(『宴会・パーティーゲーム集』、2001)

- (5) 次郎が太郎に縛られたロープはすでに切れかけていた。(インフォーマントによる)
- (6) a.次郎が太郎に<u>刺されたナイフ</u>は刃が錆びついていて、抜くことも危険だった。(インフォーマントによる)

b.??次郎が太郎に刺されているナイフ(作例) c.?次郎が太郎に注意された拡声器

(7) a.「患者が医者に<u>助けられる方法</u>」: 患者の態度や助かりたい熱意などによって医者の治療法に影響がある場合、つまり、ここでの方法は医者の治療法ではなく、患者が医者に働き掛ける方法という意味ならば容認可能(使える文脈の説明、インフォーマントによる) b.?犯人が警察隊に<u>囲まれる方法</u>((3b) 再掲)

#### 4.2「動詞の他動性」

工藤(1990:62-65)によれば、動詞に対象への働きかけ性がないもの、あるいは働きかけを受けるもの (c 類) である場合には、能動・受動の対立は成立しないという。それは述定でも装定でも同様であるため、ここでは両者を区別せずに議論する。工藤(1990:63)では c 類のうちの「働きかけを受けるもの」として、「捕まる」「見つかる」「教わる」「受け取る」「受け取る」「受ける」等が挙げられている。コーパスでは、「捕まる」「見つかる」「教わる」「受け取る」「受け取る」「受ける」等が挙げられている。コーパスでは、「捕まる」「見つかる」「教わる」「受ける」の受動態の用例は見当たらなかった。例えば、「受ける」の場合、可能あるいは尊敬を表す (8) (9) のような用例しかない。しかし、「受け取る」に関しては、(10) のような用例があるが、用例が若干不自然なところもある。また、(11) のように、「認める」の意味の「受け取る」にも受動態の用例があるが、それは物の受け取りではないため、事情が少し異なる。さらに、アンケート調査では、(12) ~ (14) のように、いわゆる間接受身の用例や可能形とも読み取られそうな用例も挙げられている一方、「捕まる」「見つかる」「教わる」といった動詞が受身になる用法については、自然に用いられる文脈が全体的に想定しにくい傾向にある。以上のことから、「動詞の他動性」は「文脈」に左右されにくい核心的な影響力を果たしていると言える。それは、動詞が専ら動作の働きを受けるものであれば、そもそも受動態が成立しにくいからである。

- (8) 建築士の設計だけでも家は建つが、インテリアコーディネーターが参加すると、きめ細かな提案が<u>受けられる</u>。(『高断熱・高気密の家づくり』、1995)(述定・可能)
- (9) ただし、他の低所得軽減(……7割軽減)を受けられている世帯は除きます。(『市報わかやま』、 2008)(装定・尊敬)
- (10) 天山と旧阿房郡との合併は、名称が阿房郡になったこともあり、天山の儒林には事実上の吸収と受け取られた。(『両班』、2001)
- (11) この主義が初めて公表されたとき、カナダは大英帝国の一部であり、そのように一般に<u>受けとられていた</u>。(『ロスチャイルド世界金権王朝』、1993)
- (12) 他人に荷物を間違って受け取られる。(インフォーマントによる)
- (13) 電波がセンサーに効率的に受け取られるように設計する。(インフォーマントによる)
- (14) 工場などで部品が流れてくる様子を想像して、部品が装置の中央部のみで<u>受けられる</u>仕組みを作った。(インフォーマントによる)

#### 4.3 「テンス」

劉(2023a:180)では、(15)のように「現場性」のない動詞である場合、動詞の「スル形」の能動・受動は文法的には適格であるが、通常あまり使われないという理由でやや不自然であるため、「テンス」による影響を受けていると指摘した。それは動詞がスル形の場合、文のモダリティが真性でないことによるものと説明している。野田(1989:134)で指摘されている通り、「真性モダリティを持たない文」は文章・談話に従属し非常に不安定だという。実際にコーパスでは下の(16)(17)のような用例が確認できた。よって、「テンス」の影響力は文脈において解除できると言える。この場合には、文脈の支えがあれ

<sup>6</sup> 本発表では、特に出典を明示していない用例は作例である。

ば文が成立することになるため、ほかの特別な条件は不要と思われる。それは述定における「テンス」の影響はモダリティの問題に関わっており、文脈の支えがあればモダリティによる不自然さが解消され、その影響が解除されるのである。一方、装定においては、劉(2023a:181-182)では、(18)のように、連体修飾節構造の類型がタイプ I (「対象」)である場合、動詞が「スル形・シタ形」、かつ動作が一回的と読みとりやすい場合には、能動・受動は「スル形」と「シタ形」の選択状況が異なるため、「テンス」による影響を受けていること、また、「毎週先生が叱る学生」のように、動作が反復的に行われることを前面に出せば、用例が自然になることをと指摘した。実際にコーパスでは、(19)のような用例も確認できる。(19)では、反復的な事態を表すというより、「猫が鼠や鳥を殺す」という一般的な事態を表していると考えられる。従って、連体修飾節が一般的な事態を表す場合、あるいは反復的な事態を表す場合には、「テンス」の影響力は解除されると言える。それは主名詞の真部分集合を作り出す基準が明確だからである。ここでの「一回的動作」「反復的な事態」「一般的な事態」は工藤(1995:26)の「時間的限定性」の「個別・具体的、抽象的、一般的(脱時間)」に位置付けられる。工藤(1995:35)では、「時間的限定性」は「出来事の時間的現象化の個別・具体性の有無」と説明されている7。

(15) a.?太郎が次郎を<u>嫌う</u>。

b.?次郎が太郎に嫌われる。

c.太郎が次郎を嫌った。

d.次郎が太郎に嫌われた。

- (16) 母が席貸しを営み、父は時折やってきた。幼い美津(森)はそんな父を<u>嫌う</u>。「席貸し」はお茶屋と同じで男が遊ぶ場所だが、……(AERA(アエラ)』、2004)
- (17) とくに、すぐに感情的になって、……、そういう人はメンバーに<u>嫌われる</u>。総じて、MLで嫌われるのは、自分勝手な態度である。(『おじさんの携帯メール術』、2001)
- (18) a.??先生が<u>叱る学生</u> c.先生が叱った学生

b.先生に叱られる学生

d.先生に叱られた学生(劉(2023a:181))

(19) ここ一週間というもの、デボラはサーを説きつけて、すべての猫の首に鈴をつけさせようとしていた―デボラは猫が殺す鼠や鳥を気の毒がっている。(『復活の儀式』、2004)

### 4.4「アスペクト」

劉(2023b:59)によると、述定においては、動詞が A-1 類([+過程性] [-進展性] [+終結性])である場合には、(20)のように、(20ab)は能動・受動が「意味的一致」であり、(20cd)は「意味的不一致」である。そのため、「アスペクト」の影響が見られることになり、「アスペクト」は能動・受動の意味的一致性に影響を及ぼしていると指摘した。この結論は、森山(1984:71)での「アスペクトの意味の移行現象」\*を考慮せずに、森山(1983:18)の「ニュートラルな条件におけるアスペクト的意味」、すなわち、シテイル形の意味は、動詞が無過程である場合には、必ず結果の状態を表し、動詞が過程動詞である場合には、主体動作なら進行中、主体変化なら結果の状態になるということを前提としている。また、工藤(1995:50-56)では、主体動作・客体変化動詞のシテイル形は動作継続を表し、受身文になると結果継続を表すと指摘されている。「殺す」は「主体動作・客体変化動詞」であるため、受動のシテイル形のデフォルトの意味は「結果継続」になるが、実際の文脈を考慮する場合は、奥田(1978:22-23)によると、(21)では、能動も受動も動作を表しているが、(22a)のように、動作主が非明示だと、被動者が変化の主体として前面に出て、動詞が結果動詞に移行する。また、(22b)のように、「de」によって動作が行われる空間を付け加えると、動詞が継続動詞に戻るという。さらに、動作主が非明示であるが、コーパスには(23)のような用例も確認できた。(23)では、「殺されている」は「動作継続」を表している。加えて、金水

7 ちなみに、光信 (1998:268) では、高橋 (1973) の「テンス」の連体用法に基づいて、動作主と主名詞が共に有情である場合の、「テンス性」の有無と能動・受動の対立について分析している。しかし、それは動作主が非明示である場合に限られている。動作主を明示する場合に関しては、光信 (1998:256) では、能動の動作主あるいは受動の動作主を逆の態の動作主に変えなければ文が成立しないとされている。本発表のように、動作主を明示する場合と「時間的限定性」については分析されていない。

<sup>&</sup>lt;sup>8</sup> 森山 (1984:70-71) によれば、同じ動詞にもかかわらず、アスペクトの意味が異なってくる現象を「アスペクトの意味の移行現象」という。

(2000:31) でも (24) のように、動作継続を表す受動態の例が挙げられている。このように、「アスペクトの意味の移行現象」が起こる場合には、「アスペクト」の能動・受動の意味的一致性への影響力は解除されると思われる。それは述定における「アスペクト」の影響はそもそも「ニュートラルな条件におけるアスペクト的意味」を前提にしているからである。

- (20) a.太郎が次郎を縛った。〈完成相〉b. 次郎が太郎に縛られた。〈完成相〉((20):劉(2023b:53))
  - c. (過去、目の前の場合) 太郎が次郎を<u>縛っていた</u>。 (動作継続)
  - d. (次郎がすでに動かなかった場合) 次郎が太郎に<u>縛られていた</u>。〈結果継続〉
- (21) a.Ryôsi-ga kuma-o korosite-iru. b.Ryôsi-ni kuma-ga korosarate-iru. (奥田(1978:22))
- (22) a.Kuma-ga korosarete-iru. b.Tanima-de kuma-ga korosarete-iru. (奥田(1978:23))
- (23) 芝浦の漁夫が、「馬鹿!」と、横から怒鳴りつけた。「殺されるッて分ったら?馬鹿ア、何時だ、それア。一今、<u>殺されている</u>んでねえか。小刻みによ。彼奴等はな、上手なんだ。(『蟹工船,党生活者』、2003)
- (24) 今、猟師によって熊が殺されている最中だ。(金水 (2000:31))

次に、装定の場合には、劉(2023b:57)では、連体修飾節構造がタイプ I(「相手」)、かつ動詞の表す動詞が一回的である場合には、(25)のように、能動の「シテイタ形」が不自然であるため、能動・受動の選択は「アスペクト」によって影響されるが、その同じ連体修飾節構造の後に「先生が将来の希望を尋ねていた学生は結局出世した」というような表現を付け加えれば自然になると指摘した。また、アンケート調査では、(26)のような文脈も挙げられているが、(25c)に関しては、アンケート調査では全体的に、自然に用いられる文脈の想定のしやすさがどちらとも言えない微妙な傾向にある。しかし、動詞は異なるが、同じ類型のものとして、コーパスでは(27)(28)のような能動の動作主が非明示な例も確認できる。このことから、動作主が非明示である場合、「アスペクト」による影響が解除されると言える。

- (25) a.先生が将来の希望を<u>尋ねた学生</u> b.先生に将来の希望を<u>尋ねられた学生</u> ((25):劉(2023b:57)) c.?先生が将来の希望を尋ねていた学生 d.先生に将来の希望を尋ねられていた学生
- (26) 以前、先生が将来の希望を<u>尋ねていた学生</u>は、ついに自分の希望を話せるようになった。(インフォーマントによる)
- (27) 挨拶を頼んでいた新井将敬と連絡が取れないと周りが騒いでいた。(『蒲田戦記』、2003)
- (28) 結婚披露宴から一週間後、ビデオ係を<u>頼んでいた</u>友達の<u>Kくん</u>からテープが届き、さっそく上映 会。(『non・no (ノンノ)』、2001)

#### 4.5「否定」

「否定」の場合、劉(2021b)では、述定においては、(29)のように、動詞が「育てる」である場合、 能動・受動は「片方選択可能」となると指摘した。(30) と比較して分かるように、この場合には、「否定」 が能動・受動の選択に影響を及ぼしている。実際に、コーパスでも(31)のように、可能を表す「育てら れない」しかなかった。また、アンケート調査でも可能の意味なら(29b)が成立するという結果が見ら れた。それに対して、装定においては、動詞の表す動作が被動者にとって不利益な場合には、(32b)のよ うに、受動が不利益を避けるという意味になり自然であるため、能動・受動は「片方選択可能」になる(劉 (2021b))。(33) の肯定の場合と比較して分かるように、能動・受動のどちらかが不自然になることは変 わらないが、動作を肯定から否定にすることで、能動が不自然、逆に受動が自然になるということから、 「否定」がこの場合において影響を及ぼしていると言える。実際にコーパスでは、(32a) とは逆の適切な 「~ない方法」の例は見当たらなかった。また、アンケート調査では(34)のような文脈が挙げられてい るが、自然に用いられる文脈が全体的には想定されにくい傾向にある。このことから、「否定」の影響力 は文脈においても解除されにくいと考えられる。それは「否定」による不自然さは動詞の否定的意味に関 わるため、動詞の意味的な問題だからである。劉(2021b)では、「育てられない」では主語の何らかの特 徴が想起されにくいと説明した。「次郎は太郎に倒されない」のように、否定的意味が主語の性質を表す のであれば、特に前後の文脈がなくても自然になる。一方、「育てられない」が主語の特徴になりにくい という点は、動詞の意味そのものに関わるため、文脈の支えが効かないのである。また、劉 (2021b) で

は、装定と述定との相違点の原因として、装定の場合は、主名詞と動詞の否定的意味との緊密性に影響されると説明した。(32a)がそれにあたる。装定の場合、「被動者が不利益を避ける方法(32b)」等が通常であるが、(32a)のように「わざと被動者に不利益を与えない方法」というのは、限られた文脈((34))でない限り一般的ではない。それは主名詞と動詞の否定的意味との緊密性が弱いことによるものである。

(29) a.太郎は次郎を育てない。

b.?次郎は太郎に育てられない。(劉 (2021b))

(30) a.太郎は次郎を育てる。

b.次郎は太郎に育てられる。

- (31) ……個々の樹木は育っても、理想の森は<u>育てられない</u>。(BCCWJ、『日本の美林』、1997)
- (32) a.?太郎が次郎を縛らない方法

b.次郎が太郎に縛られない方法(劉(2021b))

(33) a.太郎が次郎を縛る方法

b.?次郎が太郎に縛られる方法

(34) 太郎が次郎を<u>殺さない方法</u>は1つしかなかった。それは、自分(三郎)が次郎の代わりに罰を受けることである。(インフォーマントによる)

#### 5. まとめと今後の課題

以上のように、ある文脈に置くことを想定した場合、能動・受動の選択に影響を及ぼす要素の影響力は解除されやすいものもあれば、解除されにくいものもある。前者は「連体修飾節構造の類型」「テンス」「アスペクト」であり、後者は「動詞の他動性」「否定」である。また、それぞれの解除される条件とその原因については上の各部分で述べた通りである。なお、紙幅の関係上、本発表では、各要素が影響を及ぼす一つのパターンに絞って考察を行った。それ以外のパターンの検討や「名詞の不特定性」という要素の考察等については、すべて今後の課題としたい。

参考文献:大塚容子(1996)「視点と日本語関係節における受動文」『聖徳学園岐阜教育大学紀要』31、 pp.101-114/奥田靖雄(1978)「アスペクトの研究をめぐって(下)」『教育国語』54、pp.14-27/加藤重広 (2003)『日本語修飾構造の語用論的研究』ひつじ書房/金水敏(1986)「連体修飾成分の機能」松村明教 授古稀記念会編『松村明教授古稀記念国語研究論集』明治書院、pp.602-624/金水敏(2000)「時の表現」 仁田義雄・益岡隆志編、金水敏・工藤真由美・沼田善子著『日本語の文法2 時・否定と取り立て』岩波 書店/工藤真由美(1990)「現代日本語の受動文」言語学研究会編『ことばの科学 4』pp.47-102、むぎ書 房/工藤真由美(1995)『アスペクト・テンス体系とテクスト―現代日本語の時間の表現―』ひつじ書房 /小泉保・舩城道雄・本田皛治・仁田義雄・塚本秀樹(1989)『日本語基本動詞用法辞典』大修館書店/ 古賀悠太郎 (2013)「受動文の使用/不使用と日本語話者の視点―テクストレベルでの考察―」『神戸市外 国語大学研究科論集』 16、pp.1-20/高橋太郎 (1973) 「動詞の連体形の 「する」 「した」 についての一考察」 『ことばの研究』4、pp.101-132/角田太作(1991)『世界の言語と日本語 言語類型論から見た日本語』く ろしお出版/角田太作(2009)『世界の言語と日本語 改訂版 言語類型論から見た日本語』くろしお出 版/野田尚史(1989)「真性モダリティをもたない文」仁田義雄・益岡隆志編『日本語のモダリティ』く ろしお出版、pp.131-157/光信仁美 (1998) 「現代日本語の受動文について―典型・非典型と文中における 機能との関係について―」立正大学博士論文/森山卓郎(1983)「動詞のアスペクチュアルな素性につい て」『待兼山論叢 文学篇』17、pp.1-22/森山卓郎(1984)「アスペクトの意味の決まり方について」『日本 語学』 3 (12)、pp.70-83/劉志毅 (2021a) 「能動・受動の対立に影響する要素とそのメカニズム―意味論・ 統語論的要素を中心に一」、日本語学会 2021 年度秋季大会学生セッション(ポスター発表) / 劉志毅(2021b) 「否定が能動態・受動態の対立に及ぼす影響」早稲田大学国語教育学会秋季例会(第 15 回学生会員研究 発表会)/劉志毅(2022a)「能動態・受動態の交替と連体修飾節構造の類型」『早稲田日本語研究』31、 pp.61-72/劉志毅 (2022b)「「誰かが次郎を倒した/次郎が倒された誰か」は成立するのか?―能動態・受 動態の交替と「名詞の不特定性」について―」、日本語学会 2022 年度春季大会/劉志毅 (2022c) 「連体修 飾節構造におけるヴォイスの表現手法について―能動態と受動態の選択の使用実態と文脈的特徴をめぐ って一」、表現学会東京例会/劉志毅 (2023a) 「能動能・受動態の選択とテンスとの関わり」 『早稲田大学 大学院教育学研究科紀要 別冊』第 30 号-2、pp.177-187/劉志毅(2023b)「日本語における能動態・受動 態の選択と意味的一致性―アスペクトによる影響を中心に―」『日中言語対照研究』第25号、pp.46-60

# 「てあげる」の恩恵性と方向性に着目した「てあげてください」の使用動機 一ポライトネスの観点からー

数納風香(北海道大学大学院生)

#### 1 はじめに

本発表では、「てあげてください」という表現がポライトネス・ストラテジーとして機能していることを指摘し、Goffman の「品行」概念に立ち返ったポライトネス理論再構築の可能性を述べる。

まず、本研究の前提となる Brown & Levinson(以下 B&L)のポライトネス理論と、そのもとになった Goffman の研究について、両者の差異と「品行」概念に注目しながら確認する。次に、「品行」に関わると考えられる現象として「てあげてください」という表現を取り上げる。この表現が授受表現と行為指示表現の複合した形であることに着目し、授受表現の持つ一方的な恩恵性と方向性が行為指示によるフェイス侵害を緩和していることを指摘した上で、Goffman の「品行」概念を見直したポライトネス理論を再考する必要があることを主張する。

#### 2 ポライトネス理論

#### 2-1 Goffman (1967)

Goffman (1967) は、社会における人々のコミュニケーション、秩序形成の過程を論じるにあたり、「フェイス」(face) という概念を使用している。これは Durkheim (1912) が「聖なるもの」と呼んだ概念を引き継いだもので、公的な価値、自己イメージとして説明される。そして、行為者 (actor) が、自分が、あるいは他人がいかに敬意を払われるに値するかを示す記号的成分として「儀礼」(ritual) という用語を定義した。原始宗教についての考えを日常的な生活に翻案し、儀式的「行動(ceremonial activity)の基本的成分のうち、相手についての高い評価を相手に対して示す表敬(deference)と、自身が周囲の人々にとって望ましいあるいは望ましくない性質を持っていることを周囲に示す品行(demeanor)の二つが重要な概念になることを強調する。表敬については儀礼を積極的儀礼と消極的儀礼

This usage departs from the everyday one, where "ceremony" tends to imply a highly specified, extended sequence of symbolic action by august actor on solemn occasion when religious sentiments are likely to be involved. In my attempt to stress what is common to such practices as tipping one's hat and coronations, I will perforce ignore the differences among them to an extent that many anthropologists might perhaps consider impracticable. (Goffman 1967/1982:55)

に二分する Durkheim の区分から、提示儀礼と回避儀礼という主要な二つの形式について述べた。日常の行動においては、他者に敬意を示す行為が良い品行を表現するための典型的な手段であることなど、表敬と品行が指す行動はかなり重複しているが、両者は同一性(identity)というよりも相補性(complementarity)の関係にある(Goffman 1967/1982:81-82)。

#### 2-2 B&L のポライトネス理論

B&L(1987)は Durkheim の「聖なるもの」、Goffman の「フェイス」の概念をもとに、"competent adult members of a society"(社会のすべての能力ある成人構成員)には「フェイス」と「合理的能力」があると想定し、この「フェイス」がポライトネス理論の中核を担うものとした。また、B&L はフェイスを基本的欲求と捉え、他者から邪魔されたくないという欲求であるネガティブ・フェイスと他者に好ましく思われたいという欲求であるポジティブ・フェイスを構成要素とした。フェイスを脅かす行為(face-threating acts, FTA)と補償行為(redressive action)があり、補償行為は聞き手のポジティブ・フェイスに向けたポジティブ・ポライトネス聞き手のネガティブ・フェイスに向けたネガティブ・ポライトネスのどちらかの形をとる。ポジティブ/ネガティブの二分はDurkheim の積極的儀礼と消極的儀礼、Goffman の呈示儀礼と回避儀礼に相当するものであり、B&L のポライトネス・ストラテジーは「表敬」概念を中心に利用したものと言える。

#### 2-3 Goffman の「品行」(demeanor)

ここで Goffman に話を戻す。上述の通り、B&L のポライトネス理論では「品行」概念を受け継がず、「表敬」を重視している。

Goffman(1967/1982:77)で述べられるように、「品行」(demeanor)とは自分が周囲から見て望ましいもしくは望ましくない性質を持った人間であると表現する行為である。また、"bad demeanor"(悪い品行)という語が登場するように、品行には良いものと悪いものがあり、社会にはそれを区分する基準が存在している(Goffman 1967/1982:79)。この良い/悪いという尺度があるというのが、表敬と比較した際に際立った特徴である。表敬と品行の違いは単に相手向きか自分向きかということだけではなく、その尺度にも注目する必要があるだろう。

なお、2-1 において表敬と品行の相補性について触れたが、Goffman はその関係を強調しすぎるべきではないとする。たとえば、適切な品行を示さない相手を前にしても、他者はその相手を適切な表敬で扱う義務から解放されるわけではないように、儀礼的生活に関する事柄を適切に認識するためには、表敬と品行とは区別すべきである(Goffman 1967/1982:84)。

「品行」概念は、B&Lのポライトネス理論においては「秩序形成に参加する前提条件

のようなもの」(滝浦 2008:11)といった位置付けから引き継がれなかった。表敬と品行を区別する必要があるとはいえ、個人の品行によって表現されるイメージと、他者が個人に対して表敬によって伝えるイメージは互いに深く関わり切り離せないものであると考える。

### 3 「てあげてください」の整理

「品行」を捉え直す契機として、行為要求表現に授受補助動詞「てあげる」が複合した「てあげてください」という表現について検討する。この表現は大きく二つに分類できる。まず、(A)「田中さんに更衣室の場所を教えてあげてください」のようなものである。これは話し手が聞き手に対して、第三者である田中さんに対して何か行為をするように指示する文となる。以下にいくつか類例をあげる。

- (1) ご家庭でもぜひ褒めてあげてください。
- (2) 谷さんにも見せてあげてください。

次に(B)「前髪はゆるく巻いてあげてください」のようなものである。これは専門的知識・技能を有する話し手(例文では美容師)が、話し手と比較して専門性に劣る聞き手(例文では客)に、主にデモンストレーションを行いながら、聞き手の所有物に何か行為をするよう指示する文である。料理番組の料理人、アパレルショップの店員、美容師などが話し手として使用するケースが多く見られる。こちらもいくつか類例をあげる。

- (3)鶏肉は皮を下にして焼き色をつけてあげてください。
- (4) コンシーラーは指先で軽く叩くようにして馴染ませてあげてください。

双方に共通するのは、「てあげる」を省いたとしても文の意味は変わらないという点であり、異なるのは動作の対象として想定されるのが(A)では人間、(B)では人間以外であるという点である。またそのために、(B)では「てあげる」が表現するはずの授受関係が一見読み取れないという点も特徴となっている。以下、まずは(B)のような用法を中心として検討し、それが(A)にも適用可能であることを示しながら、ポライトネス・ストラテジー、「品行」の観点からの分析を行う。

#### 3-1 先行研究

すでに述べたように、(B)「前髪はゆるく巻いてあげてください」のような文では、一見すると授受関係が不明瞭であり、何に対する「てあげる」なのかが読み取れない。そのため、このような「てあげる」を使用した表現について、村田(1994:81)は「てやる」との間で選択されたものではなく、「する」を丁寧にした表現であるとし、「このような言い方をきくと、筆者は少々居心地がわるくなる」と述べている。また井島(1999:33)は配慮・気配りの細やかさを与える表現として用いられているとする。椎名、滝浦(2021:217)では、「ピザ生地はやさしくのばしてあげます」という、まさに本発表で扱っている

ような用法を取り上げ、「モノを対象とした「てあげる」」と述べている。

本発表ではこの「てあげる」に授受の意味が残存しているとする立場をとる。また「てやる」との対立ではなく「てあげる」がない文との対立で選択されたものであると考える。使用される場面がやや限定的であるとはいえ、少なくとも30年ほどにわたって使用され続けているこの「てあげてください」がなぜ使用され続けているのか、授受補助動詞の持つ性質をふまえて明らかにすることを試みたい。

### 3-2 恩恵性と方向性

「てあげる」の授受補助動詞としての性質には、大きく恩恵性と方向性の二つがあると 言える。

現代日本語の授受動詞は「やる・あげる・さしあげる」、「くれる・くださる」、「もらう・いただく」の3系列に分類され、またそれぞれに「~て」がついた補助動詞形がある。「やる」系のみ3形態存在することに関しては、滝浦(2020:89)が「"与える利益"をポライトに言うことの(とりわけ近代における)厄介さ」と述べている。この指摘にもあるように、授受動詞のなかで「やる」系のみが与える側の視点をとる動詞であり、このことは「てあげてください」という複合形式の分析にあたっても重要な点になる。

授受表現は、恩恵を「授ける」側と「受ける」側を明らかにすることから、相互的に成立する関係を表すものとして考えられる。「くれる」「もらう」の場合、すでに受益が決定しているため、与益者を立て、「授受」という相互的な関係を表すことが必須になる。一方で、与益者の視点からの表現である「あげる」は、受益したことを表明しない、あるいはできない相手であっても「受益者」としておくことができる、いわば一方通行的な表現が可能である。これは「花に水をあげる(やる)」のような表現が可能であることを考えると理解できる。また、授受表現は、それが誰の動作か、誰に対して行われる動作かという動作の方向を強調する。そのため、「てあげる」のある文はない文よりも動作の方向が明瞭になる。

#### 3-3 ポライトネス・ストラテジーとしての機能

「てあげる」の恩恵性と方向性について確認したところで、「てあげてください」がどのようにポライトネス・ストラテジーとして機能しているのかを考えていく。

「てあげる」のない文では、話し手(指示者)と聞き手(被指示者)という二者間の関係が表されるが、「てあげる」のある文ではそこに聞き手(恩恵の与え手)と対象(恩恵の受け手)という関係を追加する。また、「てあげる」にはソト向きの方向性があり、話し手と聞き手の関係以上に聞き手と対象(話し手と聞き手以外の何かあるいは誰か)との関係が強調される。この二点によって、話し手は行為指示によって侵害した聞き手のネガティブ・フェイスを補償するポライトネス・ストラテジーとして働いていると言える。

このように考えた場合、本節冒頭で挙げた例のうち(A)「田中さんに更衣室の場所を

教えてあげてください」のような用法についても、同様にポライトネス・ストラテジーで あると説明可能である。

### 3-4 「品行」の表象としての「てあげる」

では、(B) のような「てあげる」は、最初からポライトネス・ストラテジーとしての 機能を期待して使用されだしたものなのだろうか。

おそらく、村田(1994)や井島(1999)などで指摘されているように、もともとは話し手自身の丁寧さを表現しようとしたものであると考えられる。つまり、物を擬人化するような言い回しをすることによって、「物に対する丁寧な姿勢」を示し、話し手自身の「良い品行」を聞き手に対して示そうとしていたということである。しかしデモンストレーションを主とする場面での使用という点に注目すれば、発話時には話し手が当該の動作を行いながら、のちに(あるいは同時に)聞き手がその動作を模倣することが想定され、したがって文中で表現される動作の動作主としては、話し手と聞き手の双方が想定されることになる。そして聞き手を動作主とした場合、(B)のような表現における「てあげる」は、上述のポライトネス・ストラテジーとしての働きを担うことになる。また、Goffman(1967)も述べるように、相手のフェイスに配慮する意思がある、と示すことは、自身の良い品行の表象にもなる。

したがって、次のようなことが言える。話し手自身の「良い品行」を表現するために使用された「てあげてください」という用法は、「てあげる」の持つ恩恵性と方向性によって聞き手のネガティブ・フェイスに向けたポライトネス・ストラテジーとしての機能を持つ。そして、行為指示によって侵害した聞き手のフェイスに配慮しようとしている、という点で、話し手が当初意図していたものとは別の形で話し手の「良い品行」の表象となる。

### 4 おわりに ─ポライトネス理論と「品行」を捉え直すこと

B&Lのポライトネス理論は Goffman の「フェイス」概念をもとに言語使用における側面を論じたものであるが、Goffman が強調した「表敬」と「品行」のうち「品行」を受け継がないものであった。しかし、本発表で取り上げた「てあげてください」のように、

「表敬」、つまり B&L がポライトネス・ストラテジーとした行動と、「品行」を示す行動が重複する現象が多々あることは、Goffman(1967)がすでに指摘している。また、「表敬」が相手に対する高い評価を相手に伝える行動であるのに対して、「品行」は自身が周囲から見て望ましい、あるいは望ましくない性質を持っていると表現する行動、つまりプラス評価だけでなくマイナス評価も可能な概念であるという点に留意したい。B&L のポライトネス理論においてはポライトネスの強弱の度合いはあるが良い・悪いという尺度が不足している。この点についてはインポライトネスの定義とも関わるためここで深く取り

上げることは避けるが、品行と表敬の重なり合い、品行の尺度の問題から、ポライトネス 理論を「品行」概念からの捉え直しを試みることを今後の課題とする。

### 【参考文献】

- Bach, Kent and Harnish R. M. (1979) Linguistic communication and speech acts. Cambridge, MA: MIT press.
- Brown, P and S. C. Levinson(1987) *Politeness: Some universals in language usage.*Cambridge: Cambridge University Press. (田中典子(監訳)(2011)『ポライトネス:言語使用における、ある普遍現象』研究社.)
- Émile Durkheim(1912/1960) Les Formes élementaeres de la Vie religieuse, Le Systéme totémique en Australie, Paris: PUF. (古野清人(訳)(1941)『宗教生活の原初形態』(上・下) 岩波文庫)
- Erving Goffman(1967/1982) *Interaction Ritual: Essays on Face-to-Face Behavior.* New York: Anchor Books/ New York: Pantheon Books(浅野敏夫(訳)(2002) 『儀礼としての相互行為: 対面行動の社会学』〈新訳版〉(叢書・ウニベルシタス 198)法政大学出版局)
- 井島正博 (1999)「魚は三枚におろしてあげます 〈配慮・気配り〉を表すテヤル・テアゲル」『日本語学』18 (12):32-35. 明治書院.
- 加藤重広「言語行為論」『はじめての語用論』93-107 研究社.
- 菊池康人(1997)『敬語』講談社.
- 久野暲(1978)『談話の文法』大修館書店.
- 椎名美智、滝浦真人(2021)「薄幸のベネファクティブ「てさしあげる」のストーリー 敬意 漸減と敬意のナルシシズム」『動的語用論の構築に向けて』3: 204-240. 開拓社.
- 滝浦真人(2008)『ポライトネス入門』研究社.
- 滝浦真人(2015)「ゴフマンと言語研究 ―ポライトネスをめぐって」『触発するゴフマン やりとりの秩序の社会学』217-228 新潮社.
  - 滝浦真人(2020)「「ポライトネスの原理・原則」と日本語ベネファクティブの敬意漸減」 『日本語語用論フォーラム』 3:75-104 ひつじ書房.
- 滝浦真人、椎名美智(2023)「「させていただく」はなぜ一人勝ちしたか?」『「させていただく」大研究』277-314 くろしお出版.
- 福田一雄(2013)『対人関係の言語学 ポライトネスからの眺め』開拓社.
- 村田美穂子 (1994)「やる・してやる」と「あげる・してあげる」『国文学 解釈と研究』59(7): 77-84. 至文堂.
- NHK 放送文化研究所(2012)「「~してあげる」?」最近気になる放送用語(解説・塩田雄大)https://www.nhk.or.jp/bunken/summary/kotoba/term/150.html(2023.09.19 最終閲覧)

### テクレルの使用条件について

楊 世沢 (京都大学大学院生)

#### 1. はじめに

高見・久野(2002: 310) はテクレルの使用条件は「述べられた事象が [一恒常的状態]」であると主張している。ただし澤田(2014: 42) は反例をあげ、「『てくれる』は、その事象に変化のない状態動詞も許容する方向にある」と述べている。本発表は、コーパス調査を行い、非恒常的事象という使用条件及びその緩和について考察する。さらに、テクレルの使用条件は「受益が読み取れるかどうか」に収まると主張し、受益を読み取りやすい条件を探る。

### 2. 先行研究

### 2.1 高見・久野 (2002)

- ① 「恒常的状態」
  - (1) 授与動詞「くれる」は、「人がこちらに物を与える」という行為、変化を表わすために、その補助動詞「~てくれる」も、「~て」の埋め込み文の部分に、行為、変化を表わす事象を要求すると考えられる。(p. 303)
  - (2) a. 友達がリヤカーを押してくれて、助かった。(p. 301)
    - b. 君が待っていてくれて、嬉しかった。(p. 298)
    - c. \*スミスさんが、日本語が上手であってくれて、助かった。(p. 300)
- (2a) の「リヤカーを押す」は行為を表しており、恒常的状態ではない。(2b) の「待っている」は状態を表しているが、時間の限定があるため、恒常的状態でもない」。(2c) の「上手である」は時間の概念を持たない事象であるため、テクレルと共起しにくいのである。
- ② 文脈で変化の意味が生じる特殊な例
  - (3) a. \*家のそばにメールボックスがあってくれるので、助かる。(p. 306) b. #封筒の東をかかえて郵便局へ向かっていたところ、近くにメールボックスがあっ

<sup>「</sup>高見・加藤 (2003:100) には、「『 $\sim$ て』の部分に行為や変化 (さらに行為や変化が起こらない一時的状態) を表す事象を要求する」というように「一時的状態」が明確に書かれている。

てくれて助かった。(p. 306)

c. 家の近くに湖があってくれたら、気持ちが落ち着くだろうなあー。(p. 306)

アルは状態動詞であり、恒常的状態を表すため、(3a) のようにテクレルと共起できないが、(3b) は「メールボックスなどないと思って郵便局へ向かっていたところ、近くにメールボックスがあるのに気づき、『意外な新しい発見』をしたという点が述べられている。つまり、ないと思っていたメールボックスがあったという変化、出来事としてこの文を捉えることが可能である」(p.307) ため、容認度が高くなる。(3c) は仮定法を使い、「それらがある状態に『変化する』ことを願望している」(p.306) ので、恒常的状態と見なさない。

#### 2.2 澤田 (2014)

澤田(2014:41-42)はテクレルが状態動詞と共起する反例をあげている。

- (4) a. プロフェッショナルになる必要は全くないが、科学が好きであってくれること が極めて大事。 (『科学技術・学術審議会人材委員会(第25回)議事概要』)
  - b. セラミック包丁だと、火あぶりしなくてもよく切れてくれるし、切り離れもばっちりで、大満足ですね。 (http://plaza.rakuten.co.jp/putinavi/diary/?ctgy=8)
  - c. BS11 では、この春始まった「宮崎美子のすずらん本屋堂」(火曜午後 10 時)を放送中だ。司会の宮崎美子さんと、3 月で終了した NHK・BS の「週刊ブックレビュー」で司会を務めた中江有里さんの女優 2 人が、書評番組について語り合った。 (略)「「ブックレビュー」は残念ながら終わってしまったので、「すずらん本屋堂」があってくれて良かった。」 (『讀賣新聞』2012 年 7 月 29 日、朝刊)
  - d. それでも AA (アルコホリック・アノニマス) に通い続け、ついに断酒に成功した。「(略) どん底の人生にいることに気付き、観念できたんです。AA があってくれたので助かった」 (『朝日新聞』1995 年 1 月 29 日、朝刊)

それをもとに、「『てくれる』は、その事象に変化のない状態動詞も許容する方向にあるといえる。状態動詞との共起性に揺れがあるとすれば、それは『てくれる』構文が未だ変化・拡張の途上にあることを示している」(p. 42)と主張している。

以上、先行研究を概観し、テクレルの使用条件について意見がまとまらないことが分かった。本発表はコーパスを利用し、それについて考察を行う。

#### 3. コーパス調査

コーパス: 「昭和・平成書き言葉コーパス (SHC)」1933~2013年

「現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ)」2000年前後

「国語研日本語ウェブコーパス (NWJC)」2014年に収集

検索条件:後方共起: (品詞="助詞-接続助詞" AND 語彙素="て") ON 1 WORDS FROM キ

ー AND 後方共起: 書字形出現形="くれ" ON 2 WORDS FROM キー

調査方法:テクレルと共起する動詞に注目し、状態動詞及び第4種動詞(金田一1950)

の例を取り出す。ただし、文脈によって、時間的概念や「変化」の意味が見ら

れる例を排除する。

調査結果:

表 コーパス調査結果

コーパス	該当例	総例
昭和・平成書き言葉コーパス (SHC)	2	12900
現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ)	9	41377
国語研日本語ウェブコーパス (NWJC)	5	30304

表から分かるように、恒常的事象の例文は僅かであるが、各コーパスにおいて存在している。また、カイ二乗検定を行ったところ、各コーパスの間に有意差はみられなかった ( $\chi^2$ =0.35, df=2, p=.84, ns)。 つまり、非恒常的事象という使用条件は妥当ではなく、最近になってさらに緩和されるわけでもない。

### 例文:

- (5) a. たとえば、だれでも、「わたしのいっていることが真実であってくれますように」 と祈るような教師に教えてほしいとは思わないだろう。『SHC』
  - b. 洋服に間違ってついてしまったガムは本当に困りもの。しかも、一度くっついたガムはなかなかきれいに取れてくれません。『BCCWJ』
  - c. 永遠に横にあってくれますよ。『NWJC』

「真実である」、「ガムが取れない」、「横にある」はいずれも時間的概念を持たない恒常的 状態の事象であり、しかも文脈から変化の願望や意外な新しい発見が見られない。(5a)は 願望の意味があっても、変化の願望というより、「言っていることが真実だ」という結果を 願望するといった方がよいだろう。

### 4. テクレルの使用条件

本発表はテクレルの使用条件が恒常的状態と関係なく、「受益が読み取れるかどうか」で決まると主張したい。

- (6) a. \*湖があってくれてよかった。(作例)
  - b. 琵琶湖があってくれてよかった。(作例)
- (6) は同じ「湖がある」という恒常的事象であるが、(6b) は「湖」ではなく、「琵琶湖」というより具体的な下位語を用いる。
  - (S)ubordinates share the shape and general function of their basic category but provide additional information about specific details of the object. (Murphy & Lassaline 1997: 111)
  - (T)here appears to be a convention in discourse that people name objects by the basic category label unless the information needed in the subordinate level is particularly relevant. (ibid., p. 112)

下位レベルカテゴリーは情報量がより多く、それらの情報で、話者の受益を感受しやすくなり、容認度が上がると考えられる。つまり、具体性の高い事象はわれわれが共感しやすく、話者の受益を読み取りやすいため、テクレルの容認度が高いのである。

「具体性」は受益が読み取れやすい条件の1つといえよう。

そうすると、高見・久野(2002)の「非恒常的状態」という使用制限は「非恒常的状態は 受益が読み取られにくい」と言い換えられる。なぜ恒常的事象は受益が読み取られにくいの だろうか。これも「具体性」によって解釈できると思われる。

• 事態は、その現れ・存在が時間的限定性を持ったものか否かで、まず 2 類に分かれる。その現れ・存在が時間的限定性を有しているのが、<動き>と<状態>である。 それに対して、時間の中で変わったり消滅したりすることがあるにしても、その存在はモノに備わっており、時間的な限定性を持っていると捉えられていないのが、<属性>である。(仁田 2012: 180) 属性について

• モノの呈する現れを元にして一般化・抽象化し引き出す―この作業においては、類似のモノが有する同類の側面との比較・対比が重要になる―ことによって捉えられた存在である。言い換えれば、思考や推論によって初めて把握される存在である。(ibid.)

状態、動きについて

• ある具体的な時間・空間の中で出現・存在する<動き><状態>は、具体的な時間・空間に出現・存在することによって、思考や推論によって推し量られなければ把握できない場合があるにしても、私たちが直接見聞き触れ感じうる存在である。(ibid.)

状態と属性の違い

• <状態>と<属性>は、その出現・存在が時間的限定性を持った具体的・顕在的な現れか否かで異なる。(ibid., p. 181)

恒常的事象は時間的限定性を持たず、仁田(2012)の言う「属性」である。それは実際に体験された事象ではないため、受益を読み取りにくいと思われる。実は、恒常的事象に期間を加え、つまり仁田(2012)の言う「状態」に変わると、容認度が上がる。

- (7) a. \*息子がクラスで優れていてくれて、鼻が高い。(高見・久野 2002: 304)b. <sup>?</sup>息子の成績が一年間優れていてくれて、鼻が高かった。(作例)
- (7a) は恒常的事象であるが、(7b) は「一年間」という期間を加えることで、容認度が上がる。(7a) は「属性」であるが、(7b) は時間的限定性を持つ「状態」である。知覚で感じられる存在は受益がより読み取られやすいと思われる。

時間の概念から見ると、(7b) は(7a) より具体的であるといえる。

#### 5. まとめ

以上、コーパス調査を行い、非恒常的事象という使用制限及びその緩和は妥当ではないことが分かった。また、テクレルの使用条件を「受益が読み取れるかどうか」に統一し、受益が読み取られやすい条件として「具体性」をあげた。そうすると、反例に見える恒常的事象の使用は解釈できるようになる。つまり、恒常的事象はあくまでも受益を読み取りにくいだ

けであり、文脈などで受益が読み取られれば、テクレルとの共起が可能である。「利益が読み取られやすい」に関するほかの条件は今後の課題として残される。

### 参考文献

金田一春彦(1950)「國語動詞の一分類」『言語研究』15:48-63.

Murphy, G. L., & Lassaline, M. E. (1997). Hierarchical structure in concepts and the basic level of categorization. In K. Lamberts & D. R. Shanks (Eds.), *Knowledge, concepts and categories* (pp. 93–131). The MIT Press.

仁田義雄(2012)「状態をめぐって」影山太郎(編)『属性叙述の世界』東京:くろしお出版.

澤田淳(2014)「日本語の授与動詞構文の構文パターンの類型化-他言語との比較対照と合わせて-」『言語研究』145: 27-60.

高見健一・加藤鉱三(2003)「『~てくれる/もらう』表現の基本的意味」『言語』32(5):96-101.

高見健一・久野暲(2002)『日英語の自動詞構文』東京:研究社.

#### 被使役者が無情物の使役構文の用法とその周辺化

リ ギョウトウ 
李 翹形(東北大学大学院生)

#### 1. はじめに

現代日本語における典型的な使役文は、(1) のように、使役者に何らかの目的あるいは意志があって、ある動作を自分が行うのではなく被使役者に働きかけて行うように仕向けるというものである。従って使役者と被使役者とが意志を持っている人であるものが、典型的なものであるといえる。

(1)議長として大部分の質問を担当役員に答えさせた宮津純一郎社長の姿勢にも厳しい批判が相次いだ。

(PN1d 00021)

しかし、それと異なり、(2)(3)のような被使役者が無情物の使役構文も見られる。

(2)情報を伝えようとしたのではなく、学生たちの理解力を目覚めさせようとした。 (OY14 02912)

(3)マリアは、澄んだ瞳をキラキラと輝かせ、出会って間もない男に愛を告白する。 (PM11\_00013)

(2)(3)は、被使役者がそれぞれ「学生たちの理解力」「澄んだ瞳」というような無情物であり、典型的な有情物に比べると使役らしい意志的動作を行うのは難しいと考えられ、非典型的なものといえる。また、使役文の性質からみると、(2)の「理解力が目覚める」は、使役者が被使役者に心理的に働きかけるように促しているのに対し、(3)のような文は、早津(2004)によって指摘されているように、被使役者は使役者が所有している身体部位と捉えられ、「働きかけ」という概念を認めにくい。このように、(2)と(3)のような構文は使役形を用いた表現であるものの、いずれも非典型的なものである。なおかつその中でも(2)のほうが典型に近く、(3)のほうがより周辺的であるというように、使役らしさの度合いが違い、少しずつ典型からずれているといえるのではないかと考えられる。しかし、これらの文はどの程度典型からずれて周辺化しているのかについて、詳しく述べている論考はない。そこで、本発表では、非典型的な使役構文の1つである、被使役者が無情物の使役構文をとりあげ、それにはどのような周辺的な用法があるのか、また、それらの文はどのように周辺化しているのかを明らかにする。

### 2. 先行研究

被使役者が無情物の使役構文に関する研究として、黒木 (1996)、鈴木 (2007)、早津 (2016) が挙げら れる。黒木(1996)は、「XガYヲ/ニVサセル」という使役文において、Xが有情、Yが非情である場合、 被使役者 Y の性質に着目し、それにはどのような用法があるかを考察した。その結果、「Y が X の一部では ない場合 | E[Y if X o - monoidable]とに分けられ、Y if X o - monoidable に自発性がある 場合(豆腐を作る場合、汁に苦汁を混ぜ、箱へ入れて固まらせる)、②Y に「V する」性質がある場合(磁気を 帯びさせただけの針を…)、③Y に「V する」能力がある場合(その計算をコンピューターにやらせたら)、④ Y に本来「V する」能力がない場合(コロンプスが卵を立たせる)、⑤他動詞的(北ヴェトナムに爆弾を降らせ る)という5つの類があるとする。一方、YがXの一部である場合、①他動詞的(ウジ虫どもは、びっくりし て先端をくねらせる)、②生理現象・感情表現(フミは息をはずませながら…)、③様態説明(金歯きらきらさ せたその筋の方とか、)という3つの類があるとする。しかし、被使役者が無情物であっても、取り上げら れていないものがある。次に、鈴木(2007)は、被使役者が無情物の自動詞使役構文がどのような意味特徴を 持つのかを考察した。その結果、動詞句レベルでは「自発性」があり、文脈レベルでは「間接性」があると指摘 している。自発性とは、「水につけて、毛織物を縮ませた」のような場合の、毛織物が「水につける」というき っかけさえあれば、あとは勝手に固まったり縮んだりすることができるといった性質のことである。また、 「砂を固まらせるため、バケツで運んだ海水をかけながら約 6 時間がかりで形を整えた」という文脈レベル では、砂は本来的には「固まる」という性質を持っておらず、使役者が特殊な手段を用いて本来自発的には起 こらない事態を起こしているため、「間接性」があると述べている。しかし、被使役者が無情物の自動詞使役 構文には必ずしも「自発性」と「間接性」があるとはいえないと思われる。さらに、早津(2016)は、被使役者が

 $<sup>^1</sup>$  例文では、使役者を\_\_\_、被使役者を\_\_\_、動作対象を\_ \_\_、使役動詞を\_\_\_のような下線でそれぞれ示す。

使役者の部分である再帰構造の使役文について、どのような文構造と文法的機能があるかを考察した。その結果、従属節あるいは主節述語として「(人の)部分・側面ヲVi-(サ)セル」を用いることで、主節と従属節の主語を同一に保ったまま、「その婦人は、楽しそうに目を輝かせながら、だがまじめな顔でこう話しだした」のように、主語の主たる動作とその時の副次的な状態を示しているとする。しかし、被使役者が無情物の使役文に関しては、「再帰性」を取り上げるが、それ以外にどのような特徴があるかについて詳しく述べていない。このように、被使役者が無情物の使役構文の分類について、これまで一定の研究があるものの、十分とはいえない。またいずれも使役の段階性という視点から考察していない。そこで、本発表では、被使役者が無情物の使役構文をとりあげ、それにはどのような用法があるか、また、それらの文はどのように周辺化しているのかを明らかにする。

#### 3. 調査方法

本発表では、『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ)の用例を用いる。検索対象はコアデータとし、検索単位は短単位とする。語彙素を「せる」と「させる」とし検索すると、計 1136 例が得られ、「被使役者が無情物の使役構文」は 204 例見られた。そこで、被使役者が無情物の使役構文について、典型的使役に備わっている特徴に基づいて分類し、それらの周辺性の度合いを考察する。

#### 4. 典型的使役の意味特徴

被使役者が無情物の使役構文の意味特徴を考察する前に、典型的な使役文はどのような特徴を持つのかについて見ていく。使役文の基本的性質は、「人が相手に対し動作を行うよう命じたり頼んだりといった働きかけをし、それを受けた相手が自らの意志でその動作を行う」(『日本語文法事典』)と規定される。

(4)前久はねぎらいの言葉をかけ、侍女に酒を運ばせた。

(PB49\_00026)

(5)夏休みの間に子供を二、三カ月の期間でサマーキャンプに行かせることがあります。 (PB33\_00032) 使役構文には(4)「使役者(人 1) が被使役者(人 2)ニ動作対象ヲ Vt-(サ)セル」と、(5)「使役者(人 1) が被使役者(人 2)ヲ Vt-(サ)セル」という 2つの基本構造がある。使役動詞を述語とする文は、原動詞の動作主を被使役者として、他動詞であればニ格、自動詞であればヲ格で表し、その動作を他者に行わせる主体を使役者としてが格で表す。

このような使役文の基本的な性質から考えると、使役者は有情物であり、相手としての(i)被使役者も有 情物である。被使役者が自らの意志で動作を行うという点から、( ii )被使役者の意志があり、( iii )被使役者 が行う動作は意志動作である。また、使役者が被使役者に動作を行うように命じたり頼んだりといった働き かけがあるので、被使役者の行動や意志に干渉力を持つという(iv)コントロール性がある。使役者が被使役 者に対し何らかの行為をするように仕向けるという事態と、被使役者が当該の行為をするということから、 ( v )事態数が 2 つである。さらに、使役者がどのように事態の実現に関わるのかについて、井島(1988)は 「直接関与性」という概念を挙げている。直接関与性とは、「使役主が動作主の動作に直接関与するか否か」と いうことであり、使役者が動作の実現に対し、直接的関与をしないことを含んでいれば使役、直接的に自分 で手を下すとすれば、他動詞文になるとする。このように、典型的な使役は(vi)直接関与性がない。また、 井島(1988)は動作の成り行きに対し、使役者がどの程度影響を及ぼすかについて、「制御可能性」という概念 を示している。制御可能性とは、「使役主は動作の成立に対し、実際に影響を及ぼすか、少なくとも潜在的 に制御する可能性があるか否か」ということである。上記の「コントロール性」という意味に近いが、ここで は「影響を与えるかどうか」ということを問題とし、典型的な使役には(vii)制御可能性があるといえる。なお、 (4)(5)のような基本的な文からわかるように、被使役者が行う動作、すなわち「侍女はお酒を運ぶ」と「子供 はサマーキャンプに行く」は具体的な変化として捉えられるため、(vii)引き起こされる動作が具体的な変化 を持つ。これら(i)~(vii)の要素が、典型的な使役文が持つ意味特徴である。

#### 5. 被使役者が無情物の使役構文の分類と意味特徴

前述した以上の8要素に着目し、被使役者が無情物の使役文にどのような用法があるかについて考える。

#### 5.1 被使役者が組織の使役

- (6) Transmeta の CPU を採用して Intel と仲が悪くなったのかと思えば <u>Intel に専用 CPU を製らせ</u>てみたり動向が判らない。 (OC02 01077)
- (7)職権による調停手続は、裁定委員会が自ら行うのが通例であるが、当事者の同意を得て管轄を有する<u>審査会</u> 等に処理させることもできる。 (OW5X\_00161)

(6)(7)は、被使役者が「Intel」「審査会等」であり、人名詞ではなく無情物であるといえるが、人によって構成される意志を持った集合として捉えられる²。(6)(7)は、使役者が、会社、審査会など意志を持った人の集まりに対して何らかの働きかけをして、「専用 CPU を作る」「手続きを処理する」というような、人に準ずる意志的な動作を引き起こすことを表す。使役動詞の元となる原動詞「作る」「処理する」は、動作対象の存在が必要となる他動詞である。ニ格補語が人でなく組織を表す名詞であるが、人のように指令を受けて具体的な動作を行うことが認められるため、人に準ずるものとして扱える。そこで、(6)(7)のようなものを、①被使役者が組織の使役と呼ぶ。

これらは、使役文の意味からみると、被使役者が意志を持った人からなる集団であり、典型的使役における被使役者が人の場合と同じように扱えるため、上記の(i)以外の要素を満たす(i)0~vii0)。

#### 5.2 過程含意の使役

- (8) 東北大学は、(中略)二千二年一月末にわれわれが二十年以上にわたって研究開発してきたすべての新技術を結集した未来情報産業研究館を竣工させた。 (PB45\_00024)
- (9)平成十一年度より採択条件に高齢者世帯の浸水状況等を追加するとともに、<u>治水対策を</u>**5年間で**完成させるように事業を拡充した。 (OW6X\_00044)

この用法は(8)(9)のように二格補語が現れないもので、原動詞が自動詞になる場合のものである。その場合の(8)(9)は、行われる動作の過程が含意される。このことは次の他動詞文(8')と比べてみるとわかる。

(8) 東北大学は、新技術を結集した未来情報産業研究館を竣工した。

(8')の他動詞文は、未来情報産業研究館が竣工する動作の結果実現のみを表しているが、(8)の場合、未来情報産業研究館が竣工するのに関わる人が存在し、その人が働くことで手順を踏みながら研究館が竣工したかのような意味を持つもので、動作実現の過程が含意されているといえる。このようなものは、動作の過程をより明らかに示すために、太字で示した、結果をみちびくまでに実際に手を加えて時間もかかっているといったことを表す表現が共起することも多い。このようなものを、②過程含意の使役と呼ぶ。

使役の意味的特徴からみれば、動作の結果を重んじる他動詞文に近いが、[-(サ)セル]をつけることで過程性が含意され、使役と他動の中間に位置付けられる。この点でも、(8)(9)は使役の典型からずれていると考えられる。これらは被使役者が現れないもので、被使役者はいるにしても意志があるかどうかははっきりせず、いずれの可能性もある $(ii \oplus)$ 。使役の意味的特徴を前節の①と比べると、これ以外の特徴は、①と同じであるが、この点において、使役らしさの度合いが減っているといえる。

### 5.3 環境整備の使役

(10)もっと労力が少なく効率的なのは<u>車にひかせ</u>て割ることで、道路に木の実をばらまいて車が通るのを待っているカラスもいます。 (PB24 00012)

(10)は、カラスが木の実を食べるために、被使役者である車を道具のようにして木の実の殻をひくようにするということを表す。これは、使役者が被使役者に働きかけるのではなく、車が木の実をひくようにするということで、行為を実現するための環境を整えるという特徴があるものである。このようなものを、③環境整備の使役と呼ぶ。

この用法では、使役者であるカラスは、木の実を食べるという目的をもち、車を利用して目的を達成する という意味を表す。したがって、事態の成立には使役者が干渉力を持つと共に影響を及ぼすため、主語のコ

<sup>&</sup>lt;sup>2</sup>早津(2016)では、二格補語が組織名詞(「国、市」「政府、当局」「会社、銀行」「議会、委員会」など)である場合、それらの組織は人によって構成され意志を持った人の集合としてふるまうことができると指摘されている。

ントロール性があり( $iv \oplus$ )、制御可能性がある( $vi \oplus$ )。また、使役者が間接的に「木の実をひく」という具体的な動作を引き起こすということから、直接関与性がなく( $vi \oplus$ )、引き起こされる動作が具体的な変化を持つ( $vii \oplus$ )。事態の数は、「車が木の実をひくように状況を整える」と「車が木の実をひく」という 2 つである( $v \oplus$ )。ただし、被使役者が車であれ、車を運転する人であれ、「木の実をひく」という行為を行うような環境を整えるだけであるから、引き起こされる動作は意志的ではなく、被使役者の意志が読み取れない。( $ii \oplus$ )、さらに、引き起こされる動作が無意志動作である( $iii \oplus$ ) という点で、典型性を満たさず、②より使役らしさが減っている。

#### 5.4 介在性を持つ使役

(11)石原都知事が無法なカラスに頭にきて、カラスを撃退するためのプロジェクトチームを発足させました。

(PB24 00012)

(11)には2通りの解釈があり、1つは主語「知事」が自ら手を下してプロジェクトチームを集めるという被使役者が全く関わらない他動的状況、もう1つは知事が誰か、つまり介在動作主に命令してプロジェクトチームを設立するように仕向けるという介在的状況である。ここで、介在的状況である場合を、④介在性を持つ使役と呼ぶ。その場合の原動詞「発足する」は自動詞である。

この介在性を持つ使役の場合、澤田 (2008) が指摘しているように、実際に介在動作主が存在するにもかかわらず、使役者が介在動作主とそれによる行為の過程を背景化することによって、使役者が「チームが創立した」という結果状態を表す。そのため、典型的な使役に比べると、被使役者に関わる要素がなくなって、被使役者の意志が読み取れず( $ii \ominus$ )、被使役者が行う動作の意志性も読み取れない( $iii \ominus$ )。また、事態数は「知事がプロジェクトチームを設立する」という1つの事態となっている( $v \ominus$ )。

#### 5.5 心理的惹起の使役

- (12)情報を伝えようとしたのではなく、<u>学生たちの理解力を目覚めさせ</u>ようとした。 (OY14\_02912)
- (13) <u>A・ヘプバーンの役どころは、</u>それまで恋は火遊びだよくらいにしか考えていなかった男の認識ガラッと変え、 女なんてくだらんと考えていた<u>男のハートを熱くさせ</u>てしまうという、まるで恋愛革命家みたいな女たちだっ た。 (PM11 00013)

(12)(13)は、ヲ格補語の位置にくる「学生たちの理解力」「男のハート」が被使役者の心理に関わるものである。(12)では、先生が情報を伝えることによって学生に理解できるように働きかけ、それによって、学生自身が理解できない状態から理解できる状態になるまでの心理的な変化が引き起こされる。(13)も、ヘプバーンの役である女が、演じるドラマを通じて男の認識を変えるように仕向けることで、男の心に変化が生じているということが表される。このような心理的な変化の引き起こしを、⑤心理的惹起の使役と呼ぶ。

この用法は、(12)のように使役者が意志的に被使役者に目覚めるように仕向けたり、(13)のように熱くなるように働きかけたりしたとしても、被使役者の方では無意志的に抽象的な変化が生じると捉えられる。そのため、被使役者の意志がなく( $ii \ominus$ )、被使役者が行う動作は無意志動作であり( $iii \ominus$ )、引き起こされる動作は具体的な変化を持たない( $vii \ominus$ )。また、使役者が被使役者に対して言語的に働きかけようとしても、被使役者の心理がどのように変わってくるのかが読み取れないため、使役者がコントロールできない( $iv \ominus$ )と思われる。ただし、事態の数は、(12)でいえば、「先生が学生の理解力を目覚めるように働きかける」と、「学生が理解できないところから理解するまでの心理状態変化」という2つであり( $v \oplus$ )、使役者が言語的な面から被使役者の変化を引き起こすということからみれば、事態の成立に影響を与えるため、制御可能性はある( $vii \oplus$ )。また、「学生たちの理解力が目覚める」などのような被使役者の動作に対して使役者は間接的に関与するため、直接関与性がない( $vi \oplus$ )。このように、(ii)(ii)(vii)(vii)という特徴を満たさないという点で、④よりさらに周辺化している。

#### 5.6 自発性を導き出す使役

(14)次に<u>プラ板1.5 mm厚を</u>用意してマストの正面にべちゃりと接着します。良く<u>乾燥させ</u>たのちマストの輪郭に沿って丁寧にプラ板を切断します。 (OY14\_10961)

(14)は、プラ板とマストをしっかり接着するために、プラ板が持っている速乾性能を利用して事態を完成させるということである。プラ板に本来的に備わっている性質に何かのきっかけさえあれば、自然と状態変化が起こるということであり、そのような性質は「自発性」と呼ばれる。使役者が被使役者のそのような性質を利用して目的を達成するというようなものを、⑥自発性を導き出す使役と呼ぶ。

「プラ板が乾燥する」という無意志的動作の発生には、被使役者に意志がなく( $ii \ominus$ )、動作は無意志動作であり( $ii \ominus$ )、使役者もコントロールできない( $iv \ominus$ )。また、使役者は被使役者の性質に従うことで、そういった条件を整えることができるのみであるから、プラ板は自然と乾燥するという 1 つの事態からなる( $v \ominus$ )。一方、使役者の直接関与性はなく( $vi \ominus$ )、使役者が条件を整えなければ、被使役者の具体的変化も生じないので、制御可能性があり( $vii \ominus$ )、引き起こされる動作は具体的な変化を持つ( $vii \ominus$ )という点は、典型的な使役と共通している。

#### 5.7 能力を引き出す使役

(15)フェリーの時刻に対して私がバイクを走らせている時刻が中途半端だったの。 (OY15\_06622)

(15)では、使役者が「バイクが走る」能力を利用して動作を行うということが表されている。(15)のように、無情物に「あることを行う能力」が備わっているものを、⑦能力を引き出す使役と呼ぶ。

#### 5.8 他動的機能を持つ使役

(16)また、彼らの製品を地域社会のニーズに適応させます。

(PB43\_00060)

(17)歴史や美味しい料理の紹介などの内容を充実させてきました。

(OY14\_37635)

(16)は、企業が「彼らの製品」が社会のニーズに合うように努めるということを表す。(17)は、政府(文脈では省略されている)が料理の紹介などの内容をさらに豊かにしたということを表す。これらの文には被使役者がなく、しかも「製品」や「内容」は自ら適応したり、充実したりするわけではない。上記の⑦と違うところは、ここでのヲ格補語の位置にくる無情物には「あることを行う能力」が備わっていないということである。つまり「事態の実現のため、使役者が間接的に作用を及ぼそうとしても、被使役者に自主的に動作を行わせることはできないので、直接手を下してその動作が実現するようにするしかない」ということである、これは青木(1977)が指摘しているように、他動的機能と呼ばれる。これらの文では、被使役者は「適応する」「充実する」という能力を持っておらず、「ー(サ)セル」がつくことによって、純粋な他動詞という機能を果たすだけである。このようなものを、⑧他動的機能を持つ使役と呼ぶ。

この用法では、原動詞「適応する」「充実する」は無意志の自動詞であって( $ii \ominus$ )( $ii \ominus$ )、使役者が「製品が適応する」「内容が充実する」という事態に直接手を下すしかないため、事態数が 1 つであり( $v \ominus$ )、直接関与性がある( $vi\ominus$ )。また、事態の実現を使役者もコントロールできない( $iv \ominus$ )という点から、⑦よりさらに周辺化している。ただ、使役者が「製品が適応する」などの具体的な事態に対し影響を与えるため、制御可能性があり( $vii \ominus$ )、引き起こされる動作が具体的な変化を持つ( $viii \ominus$ )。

#### 5.9 再帰的使役

(18) 男性は気持ちよさそうに目をつぶり、目元に涙をあふれさせた。

(PN2C\_00011)

(18)は、被使役者が「涙」という使役者の部分である。つまり、男性の目元に涙が溢れるという状態を表す。

<sup>&</sup>lt;sup>3</sup>無情物に「あることを行う能力」が備わっている場合、例えば、「その計算をコンピューターにやらせたら」のような文では、コンピューターに備わった能力によって事象が成立することができると黒木 (1996) が指摘している。

このような、主語が具体的な働きかけをせず、身体部位に自然に生じた状態変化という特徴を持つものを、 ⑨再帰的使役と呼ぶ。

この用法は、(18)における事態は、使役者自身の身体部位に無意志的に起こった自然な状態変化を表し  $(ii \ominus)(iii \ominus)(iv \ominus)(v \ominus)$ 、使役者の関与は間接でも直接でもないため、直接関与性が判断できない $(vi \bigcirc)$ と考えられる。また、ヲ格補語は使役者自身が持つ身体の部分であるため、使役者は事態の成立に影響を与えないとみられ、制御可能性がない $(vii \ominus)$ 。こうした点で(\$)より使役らしさが減ってさらに周辺化している。ただ、「涙が溢れる」というような変化は具体的な変化として捉えられる $(vii \ominus)$ 。

#### 5.10 心理的再帰

(19)貴子に暴力を振るい始めた正夫、不安にいらだち、不信感を募らせる貴子…

(PB43 00044)

(19)は、ヲ格補語の位置にすえられた「不信感」が使役者の心理に関わるものである。(19)は、使役者である貴子が暴力を振るう夫のことを怖がって、貴子の心の中に不信感が生じてきたということを表す。このような使役者の心の中に無意志的に生じた状態の変化を、⑩心理的再帰と呼ぶ。

この用法では、ヲ格補語である「不信感」が抽象的なものであり、使役者の心理(見えない部分)に属するという点から、上記の⑨再帰的使役における具体的変化(見える部分)ではなくなっており、引き起こされる動作は抽象的な変化と考えられる(vii)⊖)。これ以外の特徴は、⑨と同じように捉えられる。

#### 6. 被使役者が無情物の使役に関する非典型性の度合い

以上、10 種類の使役構文はそれぞれどのような要素を満たさないことで、周辺化しているかが分かった。 それを表 1 に示す。 表 1 被使役者が無情物の使役の周辺性の度合い

表 1 から分かるように、被使役者が無情物の使役構文は、典型的使役に備わっている特徴が少なくなるほど、使役としての性質が弱まり、段々と周辺化していくといえる。例えば、⑤「学生たちの理解力を目覚めさせ」((2)の再掲)は、被使役者に無意志的に心理的変化が生じるため、(ii)(iii)(iv)(viii)の4つの要素を満たさず、使役らしさの度合いが減っている。さらに、⑧「製品を適応させる」は、使役者が直接手を下して動作を行うため、(vii)(viii)の2つの要素だけを満たし、⑤よりも使役らしさがさらに段階的に減っている。もっと

用法要素	i被使役 者が有 情物	ii 被使 役者の 意志が ある	iii 被使役 者が行う 動作は意 志動作	ivコン トロー ル性が ある	v 事態 数が 2 つ	vi直接 関与性 がない	vii制御 可能性 がある	viii引き起こ される動作 が具体的な 変化を持つ	例数
典型的使役	+	+	+	+	+	+	+	+	253
①被使役者が組織 の使役	-	+	+	+	+	+	+	+	19
②過程含意の使役	_	±	+	+	+	+	+	+	38
③環境整備の使役	-	-	-	+	+	+	+	+	3
④介在性をもつ使 役	_	_	-	+	-	+	+	+	7
⑤心理的惹起の使 役	_	-	-	-	+	+	+	_	9
⑥自発性を導き出 す使役	_	-	-	-	-	+	+	+	27
⑦能力を引き出す 使役	_	-	-	+	-	-	+	+	19
⑧他動的機能を持つ使役	_	-	-	-	-	-	+	+	34
9再帰的使役	_	-	_	-	-		-	+	31
⑩心理的再帰	_	-	-	-	_		_	-	17

も周辺化しているのが⑩「不信感を募らせる」という心理的再帰であり、これはいずれの要素もなくなっていることから、典型的使役からかなり遠ざかっていると考えられる。

#### 7. おわりに

本発表では、非典型的な使役の 1 つである、被使役者が無情物の使役構文にはどのような用法があるのか、また、それらの文はどのように周辺化しているのかを明らかにした。その結果は表 1 のようになる。今回は被使役者が無情物である点で周辺的であったが、使役者が無情物である場合も、被使役者に対する働きかけがなくなるのでやはり周辺的な使役構文である。今後このようなものの検討も必要である。

参考文献 青木伶子(1977)「使役-自動詞・他動詞との関わりにおいて」『成蹊国文』10 成蹊大学文学部日本文学科研究室/井島正博(1988)「動詞の自他と使役との意味分析」『防衛大学校』56 防衛大学校紀要 人文科学分冊 pp.105-135/黒木京子(1996)「使役文「X ガ Y ヲ/ニ V サセル」の用法-X が有情・Y が非情の場合-」『国語学研究と資料』20 pp.18-28/澤田淳(2008)「日本語の介在使役構文をめぐって一認知言語学と語用論の接点 -」『言葉と認知のメカニズムー山梨正明教授還暦記念論文集』ひつじ書房//鈴木容子(2007)「自動詞使役文の意味特徴一被使役者が非情物の場合を中心に一」『国文学校』196 pp.1-11 広島大学国語国文学会/早津恵美子(2004)「使役表現」『朝倉日本語講座6文法 II』pp.128-150/早津恵美子(2016)『現代日本語の使役文』ひつじ書房 調査資料 国立国語研究所『現代日本語書き言葉均衡コーバス』(中納言 2.7.1,データバージョン 2021年3月)/『日本語文法事典』(2014)

## 文雄『磨光韻鏡』華音における入声韻尾の仮名表記について

オウソウケツ

早稲田大学大学院 王曹傑

#### 1. はじめに

入声

-p

咸

その他

#### 1.1. 問題の所在

文雄(1700~1763)は当時日本に伝わった数種類の唐音のうち、杭州音を中国語の「正音」とし、それを『磨光韻鏡』(1744 初刊)の「華音」として呉音・漢音・反切と並べて記した<sup>[1]</sup>。中国語原音の入声韻尾に対応する『磨光韻鏡』の仮名表記は〈表 1〉に示したように、華音では基本的にゼロ表記となっているが、内転のうち梗曽臻深摂の一部にツ表記が現れる。こうした華音の特徴は、当時の中国語方言音の実態を忠実に反映したものであるか、それとも文雄が別の理由をもってこのような仮名表記を行ったものであるかが問題となる。

中古 摂 条件 呉音 漢音 華音 例(華音) 韻尾 木モ、玉ヨ 涌 -ク -ク 江 -ク 覺キヤ、學ヤ -ク 宕 -ク -ク 落ラ、郭クワ -Ø 33 転: 歯音四等、牙音三四等 -ク -+ -ツ 昔スイツ、劇ギイツ 喉内 34 転: 歯音三四等 -ク -+ -ツ **學ツイツ** 入声 -+ 梗 35 転: 歯音四等、来母四等 -ク -ツ 績ツイツ、歴リイツ  $-k^{[2]}$ 上記以外の三四等 -ク -+ 石ジ、益イ -Ø -ク -ク 客コエ、責ツエ その他 **-**Ø 息スイツ、即ツイツ 42 転: 歯音四等 -キ -ク 色スエ、カリ 曽 上記以外の二三四等 -キ -ク **-**Ø -ク -ク その他 北ポエ、國コ \_0 17 転: 歯音一二四等 -チ -ツ -ツ 瑟スイツ、七ツイツ (歯音一等有音無字) 卒ツイツ、恤スイツ 舌内 18 転: 歯音四等 -チ -ツ -ツ 臻 入声 19 転: 歯音二等、舌音三等 -チ -ツ -ツ **跌チイツ** (※この小韻のみ) -t (歯音二等有音無字) その他 -チ -ツ 出チユ、乞キ -チ -ツ Ш 末モワ、結キエ 澀スイツ、集ヅイツ 38 転: 歯音二四等、舌音四等 -フ -フ -ツ 唇内 深 (舌音四等有音無字)

〈表 1〉『磨光韻鏡』における入声韻尾の仮名表記

-フ

-フ

-フ

-フ

**-**Ø

立り、十ジ

法フハ、接ツエ

<sup>[1]</sup> 例えば文雄の以下の記述によって知られる。詳しくは林1981、湯沢1987などを参照されたい。

<sup>「</sup>前版ノ磨光韻鏡ニ,毎字華音及ヒ漢音呉音ヲ附セリ。其中,華音トハ,世ニ所謂唐音ナリ。是亦一ナラス,我邦長崎ニ傳フル所,官話アリ,俗話アリ。俗話ノ中ニ杭州漳州等ノ不同アリ。前ニ載スル者ハ杭州音ナリ。此音大氐韻書ノ規矩ニ叶フ故ニ,取テ正音トスルナリ。」(『韻鏡指要録』28 ウ~29 オ) <sup>[2]</sup> 中古中国語音では、梗摂の三四等に-cを再構する有力説(三根谷 1972 など)があり、また通江摂の入声韻尾を/-uk/(-kw)とする音韻論的解釈(平山 1967 など)もあるが、問題を簡略化するため省略。

#### 1.2. 先行研究

この問題に言及した先行研究は多くない。平田 2019 はこの現象に注目し、以下のように指摘している。「入声韻については、中古時代の[-p][-t][-k]の韻尾はほぼ反映されていないようであるが、非入声字と入声字には区別があるようだ。 {中略} ただし、精組字 2・4等に限っては部分的に「-イツ」のよう {な} 音注が付されている点は興味深い。母音の後に子音が続くようななか音注はこれ以外に見えない。「-ツ」の部分が中国原音の入声韻尾の発音を反映している可能性もある。」 (平田 2019: p.100。 { } は発表者による)

また、陈 2014 は文雄の『三音正譌』 (1752 刊) における「官話」と「正音」では上記の一部入声韻尾にツ表記が現れることに気づき、それは文雄が『韻鏡』の規範性を重視すると同時に実際に浙江と福建の中国人と接触しているから一部入声の古音が残存するわけであると述べている。ただし、その入声韻は漠然としたものと見て、陈はこれらツ表記となっている入声韻の韻母を i?として再構し、その他の入声韻に開音節の韻母を再構している。 (陈 2014: p.8)

いずれも中国語原音の入声韻尾の発音に由来するものとされているが、なぜこの一部の韻にこの条件下でツ表記として残されているかについて、詳しい説明はなされていない。なお、〈表 1〉で示したように、少数ながらも歯音以外の条件下でもツ表記が現れることがあるということについて、従来の先行研究では指摘されていない。

### 2. 『磨光韻鏡』華音における入声韻尾の仮名表記

『磨光韻鏡』に記された華音 (以下「磨光華音」という) における入声韻尾の仮名表記について、摂ごとによって〈表 1〉にまとめたが、仮名表記上の共通性、つまり無表記かツ表記かの観点からあらためて具体例を挙げながら確認する。

#### 2.1. 無表記

磨光華音において、中古音の入声韻尾に対応する部分が基本無表記となっている。入声 韻尾無表記の音形は入声韻における窠字 (小韻代表字とも、掲出字のこと) の 9 割以上を占める [3]。

入声韻尾の無表記により、入声韻字の仮名表記が同転における同声母同等位の陽声韻字が鼻音韻尾を落とした仮名音形と同形になることから、文雄が入声韻と陽声韻との対応関係を重視していることがわかる。同時に、他転の陰声韻字の仮名表記との対立が長短などの区別によって保たれており(下記(例1)は長短で区別、(例1)はそれ以外)、入声韻字と陰声韻字が同形になるものは皆無である[4]。

	入声韻		陽声韻		陰声韻
〈例 1〉	殺スア (23 山二入黠生) [5]	:	<b>刪</b> スアン (23 山二平刪生)	:	灑スアヽ (29 假二上馬生)
	切ツエ (23 山四入屑清)	:	千ツエン (23 山四平先清)	:	且ツエヽ (29 假四上馬清)
	乙イ (17 臻三入質影)	:	隱イム (17 臻三去震影)	:	倚イヽ (04 止三上紙影)
〈例 1'〉	滑ワ(24山二入黠匣)	:	還ワン (24山二平刪匣)	:	畫ワイ (16 蟹二去卦匣)
	牿コ(02 通一入沃見)	:	攻コン (02 通一平冬見)	:	孤クウ (12 遇一平模見)
	郭クワ (32 岩一入鐸見)	:	廣クワン (32 岩一上蕩見)	:	果コウ (28 果一上果見)

 $<sup>^{[3]}</sup>$  初刊本に基づいて窠字数(『磨光韻鏡』における「入声借音」による再掲を除く)を集計した結果、全体 4275 個、入声 740 個、入声のうち、無表記は 698 個(94.3%)、ツ表記は 42 個(5.7%)。有音無字のものを含めば、全体 5792 個、入声 907 個、入声のうち、無表記は 852 個(93.9%)、ツ表記は 55 個(6.1%)。

<sup>[4]</sup> ただし、一つだけ例外が見受けられる。陰声韻「葰スア (30 假二上馬審)」があり、それは「刷スア (22 山二入鍺審)」などの入声韻と同形となっているのが疑わしい。しかし、同じ条件下に対応する平去声が「(スアヽ)、誜スアヽ」となっているのを勘案すると、この例外は「葰スアヽ」の誤刻であった可能性が非常に高いと思われる。

<sup>[5]</sup> 例字の出自は、順に転次・摂・等位・声調・韻目・声母を示す。注[4]中の例示を含めて以下同様。

一方、入声韻尾におけるいわゆる三内の区別がなくなる。その結果、主母音等の共通性によって、声母等位等の条件が同じであれば、三内の区別を跨いで入声韻字の仮名表記が同形になる場合がある。この現象は、後述ツ表記のものも同様である。(下記 〈例 3a, 3b〉 参照)

= 一イ (17 臻四入質影)

〈例 2〉 各力  $(31 \, \mathrm{紀} - \mathrm{A} + \mathrm{E})$  = 葛力  $(23 \, \mathrm{L} - \mathrm{A} + \mathrm{E})$  = 萄力  $(40 \, \mathrm{L} - \mathrm{A} + \mathrm{E})$ 

獨ド (01 通一入屋定) = 突ド (18 臻一入沒定)

益イ (33 梗四入昔影)

切ツエ (23 山四入屑清) = 妾ツエ (39 咸四入葉清)

= 揖イ (38 深四入緝影)

#### 2.2. ツ表記

磨光華音では、ごく一部の仮名表記において中古音の入声韻尾に対応する部分がツ表記となっている。出現する転次およびそれぞれの分布条件は〈表 1〉に示したとおりである。 共通して見られる傾向として、すでに先行研究に指摘されているように、歯音声母に多いことと、すべてが「-イツ」の形で現れることに注意されたい。

そこで、それらのツ表記が行われた理由については、入声韻と陰声韻の仮名音形を区別させるためであろうと考えられる。つまるところ、これらの入声韻尾に対して、もし無表記のままであれば、その入声韻字の仮名表記が他転のとある陰声韻字の仮名表記と同形になってしまう不都合が生じるから、特別にツ表記が行われた、ということが推測される。以下は声母別にこの仮説を検証する。

2.2.1. 歯音「スイツ」「ズイツ」「ツイツ」「ヅイツ」: 35+10個[6]

歯音四等では、梗摂第 33~35 転と曽摂第 42 転と臻摂第 17~18 転と深摂第 38 転といった諸転において、入声韻ツ表記で「スイツ」「ズイツ」「ツイツ」「ヅイツ」となるのは、蟹摂の同条件下に現れる「スイ」「ズイ」「ツイ」「ヅイ」と区別するためであると考えられる。〈例 3a〉では從母字のものを示した。

入声韻 陽声韻 陰声韻

〈例 3a〉 籍 ゾイツ (33 梗四入昔從): 情 ゾイン (33 梗四平清從): 齊 ゾイ (13 蟹四平齊從)

また、歯音二等では、臻摂第 17 転・第 19 転(有音無字)と深摂第 38 転といった開口の諸転において、入声韻ツ表記で「スイツ」「ズイツ」「ツイツ」「ヅイツ」となるのも同様な理由が考えられる。ただし、蟹摂の歯音二等は「ツアイ」「ヅアイ」「スアイ」であるため、やはり四等の「スイ」「ズイ」「ツイ」「ヅイ」と区別するためのものであると考えられる。〈例 3b〉では荘母字のものを示した。

入声韻 陽声韻 陰声韻

〈例 3b〉 櫛ツイツ (17 臻二入櫛照) : 臻ツイン (17 臻二平臻照) : 濟ツイ (13 蟹四上薺精)

戦ツイツ (38 深二入緝照) : **簪**ツイム (38 深二平侵照) : リ

cf. 齋ツアイ (13 蟹二平皆照)

一方、これら梗曽臻深摂の諸転 (梗摂第34転を除く) では、歯音三等の入声韻は「チ」「ヂ」「シ」「ジ」となっている。また、上記以外の歯音入声韻では主母音の仮名音形が異なる。例えば、開口では「ツエ」「ヅエ」「スエ」 (梗摂第33転二三等と第35転二等、曽摂第42転一二等)、合口では「ツヲ」「ヅヲ」「スヲ」「ズヲ」 (梗摂第34転二等、豫摂第18転一等) または「チユ」

<sup>[6]</sup> 窠字数の表し方は、有音有字の数+有音無字の数。以下同様。

「ヂュ」「シュ」「ジュ」 (<sub>臻摂第 18 転二三等</sub>) となっている。いずれにせよ、こういった仮名音形を磨光華音の全編にわたって探しても陰声韻ではまったく現れず、入声韻尾は通常の無表記であっても問題がないため、ツ表記にはならなかったと考えられる。〈例 3\*〉および上記〈例 1〉がその例である。

入声韻 陽声韻 陰声韻

〈例 3\*〉 齚ヅエ (33 梗二入陌牀) : 信ヅエン (33 梗二平庚牀) : 査ヅエヽ (29 假四平麻從)

cf. 愁ヅエoウ (37 流二平尤牀)

猝ツヲ (18 臻一入沒清) : 寸ツヲン (18 臻一去慁清) : 厝ツヲヽ (12 遇一去暮清)

cf. 崔ツヲイ (14蟹-平灰清)

出チュ (18 葉三入術穿) : 春チュン (18 葉三平諄穿) : 吹チュイ (05 止三平支穿) なお、歯音における入声韻尾のツ表記は、ほかにも梗摂第 34 転合口の歯音三等(章母の「菒ツイツ (34 梗三入昔照)」一例のみ)と、臻摂第 17 転開口の歯音一等(心母に有音無字の「(スイツ) (17 葉一入沒心)」 [7]一例のみ)とがあり、やや特殊ではあるが、ツ表記の必要性について上述と同様な説明ができるため省略する。

#### 2.2.2. 牙音「キイツ」「ギイツ」「ニイツ」:5+2個

梗摂第33転開口の見組三四等では、入声韻ツ表記で「キイツ」「ギイツ」「ニイツ」となるのは、止摂と蟹摂の同条件下に現れる「キイ」「ギイ」「ニイ」と区別するためであると考えられる。一方、隣接する二等欄の入声韻は「コエ」「イ」、全編にわたって探しても陰声韻ではこういった仮名音形がまったく現れず、入声韻尾は通常の無表記であっても問題がないため、ツ表記にはならなかった。

入声韻 陽声韻 陰声韻

〈例 4〉 隙キイツ (33 梗三入昔溪) : 慶キイン (33 梗三去敬溪) : 綺キイ (04 止三上紙溪)

憩キイ (15 蟹三去祭溪)

#### 2.2.3. 来母「リイツ」:1個

梗摂第35転開口の来母では、入声韻ツ表記で「リイツ」となるのは、止摂と蟹摂の同条件下に現れる「リイ」と区別するためであると考えられる。一方、隣接する二等欄の入声韻は「礐口工」、三等欄の入声韻は有音無字の「(リ)」、いずれも陰声韻では現れず(別の転次の入声韻では「リ」が現れるが)、入声韻尾は通常の無表記であっても問題がないため、ツ表記にはならなかった。

入声韻 陽声韻 陰声韻

cf. (リ) (35 梗三入昔來) : 令リン (35 梗四去勁來) : 吏リイ (08 止三去志來)

cf. カリ (42 曾三入職來) : 陵リン (42 曾三平蒸來) : "

### 2.3.4. 舌音「チイツ」「ツイツ」:1+1個

残る「眣チイツ (19 臻三入迄徽)」と有音無字の「(ツイツ) (38 深四入緝透)」 (平声「舚ツィム (38 深四平侵透) から生成された音である) がある。「ツイツ」に関しては上述 2.2.1.と同様な説明が可能であるが、「チイツ」と区別させようとする陰声韻「チイ」が見当たらず、ツ表記にする必要性は不明である。ただし、「眣」は (「舚」も) 墨付枠に書かれており<sup>[8]</sup>、すなわち後から別の韻書によって追加されたものであるから、同転にある歯音のツ表記から類推してできたのかもわからない。

<sup>「「</sup>磨光韻鏡」の本図では、有音無字の空位に丸を付けて当該の華音を示している。本発表では()で括ってそれを示す。注[4]中の例示を含めて以下同様。

<sup>[8] 『</sup>磨光韻鏡』「緒言」:「原本文字取 $^{\nu}$ \_于篇韻 $^{-}$ \_。而 $^{\lambda}$ 不 $_{\nu}$ 無 $^{\tau \bar{\tau}}$ \_遺漏 $_{-}$ 。今盡 $^{\rho}$ 備 $^{\tau}$ 矣。廣韻素 $^{\bar{\nu}}$ 闕如 $^{\kappa}$ 者 $^{\gamma}$ 。集韻以 $^{\bar{\tau}}$ 補 $^{\tau}$ 焉。因 $^{\bar{\tau}}$ 印 $_{\nu}$  $^{\bar{\tau}}$ 0 (卷上1 $^{\bar{\tau}}$ 1)

### 3. 近世唐音の仮名表記と中国語原音の実態

さて、磨光華音における入声韻尾のツ表記は、実際は入声韻と陰声韻の仮名音形を区別するために用いられたものであり、無表記の補助的手段であるという仮説が正しければ、次に問題となるのは、実際に華音として発音される入声韻尾の音価は如何なるものか、ということである。つまるところ、ツ表記と無表記の違いによって、磨光華音の入声韻尾に二種類の音価を推定することができるかどうか。以下、近世の唐音資料と中国明清時代の韻書資料をもって検討する。

文雄が当時実際に触れていたと考えられる中国語諸方言は、杭州 (カ言区分では呉語に所属) のほかに、官話 (南京官話と北京官話とおぼしい二種がある) と福州 (閩東語) と漳州 (閩南語) とがある[9]。 上述したように、磨光華音では入声韻尾における三内の区別がなくなっているため、また 紙幅の都合もあり、三内の区別が二つ以上保たれている福州音・漳州音および入声が完全 に消失している北京音についての検討を割愛する。 〈表 2〉では、磨光華音における入声 韻尾のツ表記と無表記の代表例をもとに、杭州音と南京音を反映する代表的な唐音資料と 韻書資料の状況をまとめて示した。なお、参考として-i 韻尾のものおよび止摂で磨光華音 がイ表記のものも併記した。 (「一」は該当なし。「\*」は再構音。再構音と現代音の声調は調類表記に統一する:1~4 は平上去入、陰陽分類の場合、a は陰類、b は陽類)

中古韻尾	-k		-t		-p		-i	<b>-</b> Ø
例字	石	席	實	七	十	集	西	子
	(35 梗三	(33 梗四	(17 臻三	(17 臻四	(38 深三	(38 深四	(13 蟹四	(08 止四
	入昔禪)	入昔邪)	入質牀)	入質清)	入緝禪)	入緝從)	平齊心)	上止精)
磨光華音	ジ	スイツ	ヂ	ツイツ	ジ	ヅイツ	スイ	スウイ
唐話纂要	ジ	ヅヱ	ジ	チ	シ	_	スヱヽ	ツウ
四書唐音辨·左	ジツ	ヅヱツ	ジツ	チツ	シツ	ヅヱツ	スヱヽ	ツウ
諧聲品字箋	*giə?	*ziə?	*dʒiə?	*tshiə?	*3iə?	*dziə?	*si	*ts1
cf. 現代杭州	za? <sup>4b</sup>	dzie?4b	ze? <sup>4b</sup>	tche?4a	ze? <sup>4b</sup>	dzie?4b	¢i¹a	ts\gamma^2
<b>麤</b> 幼略記・右	シ	_	_	チイ		_	シイ	ツウ
四書唐音辨・右	シツ	スヱツ	シツ	チツ	シツ	ツヱツ	スヱヽ	ツウ
西儒耳目資	xě	siě	xě	ç'iĕ	xě	çiě	sī	çů
	*şə? <sup>4</sup>	*sie?4	*şə? <sup>4</sup>	*tshie?4	*şə? <sup>4</sup>	*tsie?4	*si <sup>la</sup>	*ts <sub>1</sub> <sup>2</sup>
cf. 現代南京	ફ <b>િ</b> ?⁴	si? <sup>4</sup>	ξη? <sup>4</sup>	tshi?4	ξ <b>γ</b> ?⁴	tsi? <sup>4</sup>	si <sup>1a</sup>	ts\(\gamma^2\)

〈表 2〉近世唐音の仮名表記と中国語原音の実態

#### 3.1. 杭州音

『唐話纂要』(1716、岡嶋冠山)において、入声韻尾はすべて無表記であるが、磨光華音と同様に、入声韻字と陰声韻字が同形になるものがないと見受けられる(株 1988 にょる)。 一方、『四書唐音辨』(1722 刊、朝岡春睡)の左註音(杭州音)では、すべての入声韻尾はツ表記である(高松 1985、岩田 2018 にょる)。

<sup>[9]</sup> 注[1]の引用および文雄の以下の記述を参照。

<sup>「</sup>華音者、俗所謂唐音也、其音多品。今長崎舌人家所学、有官話杭州福州漳州不同。彼邦輿地広大、四方中国音不斉。中原為正音亦謂之雅音、四辺為俗音亦謂之郷音。其中原所用之音有二類、官話之与俗話也。俗話者平常言語音也、官話者読書音此之用。其官話亦有二、一立四聲唯更全濁為清音者是、一不立入聲不立濁聲唯平上去唯清音者謂之中州韻用歌曲音。二種通称中原雅音、支那人以為正音。其俗話者杭州音也、亦曰浙江音。」(『三音正譌』上 10 ウ~12 オ)

清朝の『諧聲品字箋』(1677、虞徳升)では、独立した5つの入声韻部が立っており、それぞれの中に中古音の三種類の入声韻尾が合流して入っているといい、合流した入声韻尾は-?として再構されている(张2011による。(表2)の例字は鼻部にある)。なお、参考として現代杭州音では、入声韻尾はすべて-?であり、同時に入声調を持つ(遠藤1989による)。

#### 3.2. 南京音

『麤幼略記』(1731 以前成立、著者未詳)の右註音(南京音)では、福州音の混入例を除けば、入声韻尾はすべて無表記である(蒋2021 による。対して左註音 (福州音)ではツ表記とク表記が行われている)。一方、『四書唐音辨』の右註音(南京音)では、すべての入声韻尾はツ表記である(高松1985、岩田2018 による。ツ表記をとる唐音資料はほかにも複数あるが、紙幅の都合上省略する)。なお、〈表 2〉では示していないが、文雄の『三音正譌』における「官話」の仮名表記は、入声韻尾の部分に関しては磨光華音と同様である(早稲田大学図書館蔵本による)。

明末の『西儒耳目資』(1626 成立、ニコラ・トリゴー)では、17世紀のポルトガル式ローマ字に入声韻尾の表記がなく、声調記号「」を付して入声調を示しているが、現代音などから-?があったと一般的に推定されている(例字の音形は続修四庫影印本による。再構音は発表者による。叶2001 など参照)。なお、参考として現代南京音では、入声韻尾はすべて-?であり、入声調を持つ(対1995 による)。

## 4. 再考:『磨光韻鏡』華音における入声韻尾の音価

近世前期に日本に伝わった杭州音と南京音では、中古音にあった入声韻尾の区別が既に合流して-?となっている。それを受けて唐音資料では、入声韻尾の仮名表記は一律にツ表記または一律に無表記という二種類の表記方法が行われていた。ところが、磨光華音では基本無表記であるが、陰声韻との同形を回避するために一部の仮名音形において補助的にツ表記も行われた。磨光華音における入声韻尾の無表記とツ表記の違いは、仮名表記上のものだけであって、実際の発音上の音価はいずれも-?と推定されるべきであろうと考えられる。

では、なぜ一律のツ表記が行われなかったかについて、漢音における入声韻尾ツ表記の音価-tsuと区別しようとする意識に起因する可能性が大きいかと推測されるが、さらなる検討が必要である。また、なぜ入声韻尾の無表記では一部に不都合が生じうるかについて、それは同転の陽声韻の仮名音形との対応関係を文雄が重視していることによるものではないかと考えられる。いずれも今後の課題とする。

#### 【引用参考文献一覧】

<日本語>

遠藤光暁(1989)「杭州方言の音韻体系」『均社論叢』16。『漢語方言論稿』所収、好文出版、2001。

蒋垂東(2021)「『麤幼略記』所記唐音の声類について(中古音分紐表)」『言語と文化』33。

高松政雄(1985)「近世唐音弁―南京音と浙江音―」『岐阜大学国語国文学』17。

林史典解説(1981)『磨光韻鏡』勉誠社文庫90、勉誠社。

平田直子 (2019) 「『三音四声字貫』の「支那音」と『磨光韻鏡』の「唐音」」『北九州市立大学国際論集』17。

平山久雄(1967)「中古漢語の音韻」『中国文化叢書 I 言語』大修館書店。

三根谷徹(1972)『越南漢字音の研究』東洋文庫。

湯沢質幸(1987) 『唐音の研究』勉誠社。

林<sup>リン</sup>武實(1988)「岡嶋冠山著『唐話纂要』の音系」『漢語音韻史の諸問題』京都大学人文科学研究所。 <中国語>

陈辉(2014)「无相文雄汉语音韵学著述所见明清官话」『浙江大学学报(人文社会科学版)』44(6)。

刘丹青编(1995)『南京方言词典』江苏教育出版社。

岩田憲幸(2018)「"南京音"和"浙江音"-"唐音"研究-」『龍谷大学国際社会文化研究所紀要』20。

叶宝奎(2001)『明清官话音系』厦门大学出版社。

张咏梅(2011)『《谐声品字笺》的音系研究』巴蜀书社。

### 荷田春満の資料にみる近世京都方言の低起式音調

なかむら あきひろ

(nkmr.koborezakura@gmail.com)

#### 1. はじめに

本発表は荷田春満(1669-1736)のアクセント資料の低起式の語、特に3拍以上の語の上昇の位置に対する解釈を示し、近世京都方言の低起式の語の音調について新たな知見を加えることを目的とする。春満の資料において、全て去声からなる注記は最後の1拍の直前で上昇し(…去[去)、去声で始まり途中から上声となる注記は去声と上声の境界で上昇し(…去[上…)、去声で始まり途中から平声となる注記は最後の去声のみが高い(…[去]平…)と考えられる。春満の資料に反映された低起式音調は、基本的には2拍目と3拍目の間で上昇する「竜神型」に近い体系を持つとみられるが、1拍目と2拍目の間で上昇する「田辺型」のような音調を示すかと思われる部分や、おおむね竜神型に近いが語構成によって上昇の位置が後退する「阿南型」に近い音調を示すかと思われる部分もある。

本発表では、『新編 荷田春満全集 第 11 巻』所収の第二種表記法で表記された資料および、書写者未詳『日本音義』(東丸神社蔵、A-1-2-231〔1153〕-2)を調査対象とする。なお、以下、丸括弧内の数字は『全集』内のページ数、a・b で始まる数字は書写者未詳『日本音義』における位置を表す。

## 2. 先行研究

#### 2.1. 荷田春満のアクセント資料

春満のアクセント資料には、第一種表記法と第二種表記法の二種がある(中村 2022、p. 21)。第一種表記法は語全体に平声・上声・去声を当てるのに対し、第二種表記法は各拍に平声・上声・去声を当てるものであるため、より詳細に音調型を検討できる。

川上 (2009) は、春満の第二種表記法について、[上上…、[平]平…、[上上]平…、去[上、去[平]]、去[平]平のように解釈した。その上で、『名目抄』等に例がない去去の注記について、L0型に1拍の助詞がついた「父は」の音調はLMH ないしLLHであり、そのLM ないしLLを「去去」と捉えたものかとする。L2型であるはずの「兄」に見られる「去去」の注記ついては、「父」「兄」両語が単独時にLHの音調を共有することから、両語のアクセントが同一だと錯覚したものかとする。ただし、3拍以上の語の上昇の位置については検討されておらず、課題として残っている。

### 2.2. 現代諸方言の低起式音調

中央式諸方言には、次のような変種がある(上野 1987、中井ら 1999、中澤 2015)。

(1) 田辺型…1 拍目と2 拍目の間で上昇するもの。

- (2) 竜神型…2 拍目と3 拍目の間で上昇するもの。
- (3) 阿南型…基本的には竜神型同様であるが、語構成や音条件により上昇の位置が後退するもの(大和 1993)。
- (4) 沼島型…主として形態素境界で上昇するもの(中澤 2015)。
- (5) 京都型…文節末の拍の直前(有核の場合は核の直前)で上昇するもの。
- (6) 勝浦型…京都型から、高起式でも上昇の遅れが生じたもの。

これらは1から6の順に変化したものとされる。中でも「阿南型」は多少複雑であり、春満の時代の京都方言の音調はこれに近いものであった可能性があるので、以下、大和(1993)に基づいて少し詳しく述べる。

阿南型の低起式音調は基本的には竜神型と同様に 2 拍目と 3 拍目の間で上昇するが、以下の二つの制約により上昇が後ろにずれるというものである。ただしその適用は 2 回までである。

- (1) 特殊拍は上昇拍になれない。
- (2) 複合語において形態素境界の直前の2拍または直後の2拍の間では上昇できない。 例えば、「オテンバ」は2拍目と3拍目の間で上昇すると\*オテ[ンバとなり、(1)の制約 に反するので、1拍ずれてオテン[バとなる。「ネズミイロ」は2拍目と3拍目の間で上昇す ると\*ネズ[ミ-イロとなり、(2)の制約に反するので、1拍ずれてネズミ-[イロとなる。

なお、竜神型も阿南型も、2拍以下の語では京都型と同様である。

## 2.3. 近世京都方言の低起式音調

近世京都方言の低起式音調については、近世京都方言の音調を知るための最も豊富な資料である平曲譜本に対する解釈を中心として、相反する二つの意見がある。

一つは金田一春彦の説である。金田一(1960:2001、p. 322)は、室町時代の音調を反映する『補忘記』の注記は 1 拍目と 2 拍目の間で上昇する型を示しているとし、江戸時代の音調を反映する東京教育大学本『平家物語』や『稿本あゆひ抄』の注記に基づいて江戸時代に入るころに 2 拍目と 3 拍目の間で上昇する型になったとする。契沖の仮名遣い書の〇[〇 〇型を示すと思われる声点は大阪方言を示したものであるとする。

もう一つは奥村三雄の説である。奥村(1981、p. 335)は、『平家正節』の時代の〇〇[〇のような「遅上がり型」を、〇[〇〇のような「早上がり型」の変容形とみなしている。『平家正節』の「口説」に〇〇[〇〇型の他に〇[〇〇〇型、〇〇〇[〇型、〇〇〇〇[〇型とみられる譜記があることがその論拠の一つである。が、それに対して上野(2011 pp. 110-112)は、『平家正節』の「白声」「口説」の3拍名詞第6類には〇[〇〇と認定できる譜記は一つとしてないとし、〇〇[〇(〇〇[〇〉)型と認定している。

奥村説のもう一つの論拠は、現代では大阪方言の方が京都方言よりも遅上がり型が著しいとされること (p. 337) である。そのため、早上がり型から遅上がり型への変化が大阪よ

り京都で先んじて生じたことは考えられないとする。一方、坂本 (1983:2000) は、17世紀末の大阪方言を反映すると考えられる近松浄瑠璃譜本の譜記も 1 拍目と 2 拍目の間で上昇することを示していると指摘する。すなわち、近世において、大阪側の資料は契沖・近松浄瑠璃譜本という独立した証拠がともに田辺型を示しており、京都側の資料は平曲譜本・『稿本あゆひ抄』という独立した証拠がともに竜神型を示していることになる。このことは、近世の遅上がりと早上がりの差を京都と大阪との方言差に求める金田一説に有利であろう。

また、本発表でこれ以降述べるように、春満のアクセント資料も大部分は竜神型に近い音調を表しているとみられ、このことも金田一説にいくらか有利であると考える。

#### 3. 春満の資料の低起式音調の解釈

### 3.1. 去声始まりの注記の一覧

春満の第二種表記法の資料では、低起式の語は去声で始まる。また、去声で始まる語は全て低起式である。春満の第二種表記法の資料から去声で始まる注記のうち、一単位形のものを一覧にすると次のとおりである。括弧内の数字は述べ語数。

【1拍】去(10)【2拍】去去(63)·去上(13)·去平(3)【3拍】去去去(23)·去去上(14)·去上上(3)·去去平(8)·去平平(3)【4拍】去去去去(2)·去去上上(8)·去去平平(6)【5拍】去去去上上(1)·去去上上上(1)·去去去平平(4)【6拍】去去上上上上(1)【7拍】去去上上上平平(1)

### 3.2. 2 拍以下の語の解釈

1拍の注記は去のみで、L0型と考えて問題ない。

2 拍の注記には去去、去上、去平の三種がある。去平は L2 型と見てよい。しかし L2 型だったと考えられる第 5 類の語が全て去平で表記されるわけではなく、去去、去上とも表

記される。同時に去去、去上は L0 型だった

と考えられる第 4 類にも用いられる。したがって、去去、去上ではアクセント型を完全に同定することは不可能である。

表は、去去、去上、去平の注記を、第4類 名詞・第5類名詞・第2類動詞・第2類形 容詞(用言は終止連体形)に分けて集計した

表. 低起式 2 拍語の注記

	4 類	5 類	2 類	2類
	名詞	名詞	動詞	形容詞
去去	20	4	10	2
去上	2	2	5	0
去平	0	2	0	0

ものである。去平は第5類名詞のみであるが、それ以外は厳密な使い分けはみられない。

## 3.3.3 拍以上の無核語の解釈

3拍以上の語では、上昇の位置が問題となる。

低起無核型を示すと思われる注記には、数種の揺れがある。3拍語には、去去去、去去上、去上上の3種、4拍語には去去去去、去去上上の2種、5拍語には去去上上、去去去上上

の 2 種がみられる。途中で上声となるものは、去声と上声の境目に上昇があるとみるのが素直な解釈であろう。去声のみからなるものは問題であるが、これは「最後の 1 拍のみが高い」と解釈したい。このように解釈すると、去去上と去去去はいずれも○○[○型であり、表記上の揺れにすぎないと処理することができる。また、これは平声の連続が「最初の 1 拍のみが高い」ものであることの鏡像でもある。

#### 3.4.3 拍以上の有核語の解釈

次いで、途中で平声となるもの、すなわち有核の語について検討する。3 拍語には去去平・去平平の2種の表記があるが、いずれも L2型であり、表記上の揺れと解釈するほかないであろう。すると、4 拍以上の去去平平・去去去平平の注記を、去[去]平に倣って去[去]平平・去去[去]平平と解釈するか、去[平]平に倣って去去[平]平・去去去[平]平と解釈するかが問題となる。これらの全例は以下のとおりである。

**去去平平** アザトイ (152) アマダリ (117・127) アラブル (155) イササカ (158) イハ ユル (164)

**去去去平平** アコメギヌ (a48) アジロガサ (136) アラカジメ (156) イチメガサ (136) 以下の三つの証拠から、去[去]平に倣って去[去]平平・去去[去]平平と解釈しておくのが 穏やかかと思う。

第一に、これらを『日本語アクセント史総合資料索引篇』と比較すると以下のとおりである。資料の略称は同書による。

イササカ LLHL 丙私. 四座. LLXX 名義. HLLL 開合. 補忘. 平節. HHHH 京ア.

イハユル HHHH 名義. 開合. 京ア. HHLL 補忘. LHLL 補忘.

アコメギヌ LHHHL 和名. 名義.

アラカジメ HHLLL 名義. LHLLL 補忘. HHHHH 京ア. LLLLH 京ア.

**イチメガサ** HHHLL 平節. LLHLL 京ア.

補忘.のイ[ハ]ユル、京ア.のイチ[メ]ガサは、去[去]平平・去去[去]平平の解釈に一致している例とみてよいであろう。去去[平]平・去去去[平]平の解釈と一致しているとみられる例は南北朝時代の語頭隆起以降の資料にはない。

第二に、春満のアクセント資料中に、去去平は8例あるのに対して、去平平は3例である。しかも去平平は全て『神国音義』に集中している。去平平は『神国音義』に独特の例外的な表記法で、去去平が本則の表記法とみるべきであろう。

第三に、このように解釈した場合、去去[去]平平の上昇の位置が他の注記(去去[去・去去[上・去去[上上など)と同様 2 拍目と 3 拍目の間で上昇することになる。

ただし、2単位形の「キヌノシリ」(137) に施された去去去平平の注記はキヌノ | [シ]リの音調を表しているとみられることはこの解釈に不利である。

7拍の去去上上上平平は、去去[上上上]平平を示していると考えて問題ないであろう。

#### 3.5. ここまでの小括

以上から、去声始まりの語の音調型は以下のように解釈される。

【1拍】[[去【2拍】去[去~去[去]]・去[上~去[上]]・去[平]]【3拍】去去[去・去去[上・去[上・去[去]平・去[平]平【4拍】去去去[去・去去[上上・去[去]平平【5拍】去去去[上上・去去[上上上・去去[上上上・去去[去]平平【6拍】去去[上上上上【7拍】去去[上上上]平平おおむね2拍目と3拍目の間で上昇していることになり、竜神型(および阿南型)の特徴を示している。ただしこの場合、去[上上・去去去[去・去去去[上上の存在が問題となる。これらは例が少ないので例外として処理することもできようが、当時の京都方言の低起式音調が阿南型であったと解釈すると例外が少し減る。次節ではこの点について述べる。

## 4. 阿南型との関係

### 4.1. 竜神型の例外

春満の低起式音調が竜神型であったという解釈で、例外は次の3表記、6例である。

**去[上上** キグツ (a56)・ツララ (87)・ネズミ (319)

去去去[去 アラユル (154)・マスラヲ (227)

**去去去**[上上 メユヒゾメ (a46)

春満の低起式音調が阿南型であったと解釈すると、これらのうち「マスラヲ」と「メユヒゾメ」が例外から外れる。阿南型には、複合語において形態素境界の直前または直後の2拍の間で上昇できないという制約がある。2拍目と3拍目の間で上昇すると\*マス[ラ-ヲ、\*メユ[ヒ-ゾメとなってこの制約に反するため、上昇の位置が1拍後退し、マスラ-[ヲ、メユヒ-[ゾメとなる。大和(1993、p. 42)の挙例でいえば、マスラ-[ヲはクスリ-[ヤと同様の語構成であり、メユヒ-[ゾメはネズミ-[イロと同様の語構成である。

この解釈においては、3 拍+1 拍の語構成の 4 拍語は去去去-[去 (または去去去-[上) 型にならなければならず、去去[上-上の例があってはならないことになる。同様に、3 拍+2 拍の語構成の 5 拍語は去去去-[上上でなければならず、去去[上-上上の例があってはならないことになる。去去上上の注記で 3 拍+1 拍の語構成のものや、去去上上上の注記で 3 拍+2 拍の語構成のものは春満の資料中に見つかっていない。去去上上に「アルイハ」(156)「アラハニ」(154) の例はあるが、3 拍語+1 拍付属語の場合、阿南型ではウサ[ギガのような型である (大和 1993、p. 49)。問題は「チキリカウムリ」(131) の去去上上上平平の例があることで、チキリ-カウムリの語構成であるから去去去-[上上]平平とあるはずのところである。また、キグツ・ネズミ・ツララ・アラユルは例外として残ることになる。

#### 4.2. 助詞つきの形

次に、低起式の語に助詞がついた形について検討する。2拍の語に助詞「ノ」が接した例は以下のとおりである。

**去去去上上** アサノ | [□ ロモ (a47)

**去去去上上平** アサノ | [サゴロ]モ (a47)

**去去去上上上上上** アメノ | [シタニ | [キミタル (47)

**去去去上上上平** キヌノ | [カリバカ]マ (134)

**去去去平平** キヌノ | [シ]リ (137)

**去去上上** アユ[ノ | カゼ (117)

「アユノカゼ」(去去上上)を除いては、初めの3拍が去である。また、偶然、後続文節はどの例でも高起式である。「アユノカゼ」以外は、去去去の文節の直後から上声に切り替わっており、これは文節境界での上昇を示すと思われる。すなわち、2拍L0型+1拍助詞の文節の次に高起式の文節が来るときに、最初の文節が最後まで低くなり、次の文節の最初で上昇していると取ることができる。これは現代京都方言や阿南型と一致する。大和(1993、p. 43)で示された例になぞらえると、アサノ[コロモはオビガ[ミ]エルと同じ構成である。なお、「キヌノシリ」(去去去平平)は、キヌノとシリとの間に文節の境界があり、シリの

なお、「キヌノシリ」(去去去平平)は、キヌノとシリとの間に文節の境界があり、シリの平平はそれのみで[シ]リの型を表すものとみられ、3.4 節で論じたイチメガサ等の去去[去] 平平とは別の型を表すものと思われる。

次に、4拍の語に助詞「ノ」が接した例として以下の1例がある。これは2拍目と3拍目の間で上昇する型を示すと考えられるが、現代の竜神型や阿南型と同様である。

**去去上上上上平** サシ[ヌキノ | [ハカ]マ (134)

参考文献 秋永一枝、上野和昭、坂本清恵、佐藤栄作、鈴木豊編(1997)『日本語アクセント史総合資料索引篇』東京堂出版/上野和昭(2011)『平曲譜本による近世京都アクセントの史的研究』早稲田大学出版部/上野善道(1987)「日本本土諸方言アクセントの系譜と分布(2)」『日本学士院紀要』(42-1)日本学士院 pp. 15-70/奥村三雄(1981)『平曲譜本の研究』おうふう/川上蓁(2009)「荷田春満のアクセント理解』「新編 荷田春満全集 第11巻 語彙・アクセント資料』おうふう pp. 437-444/金田一春彦(1960:2001)「国語のアクセントの時代的変遷」『日本語音韻音調史の研究』吉川弘文館 pp. 303-332(初出:『国語と国文学』37-10)/坂本清恵(1983:2000)「近松浄瑠璃譜本に反映した十七世紀末大阪アクセント」『中近世声調史の研究』笠間書院 pp. 181-200(初出:『国語学』135)/中井幸比古・高田豊輝・大和シゲミ編(1999)『徳島市方言アクセント小辞典』1998年度科研費報告書/中澤光平(2015)「南あわじ市沼島方言のアクセントの2単位形」『東京大学言語学論集』(36-TULIP)東京大学大学院人文社会系研究科・文学部言語学研究室 pp. 239-254/中村明裕(2022)「荷田春満のアクセント資料における第一種表記法」『日本語の研究』(18巻3号)日本語学会 pp. 18-34/大和シゲミ(1993)「低起式語の音声的変種:徳島県阿南市宝田町の場合」『待兼山論叢 日本学篇』(27)大阪大学文学部 pp. 37-50

謝辞 本研究にあたって文書の調査をお許しいただいた東丸神社の松村準二宮司ご夫妻に深く感謝申し上げる。本研究は JSPS 科研費基盤研究 (B) 15H03242 (研究代表者: 根岸茂夫) および、20H01189 (研究代表者: 松本久史) の助成を受けたものである。

# 係り結び史から見たサゾの文 —古典語と現代語を通じて—

蔦 清行(つた きよゆき・北海道大学文学部)

## 1 はじめに

## |.| 用語の定義

「係り結び」:野村(2014)「<sup>①</sup>主文における文判断の決定に関わって<sup>②</sup>形態上の呼応現象が認められるとき、その呼応現象を係り結びと呼んできた。」

「係り結び史」:いわゆる係り結びが生じてから現代に至るまでの変遷。

## 1.2 先行研究

## ①野田(2021):

古代語の「係り結び」は、係助詞「ぞ」「なむ」「や」「か」があれば述語が連体形になるというように形態的なものであり、わかりやすい。それに対して、現代語の「係り結び」は、「このような意味を表すこのとりたて助詞があれば、述語はこのような意味を表すものになる」という意味的なものであり、わかりにくい。しかし、どちらも特定の助詞が述語の特定の形と呼応するという点では同じであり、その点から現代語と古代語を対照する意味があると考える。(pp.179-180)

②その他の先行研究(係り結びが何らかの形で現代語にも認められるという考え方を取る もの。上掲野田説は現代語のとりたて助詞が係助詞と似た職能を果たしているとするものとも 言える):

- a. 阪倉(1993:262)など:ゾやカの持つ意味が終助詞で表されるようになったとする。
- b. 大野(1993:348-350)など:副詞を添加することで同じ意味を表そうとしたとする。
- c. 舩城(2013):間投助詞と終助詞の呼応現象に係り結びと似た原理を見いだす。

いずれも有力な見方であり、係り結びのさまざまな側面が現代語のさまざまな部分に姿を 変えて残存していると見ることができる。

### 1.3 研究の目的

古典語の係り助詞ゾに由来する副詞サゾについて、それが係り結びに関係するか否かをまず明らかにする。そのうえで、どのような点で古典語の係り結びと共通し、またいつ、どのように、 異なる点をもつようになったかを明らかにする。

現代語の状況との比較、また現代語へ向かう変化を観察することによって、古典語係り結びのいわゆる「衰退」がどのようなものであったかを明らかにする手がかりが得られること、またそもそも係り結びとは何であるかを再定義することにつながることが期待される。

## 2. 研究の方法

BCCWJを用いて、現代語のサゾの文の「係り結び」性を明らかにする。

- 1. 形態上の呼応があるか否か
- 2. 主文における文判断の形式と言えるか否か

CHJを用いて、古典語のサゾの文を調べる。

- 1. 現代語のサゾと意味上の違いがあるか否か
- 2. どのような文末の形態と呼応するか
- CHJ 等を用いて、特に係り結びの衰退期とされる中世後期のゾの係り結び文を調べる。
  - 1. サゾの文とそれ以外の係り結び文とで、分布的な違いがあるか否か
  - 2. 同じく、形態的呼応上の違いがあるか否か

## 3. 結果と考察 Ⅰ (現代語のサゾ)

1. 形態上の呼応があるか否か

### 助動詞ダロウ・デショウ

- (1)「これからおヨメさんは、さぞ大変だろうな」というのが、偽らざる私の感想だった。(小林千登勢『されど道づれ嫁姑』主婦と生活社、1995年)
- (2)新しい人だけでは最初は<u>さぞ</u>大変なこと<u>でしょう</u>。(阿部初枝『看護婦一年生』筑摩書房、1988年)

### 複合辞ニチガイナイ・デハナイダロウカなど

- (3) <u>さぞや</u>隣は迷惑している<u>に違いない</u>。(一条さゆり『さよならストリッパーニーハオチャイナ!』竹内書店新社、2001 年)
- (4)……気持はいつもコロコロ変化するので、それに慣れていない安田さんは<u>さぞ</u>振り回されて疲れる<u>のではないだろうか</u>。(横尾忠則『導かれて、旅』JTB 日本交通公社出版事業局、1992年)
- (5)……こうした機智に富んだ趣向は<u>さぞ</u>楽しい<u>と思います</u>。(筒井曜子・筒井紘一「茶と幽玄の出会い」『茶能歳時記』淡交社、2001年)

### 終助詞ゼ・カナなど

- (6) <sup>?</sup>おもしろい、捕まえるなら捕まえてみろ、魏が<u>さぞ</u>慌てるぜ。(葉青『蛍降る惑星』角 川書店、1996 年)
- (7)<sup>?</sup>本日の晴天! 市民プールも、本日開店 ^ ^ <u>さぞ</u>、混んでる<u>かな</u>~~我が町内では、吾妻神社の縁日開催!(Yahoo!ブログ 2008 年)
- 2. 主文における文判断の形式と言えるか否か

### 連体修飾節

(8) ・・・・・・・そこでくるりと振り向いてホームズを抱擁し、わがパートナーには<u>さぞつらいにちがいない力</u>をこめて彼の治りかけの背中をぱんぱんと叩いた。(ローリー・キング著・山田久美子訳「シャーロック・ホームズの愛弟子」 『エルサレムへの道』 集英社、2004年)

(9)?……人間に対する反応の仕方も、この景色を見る感覚にも似て、<u>さぞ細やかな、様々な思いと考えを抱かせてきたにちがいありません</u>。(三浦綾子「私の幸福論」『新しき鍵』 光文社、1995 年)

#### 並列的接続節

(10) 真剣なまなざしで頭を下げてお願いにまわった私たち二人の姿は、さぞ奇異なもの に映ったことだろうし、面食らわれたに違いないと思う……(児玉幸子・児玉邦夫『ファミリーピアノのすすめ』「連弾を楽しむ」講談社、1989 年)

#### 逆接的接続節

……この正月本陣へ年賀に顔出しをした時、お菊お前も<u>さぞ苦労をしたろうが</u>、政太郎も どうやらここまで一人前につとめあげてきた、……(山手樹一郎『裏町の人生』東京文芸 社、1988年)

### 【現代語のサゾについての考察】

主文末述語まで長距離の場合

- 1. 形態上厳密な呼応があるとは言えないが、意味的(推量等)呼応は認められる。
- 2. 厳密には主文における文判断に限定されないが、従属節で使われる場合には独立性の高いところを指向するようである。

※野村(2014)「①主文における文判断の決定に関わって②形態上の呼応現象が認められるとき、その呼応現象を係り結びと呼んできた。」

# 4. 結果と考察 2(古典語(古代~中世末期)のサゾ)

古典語の二種のサゾ(記述は日国「さぞ」の項目の引用)

- ①指示用法:副詞「さ」を強めた語。そのようにも。実際そのように。
- ②共感用法:他人の経験、あるいは未知の経験を目前のことのように共感、また、想像する 時の実感を表わす。(現代語のサゾはこちら)

### 指示用法から共感用法への推移

- (II)男山の峰のもみぢ葉、<u>さぞ</u>名は立つ<u>や、さぞ</u>名は立つ<u>や(『枕草子』「職の御曹司におはしますころ、西の廂に」)</u>
- (12)「雨など降り、空乱れたる夜は、思ひなしなることは<u>さぞはべる</u>。軽々しきやうに、思し驚くまじきこと」と聞こえたまふ。(『源氏物語』明石)
- (13) 老いの世に恋もし知らぬ人はさぞ今日のけさをも思ひわかれじ(『落窪物語』)

- (14)「……かかる道をば知らぬかなあひてもあはで明かすものとは あさましく」とあり。 さぞあさましきやうにおぼしつらむといとほしくて、……(『和泉式部日記』)
- (15) 少し今めかしき人にや、ひとすぢに思ひもよらぬ青柳は風につけつつ<u>さぞ</u>みだる<u>ら</u> <u>む</u> 今やうの手の、かどあるに書きみだりたれば、……(『堤中納言物語』「ほどほどの懸 想」)
- (16)しかじかなんいへば、明日おどして走らせんとて卒都婆に血を塗りつるなり。<u>さぞ</u>崩るらんものや」など言ひ笑ふを……(『宇治拾遺物語』巻第二・十二)

### 【古典語のサゾについての考察】

- I. 現代語と同じ共感用法に加え、より古い形と見られる指示用法がある。中古語では 両者のいずれにも解釈できる例が多い。
- 2. 共感用法は推量系助動詞と呼応し、指示用法はそれ以外にも呼応する。
- 5. 結果と考察 3(中世後期のゾの係り結び文)
  - 1. サゾの文とそれ以外の係り結び文とで、分布的な違いがあるか否か
  - 2. 同じく、形態的呼応上の違いがあるか否か

## 5.1 虎明本狂言集のゾの係り結び

表 1:CHJ 虎明本狂言におけるゾレサゾ(各セル内上段実数・下段百分率)

	韻文 <sup>2</sup>	韻文以外	合計	推量系結び
疑問詞を伴うゾ	2	66	68	1
7. C. G.	(2.9%)	(97.1%)		(-)
11.58	0	1.1	1.1	1.1
サゾ	(0.0%)	(100%)	11	(100%)
その他のゾ	107	13	120	0
(係り結び)	(89.2%)	(10.8%)	120	(0%)

#### 【狂言の用例についての考察】

1. いわゆる通常の係り結び(疑問詞を伴うものを除く)は殆ど「韻文」で使われるのに対し、 サゾは、韻文では一切使われず、分布上明らかな差がある。

<sup>「</sup>ゾは文中用法(語彙素 ID21528) に限定。

<sup>&</sup>lt;sup>2</sup> コーパス開発者がテキストに付与した情報のひとつ。マニュアルにあたる「『日本語歴史コーパス 室町時代編 I 狂言』テキスト・表示項目について」(市村太郎氏執筆、渡辺由貴氏更新)では、「なお、 それぞれ節付け箇所・和歌や謡であることが明らかな箇所には、「ト書き-韻文」のように、「-韻文」が表示される」といい、本発表ではこれを利用している。

2. 通常の係り結びは結びに推量系助動詞が用いられないのに対し、サゾは全て推量系助動詞が現れる(現代語と同じ)。

通常の係り結びは古語化し、サゾは(当時の)現代語として使われると解される。

## 5.2 キリシタン資料のゾの係り結び

ロドリゲス『日本文典』におけるゾの記述(土井訳本 p.475)

○一種の助辞の Zo(ぞ)や Zocaxi(ぞかし)がある。ただ文の飾りに過ぎなくて、何らの意味をも持たない。さうして文中でそれに続く動詞は Queru(ける)に終る。かくて Zo, Queru, Mo, Queri, Coso, Que-re.(ぞ, ける, も, けり, こそ, けれ。)といふ。 Cono acatcuqui vxetamainutozo iyqueru.(この暁失せ給ひぬとぞ言ひける。)「発心集」(Foxxinju)

### CHJ(キリシタン資料)でのゾの係り結びの例

- (17)……遣り戸障子を立て、空の鳴り、地の動く度には只今<u>ぞ死ぬる</u>と言うて、高う念仏を申した声所々に夥しかった。(『天草版平家物語』巻第四·第二十二)
- (18)あわや木曾が参るは、この度<u>ぞ</u>世は失せ終わ<u>らう</u>と申したれば:法皇を始め奉って、 公卿殿上人も……(『天草版平家物語』巻第四·第三)
- CHJ(キリシタン資料)での指示用法のサゾの例
- (全3例。全て推量系助動詞で結ぶ。なお共感用法の例は見えない)
  - (19)世には皆重衡一人が所行と申せば、上人も然ぞ思し召すらう:全く重衡が下知ではおりない(『天草版平家物語』巻第四·第十一)

## 5.3 抄物のゾの係り結び

抄物のゾの係り結びの例

ゾアルラウの例(ほとんどがアリを述語とする。たとえば『蒙求聴塵』では 22 例中 18 例がアルラウ/アラウ等を結びとする)

写本ヂヤホトニカキテノ誤デゾアルラウゾ。(『史記抄』巻一)

ー巻ニ会稽霞挙トアル其人デ<u>ゾ</u>アル<u>ラウ</u>也。(『蒙求抄(書陵部本)』巻七) ヤウゾアルラウメ。(『史記抄』巻十)

### その他の例

其様ナ易学二<u>ゾ</u>通ズル<u>ラン</u>也。(『蒙求抄(米沢本)』巻一) 十二ハ十二月二<u>ゾ</u>象ツ<u>ラウ</u>ゾ。(『史記抄』巻三) 五歩一樓十歩一閣ト云様二ゾツクリツヾケタゾ。(『史記抄』巻三)

### 抄物の指示用法のサゾの例

漢カラ深妙ナリトテ、サゾ貧苦ナルラウト云テ……(『史記抄』巻十四)

抄物の共感用法のサゾの例

コ\ハ小魚ゾ。地ガ黄色デ黒紋ガ有トアルホドニサゾアルラウゾ。(『蒙求抄(書陵部本)』巻一)

於是一サゾアルラン。シラヌ事也。(『蒙求聴塵』巻三)

其二十ヨリ已上ヲバ皆自身糾明スルト云心也。注ガナキホドニ知ラレズ。サゾアルラン。 (『蒙求聴塵』巻三)

### 【抄物の例についての考察】

例外はあるが、係り結びの例の殆どは「~ゾアルラウゾ」という形であり、またそうでないもの も殆どが推量系助動詞を結びに取る。この点で、定型化(形式化)が進んでいる。

サゾの文は、分布・形態ともにこれに準ずるものであり、明確な違いは見られない。

## 6. まとめと展望

現代語の副詞サゾの文については、主文における文判断との関わり・形態上の呼応のいずれにおいても、相当程度係り結び性を認めることができる。古典語のサゾは指示用法から共感用法を派生させたと見られ、当初は通常の係り結びの枠内の形式であった。それが<u>中世後期</u>ころに至ると、分布・形式ともに従来型の係り結びとは異なる性質を示すようになる。

ゾの係り結び自体は、中世後期、狂言では韻文部分にのみ見られ、当代の表現としては殆 ど使われなくなる。一方抄物では推量系助動詞で結ぶ例が圧倒的になるという定型化が見られる。古典語係り結びのいわゆる「衰退」は、このような言語史的事実を積み重ねることで、研究を前進させることができるであろう。

### 《参考文献》

大野晋(1993)『係り結びの研究』岩波書店

阪倉篤義(1993)『日本語表現の流れ』岩波書店

野田尚史(2021)「現代語と古代語の「係り結び」 ——焦点表示機能と主題表示機能を 視野に入れて——」(野田尚史・小田勝編『日本語の歴史的対照文法』和泉書院)

舩城俊太郎(2013)『かかりむすび考』勉誠出版

《附記》本発表では、BCCWJ(『現代日本語書き言葉均衡コーパス』中納言 2.7.2/ データバージョン 2021.03) および CHJ(国立国語研究所(2016)『日本語歴史コーパス 室町時代編 I 狂言』(短単位データ 1.1 / 長単位データ 1.1)

https://ccd.ninjal.ac.jp/chj/muromachi.html)を使用した。

抄物の用例の検索には、住谷芳幸氏の「科研費によるデータ(住谷研究室)」

(http://www.nabaya.net/kaken.htm)を利用した。厖大な労力の必要なこの種のデータを無償で公開されていることに、心より敬意と感謝を表する。

本発表は JSPS 科研費 JP23H00600 の助成を受けたものである。

### 人称詞「こなた」の成立

やまなか あずさ 山中 梓 (東北大学学生)

#### 1. はじめに

日本語の人称詞は種類が豊富であるが、その多くは普通名詞や指示詞からの転用によって成立するという特徴をもつ $^{1}$  2。それらは全く別の方法で転用されたものであるとは考えにくく、そこには、一定の転用の型、もしくは転用の傾向というものがあるのではないかと考えられる。たとえば「こなた」は指示詞((1))から聞き手を表わす二人称の人称詞((2))となる $^{3}$ 。

(1) 音羽山をとにききつつ相坂の関のこなたに年をふる哉

(『古今和歌集』 恋歌一)

(2) 沓脱まで忍び出で母、久米之介に囁きて「 $\underline{cxc}$ は命のない人なれど、お梅が嘆く不便さにこち 夫婦が了簡で、今宵の命を助ける (『心中万年草』)

この変化における転用の過程を検討することで、人称詞の成立過程の一類型を明らかにしたい。 ところで人称詞とは何か。田窪行則 (1997) は本発表における人称詞を「人称名詞」と名付け、 親族名称や固有名詞等との違いとして、「直示性」「境遇性」を挙げる。

人称詞における直示性とは、言語場面上にいる人物をその場面に応じて指すということであり、特定の言語場面におかれることによってその指示対象が決まるということである。

(3) 父親:次郎、{私/お父さん}が間違っていたよ。

息子:{私/お父さん}が間違っていたんだ。

(田窪行則(1997)の例を改変)

たとえば、(3) の「私」はこの場面において、父親によって発話されることではじめて指示対象が決まり、息子に発話されることによってはじめて指示対象が決まる。また、人称詞は直示性を持つ故に境遇性をも持つ。人称詞における境遇性とは、その指示対象が話し手であるか聞き手であるかという言語場面上の役割(人称)が固定されているということである。たとえば「私」は話し手を固定的に指すため、(3) では父親の発話では話し手である父親を、息子の発話では話し手である息子を指すことになる。話し手という役割が固定されているため、話し手が変わると異なる人物を指すようになるのである。一方「お父さん」は指示対象が父親であることがすでに決まっており、父親の発話でも息子の発話でも父親を指し、人称は固定されていないといえる。本発表では、田窪行則(1997)に従い、人称詞は「直示性」と「境遇性」を持つものと考える。

## 2. 先行研究

人称詞「こなた」の各時代における待遇価値や使用者と相手の関係等を明らかにする研究は多く(林弘子(2007a、2007b)、池上秋彦(1977、1996)、佐野裕子(1980)、伊坂淳一(1984)、韓美卿(1992)、山崎久之(2004)、杉崎夏夫(2020)、小島俊夫(1982)等)、その結果「こなた」は室町時代には待遇価値が高く、江戸時代には低くなっていくこと等が明らかになっている。また、「こなた」の用法の変化を扱うものとして、「~ナタ」系語の変遷を検討する荻野千砂子(2003)がある。荻野は、人物を指す「こなた」が16世紀抄物で初めて出現し、虎明本で増加し、17世紀後半には人物を指す用法に偏ったことを報告している。また自称としての「こなた」は16世紀抄物と虎明本、狂言記に少々みられるものの定着せず、「ソナタに替わる新しい対称

<sup>&</sup>lt;sup>1</sup> 日本語の人称詞は文法的には代名詞である必然性はないと考える(田窪行則(1997)の指摘による)故に本発表では「人称代名詞」ではなく「人称詞」とする。

<sup>&</sup>lt;sup>2</sup> 日本語の人称詞の多くが転用によって成立したことは、鈴木孝夫(2009)、河野多麻(1968)等に指摘がある。 また森野宗明(1971)は、普通名詞・指示代名詞の転用が、平安時代における人物呼称表現の多彩化に寄与して いることを指摘する。

<sup>3</sup> 小林好日(1936)は、自称及び対称の「こなた」を、場所・方向等の代名詞の転用の例として挙げている。

の語として定着した」(p.59) という。

しかし、前者の研究は人称詞としての成立過程は問わないものであり、後者の研究でも空間を示す「こなた」がどのようにして人物を指すようになったのか、またどのようにして聞き手を指す「二人称の人称詞」となったのか、その転用の過程は明らかにされていない。

そこで本発表では、指示詞「こなた」がどのように転用されて二人称の人称詞として成立するのか、またその過程において、どのような転用の機構が働いているのかを明らかにする。

#### 3. 空間用法と、人物用法の萌芽

「こなた」は延喜式祝詞に 1 例みられ、平安時代から多くみられる。はじめにみられるものは、〈話し手がいたり、話題になっていたりする現場〉を表わす。これを①空間用法とする⁴。

- (4) いかで、今は、北の方、君達にも対面せむ。<u>こなた</u>にもわたりたまへ (『落窪物語』) 現場を表わすということは、現場とその外の空間を切り分けて対比することになる。平安・鎌倉時代には、この空間を切り分ける性質を用いて、〈現場にいる人物たちを2つに分けたうちの片方の側〉を表わすことができるようになる。これを空間用法の中でも、①′人物側用法とする。
  - (5) かく山伏経営して、所につけたる貝つ物など取り出でたる。<u>こなた</u>よりも、供とする人の笈の中より、都のつととて、扇など取らすれば (『とはずがたり』巻四)
- (5) の「こなた」は、現場にいる人物を「山伏側」と「筆者側」に分けたうちの筆者側を表わす。筆者たちの領域と山伏の領域の間の物の移動が描かれており空間的である。一方で「こなた」が表わしているものが実質的には筆者たちという人物である点で人物的な側面も持つ、空間と人物の中間的な用例である。ただしこのときの人物の表現の仕方は間接的なものである。(5) の「こなた」が表わしているものは「筆者側」というグループ全体であり、その「筆者側」というグループの代表者は筆者という人物であることから、実質的には筆者を表わしていると考えられるのであって、この「こなた」は筆者という人物そのものを直接指しているわけではない。

#### 4. 人物用法の出現と変化

### 4-1. 人物用法の出現

室町時代になると、間接的に人物を指すのではなく、〈現場にいる人物そのもの〉を直接指す 用例があらわれる。これを②人物用法とする。この段階では、話し手・聞き手の双方、および稀 に第三者を指すことができるが、後述するように最終的には指示対象は聞き手に偏っていく。

(6) [座頭] 「やがてつえにてすいしたり」[ごぜ] 「こなたもつえにてすいしたり」

(『虎明本狂言集』 瞽女座頭)

- (7) よひ酒がほしうござるが、こなたの酒をおこひてくだされうか」 (『虎明本狂言集』千鳥)

ただしこの人物用法はまだ空間性が残っている。(6) は話し手と聞き手がこちら側・向こう側として互いに杖を探るという対比が、(7)(8) は酒・福という物の空間移動が、描かれている。

この空間性は、『虎明本狂言集』の人物用法の「こなた」に後続する助詞に、空間を表わす助詞が「から」「に」「へ」「まで」の4種類計19例もあることからもわかる(後述の表1)。

さてこの時代の人物用法は、(6)のような初対面の場面(28例)、(7)のような依頼をする場面(22例)、(8)のような反対意見を述べる場面(28例)に多い。これらの場面では相手との距離を一定程度保つことで丁寧さを演出することになる。この一定程度の距離を保つには、相手を

<sup>4</sup>次のような、基準となる時期よりも前や後の時間を表わす例(平安時代に 12 例)も空間用法に含む。 かしこき御影に別れたてまつりにしこなた (『源氏物語』明石)

直接指示する「直示性」を持ち、また相手との待遇的な距離感が定まっている他の人称詞よりも、 空間性を利用しながら実質的に人物を指すという指示の仕方ができる「こなた」は都合がよい。 たとえば(9)では「わごりよ」が使われ、太郎冠者と次郎冠者という対等で近しい関係が示 されている。このような距離感が人物側の「こなた」はまだ定まっていなかったのである。

(9)「身共は不案内な、わごりよが案内者じや程に、わごりよがよひやうに分別さしめ」

(『大蔵虎明本狂言集』目近籠骨)

つまり、人物側の「こなた」は空間を切り分けたその対比を人物同士の対比に読み替えることで実質的に人物を表わしており、空間を用いて人物を指すという間接性を持っている。その間接性を利用して人物を指した名残が、人物用法における距離感の必要な場面での使用の多さなのである。その結果、先行研究が指摘するような「こなた」の待遇価値の高さが生まれたのではないかと思われる。この人物側用法の間接的に人物を表わすという性質の効果的な使用が重なることで、「人物を表わす」という要素が「こなた」において中心的になり、人物用法が生まれた。

#### 4-2. 人物用法の変化

人物用法は、室町時代には空間性が残っていたが、江戸時代には空間性が消え人物そのもののみを指すようになる。そのことは、室町時代を代表する資料である虎明本狂言集(以下虎明本)と江戸時代を代表する資料である近松世話浄瑠璃(以下近松)において、「初対面の相手に対して、その素性を確認する」という同じ場面がどのように表現されるのかからもわかる。

- (10) 「やい / \汝は、めでたい市のはじめに何事をわつぱといふぞ」「 $\underline{cxc}$ はもくだい殿でござるか | (『虎明本狂言集』「鍋八撥」)
- (11) 使者重ねて「御自分はお年かさと見え申す。お名は何と、生国は」、と問ひければ「我らは播州 飾磨成田武右衛門倅、同名久米之介」「ムムさては同国武右衛門子息、高野にあるは<u>こなた</u>か」 (『心中万年草』)
- (10) の虎明本は「こちらにおいでなのは、目代殿か」のように「こなた」に空間性をもって解釈することができるが、(11) の近松ではできず「武右衛門の子息で高野山にいるというのは、あなたか」として「こなた」は久米之介その人を指している。 【表1】人物用法に後接する助詞

このことは、虎明本と近松の人物用法に後接する助詞の違い(表 1)からもわかる $^5$ 。主格相当の助詞は、虎明本には「は」24 例「も」6 例等があるが、近松では「は」15 例「も」16 例「が」7 例等増加傾向にある。一方空間を表わす助詞は、虎明本では「から」「に」「へ」「まで」の4種類計19 例がみられるが、近松では「に」「にも」「へ」の3種類計14 例にまで減っている。

さらに「に」に後接する述語を比較すると、(12)のように、虎明本は物の移動等明らかに空間を表わすものが多いが、近松では「似合う」「添わせる」「かわいがってもらう」等、「こなた」が人物でないと成立しない述語が多い<sup>6</sup>。

(12) a 【虎明本】(名を) つけてもらう、(福を) やる、奉公仕る、会う b 【近松】習う、似合う、入れあげる、添わせる、偽りある、可愛がってもらう、会う、ほだされる、恨みも罪もない

また、「は」が後接する場合にも違いがみられる。虎明本の(10)では「こな

助詞	虎明本	近松
は	24	15
も	6	16
が		7
こそ	1	
さへ	1	
ばかり	1	
無	2	6
を	5	8
の	76	37
から	3	
に	7	9
にも		1
^	8	4
まで	1	
×	7	24
計	142	127

⁵ 表1の助詞欄の「無」は無助詞、「×」は「こなたでござるか」等後接する助詞が想定できないものを指す。

<sup>6「</sup>を」に後接する述語を比較すると、虎明本では「思う」「なつかしく存ず」等、「こなた」が人物の周辺のことも含めて指している例が多いが、近松では「こなたを(叔母御と、男と)言ふ」、「笑はせる」、「こなたを(女郎かと)思ふ」等、「こなた」が人物そのものでないと成立しない述語が多い。

a【虎明本の「を」に後接する述語】お供いたす、思ふ、なつかしく存ず、負ふ、頼む

b【近松】頼む、(叔母御と、男と) 言ふ、笑はせる、(女郎かと) 思ふ、拝む

た」は聞き手の属性と結びついていたが、近松の(13)では動作の主体となる。

(13) 伴之丞跛ちが/ 腰を引く、忠太兵衛面憎く「<u>こなた</u>は腰をお引きなさるるが、疝気でも起ったか」 (『鑓の権三重帷子』)

人物用法の多くは聞き手を指す用法で、時代が下るとその割合が高くなるが、その聞き手を指す「こなた」と共用されている対称詞や、対応する自称詞の違いからも、空間性の消失はわかる。表2をみると、まず「こなた」と共用されている対称詞は、虎明本では「たのふだ人」「御身」の2種類のみである。一方近松では「実名」「そなた」等24種類を用いており、たとえば(14)

では、「傾城殿」という職業名称+殿や「そなた」という他の人称詞が共用されている。

【表 2】「こなた」と共用される対称詞・対応する自称詞

(14) 「<u>こなた</u>を女郎かと思へば、鬼か天魔か。この剃刀で人の男に死ねとは死んでよくば<u>こなた</u>一人死んだがよい。大事の男の肌は荒らされ心の底は見捜され世間に悪う歌はせ生きる死ぬるの難儀も、誰故ぢや。<u>傾城殿、そなた</u>故。生傾城の恥知らず」(『山崎与次兵衛寿の門松』)

次に、「こなた」と対応する自称詞(「こなた」で指示された人物が用いる自称詞)を比較すると、虎明本には8種類があり、特に「わたくし」「身共」「それがし」の3種類で大半を占める((15)は「私」「身共」が対応)。一方、近松では「私」「こち」等13種類があり、特に大半を占めている自称詞はない((16)は「わし」が対応)。

(15)「むこ殿のござらひではならぬ程に、いそひでよびまらしてこひ」「<u>私</u>よふでまいらふ」「いや/\<u>こなた</u>はそれにござれ」「<u>身共</u>が同道いたひてまいらふ」(『虎明本狂言集』二人袴)

虎明本 たのふだ人 1 そなた 身共・身ども 1 そなた衆 それがし 貴様 6 おれ 御身 6わし あり様 3わしら 1 我 実名 2 我ら 我ら 自 この年より 実名+様 実名+殿 此方 親仁 実名 親父様・親仁様 親父殿 親族名称+実名 親族名称+様 旦那殿 お主様 職業名称 職業名称+殿 蔑称 **芭称+殿** 蔑称+親族名称 こな婆さま

(16) 浄瑠璃はそなたより、<u>わし</u>がよう覚えてゐる。晩にこつちの見世へおぢや。よう合点のいく やうに教へてやらう」と、世話やけども、市郎右衛門も言ひ掛り「いや/\<u>こなた</u>に習はいで も<u>こなた</u>の胸中にある浄瑠璃はこの鼻が覚えてゐる。お聞きやれ」 (『心中二枚絵草紙』)

虎明本と比べて近松ではより多くの対称詞・自称詞が「こなた」と共用・対応するようになっており、それは「こなた」の人称詞化の進行(対比性という一種の空間性の消失)を意味する。

### 4-3. 直示性の獲得とその機構

人物のみを表わす「こなた」は直示性を持つが、それはどのようにして獲得されたのか。 空間用法の「こなた」は「話し手のいる現場」という意味を持ち、発話されることでその現場 がどこを指すのかが決まる、直示的な表現であった。この「話し手のいる現場」が「言語場面上 にいる人物」に変化することで「こなた」は人称詞としての直示性を獲得する。つまり「こなた」 が人称詞としての直示性を獲得するためには「人物の表面化」という機構が働いていたといえる。 直示性の獲得というプロセスは、普通名詞起源の他の人称詞でも起こる。たとえば「わたくし」 は、特定の場面に使用が偏ることによって、文脈の力を供りなくても「話し毛」という意味を表

直示性の獲得というプロセスは、普通名詞起源の他の人称詞でも起こる。たとえば「わたくし」は、特定の場面に使用が偏ることによって、文脈の力を借りなくても「話し手」という意味を表わすことができるようになる(山中梓 2021)。ただしこれは「こなた」とは異なる機構による。

#### 5. 二人称の人称詞の成立

## 5-1. 空間用法の減少と二人称への偏り

表3をみると、平安・鎌倉時代は全てが空間用法であったが、室町時代には空間用法が減り、

人物用法が中心になる。さらに江戸時代になると人物用法の中でも聞き手を表わす用法に偏る。 つまり、「こなた」は空間用法が減り、人物の中でも特に聞き手に偏っていくのである。この空間用法の減少と聞き手への偏りはそれぞれどのようにして起こったのだろうか。

なぜ空間用法が減少するのか。第一に人物用法が生まれ定着したことが考えられる。第二に他の場所・方向を表わす指示詞との関係が考えられる。荻野千砂子(2003)は、次のように述べる。

コチラ系語はすべて方 向を指している。「~ナ タ」系語が人称詞 [発表 者注:方向を指す機能を失 い、人物を指す機能に偏っ た状態のこと。本発表の「人 称詞」とは異なる〕に偏っ たとき、新しく方向を 指す指示詞が必要にな りコチラ系語が生じた のではないだろうか。 逆に言えば、コチラ系 語が存在したからこそ、 「~ナタ |系語は人称用 法に偏りやすかったと も考えられる。(p.54)

方向を指す指示詞が増え、同時に「こなた」に人物用法が定着して、「こなた」は空間用法から人物用法中心へと変化したと考えられる。

次に、人物用法の中でも「こなた」はなぜ特に聞き手に偏っていくのか。

人物用法は、現場にい

	【表:	3】「こなた」作	品別	用机	州教	7					なた」作品別用例数	_	間	_	人物	_	_
		なた」作品別用例数		間		<b>、</b> 人物	)		時代	成立年	作品名	空間	人物	L	Ξ	聞き	
				Ι.					名			1	側	手	者	手	
诗			空	\	話	第	뮙	松			配睡笑 	8	6	_		6	
t	成立年	作品名	間	物	L	Ξ	ŧ	l			身の鏡 好色一代男	4	3		1	3	
名				側	手	者	手	計			西鶴諸国ばなし	1	2	-	1	- 4	
							-				好色一代女	2	4	-	1	8	
	900	竹取物語	1					1			好色五人女	3	2	_			
	905	古今和歌集	4					4		1687	男色大鑑	3	4	1		3	
	955	後撰和歌集	3					3			武道伝来記	4	6		1	8	
		平中物語	3	-				3		1688	新可笑記		2	_		2	
			_	_				-			日本永代蔵	2	5			1	
		蜻蛉日記	16	_				19		4000	武家義理物語	2	3	_			
	986	落窪物語	10					10			世間胸算用 西鶴置土産	1	2	2	H	3	
2平	1001	枕草子	22	2				24			四鉤直工座	1				-3	
安	1010	源氏物語	157	33				190			きのふはけふの物語	2	1	$\vdash$		1	
		紫式部日記	4					4			伊曾保物語	4				H	
				_						[小	計】浮世草子・仮名草子	41	40	3	3	58	
		和泉式部日記	5	_				6		1703	曾根崎心中	1					
	1055	堤中納言物語	2	4				6		1704	薩摩歌	2			1	3	
	1059	更級日記	5					5		1706	卯月紅葉	$\perp$		L		_ :	
	1100	大鏡	5					5	5;I		心中二枚絵草紙	2		_		2	
	1110	讃岐典侍日記	2					2	戸	1707	卯月の潤色 五十年忌歌念仏	╁				3	
		今昔物語集	46	1				47			心中重井筒	╁				- 5	
		7 12 10-11-1	-	1							円波与作待夜のこむろぶし	+		$\vdash$		-	
		新古今和歌集	1					1			堀川波鼓	3				-	
	1220	宇治拾遺物語	16					16		1708	淀鲤出世滝徳					- 3	
	1223	海道記	2					2		1709	心中刃は氷の朔日	2		1		8	
		保元物語	4					4			心中万年草				1	8	
3鎌	12/12	東関紀行	1					1		1711	今宮の心中	4_		<u> </u>		10	
倉			_	_				-			冥途の飛脚	_		_		8	
		十訓抄	1	-				1		1712	長町女腹切 夕霧阿波鳴渡	3				10	
		十六夜日記	1	1				2		1715	ク 務 門 成 '	+				10	
	1306	とはずがたり	9	2				11		1/15	大経師昔曆	+				2	
	1309-10	延慶本平家物語	11					11		1717	鑓の権三重帷子	1			1		
	1336	徒然草	1					1		1718	山崎与次兵衛寿の門松	1				8	
		で	332	47				379			博多小女郎波枕	2				6	
											心中天の網島	2				1	
1宰		天草版平家物語	7				2	9			女殺油地獄	1	<u> </u>	<u> </u>	$\vdash$	9	
· <u>т</u>	1593	天草版伊曾保物語	$\perp$		1		1	2			心中宵庚申	22	0	4	_	123	
#J	1642	虎明本狂言集	96	8	26	1	115	246	-		小計】近松世話浄瑠璃 【小計】江戸時代	63				181	
		【小計】室町時代	103	8	27	1	118	25.7	_		【総計】	498	95	_		_	

る人物である話し手と聞き手が大半を占める。虎明本には話し手を表わす「こなた」と聞き手を表わす「こなた」が、同一人物によって同一場面に発話される例がある。

(17) [太郎冠者] 「いやたのふだお人のでは御ざるまひ、みやうがをこしめさぬ程に、御しつねんは ござるまひ、<u>こなた</u>へくだされひ」といひて刀をとる [主] 「いはれぬ事をいひおる。おこし おらふ」 [太郎冠者] 「これはいかな事、<u>こなた</u>のではござるまひ、びしやもんだうでひろふて ござる程に、是ほどのふくは御ざるまひ、だから物にいたす」 (『虎明本狂言集』 「鈍根草」)

話し手・太郎冠者を表わす最初の「こなた」は、助詞「へ」を伴い、刀という物の移動を描いている。一方の聞き手・主を表わす二番目の「こなた」は、「こなた」が刀を所有する人物であることが示されている。つまり、話し手を表わす「こなた」の方がより空間的であるといえる。

虎明本の話し手を表わす「こなた」26 例中 18 例が定型表現で、残り 8 例中主格相当に立てるものは対比性がみられる「も」2 例のみである。残る 6 例も(17)のように物や言葉の移動を描くもので、空間性が濃い。また、江戸時代の浮世草子・仮名草子の用例も、同様に空間性が残る。

(18)「おのづからやめさする遠島あり。こなたへまかし給へ」

(『西鶴置土産』巻一)

このように話し手を表わす用法は空間性を色濃く残すため、空間用法の減少に対応するように、減少すると考えられる。その結果聞き手を表わす「こなた」が相対的に増え、定着した。

#### 5-2. 境遇性の獲得とその機構

「こなた」は江戸時代になると聞き手に偏る。これはすなわち、人称が二人称に固定され、境 遇性を獲得したということである。直示性に続き境遇性を獲得したことで、「こなた」は人称詞 としての特徴を兼ね備え、二人称の人称詞として成立したといえる。前述のように「こなた」は、 空間用法と、空間用法と結びついた話し手を表わす用法が減少したことによって、聞き手を表わ す用法に偏った。つまり、「他用法の衰退」という機構が働いた。

この境遇性の獲得というプロセスも他の人称詞にもみられる。たとえば「わらは」は特定の文脈における使用によって話し手を固定的に指すようになった(山中梓(2023))。この境遇性の獲得というプロセスも、「こなた」は他の人称詞とは異なる機構によって起こっている。このように異なる素材であれば、異なる機構が働き、人称詞として成立するのである。よって、人称詞の転用過程の類型およびそこで働く機構の類型を明らかにすることは重要であるといえる。

#### おわりに

本発表では、(i)指示詞「こなた」がどのように転用されて二人称の人称詞として成立するのか、(ii)その過程においてどのような転用の機構が働いているのかを検討した。

- (i)「こなた」は〈話し手がいたり話題になっていたりする現場〉という空間を表わしていたが、その中で〈現場にいる人物たちを2つに分けたうちの片方の側〉を表わすような、空間と人物の中間的な用例が生じる。この中間的な用例から人物を表わす用法が生まれる。この人物を表わす用法は、室町時代から江戸時代にかけて空間性が消失し、人物そのもののみを表わす用法として定着した。江戸時代にはこの人物を表わす用法は聞き手を表わす用法に偏り、二人称の人称詞として成立する。
- (ii)空間性が消失し人物そのもののみを表わすようになることで人称詞としての直示性が獲得される。 ここでは「人物の表面化」という転用の機構が働いている。空間用法や話し手を指す用法の衰退に より、人称が二人称に固定化される。ここでは「他用法の衰退」という転用の機構が働いている。

#### [使用テキスト] \*なお、引用に際して表記を私に改めた箇所がある。

国立国語研究所 (2023)『日本語歴史コーパス』(バージョン 2023.3, 中納言バージョン 2.7.1) https://clrd.ninjal.ac.jp/chj/ (2023年5月31日確認) 奈良時代編・平安時代編・鎌倉時代編・室町時代編・和歌集編・江戸時代編Ⅲ近松浄瑠璃/ジャパンナレッジ詳細検索『井原西鶴集』(『新編日本古典文学全集』による) https://japanknowledge.com/lib/search/koten/index.html (2023年6月7日確認) /北原保雄・小川栄一編 (1996) 『延慶本 平家物語 索引篇』/横山英監修 (1975) 『仮名草子伊曽保物語用語索引』白帝社/北原保雄(1973) 『きのふはけふの物語研究及び総索引:大東急記念文庫蔵』 笠間書院/岩渕匡編著・桑山俊彦・細川英雄 (1998) 『醒睡笑 静嘉堂文庫蔵 索引編』 笠間書院/宮田裕行 (1986) 『仮名草子『身の鏡』総索引』 新典社

#### [参考文献]

池上秋彦(1977)「鷺流狂言本に見られる一・二人称代名詞の用法について」松村明教授還暦記念会編『国語学と国語史 松村明 教授還曆記念』 明治書院 pp. 463-486/池上秋彦(1996)「『大蔵虎清本』に見られる一・二人称代名詞」 『国語史から見た近代語』 東宛社 pp.8-45/伊坂淳一(1984)「コナタ・ソナタと述部待遇語句の呼応 -狂言台本とキリシタン文献を総合する観点から-」 『日本語と日本文学』4 筑波大学国語国文学会 pp. 25-37/荻野千砂子 (2003)「指示詞から人称詞へ一「~ナタ」系語の変遷一」 『語文研究』95 九州大学国語国文学会 pp. 63-52/河野多麻 (1968)「うつほ物語の人称代名詞 (一人称)」『武蔵野女子大学紀 要』3 pp. 25 -86/小島俊夫(1982)「滑稽本・人情本の語彙」佐藤喜代治編『講座日本語の語彙第 5 巻 近世の語彙』明治書院 pp. 247-269/小林好日 (1936)『日本文法史』刀江書院/佐野裕子 (1980)「室町時代末期の人称代名詞―その用法と資料性との 関連一」『国文』52 お茶の水女子大学国語国文学会 pp. 40-54/杉崎夏夫(2020)「人称代名詞「こなた」「おのれ」「てまへ」「そ なた」の研究」『武蔵野大学日本文学研究所紀要』8 pp. 30-46/鈴木孝夫 (2009)『日本語教のすすめ』新潮新書/田窪行則 (1997) 「日本語の人称表現」田窪行則編『視点と言語行動』くろしお出版 pp.13-44/林弘子 (2007a)「天理図書館蔵『狂言六義』の 二人称代名詞「こなた」について」『安田女子大学大学院文学研究科紀要』pp.1-31/林弘子(2007b)「天理図書館蔵『狂言六義』 の待遇表現—一人称代名詞を中心に一」『国文学攷』196 広島大学国語国文学会 pp.1-12/韓美卿(1992)「捷解新語における一、 二人称代名詞」辻村敏樹教授古稀記念論文集刊行会編『日本語史の諸問題』明治書院 pp. 49-70/森野宗明(1971)「古代の敬語 Ⅲ」辻村敏樹編『講座国語史 5 敬語史』大修館書店 pp. 97-182/山崎久之 (2004)『増補補訂版 国語待遇表現体系の研究 近世 編』武蔵野書院/山中梓(2021)「人称詞「わたくし」の成立」『国文学研究』195 早稲田大学国文学会 pp. 157-143/山中梓(2023) 「人称詞「わらは」の成立」『国語学研究』62 東北大学大学院文学研究科『国語学研究』刊行会 pp.57-70

### 現代語において使用が衰えた形容詞・形容動詞について

#### なかがわしゅう た 中川 秀 太(都留文科大学非常勤)

#### 1. はじめに

名詞には、物が使われなくなるとともに、それを指す語も廃れる傾向があり、それを惜しむ声などが記録されることが多い。一方、物を表さない用言については、何が衰退したのか、記録に残ることが相対的に少ない。本研究は、形容詞・形容動詞(以下、便宜的に「形容詞」で代表させる)について、実例をもとに衰退語を特定することを目的とする。まず、作家の幸田文(1904~1990)の12作品から抜き出した形容詞を国語辞典の見出し語と照合し、38の形容詞を抽出した(「調査 A」)。38語について「現代日本語書き言葉均衡コーパス」(BCCWJ)を用いて、現代語における使用実態を把握する(調査 B)。幸田文の娘の青木玉氏、孫の青木奈緒氏の作品を対象に用例を探す(調査 C)。そのほかの東京人の作品に用例を求める(調査 D)。一般の東京人に対し、質問用紙とインタビューによる意識調査を行い、理解語・使用語のチェックを行う(調査 E)。

### 2. 38 語の抜き出し (調査 A) と BCCWJ に見る用例 (調査 B)

幸田の『駅 栗いくつ』『おとうと』『男』『回転どあ 東京と大阪と』『草の花』『崩れ』『ちぎれ雲』『父その死』『包む』『動物のぞき』『流れる』『番茶菓子』から形容詞を抜き出し、『日本国語大辞典 第2版』に載る語・意味かどうかを確認した。そこに記載がない「甘悲しい」「ごそっぽい」など10語はひとまず対象外とした。次に「日本語の言語生活にとって基礎となる語句」を収め、中学生を主な対象者とする『例解新国語辞典 第10版』(『例解』)を用い、その語が載るかどうかを見た。以上の作業により『例解』に語(語形も)が載らない形容詞38語が抽出された(「薄い」は「目が悪い」の意味の有無に限る)。次に38語をBCCWJで検索し用例を調べた。検索の際、形容詞は終止連体形のみ、形容動詞は連体形のみを採集した。「けちな」には「ケチな」の表記例も含むなど、表記の変種を統合する。用例が一つもない場合は無表記、1以上の場合は、語の右肩に数を示す。なお、「あたじけない」に対する「けち」(「けちな」が148例)など、類語の調査も行ったものの、紙幅の都合上、ここでは、38語の使用状況のみを掲げる。

## 3. 青木玉, 青木奈緒の使用状況 (調査 C)

幸田露伴→幸田文→青木玉→青木奈緒の順で継承の有無を文献から探る。『小石川の家』(1994),『幸田文の箪笥の引き出し』(1995),『帰りたかった家』(1997),『祖父のこと 母のこと』(1997),『なんでもない話』(1997),『手もちの時間』(1999),『こぼれ種』(2000),『上り坂下り坂』(2001),『底のない袋』(2004) が青木玉氏の作品である。「気重い」が『こぼれ種』に1例,「気ぶっせい」が『帰りたかった家』『祖父のこと 母のこと』に1例ずつ計2例,「ほいない」が『小石川の家』に1例ある。『動くとき,動くもの』(2002),『幸田家のきもの』(2011),『うさぎの聞き

耳』(2005)、『幸田家のことば』(2017)が青木奈緒氏の作品である。『幸田家のことば』に「「あたじけない」は道義的にも欠乏しており、下司で欲どうしく、ケチに通じる」とある(p. 125)。 青木(2017, p. 3)に自身の使うことばが出版社の人に珍しがられ、母親も原稿に校閲部から言いかえの指示が入るということを重ねるうちに「面倒が起きそうな表現を自発的に避けるようになった」との記述がある。語は継承していても、ソトに出さないというあり方である。

## 4. 幸田家以外の東京人の使用状況 (調査 D)

女性の作品は、沢村貞子(1908~1996)の『私の浅草』『老いの楽しみ』『老いの道ずれ』、芝 木好子(1914~1991)の『奈良の里』『湯葉|青磁帖』『冬の梅』『下町の空』, 絲山秋子(1966~) の『イッツオンリートーク』『海の仙人』『袋小路の男』『逃亡くそたわけ』『スモールトーク』『ニ ート』『沖で待つ』『絲的メイソウ』『エスケイプ/アブセント』『ダーティ・ワーク』『豚キムチ にジンクスはあるのか』『ラジ&ピース』『ばかもの』『北緯14度』『絲的サバイバル』『妻の超然』 『末裔』『不愉快な本の続編』『忘れられたワルツ』『離陸』『絲山秋子の街道を行く』『薄情』『小 松とうさちゃん』『夢も見ずに眠った。』『絲的ココロエ「気の持ちよう」では治せない』『御社の チャラ男』を用いた(紙幅の都合上,刊行年は省略する)。沢村の『私の浅草』に「うすみっと もない」の例が3例あり、同氏の父親が会話の中で使用する例もある。幸田文は現在の墨田区、 沢村は台東区の生まれ育ちである。男性の作品は,吹田順助(1883~1963)の『旅人の夜の歌』 『パンと見世物』『分水嶺』、小島政二郎(1894~1994)の『海燕』『明治の人間』『円朝(上下)』、 清水幾太郎(1907~1988)の『愛国心』『社会学入門』『論文の書き方』『本はどう読むか』『私の 文章作法』,山本夏彦(1915~2002)の『日常茶飯事』『茶の間の正義』を用いた。小島の『円朝 (上下)』に「きぶっせい」(地の文),「ざっかけない」「やにっこい」(会話文)が1例ずつある。 硬質の文章(清水など)よりも、小説・随筆のほうに 38 形容詞が出やすい可能性がある。そ れを探るべく,高橋義孝(1913~1995)と小林信彦(1932~)の随筆を重点的に調査する。作品 は高橋が『おやじといたしましては』『穏健なペシミストの観想』『現代不作法読本』『こんな考 え方』『生々流転』『随筆 合切袋』『随筆 狸の念仏』『大名の酒盛り』『旅・酒・浮世』『旅路の 思い』『道徳の笑いと怒り』『若気のいたり年寄の冷や水』、小林が『週刊文春』に連載された『人 生は五十一』(1999) から『日本橋に生まれて』(2022) までの23 冊と『時代観察者の冒険』,『和 菓子屋の息子』である。「にやっかい」が『若気のいたり年寄の冷や水』に1例,「こづらにくい」 はないが、「つらにくい」が『道徳の笑いと怒り』に1例ある。高橋は東京人としては「三代目」 であると『大名の酒盛り』の中で述べ,自身は江戸から続く「東京原住民」「東京土人」「江戸っ 子」ではないとする。その高橋が江戸っ子の代表格に挙げるのが前述の吹田順助(譜代の幕臣) であり,東京人の語彙が豊富な女性としては「幸田文子さんの名を挙げぬわけにはゆかぬ」とし 「文子さんの会話と文章とは、専ら江戸の方言から成り立つている」と評する(高橋(1955、 pp. 57-58))。幸田と高橋は、ともに随筆の名手として知られた人物であるが、形容詞の使用に差 がある。戦前生まれの人が文筆家として活躍する戦後の昭和においても、それらの形容詞がたと えば「寒い」や「早い」のような形容詞ほどの一般性を持っていなかったことを想像させる。

小林の作品に38形容詞の用例はない(小林は江戸時代から続く日本橋の和菓子屋に生まれた)。ただし、貴重な指摘が「ざっかけない」について『和菓子屋の息子』(p.109)にある。小林は、宮部みゆき(1960~)が1993年の『小説新潮』47-5に載せたエッセーに「深川飯」について「きわめてざっかけない丼であります」と話す部分を取り上げ「池田弥三郎が大昔に頭をひねった言

葉を、若い女性が軽く使っているのだ」と驚きを述べたうえで、宮部氏に「ざっかけない」が残っているとすれば、それは「深川にはちゃんとしたコミュニティが存在すること、地方人の流入が比較的すくなかったこと、などによるのではないだろうか」(p. 115)と結論する。ここでは、宮部氏の現代物の作品のうち『刑事の子』『我らが隣人の犯罪』『火車』『理由』『模倣犯』を調査した。「いけずうずうしい」が『模倣犯』に1例あるのみである。意識的か無意識的かはともかくとして、両青木氏と同じような判断を宮部氏もしている可能性がある。ウチでは使うが、ソトには出さないとの判断である。これにより、作者から読者というルートでの語の継承がとぎれる。

#### 5. 質問紙とインタビューによる調査(調査 E)

一般の人が 38 形容詞を保持するか否かを調べる。山下好子氏(1939~, YA1 と略記)と山下洋子氏(1973~, YA2)は、親子関係にあり、ともに本郷の生まれ育ちである。錦織孔子氏(1936~, 芝, NI)、田中洋子氏(1955~, 築地, TA)、金子陽子氏(1973~, 池上、KA)、中川綺乃(あやの)氏(1998~, 小岩、NA)のうち、錦織氏、田中氏は、両親を含め東京旧市内(東京旧 15 区内)に生育した(前述の山下氏も同様)。金子氏は父親の代からの東京生まれ(母親は長野県出身)であり、同人は出版社に勤める。作家の絲山氏に近い環境(親は非東京、本人は東京の生まれ)の人物として協力を仰いだ。中川氏は、母方は同氏の母親から東京生まれであるが、父方は400 年か 500 年前から小岩に住み続けている」。以下の表に結果を示す。〇は本人が「日常的に使う」語、( 公は「周りの誰かが使う・使った」語、( ※は「知らない」語であることを示す。

表 38 形容詞に対する東京人の意識

	NI	YA1	TA	YA2	KA	NA
あたじけない	×	Δ	Δ	×	×	×
あだっぽい	Δ	Δ	0	0	0	×
あつかわ	×	×	×	×	Δ	×
あんき	×	×	0	×	×	×
いけずうずうしい	0	Δ	0	0	0	×
うすい	×	×	×	×	×	×
うすなまいき	×	×	Δ	×	×	×
うすみっともない	×	×	0	×	Δ	×
うとうとしい	×	×	Δ	×	0	×
えごい	Δ	×	×	×	×	×
おしづよい	Δ	×	0	×	Δ	×
おしぶとい	×	×	×	×	×	×
おとなしやか	Δ	0	0	×	0	×
がせい	×	×	Δ	×	×	×

<sup>&</sup>lt;sup>1</sup> 本稿の目的は東京弁そのものの推移を知ることではない。国語辞典に載る標準語の一部としての形容詞が現代語に生き残っているかどうかについて、特に受け継いでいる可能性の高いであろう東京出身者の使用例、使用意識を通して探ることが目的である。江戸・東京(の人)が偉いかどうかという話ではない。

きおもい	×	×	0	×	×	×
きぶっせい	×	×	0	×	Δ	×
けんだか	×	×	0	Δ	0	×
こじれったい	×	Δ	0	×	×	×
こづらにくい	Δ	×	0	Δ	Δ	×
こてい	×	×	0	×	×	×
こまかしい	×	×	×	×	Δ	×
ざっかけない	×	×	0	Δ	×	×
すいたらしい	×	0	0	Δ	×	×
てばしこい	×	×	0	×	×	×
ともしい	×	0	Δ	×	0	×
なさけらしい	×	×	0	×	×	×
にやっかい	×	Δ	0	Δ	×	×
ひとずくな	×	Δ	0	×	0	×
ぶいき	×	×	0	×	×	×
ふぎょうせき	×	×	Δ	Δ	0	×
ふせいとん	Δ	×	Δ	×	×	×
ふひょうばん	×	Δ	Δ	×	×	×
ほいない	×	×	0	Δ	Δ	×
めだたしい	×	×	×	×	×	×
めばしこい	Δ	×	0	×	Δ	×
めやすい	×	×	Δ	×	0	×
やにっこい	×	Δ	×	×	×	×
やぼくさい	Δ	×	0	×	Δ	×

YA1 も TA も歌舞伎に親しむなど東京人らしい言語生活を持つが、TA に保持する語の数が多いのは、同氏が築地に生まれ育ち、幸田文や沢村貞子と共通点が多いためである。なお、使う・使わないは、生活の中で使うことば(生活語)としてであり、役割語などとしての使用は除く。

## 6. 衰退する語の特徴

38 形容詞の衰退に関わる特徴を(2)に整理する。

- (2) a. 観念 (モノの捉え方, 考え方)
  - b. 語形
  - c. 語彙
  - d. 意味
  - e. 語感
- a について, 名詞には, 物も語も廃れる現象がある。形容詞であれば, 「そのように形容され

る実体」が廃れる場合が似た例である。「つましい」を大切にする世代(寿岳(1995))から見れば、「みんなが豊かになってしまった現代日本」(黒田(2017, p. 237))には、隔絶の感をいだき、「つましい」の実体がない。「つましい」は、分相応に質素である様子を意味し、「つましい生活」は必ずしも悪いことではない。「貧乏」とは異なる。

bについて。「えごい・えぐい」「ともしい・とぼしい」のように、複数から単一へと語形の整 理が生じた。固有名の場合、正式名(称)への志向が働き、旧に復することがある(例:ヤマテ セン→ヤマノテセン,オオシマ→オオジマ(江東区の大島)。一方,一般の語には、そのような 志向は働かずに単一化する。経済的ではある。「おとなしやか」「めやすい」は、「落ち着いてい る。年長者らしい」「感じがよい」という意味であり、語形の似る「おとなしい」「みやすい」と はいくぶん意味が異なる。消える必然性はなさそうであるが、語形の似る「おとなしい」「みや すい」との区別を身につける煩わしさから解放されるメリットが不使用者にはあるとも言える。 複数ある類義語のうち、少数・単数に限定するのが c である。例は「あたじけない→けち」「な さけらしい→親切、やさしい」(長→短)、「こまかしい→こまかい」「不評判→不評」(長→短、 語構成要素に共通性あり)などである(→は主に併用状態から一方の衰退に至ることを表す)。 「権高→傲慢」「小体→質素」は、長短に変わりがない。名詞の「あけたて→あけしめ」のよう に、要素から全体の意味が引き出しやすい透明な語が選ばれる現象もある。形容詞では「あだっ ぽい→色っぽい」「うとうとしい→よそよそしい」「手ばしこい→手早い,すばやい」「安気→気 楽」が該当する。「なさけらしい」や「好いたらしい→好ましい」は,「なさけ」「好いた」(好い +た)と「らしい」という、語構成要素どうしの関係が不透明で使いにくい。あるいは、語構成 要素に分けて考える必要性のある語よりも,全体として意味を理解すればよい単独語(めいた語) のほうが使いやすいという場合もある。「厚皮→厚かましい」「おしぶとい→ずうずうしい」など である。「押し強い→押しが強い」「人少な→人が少ない, 人手が足りない」など句の形への交代 は、語構成要素それぞれの意味は現代に生きていても、要素間の意味が不明確な場合かつ適当な 代わりの類義語も見つからない場合に生じる。

d の意味に関して衰退は、多義の形容詞に起こり、①多義の一部が衰退する、②形容詞そのものが衰退する、の二つに分かれる。①は「視力が悪い」の「薄い」が該当する。②の例には「がせい→勝ち気・勤勉」「やにっこい→やにが多い・しつこい」がある。

eについて。強調の「いけ」を含む「いけすかない」などは使用が衰えた(高橋ほか(1988, p. 123))。 東京人が好み(林(2014, p. 201)),「こうるさい」「こぎれい」「こにくらしい」などと使われた 「こ」も今は目立たない(沢村(1993, p. 179))。「こ」があれば「うるさい」というほど悪くな く,「きれい」というほど上等でもないというように、意味の微調整が可能なところが重宝され た。「ざっかけない」は、国語辞典では「荒々しく粗野である。ざっくばらんである」(『現代国 語例解辞典 第5版』)と記述されるが、悪い意味でばかり使うわけではない。「ネギとマグロそ れを略してネギマ。名前の響き通り、ざっかけない庶民の食べ物です」(『美味しんぼ』26, 1990) における「ざっかけない」は、言いかえるなら「飾らない」であるが、ウチの話をする上記のよ うな場面では、「粗野である」意を持つ「ざっかけない」のほうが謙遜した感じが出る。「粗野」 「ざっくばらん」では、「ざっかけない」の意味・用法はカバーし尽くせない。

#### 7. 語の衰退と人との関わり

幸田家のように、幸田露伴の時代つまり幕末・明治のころから、語彙の動きが小さいという場

合が一般的なら、上記のような衰退現象が広く起こることはなかったはずである。以下には、東京と人との歴史的な関係を考慮した形での「近現代の語彙の衰退モデル」を示す(テレビやインターネットの影響など戦後に生じた(人以外の)衰退要因は除く)<sup>2</sup>。

- (3) a. 江戸っ子が徳川以来(それ以前からのことばも含む)の語を使う。
  - b. ほかの地域の人が東京に移り住む (幕末・明治, 関東大震災以後, 戦災以後 etc.)。
  - c. 郷里のことばを出さないように努める(例:福島の「さすけない」(問題ない))。
  - d. 東京移住者およびその子孫が標準語の使用に努める。
  - e. c と d の調整の中で、すべての標準語の語彙を身につけることは困難となる3。
  - f. 通じない語の使用を江戸っ子が控えることにより、ソトへの広がりがない。
  - g. ウチ(家庭)でも使わないために(あるいは親子の仲が悪いなどの理由も), 江戸 っ子の家であっても、下の世代への継承がなされない。

以上を経て、一部の語彙は、再び日の目を見ることもなく、現代語の中から消えていくこととなる。消えるとまでいかずとも、わずかに江戸っ子の中に位相語の一種として残るにとどまる<sup>4</sup>。

#### 8. おわりに

本研究では、種々の資料を使い、形容詞に生じている衰退の実相を明らかにした。周辺的な言語・方言は、危機言語として、かろうじて残る昔ながらの言い方が丁寧に記述されるが、標準語の特に語彙について同様の記述が行われているか否か(語彙に関し、過度に標準語と東京語(弁)を分けることはしない。その区別は濃淡の差であり、機会に恵まれれば、標準語に語が入り込む可能性がほかよりも高い方言が東京語であると捉える)。わずかに江戸っ子が存命する今のうちに記述しなければ、語の意味は、辞書でわかっても、その語を使う(使っていた)人の実感はわからないままとなる(その語を使わない人が代わりに何を使うかなどもわからない)。本研究は、このような観点から標準語の語彙を捉え直すための試みの一つである。

## 参考文献

秋永一枝(2005)『東京弁辞典 再版』東京堂出版

池田弥三郎(1956)「久保田文学と下町ことば」『言語生活』61,pp. 16-25

黒田龍之助(2017)『その他の外国語エトセトラ』筑摩書房

沢村貞子(1993)『老いの楽しみ』岩波書店

寿岳章子(1995)「女性語の五十年」『日本語学』14-9, pp. 26-33

高橋義孝,柳家小さん,沢村貞子 (1988)「ほどのいいはなし 東京言葉今昔」『東京人』3-5, pp. 122-131

林えり子(2014)「幸田文の東京っ子ことば」『文芸別冊幸田文〈増補新版〉』河出書房新社, pp. 199-203

<sup>2</sup> モノが生活の中にあれば、それを指す名詞を覚える機会があるというように、一部の名詞は土地の人を介さずとも身につける可能性がある。その点は用言と異なる。品詞・語ごとの継承状況の調べを要する。 <sup>3</sup> 細かく言えば、ある人がそのことばを知らずに時が過ぎる場合と江戸っ子への反発から、語の存在に気がついてもあえて使わないという場合とに区分される。

4 必要がないから消えるという考え方があるが、それを言うには、要らない語とはどういう語かの論が要る。自分個人の知らない(使わない)語すなわち日本語として要らない語、ではない。

## 補助動詞として使われる「きる」の意味と結合制約

チョウク 張 栩(大阪大学大学院生)

#### 1.はじめに

現代日本語において、「きる」を後項動詞(V2)とする複合動詞には、(1)のような「物理的な切断」を表すものと、(2)のような「完了・完遂」の補助動詞」的な意味を表すものが見られる。

- (1) a. 彼女は糸を噛み切った。
  - b.\*彼女は糸を噛み切ったが、糸は切れていなかった。
- (2) a. 彼女は本を読みきった。
  - b. 彼女は本を読みきったが、本は切れていなかった。

補助動詞として使用される「きる」(以後、「きる」と表記する)は、物理的な切断を表す「切る」とは結合する前項動詞(V1)の種類が異なる。具体的に言えば、切断を意味する「切る」は、「噛む」など切断の手段を表す動詞と結合し、そうではない動詞とは結合しない。一方、補助動詞「きる」は、「読む」「使う」といった切断の手段を表さない動詞とも結合できる。しかし、(3)に示すように、切断の手段を表さない動詞がすべて「きる」と結合できるわけとは限らない。

(3) a. 読みきる、 使いきる、食べきる、数えきる、書ききる b.\*笑いきる、\*泣ききる、\*楽しみきる、\*撫できる、\*眠りきる

本研究は、「きる」の前項動詞 (V1) の表す事象にはどのような意味特徴があるのかを、言語学実験を通じて解明する。そのうえで語彙意味論の立場からの分析により、「きる」の意味特徴が語彙概念構造と特質構造から適切に説明できることを示す。具体的な研究課題は(4)に示す2つである。

- (4) a. 結合制約について: 「きる」はどのような意味特徴を持つ VP を補部に取るのか。
  - b. 意味構造について:「きる」は意味構造のレベルでどのように VP と合成するのか。

#### 2.先行研究と問題の所在

2.1「きる」の結合制約について

- (5) a. 防ぎきる、生かしきる、果たしきる、考えきる、走りきる、歩ききる、燃えきる
  - b. 枯れきる、静まりきる、乾ききる、疲れきる、冷えきる、忘れきる、緊張しきる

一姫野(1999:178-181)

姫野(1999)で、完遂の「きる」はその行為が行為者の予定どおり(量・質ともに)完全に行われることを表し、「作業量」とでも言うべきものを数値で表せる類の動詞にはほとんど結合できるというルールが提示されている。しかし、そのルールには1つの問題点が残っている。それは、(6)

<sup>&</sup>lt;sup>1</sup> 本発表における「補助動詞」という用語は、姫野(1998:121-122)と『複合動詞レキシコン』コーパスに従うものである。姫野(1998:121-122)によると、補助動詞には、動詞の「~て」形の後に付くものと、動詞の連用形に付くものがある。後者の場合、V1 のとる格助詞が複合動詞全体を支配する。『複合動詞レキシコン』によれば、複合動詞における補助動詞要素は、文字通りの意味が希薄になり、格関係もほとんど失われるものであることがわかる。

の容認度が低いことからわかるように、「作業量」を数値で表せる動詞でも、必ずしも「きる」と結合可能ではないということである。ここに「頑張って」を加え、(7)のように変更すると容認度が上がることから、「きる」と結合する動詞には、「作業量」を数値で表せること以外に、ほかの条件も必要だと考えられる。

- (6) a.\*太郎は一夜咳しきった。
  - b.\*太郎は一日怒鳴りきった。
- (7) a. 太郎は一夜頑張って咳しきった。
  - b. 太郎は一日頑張って怒鳴りきった。

また、日高(2016)は、漸次的対象をとらない(つまり、目的語に状態変化がない)活動動詞とは「~きる」は複合できない、という結合制約を提案し、「\*猫を撫できる」といった文で容認度が低くなる事実を説明している(「撫でる」行為によって「猫」が状態変化をすることはないからである)。しかし、これでは「長編小説を読みきる」のような文の容認度の高さを説明できないなど、この仮説には限界が存在する。「長編小説」は「読む」という行為によって状態変化を起こすわけではないため、事実に反して容認度が低くなるということにあってしまうためである。

日高(2022)では、この提案は次のように修正されている。まず、補部のイベントの時間的な属性によって、「きる」は3種類に分けられるとしている。タイプ1は、「1時間踊る」のような、一定の時間展開し、終了時点が定義されている活動を補部としてとる。タイプ2は、「2個のケーキを食べる」のような、最終時点が定義されており、継続的・断続的状態変化を伴うイベントを補部にとる。タイプ3は、「根性が腐りきる」のような、最終到達状態が定義されないイベントを補部としてとる。タイプ3は姫野(1999)の極限を表す「きる」に当たるので、本発表では扱わない。この分類を踏まえ、補助動詞「きる」の意味制約は(8)のようにまとめられている。

- (8) a. タイプ 1: 有界的ゴール(到達点や状態変化)を表す
  - b. タイプ2: そのゴールの前に一定時間の活動もしくは変化プロセスが存在する。
  - c. タイプ3: 最終到達点が本来定義されていないイベント。

この提案は日高(2016)の問題点を解決したが、説明できない現象も残されている。まず、タイプ1の例として挙げられる「(盆踊りを) 1時間踊りきる」は容認度が高い一方、「(盆踊りを) 1分間踊りきる」は容認度が下がるという現象である。この問題点を踏まえ、タイプ1における事象展開の時間はさらに具体化する必要があると考えている。次に、タイプ2の例における「2個のケーキ」を「10個のケーキ」に変えれば容認度が変わる現象である。つまり、「作業量」について詳しく規定する必要があると考える。

以上を踏まえ、補助動詞「きる」の結合制約に関する先行研究における問題の所在は(9)のようにまとめることができる。

(9) 「作業量」を数値で表せる動詞でも必ずしも「きる」と結合できるわけではないため、 ほかの結合制約を明らかにする必要がある。

## 2.2 補助動詞 V2 の意味構造

補助動詞を V2 とする複合動詞の意味合成に関するこれまでの研究では、補助動詞の持つ意味機能に注目した分析が行われてきた。代表的なものとしては由本(2005)と影山(2014)が挙げられる。

まず、由本(2005)は、「きる」と類似する完遂の意味を表す「つくす」について考察し、「つくす」は「目的語(が表す対象)が完全になくなる」という意味を V1 の表す事象に付加する機能や、「徹底的に」という様態の意味を V1 の表す事象に付加する機能を担うと指摘している(由本 2005:272)。この「完全に」「徹底ぶり」を LCS によって捉えるために、由本 (2005) は TUKUSU という新しい

意義素を提案した。例として、「奈緒美が手紙を焼き尽くす」という文における「焼き尽くす」の LCS を(10)のように表記している。

(10) 焼き尽くす: [TUKUSU[x CAUSE[BECOME[y BE[AT[BURNED]]]]]]

また、影山(2014) は、補助動詞の中でも語彙的アスペクトを表すものについて考察した。影山はこのような複合動詞において、V2 が V1 全体にアスペクト概念を付け加えるという形で解釈すべきだと指摘し、その意味を(11)に示すように、V2 の意味が V1 の LCS 全体に付加しているという形で表記している。

(11) a.V1「降る」のLCS:事象e<sub>1</sub>

b.V2「しきる」の意味: INCESSANTLY(e)

c.V1+V2「降りしきる」全体の意味解釈: e<sub>1</sub>& INCESSANTLY(e<sub>1</sub>)

すなわち由本(2005)と影山(2014)は、両者とも補助動詞 V2 の意味を表記するために、語彙概念 構造レベルで「TUKUSU」「INCESSANTLY」のような新たな意味述語を作っている。しかしな がら、影山(2014)でも言及されているように、補助動詞 V2 が表す意味概念は極めて多様であり、 すべての補助動詞にそれ独自の意味述語を与えることができるかどうかが理論的な問題となる。 そこで本研究は、新しい基本意味述語を作らない前提のもとで、補助動詞 V2 の意味を適切に記 述することを目標とする。

## 3.「きる」の結合制約に関する考察

本研究では、姫野(1999)が提示している「「きる」は作業量が数値で表せる動詞とほとんど結合できる」という制約を認めた上で、それだけでは不完全であるという主張のもと、(12)に示す結合制約を加える。

- (12) 「きる」の補部イベント(以後「VP」で表す)は世間一般から見て困難な事象である。
- (12)を検証するために、以下 2 つの実験を行った。まず、作業の量的変化を利用した実験である。 (14)~(19)に示すように、「VP+きる」を含むa,b2 種類の刺激文を 24 組作成した。a 文はb 文より、作業量((14)~(19)では目的語の量あるいは時間)が遥かに多く、コンテクストにおける「太朗」に とって困難なことだと考えられる事象を含む。また、何らかの理由により量が少ない作業でも太郎 にとっては困難であると認識されることを避けるため、すべての刺激文に(13)に示すコンテクストを与えている。容認度は 7 段階で、日本語母語話者 20 名に判断してもらった。1 は「とても不自然」、7 は「とても自然」であるとインフォーマントに伝えた。結果、(14a)~(19a)の平均容認度はそれぞれ、3.1/4.4/4.7/4.8/5.1/5.3である。
- (13) コンテクスト: 太郎は体力も知能も一般レベルに達している健康な大人である。特に苦手とすることはない。
- (14) a.太郎は30個の茹で卵を作りきった。 b.\*太郎は1個の茹で卵を作りきった。
- (15) a 太郎 100 個の英単語を調べきった。 b.\*太郎は2個の英単語を調べきった。
- (16) a.太郎は100個の折り鶴を折りきった。 b.\*太郎は1個の折り鶴を折りきった。
- (17) a.太郎は100枚のシャツを洗いきった。b.\*太郎は1枚のシャツを洗いきった。
- (18) a.太郎は半年間のダイエットをやりきった。 b.\*太郎は1日間のダイエットをやりきった。
- (19) a.太郎は10万字の日記を書ききった。 b.\*太郎は50字の日記を書ききった。

24 組の刺激文において、22 組<sup>2</sup>では予想どおり、a の容認度が b の容認度を上回っていることが

 $<sup>^2</sup>$  (i)のような、a とb のどちらも容認度が 6.7 になるものや、(ii)のような、a が 6.6、b が 6.7 となり、b が a より上回っている例も 2 個存在する。

確認された。つまり、体力も知能も一般レベルに達している健康な大人が世間一般から見て困難でないことを完遂するような事象については、「VP+きる」で表すのは不適切であるといえる。この結果は、「補助動詞「きる」の補部イベントは世間一般から見て困難な事象である」という本研究の仮説を支持していると考える。

また、上述の仮説を検証するためのもう一つの実験は、「VP+きったんですよ」と相手が発話した場面において、どのような返事が適切かを利用するものである。類似する完遂の意味を表す「VP+終えたんですよ」を対照群とする。20 組の刺激文を日本語母語話者 20 人に容認度を判断してもらった結果、「VP+きったんですよ」が用いられる時、返事として、「へえ、大変だったんですね。」は「へえ、簡単だったんですね。」より、容認度が高いことが全 20 組において共通している。それに対して、対照群の「VP+終えたんですよ」の場面において、その 2 種類の返事はどちらも容認度が下がったうえ、「へえ、簡単だったんですね。」の方が容認度が相対的に高いケースも 20 組の中に 2 組ある。

場面	A さんの返事	容認度
(20) a.太郎は考えきったんですよ。	へえ、大変だったんですね。	5.86
b.太郎は考えきったんですよ。	*へえ、簡単だったんですね。	2.4
c.太郎は考え終えたんですよ。	*へえ、大変だったんですね。	2
d.?太郎は考え終えたんですよ。	?へえ、簡単だったんですね。	4
(21) a.太郎はピアノを弾ききったんですよ。	へえ、大変だったんですね。	6.17
b.*太郎はピアノを弾ききったんですよ。	*へえ、簡単だったんですね。	2.57
c.?太郎はピアノを弾き終えたんですよ。	?へえ、大変だったんですね。	4.8
d.*太郎はピアノを弾き終えたんですよ。	*へえ、簡単だったんですね。	1
(22) a.太郎は服を洗いきったんですよ。	へえ、大変だったんですね。	5.71
b.*太郎は服を洗いきったんですよ。	*へえ、簡単だったんですね。	2.8
c.*太郎は服を洗い終えたんですよ。	*へえ、大変だったんですね。	2.5
d.?太郎は服を洗い終えたんですよ。	?へえ、簡単だったんですね。	4

表1

この実験の結果から、「VP+きる」の意味には「補部イベントを完遂することは動作主にとって 大変で困難である」という要素が含まれていることがわかる。それゆえに、本研究の仮説が支持さ れていると考える。次節では、その結合制約は「きる」の意味構造においてどのように存在してい るのかを検討する。

## 4.「きる」の意味構造に関する検討

「きる」が VP の表す事象の作業量と関わっているという姫野(1999)の提案は、VP に関わる対象の消滅が含意されるという点ともつながりがある。すなわち、「きる」は「残存する対象物をなくす (VI=他動詞)」ないしは「残存する客体がなくなる (VI=自動詞)」という意味を含意する。(23a)を見てわかるように、「きる」を付けた場合とつけなかった場合で容認度に明確な差が存在する。ここから「VP+きる」は「残存する対象の完全な消滅」までをも意味するという点が確認でき、一般的に(23b)に示すコントラストが観察される。

<sup>(</sup>i) a.太郎は10杯のご飯を食べきった。b.太郎は1杯のご飯を食べきった。

<sup>(</sup>ii) a.太郎は300個の弁当を売りきった。 b.太郎は3個の弁当を売りきった。

(23) a.手元のお金を{使った/\*使いきった}が、まだ手元にお金が残っている。 b.○○を{V1 した/\*V1 きった}が、まだ○○が残っている。

もちろん、一見して(23b)の反例に見える用例も存在する。例えば、「(シャツを)洗いきる」「(論文を)書きる」などである。シャツを洗ってもシャツはなくならないし、論文を書くのはむしろ対象物を作成していると解釈するほうが自然に見える。しかし(24)~(25)に示すように、実際に洗われるのは「洗われていなかったシャツ」であり、書かれるのは「論文の書かれていなかった部分」である。このように文脈から補充された後の意味対象の残存が「~きる」の付加によって否定されているのである。

- (24) 手元の洗われていなかったシャツを{洗った/\*洗いきった}が、まだ手元に洗われていないシャツが残っている。
- (25) 論文の書かれていなかった部分を{書いた/\*書ききった}が、まだ書かれていない部分が残っている。

そこで本研究は、意味構造のレベルで「作業量」を取り込む際に、「作業量」を「残存する対象物 /客体」として捉える。

由本(2005)と影山(2014)に関する振り返りで見たように、語彙概念構造(LCS)だけで「きる」の意味を記述することは困難である。そこで、本研究は語彙概念構造(LCS)を組み込んだ特質構造というモデルを利用し、意味構造の記述を提案する。本研究で利用するモデルの捉え方は、基本的に由本(2014)に従うものである。例として、由本(2014)で提案された「つける」の意味構造を(26)に示す。

特質構造の	由本(2014)の捉え方
記載する情報	
構成役割	動詞のLCS
形式役割	結果および予測する結果
目的役割	含意する目的・機能
主体役割	結果事象を引き起こす原因およびその表現が成立するための前提

表 2.由本(2014)における「語彙概念構造を組み込んだ特質構造」の捉え方

(26) 「~つける」(由本 2014:132)

構成役割: [[x ACT ON y] CAUSE [y BECOME[y BE [AT-z]]]]

形式役割: at(e<sub>2</sub>,y,z) 目的役割: part\_of(y,z)

主体役割: put<manner> act(e1,x,y)

この捉え方を踏まえて、(27)のように補助動詞「きる」の意味構造の記述を提案する。第一に、作業量が明確に定まっているということが構成役割における[remaining y]によって表現され、(24)~(25)に示した残存対象の否定という意味はNOTBEATIN WORLD(伊藤・杉岡 2002:28)によって表現されている。第二に、V1 の事象が困難な作業でなければならないという結合制約は、主体役割において make effort で表現できる。

(27) 補助動詞「きる」の意味構造

構成役割: [[x ACT ON y] CAUSE [BECOME [STATE [remaining y] NOT BE AT IN WORLD]]] 主体役割: make effort act (e<sub>1</sub>,x)

「太郎はハンドクリームを使いきる」を例として、VPと「きる」の意味構造の合成を(29)のように示す。VPの構成役割は「きる」の構成役割の手段事象の位置に代入される。「きる」の主体役割はVPの主体役割に付加される。

(28) 「太郎(x)はハンドクリーム(y)を使う」の意味構造

構成役割: [x ACT ON y] 主体役割: use act(e<sub>1</sub>,x,y)

(29) 「太郎(x)はハンドクリーム(y)を使う」と「きる」の意味構造の合成

構成役割:

[v2[x ACT ON y] CAUSE [BECOME [STATE [remaining y] NOT BE AT IN WORLD]]] 代人 Lyl[x ACT ON y]

主体役割:

use  $act(e_1,x,y)$ & make effort  $act(e_1,x)$ 

このような表記は、LCS 上で新たな基本意味述語を設ける必要がないという点において、従来のLCS だけで記述するモデル(「尽くす」に意味述語「TSUKUSU」を設ける由本(2005)等)よりも効率がよいと考えられる。

#### 5. おわりに

先行研究で、「きる」の結合制約に関する提案が不十分であることと、伝統的な意味記述の手法が 補助動詞の意味記述に適合しないという2つの課題が残されている。本発表はこの2つの課題について考察し、以下2つの結論に至った。

<結論1>結合制約:「きる」は世間一般から見て困難でない事象と結合しにくい。

<結論 2>意味構造:「きる」の意味と結合制約は、語彙概念構造を組み込んだ特質構造という モデルを使って、新たな基本意味述語を設けないという前提のもとで適切に 記述できる。このモデルにおいて、補助動詞「きる」の構成役割(LCS)は [[x ACT ON y] CAUSE [BECOME [STATE [remaining y] NOT BE AT IN WORLD]]]となり、主体役割は make effort act (e<sub>1</sub>,x)となる。

上述の結論によって、先行研究の提案で説明できない現象に可能な説明を与えることができる。例えば、「?盆踊りを1分間踊りきった」の容認度が低いのは、「1分間踊る」が世間一般から見て困難な事象ではないことから説明できる。「\*赤ちゃんが2時間泣ききった」「\*面白い番組を見て2時間笑いきった」が言えないのも、「泣く」「笑う」と言った自然に起こる行為は困難度が欠いていることで説明できる。つまり、「きる」の意味構造における主体役割が要求する make effort\_act(e<sub>i</sub>,x)が満たされていないのであると考える。

本研究の理論的枠組みは、今回の研究対象から外した極限意の「きる」及び、アスペクトにかかわる他の補助動詞に対しても対象を広げていくことが可能で、それによりさらなる研究の発展が期待できるものと考える。

#### 参考文献

伊藤たかね・杉岡洋子 (2002) 『語の仕組みと語形成』 // 影山太郎 (2014) 「語彙的複合動詞の新体系―その理論的・応用的意味合い―」 // 姫野昌子 (1998) 「動詞の連用形に付く補助動詞及び複合動詞後項」 // 姫野昌子 (1999) 『複合動詞の構造と意味用法』 // 日高俊夫 (2016) 「複合動詞「V-切る」における意味合成」 // 日高俊夫 (2022) 「統語的複合動詞「V-切る」「V-切る」「V-均る」「V-均る」「V-均る」「V-均る」「が高いでは、文法化における比較に向けて」 // 由本陽子 (2005) 『複合動詞・派生動詞の意味と統語―モジュール形態論から見た日英語の動詞形成』 / 由本陽子 (2014) 「語彙的複合動詞の生産性と 2 つの動詞の意味関係」 // 国立国語研究所『複合動詞レキシコン』 (https://vvlexicon.ninjal.ac.jp/)

## 「名詞+で」句による文中成分に対する描写表現

難波 えみ(山口大学)\*

### 1. 背景

## 1.1 「名詞+で」句の意味

「名詞+で」句(以下、デ句)は、道具や場所をはじめいくつかの意味に分けられる。 『日本語文法事典』には、①動作・出来事の場所、②道具・手段、③材料、④原因、⑤ 範囲、⑥動作の主体、⑦主語や目的語の様態の7つの用法がある。この中で、「様態」 (または状態)は広く見られる分類の1つであり、森山(2004)は、様態の下位タイプ として次の例のように細分類している。

- (1) 森山(2004)の様態を表すデ句の下位分類
  - a. 夕ご飯は自分で作って食べます。(動作主の様態)
  - b. 夜おそいので、小さな音で音楽を聴きました。(被動作主の様態)
  - c. 時速 200 キロのスピードで走っています。(出来事・作用の様態)

また、通言語的な視点から見れば、様態のデ句は、(2)の斜体部分に対応する表現でもあり、この場合、描写述語とも呼ばれる。描写述語は、描写先の違いにより主語指向の描写述語と目的語指向の描写述語に分けられ、(Koizumi1994、松井・影山 2009、Shibagaki2013)前者は(1a)に、後者は(1b)に対応する。

- (2) a. The section manager said the words *sober*. (課長は<u>しらふで</u>その言葉を言った。) 【主語指向】
  - b. Hiroshi ate the chicken raw. (宏は鶏肉を生で食べた。)【目的語指向】

(松井・影山 2009:279)

主語や目的語を描写するデ句は、動作時に主語や目的語となる人やモノに付随する状態を述べるのに対し、様態のデ句は、<動きの勢い・強さ><動きの早さ><動きの質・様>(仁田 2002)を述べ、動きと直接結びつく。したがって、描写のデ句は、主語や目的語の詳細を述べることによって、間接的に出来事の細部を述べるといえ、出来事そのものの様子を直接述べる様態のデ句と描写の仕方が異なっている<sup>1</sup>。様態のデ句は、上述の仁田 (2002) の類型に分けられる一方で、描写のデ句については、主語や目的語の名詞に対しては何が述べられるのかは明らかではない。そこで、本発表では、主語や目的語に対する描写となっているデ句に焦点を当てる。

<sup>\*</sup> メールアドレス: e-namba@yamaguchi-u.ac.jp

本研究は JSPS 科研費 21K13016 の助成を受けたものです。

<sup>1</sup> 松井(2010)は、様態と描写は意味的に異なるものであると述べている。

#### 1.2 本発表の関心

描写のデ句は、デ句の位置により描写先が変化すること、主語指向と目的語指向で統語構造上の位置が異なることがわかっている(Koizumi1994、松井・影山2009)。(3)では、「上半身裸で」が主語と目的語の後ろにある場合には、主語・目的語両方の解釈が可能であるが、デ句が主語の前や主語と目的語の間に起こる場合には主語の描写となり、目的語の描写とはなりにくい。また、長谷部(2010)では、描写のデ句が動詞の意味や項構造と関わっていること、また、動詞によって容認されるデ句とそうでないデ句があることが指摘されている。主語の状態を表す名詞でも、(4ab)では文の容認度が異なるように、描写のデ句と動詞の組み合わせには、何らかの制約があることがわかる。しかし、長谷部(2010)では、デ句の意味的な細部については論じられていない<sup>2</sup>。

- (3) a. 警官 i は犯人 j を上半身裸で i/j 本署に連行した。
  - b. 上半身裸で i/\*i 警官 i は犯人 j を本署に連行した。
  - c. 警官iは上半身裸でi/\*j犯人jを本署に連行した。

(松井・影山 2009:280)

- (4) a. 花子は {??くたくたで/??ふらふらで} 踊った。
  - b. 次郎は{裸で/素手で/泥んこで/汗だくで} 踊った。

(長谷部 2010:243-244)

デ句の解釈は統語的な影響を受けること、また、動詞の意味によっては文が成立しないデ句があるものの、主語・目的語で起こりうるデ句の細部は明らかではない。また、上述の研究は、いずれも作例および内省に基づいた能動文の分析であり、主語と目的語間でデ句の違いは注目されてこなかった。さらに、主語・目的語は文法的な区別であり、文のタイプに左右されうる。例えば、(3a) を受身文にした(5) は、「上半身裸」は「犯人」に対する描写であるが、(3a) では目的語指向と解釈できる一方、(5) では主語指向となる。デ句の違いを考察するうえで、文のタイプに左右されない方法を選ぶ必要がある。したがって、本発表では、意味役割に基づきデ句を検討していく。

(5) 犯人;は警官に上半身裸で;本署に連行された。

#### 2. 目的

本発表の目的は、意味役割の視点からデ句による描写表現を考察することである。新聞コーパスに基づき、動作主・対象別に現れるデ句の違いを明らかにする。なお、本発表では、意味役割別のデ句の頻度および描写内容に着目し、考察を行う。

### 3. 方法

2020年の毎日新聞から動作主および対象を描写するデ句を収集した。Shibagaki (2013) を参考に、分析対象とするデ句に 2 つの基準を設けた。①デ句(X)が描写対象と叙述

<sup>&</sup>lt;sup>2</sup> 長谷部 (2010) は、主語の描写に限定し、正文となる場合のデ句と動詞のタイプ、および、 デ句が動詞の概念構造上にどのように説明できるかを論じている。

関係をなし([動作主/対象] はXだ)、②描写対象に対し名詞修飾が成立すること(Xの(な)[動作主/対象])である $^3$ 。動作主や対象が明示されていなくても、文脈から推測または復元可能なものも分析対象とした。

なお、描写対象が動作性名詞であるものが多数見られた(例:「<u>1 日に 3 軒のペース</u>で酪農家の<u>廃業</u>が続く」、「<u>改革は急ピッチで</u>進んだ」)。この場合、デ句は実質的に出来事の様態といえることから、動作性名詞に対する描写は分析対象から除いた。したがって、本発表でデ句の描写対象となる名詞は人・モノ名詞となる。

### 4. 結果

2020年の毎日新聞から、816例の動作主・対象に対する描写のデ句が得られた。表 1 は、意味役割別の頻度および全体に占める割合、デ句の異なり語数<sup>4</sup>である。

ガ格で表れる動作主に対する描写(①)は、全体の70.6%を占めた。一方、ガ格で表れる無意志動詞の主語や受身文の主語である対象(②)は、12.4%であった。ヲ格で表れる対象、すなわち、他動詞目的語に対する描写(③)は17.0%であった。同じガ格であっても、動作主と対象には顕著な差があることがわかる。また、対象に対する描写は、ガ格対象12.4%、ヲ格対象17.0%であり、格表示が異なっても大きな差は見られなかった。デ句は動作主・対象間で明確な偏りがあることがわかった。

	ガ格	ヲ格	
意味役割	①動作主	②対象	③対象
頻度(割合)	576 (70.6%)	101 (12.4%)	139 (17.0%)
異なり語数	140	46	52

表1 意味役割別のデ句の頻度

- (6) から(7) は、①から③の例である。表 2 に上位 10 語と頻度をまとめた。
- (6) ①動作主に対するデ句
  - a. (新人7選手は)30分ほどの道程を<u>笑顔で</u>楽しみ、「いい経験だった。リフレッシュできた」と話した。
  - b. 春日大社では藤の花のかんざしを着けたみこらがマスク姿で応対していた。
  - c. 滞在者は2週間余りの不自由な生活をさまざまな思いで振り返り、<u>ほっとした</u> 表情で家路についた。
- (7) ②対象(ガ格)に対するデ句

<sup>3</sup> Shibagaki (2013) は描写のデ句は名詞修飾の際に「-な」とならず、「-の」となると述べている。しかし、「現代書き言葉均衡コーパス」で例として「生な [名詞]」を検索したところ、16 例であるが用例が見つかった (生な人間、現地の生な情報など)。そのため、本発表では、名詞修飾が「-な」となるものも含んでいる。

 $<sup>^4</sup>$  デ句の異なり語数について、Simpson の多様度の指標を算出した。Simpson の多様度の指標は1 に近いほど多様であることを示す。①は0.96、②は0.95、③は0.96 であり、デ句の多様性については意味役割間で差異がないと思われる。

- a. 男性は心肺停止の状態で発見され、病院に搬送されたが死亡した。
- b. 祖母ら4人も間もなく遺体で見つかった。
- c. ここから築館宿に通じる街道の途中、<u>江戸時代に近い姿で</u>残る区間があると知り、1月中旬、同地に足を運んだ。
- (8) ③対象 (ヲ格) に対するデ句
  - a. その一つが、軽トラックに喫茶店の道具一式を詰め込み、被災地を巡ってコー ヒーを無料で提供しながら被災者の話を聞くボランティア活動だ。
  - b. 労働者らに衣類を寄付した人らへのお礼のため、西成署防犯コーナーが計 700 部を無償で配布している。
  - c. (議員が) IR 関連のシンポジウムの講演料名目で200万円を受領した。

		ガ	ヲ	格			
	①動作	作主	②太	     象	③対象		
	デ句	頻度	デ句	頻度	デ句	頻度	
1	笑顔	63	状態	15	無料	19	
2	姿	50	遺体	7	無償	10	
3	表情	39	姿	6	名目	10	
4	思い	33	連対	5	実名	7	
5	気持ち	30	価格	4	価格	5	
6	状態	25	水準	4	形	5	
7	口調	13	非公開	4	名義	5	
8	姿勢	13	形	4	格安	5	
9	様子	11	勢い	3	形式	4	
10	声	9	遅れ	3	安価	4	

表 2 上位 10 語と頻度

動作主・対象に分けると、「思い」「気持ち」といった心情を描写するものは対象のデ句には見られなかった。(9)でも、「新鮮な気持ちで」は「学生」の心情ではなく、「先生」の心情とのみ解釈できる。同様に、「無所属」(7例)「FW」(6例)「最年少」(5例)「フルタイム」(5例)といった立場や属性を表すデ句も対象解釈とはならない((10))。さらに、(11)の受身文(実例)では、「驚いたような、困ったような表情で」は、主語(対象)ではなく、受身文では任意成分となる動作主を描写している。以上から、心情(表情など心情を間接的に伝える名詞も含む)や立場・属性を表すデ句は動作主に特有であるといえる。

- (9) 先生は新鮮な気持ちで学生を迎えた。(作例)
- (10) 山田氏は無所属で田中氏を破った。(作例)(山田氏=無所属のみ)
- (11) 大学の専攻を答えると決まって、驚いたような、困ったような表情で聞かれる。

# 5. 考察

# 5.1 意味役割による描写のデ句の偏りについて

表 1 から、格表示に関わらず動作主・対象間でデ句の頻度に大きな偏りが見られた。 デ句で述べられるものは、動作主や対象に付随する情報である。頻度の偏りから、動作 主は、話し手の認識をより反映しやすい意味成分であると考えられる。

話し手の認識に基づく判断を反映する表現手段の一つに「~そうだ」がある。この形式の連用形「~そうに」は、(12) からわかるように、動作主に対する認識を表す場合には成立するものの、対象に対する認識としては、名詞修飾でないと成立しない。

- (12) a. 子どもたちが {楽しそうに/嬉しそうに} 絵を描く。
  - b. 田中さんが {\*古そうに/\*安そうに} 車を買う。
  - c. 田中さんが {古そうな/安そうな} 車を買う。

そして、ガ格以外の格で表される動作主に対しても、デ句や「~そうに」が起こりうる。

- (13)では、デ格の「みんな」、カラ格の「先生」は動作主といえる。ガ格でなくてもデ句による描写や「~そうだ」による話し手の認識を表す表現が起こることがわかる。一方で、同じデ格、カラ格であっても(14a)では「火事」は動作主ではなく原因の意味が強く、(14b)の「学校」は本の移動元である起点の意味が強いように思われる。この場合、デ句による描写も「~そうに」も成立しない。このことから、付随する情報の述べやすさという点では、動作主は他の意味成分より優位であると考えられる。したがって、動作主の描写対象としての優位性が動作主・対象間のデ句の頻度に表れていると言える。
  - (13) a. みんなで $_{動作主}$  {真顔で/楽しそうに} 歌をうたった。
    - b. 先生から動作主 {満面の笑みで/嬉しそうに} 学生に賞状を贈った。
  - (14) a. (花子は) 火事<sub>原因</sub>で {\*大規模で/\*恐ろしそうに} 家を焼いた。
    - b. 学校から<sub>概点</sub> {\*新築で/\*嬉しそうに} 公民館に本を寄贈した。

# 5.2 動作主に特有の描写のデ句について

心情(表情など心情を間接的に伝えるものも含む)、立場・属性を表すデ句は、動作主に特有のデ句と考えられる((15))。一方、これらのデ句は、(16)のように対象が主語となる状態動詞「いる」とも共起し、主語の持続的な状態を表すことができると考えられる。そこで、心情、立場・属性を表す名詞の持続性と動詞の組み合わせに着目する。

- (15) a. 監督が{必死の思いで/しかめっ面で}部員を指導する。(先生=必死の思い、しかめっ面のみ)
  - b. 住民がボランティアで訪問者を案内した。(住民=ボランティアのみ)
- (16) a. いつも [初心者の気持ちでいる] のはいいことだ。
  - b. (私は) [誰にでも親切なボランティアでい] たい。
  - c. [信頼される社長でい] られるよう、努めている。
  - d. 鈴木さんはいつも [笑顔でいる]。

描写のデ句が共起する出来事を表す動詞は、時間軸に沿って展開され、心情、立場・

属性が持つ持続的な意味と対立する。そして、日本語の一般的な句構造 [vp動作主 [v 対象 動詞]] (影山 1993、長谷川 1999) では、対象と動詞からなる句の外に動作主が起こる。動詞と構成素をなす対象は、継続や瞬間といった動詞の語彙的アスペクトの影響を大きく受けるため、心情、立場・属性のデ句で描写できないと考えられる。一方、動作主は、動詞とは構成素をなしていないため、動詞の語彙的アスペクトの影響が弱まる。その結果、心情、立場・属性といった持続性を含むデ句は動作主に対する描写が可能となると考えられる。心情、立場・属性を表すデ句は、動詞と同じ句内には起こらないため、(17) のような受身文でも、デ句は動作主を描写する解釈となると考えられる。

(17) すると「ありがとうございます」と、ホッとした表情で感謝されました。

# 6. 総括

本発表では、デ句で表れる描写表現について、動作主・対象の意味役割に分け、デ句の頻度と描写内容の差異を検討した。そして、以下の2つのことが観察された。

- ① 動作主と対象では、デ句による描写は動作主描写に大きく偏る。
- ② 心情や立場・属性を表すデ句は動作主にのみ見られる。

①については、動作主は、格表示を問わず、話し手の認識に基づく判断を表すことができる意味成分である。描写対象としての優位性があるため、動作主描写に偏りが見られると考えた。②については、心情や立場・属性を表すデ句は持続性を含みうる。動詞から隔てられた位置に起こる動作主に対して、動詞の語彙的アスペクトの影響が弱まるため、持続性を持ちうるデ句が起こると考えた。

# 参考文献

影山太郎(1993)『文法と語形成』ひつじ書房.

Koizumi, Masatoshi. 1994. Secondary Predicates. *Journal of East Asian Linguistics*. Vol. 3, No. 1: 25-79.

Shibagaki, Ryosuke. 2013. *Analysing Secondary Predication in East Asian Languages*. Cambridge Scholars Publishing.

仁田義雄(2002)『副詞的表現の諸相』くろしお出版.

日本語文法学会(編)(2014)『日本語文法事典』大修館書店.

長谷川信子(1999)『生成日本語学入門』大修館書店.

長谷部郁子 (2010)「日本語の描写的二次述語と語彙概念構造のクローン形成」影山太郎 (編)『レキシコンフォーラム』5: 243-265.

松井夏津紀・影山太郎 (2009)「副詞と二次述語」影山太郎 (編)『日英対照形容詞・副詞の意味と構文』大修館書店: 260-292.

松井夏津紀(2010)「日本語の描写述語とその周辺」影山太郎(編)『レキシコンフォーラム』5:219-241.

森山新(2008)『認知言語学から見た日本語格助詞の意味構造と習得』ひつじ書房.

# 日本語自然発話における「か」疑問文の文末イントネーションとその機能

<sup>ホウ トウ</sup> 彭 涛(東北大学大学院生)

# 1. はじめに

日本語の「か」疑問文の文末イントネーションは文の意味と関連がある。例えば、次の(1)は疑問の意を持ち、文末が上昇する。それに対して、(2)は納得の意を持ち、文末が下降する。

(1)A: 僕は教員です。B: あ、えー、何の先生なんですか?(↑)

(2)A:もう就職決まっちゃったんですよ。B:あ、本当に?あ、もう就職、卒業ですか?( $\downarrow$ )

それでは、「か」疑問文の文末イントネーションにはどのようなものがあり、それぞれどのような機能を持つのだろうか。この 2 点については、これまで十分明らかになっているとは言いがたい。そこで、本発表は自然音声データに基づき、「か」疑問文の文末イントネーションの種類と機能について考察する。具体的には、BTSJ 日本語自然会話コーパスにおける「か」疑問文 $^1$ を取り出し、その音声を praat で分析する。文末「か」のピッチ曲線、上昇度合いなどに基づき、イントネーションの種類を判別する。そして、文の前後文脈を通してその文がどのような意味を持つかを分析し、イントネーションの機能を明らかにする。

#### 2. 先行研究

共通語の「か」疑問文のイントネーションに関わる研究として、稲垣他(1999)は非昇調で 発話されることの多い「か」疑問文を音声、機能、ディスコースの3つの側面で分析した。そ の結果、音声的特徴では、全体を速くひと息に発話する場合、ポーズを置かない場合に非昇が 多く表れ、コミュニケーション機能では、相槌、応答、確認、すすめ、さそいなどの典型的な 質問文ではないものに非昇が多く、ディスコースの面では、社交的な会話で非昇の傾向が高い ことを明らかにした。また、波多野他(2017)は終助詞や情報量と質問発話の句末音調との関 係について自然会話データをもって定量的に考察した。その結果、終助詞のない質問では上昇 調 1(連続的にどんどん高くなる音調)の割合が多く、終助詞のある質問では平調(平坦な高 さのままの音調)の割合が多いということ、情報要求度の高い質問で現れた「の・ん」「か」 は上昇調1と平調の割合が多い一方、情報要求度の低い質問で現れた「ね・よね」「な」 「か」は平調と上昇下降調の割合が多いということを明らかにした。そして、郡(2020)は終 助詞「か」がどのような意味用法の文でどのイントネーションを取るのかについて論じた。答 えを求める文に疑問型上昇調(上昇調1)、強調型上昇調(波多野他(2017)の「上昇調2」で、 末尾音節が直前に比べて一段高く平らに言おうとする音調)、平坦調(平調)と無音調(アク セントによる高さの変化をそのまま引き継ぐだけで、末尾音節独自の動きをしない音調)があ り、自信のなさを表すときや疑う気持ちを込める時は無音調、その時知ったことや心をほぼ決 めたことを言う時は上昇下降調、急下降調、無音調を取ると述べている。しかし、「か」疑問 文の文末イントネーションの種類について、上述のいずれも十分ではないと思われる<sup>2</sup>。例えば、

 $<sup>^1</sup>$  「か??」、「か??」、「かー?」、「かー??」を検索条件とし、「なか?」、「とか?」など終助詞「か」ではないものを除いて、「か」疑問文 1106 例を取り出した。そのうち、「か」のピッチ曲線が praat で表示されないものや対話相手の声が混ざって「か」の音声が単独に抽出できないものを除外し、残り 309 例を対象とした。また、「か・かー」の後ろに「、」と「。」のついた 1092 例も調べた。それらは納得を表す相槌「そうか。」や、相手発話を繰り返して納得を表す「9 時か。」、独り言「小学校か、」、引用節「しかも成績をつける先生にもよるけどね。どういうポイントで決めるのか。」のようなもので、疑問文とは言いにくく、しかもすべてが下降調であるため、除外した。

<sup>&</sup>lt;sup>2</sup> 今回の考察でピッチ曲線が上昇して下降するものもあったが、いずれも聴覚的には郡(2015、2020)の述べる上昇下降調には聞こえず、文の意味も上昇下降調のものと捉えにくいと思われる。そのため、これらは上昇下降調とは認められないように思われる。

図1のような下降して上昇するものも存在すると考えられるが、これの扱いについては言及されていない。また、イントネーションの機能を考察する際には、音声や機能、ディスコース(稲垣 1999)、情報度(波多野他 2017)、答えを求めるや疑い(郡 2020)などの点が着目されているが、それだけでは説明が不十分だと思われる。そこで、本発表ではBTSJ日本語自然会話コーパスを用いて、文の意味との関連という視点から、「か」疑問文の文末イントネーションの種類と機能について考察する。

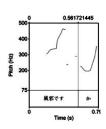


図1 下降上昇調

# 3. 文末「か」のイントネーション

それでは、「か」疑問文の文末にはどのようなイントネーションがあるだろうか。praat で「か」疑問文の文末「か」のピッチ曲線を抽出した結果、次の7種類に分けられた。

まずは図2のような型を「①急上昇調」と呼ぶ 文末「か」の F0 (基本周波数) 上昇度合い<sup>3</sup>が 4.00Hz/ms を超え、ピッチ曲線が急に上昇して いる。次に、図3のような型を「②平坦調」と呼 ぶ。文末「か」の F0 上昇度合いが 0-1.00Hz/ms で、ピッチ曲線が全体的に平坦である。その次に、

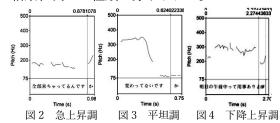
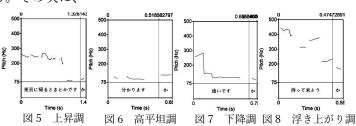


図4のような型を「③下降上昇調」と呼ぶ。文末「か」のピッチ曲線が全体的に下降してから上昇している。また、図5のような型を「④上昇調」と呼ぶ。文末「か」のF0の上昇度合いが1.00-4.00Hz



/ms で、ピッチ曲線が全体的に緩やかに上昇している。そして、図6のような型を「⑤高平坦調 $^4$ 」と呼ぶ。文末「か」がアクセント上昇のように直前より一段高く発音されている。それから、図7のような型を「⑥下降調」と呼ぶ。文末「か」のピッチ曲線が単に下降している。最後に、図8のような型を「⑦浮き上がり調 $^5$ 」と呼ぶ。文末「か」の直前音節にはもともとアクセントの下り目があるが、その下がり目をなくした上、平らにするあるいは上昇するものをここでは「浮き上がり調」とする。

# 4. 文末イントネーションの機能

### 4.1 急上昇調(43例)

(3)A:あー、たまっていって、あの、割ってましたね、それ、作って。 B:作って割るんですか?

(4)A:女性って大体、大手企業だと男性対女性で8対2とか9対1とかじゃないですか? B:あ、そんなに違うんですか?あ、本当に?そっか。

(5)A:(出版の方というと) だけど、値踏みはされますね。 B:値踏み?え、**どういう意味ですか?** 

(3)では、話し手はせっかく作った陶芸を割るということを想定していなかったため、(4)では話し手は就職において男女差が「8対2とか9対1とか」というほど大きいと知らなかったため、(5)では話し手は「出版の方」と「値踏み」にどのような関連があるのか理解できていな

<sup>3</sup> 上昇度合いとは 1ms ごとに F0 が増加した数値である。上昇度合い(Hz/ms) =F0 増加量(Hz) /上昇持続時間(ms)

 $<sup>^4</sup>$  波多野他(2017)での上昇調 2、郡(2015)での強調型上昇調にあたり、ここでは「高平坦調」と呼ぶことにする。

<sup>5</sup>郡(2015、2020)では「浮き上がり調」と呼ぶため、これに従い、「浮き上がり調」と呼ぶことにする。

いため、直前発話を受け入れられず、その発話の真偽や内容に疑問を持ち、聞き手に問いかけている。(3)~(5)のような例(27 例)は「直前の相手発話・情報を受け入れられないため、その真偽や発話内容に疑問があり、聞き手に問いかける」という点で共通している。そのため、「か」疑問文における急上昇調の機能は「直前の相手発話・情報を受け入れられないため、その真偽や発話内容に疑問を持って問いかける」と考えられる。なお、次の(6)のような例も見られた。

(6)B:あ、そうなんですか。なんか前回も留学生違う人のお手伝いをしてて(中略)そう、10人で、なんかそのときは、こういうふうに##時間になって(うんうん)やってて。

A:あ、そうなんですか? (うん) へえー。 B:え、今何年生ですか?

(6)では聞き手の学年について疑問が生じ、下線部で問いかけている。このような例(16例)は「答えに疑問があり、それを問いかける」という上昇調の意味となる。これは 4.4 節で述べる。

# 4.2 平坦調(43例)

- (7)A:あの一、一応、ま、この前ま、大学、すぐ、ま、まだ今年2年目なんで、まだなかなか B:そうですか? A:うまくはいってない部分が多々ありますけど… B:**えそうですか?**
- (8)A:なんかやっぱり、生成文法ってその、なんだろう、やっぱり実例見るんじゃなくて(中略)どん どん頭で用例作っていくと B:まあ、そういうことでしょうね。(中略)<u>じゃ、どういうよう</u> な用例、どういうふうに用例を集めてらっしゃるんですか?

(7)では「うまく行っていない部分が多々ある」に対し、話し手は必ずしもそのようには思えず、その真偽に疑問を持ち、一旦受け入れながら聞き手に問いかけている。(8)では話し手は聞き手の説明する生成文法研究での用例の扱い方に疑問が生じ、聞き手の説明が今まで自分の認識と食い違うところがあるため、情報を受け入れながら整理しつつ聞いていると思われる。(7)(8)のような例(39例)は「既存情報を受け入れつつあり、相手発話の真偽や答えに疑問があって問いかける」点で共通している。このことから、「か」疑問文における平坦調の機能は「既存情報を受け入れつつあり、相手発話の真偽や答えに疑問があって問いかける」であると考えられる。なお、次の(9)のような上昇調の意味となる例(4例)もあるが、これは4.4節で述べる。

(9)B:辞書のデザイン、は、… (中略) でもう、書店に並んでるんですけど、それが、うん。 A:はー、すごいなあ。 B:< $\xi$ い>え**今、何を教えられてるんですか?** 

# 4.3 下降上昇調 (57 例)

- (10)B:実はお願いがあって電話したんです。月曜日のね、朝9時から国語、国立国語研究所というと ころにね、言語調査に関する実験に、**私の代わりに参加なんかできますか?**
- (11)A:それで、それをなんか私だけ急に行けなくなっちゃって、明日の9時朝9時からなんだけど、私の友達と「B あだ名」で…行ってもらいたい…。 B:ごめんなさい、私明日バイトなんですよ。 (中略)ごめんね、うん。ありがとうございます。えっ、風邪ですか?
- (12)A:ここの大学の教官です。

B:え、ここの、じゃ、あの、ぶ、分、分校っていうんですか? ていうか、ここの大学の?

(10)は話し手が先輩に対して依頼を気軽に言い出せず躊躇いながら問いかけ、(11)は話し手が先輩からの依頼を断った後、何か話す必要があると思い、「風邪を引いたためなのか?」とまたその依頼に関して聞いていいかと躊躇いながら聞き、(12)では「ここの教官」を相手に、「分校ですか」と聞くのはやや失礼な言い方になりがちなので、相手への配慮から気軽に聞けず躊躇いながら聞いていると思われる。このように、(10)~(12)のような例(45 例)は話し手が「答えに疑問があり、しかし気軽に聞けないため躊躇いながらその答えを求める」点で共通している。このことから、「か」疑問文文末の下降上昇調の機能は「答えに疑問があり、気軽

に聞けなくて躊躇いながら問いかける | と考えられる。

なお、次の(13)は、下降して上昇するピッチ曲線を示すが、意味的には平坦調のものである。 これは、図9のピッチ曲線からもわかるように、文末「か」が下降段と上昇段ともピッチの変 化(下降度合いが 1.02Hz/ms で、上昇度合いが 1.21Hz/ms である)が小さく、下降段と上昇段

の持続時間(4ms と 6ms)も近いため、下降上昇を持つが、音 響的に平坦調に近く、意味も平坦調の意味になったと言えよう

B:あ、そう (13)A:ほんとにだんだんにきび大放出してきてー。 なんですかー?え、でもすごい今肌きれいじゃないですか。 また、音響的に上昇調に近い(下降・上昇度合いが 1.61・

図 9 Time (s)

8.68Hz/ms) ため、上昇調の意味となる下降上昇調の例もある。次の(14)である。

(14)A:強いて言えばなんかゼミ、が、あるんですけど、それがまあちょっと、ゼミ活動があるかなー、 B: ~ー。なんの、なんのゼミですか? かなっていう感じなんですけどー。

#### 4.4 上昇調(55例)

(15)B:台湾の留学生が他にも日本語教育専修コースいて、で、私も"ちょっと台湾で教えようかな"っ て言ったらすごく喜んで、"来て来て"って言ってくれたんですけど。

A:いや、ほんとに、うん。B:どうなんですか?あっちでネイティブの教師って多いんですか?

(16)A:カナダ、私ね、高校の時カナダ行ったんですけど。B:あっほんとに?どこ行ったんですか?

(15)では話し手は台湾で日本語を教える意思があり、台湾でのネイティブ教師の現状に疑問 があり、聞き手に問いかけている。(16)では話し手は聞き手がカナダのどこに行ったかについ て疑問が生じ、その情報を求めている。(15)(16)のような例は「答えに疑問があり、それを問 いかける」点で共通している。このことから、「か」疑問文の文末上昇調の機能は「答えに疑 問があり、それを問いかける」と考えられる。

そして、急上昇調と平坦調には上昇調と同じ、「答えに疑問があり、それを問いかける」意 味のものがある。ここに再掲する。

(17)A:あ、そうなんですか?へえ。 B:え、**今何年生ですか?**(急上昇調) (6)再掲

(18)A:はー、すごいなあ。 B:え**今、何を教えられてるんですか?**(平坦調) (9)再掲

(19)A:だから(はい)、最初からここらへんに住んで通う人とかいていろいろちょっと大変でしたね。 しかもラッシュで重なっちゃうから。だから、半年だけそこに残ってる人もいるし。大変みたい。 B:あー、<u>出身はどちらですか?</u> (上昇調)

(17)、(18)、(19)はそれぞれ急上昇調、平坦調、上昇調の例で、いずれも話し手が答えに疑 問があり、聞き手に問いかけている。前節ですでに述べたように、急上昇調の機能は「直前の 相手発話・情報を受け入れられないため、その真偽や発話内容に疑問を持って問いかける | で、 平坦調の機能は「既存情報を受け入れつつあり、相手発話の真偽や答えに疑問があって問いか ける」で、いずれも「疑問があり、それを問いかける」機能が含まれる。それに対し、上昇調 は「答えに疑問があり、それを問いかける」のみとなる。そのため、「疑問があり、それを問 いかける」文の無標のイントネーションは上昇調である。その上で、「直前発話・情報を受け 入れられない|場合は急上昇調、「既存情報を受け入れつつある|場合は平坦調を取ると考え られるのであるが、急上昇調と平坦調には「疑問があり、それを問いかける」機能も含むため、 上昇調と同様の機能で使うこともあると考えられる。さらに、下降上昇調も加え、ここまでみ てきた4種類のイントネーションはすべて話し手の疑問が感じられる。

#### 4.5 高平坦調 (18 例)

(20)A:は一、変わったお名前ですね。漢字はどんなふうに書くんですか? B:えと、「地名 1」の「漢字 1」、<u>分かりますか?</u>東京の。あの草冠に「漢字 2」って書く。 (21)B:今は何をしていらっしゃるんですか?お仕事とか。

(20)では話し手は自分の名前の漢字の書き方を説明するために、東京のある地名を提示して聞き手に問いかけている。ここで話し手は、相手は多分その漢字がわかるだろうと思い、一応聞くだけで、聞き手の答えの内容にそれほど執着しておらず、話題を展開することが目的であると考えられる。(21)は初対面の二人で、雑談を始めたところであり、話し手は聞き手に関わる情報に特に疑問があるのではなく、ひと先ず話題を始めようと、聞き手に問いかける形で新話題を開始したと思われる。このように、(20)(21)のような文は、問いかける形で話題を展開する点で共通している。そのため、高平坦調の機能は「問いかける形で、話題を展開する」と考えられる。

#### 4.6 下降調(89例)

- (22)A:もう就職決まっちゃったんですよ。B:あ、本当に?あ、もう就職、あの一、卒業ですか?
- (23)A:もう試験前には、頭いい友達に、教えてもらって、みたいな、感じでしたね。

B:いや、そう、分かる子がいるのって、ありがたくないですか?やっぱ。

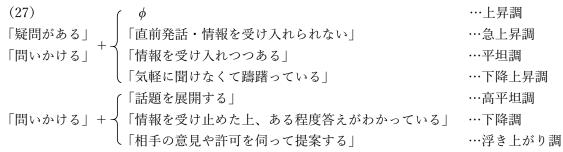
- (22)では話し手は相手発話「もう就職決まっちゃった」を受け入れた上で、「もう卒業です」と言う事実に対しての疑問は薄いが、一応自分の理解が正しいかどうかを問いかけている。(23)では話し手は相手発話を理解して受け止め、下線部で相手の発話に合わせている。また、自分の質問に聞き手はYESと答えてくるだろうとある程度確信を持っており、疑問があまり感じられないと言えよう。(22)(23)のような例(82例)は「ある程度答えが分かりつつ、情報を受け止めた上問いかける」点と「疑問があまり感じられない」点で共通している。このことから、「か」疑問文における下降調の機能は「情報を受け止めた上、ある程度答えが分かりつつ問いかける」と考えられる。なお、次の(24)のようなものも下降調で実現されている。
  - (24)B:えー、ここで、バイトしてるっていうのは、た、あれ短期のバイト? A:あー、そうです。確かえー、1カ月、あ、2カ月ぐらいか(えー)、なんかそんぐらいのやつで、やってますね、今。 B:どんな感じですか?どんな感じで、まあ言ーえる感じ、範囲で
- (24)では話し手は聞き手の短期アルバイトに関する感想に疑問を持ち、その情報を聞き手に聞いている。これは下降調のうち、「疑問があり、それを問いかける」もの(7 例)である。ただ、これは同じ話題における 2 回目か 3 回目の疑問文であり、このようなものについては稲垣他(1999)が「社交的な会話で非昇の傾向が高く、次々とたたみかけて問いを発すると詰問調になるため会話を和らげる心理が働いている」と指摘しているものと考えられる。

#### 4.7 浮き上がり調(4例)

- (25) B:あっ、なんかさ、あの、<u>「語科名」科のメーリングリストに回そうか?</u> A:うわー、いいね。興味ある人いそうだよね。
- (26)A:じゃちょっと、走って来て喉渇いたからまずオレンジジュース。 B:うんうんうんうん。<u>じゃ、呼ぼうか?</u> A:うん。
- (25)で話し手は、聞き手の依頼に応えられず、その依頼を「「語科名」科のメーリングリストに回すのはどうでしょうか」と提案する。その提案を受けるかどうか判断するのは聞き手に委ねている。(26)では、注文が決まって、「店員さんを呼ぼうか」と提案し、聞き手の判断を求めている。(25)(26)から分かるように、聞き手に提案するとき、相手の意見や許可を伺う発話は浮き上がり調になる。そして、これらの提案表現では、話し手は疑問があると言うわけではなく、聞き手の意見を確かめているだけではないかと思われる。上述のことから、浮き上がり調の機能は「問いかける形で聞き手の意見や許可を伺って提案する」と考えられる。

#### 5. 考察

以上のように見ると、上昇調・急上昇調・平坦調・下降上昇調のイントネーションの場合は、いずれも疑問があり、それを問いかけるという機能がある。これに対して、高平坦調・浮き上がり調・下降調の場合には問いかけるという機能はあるが、必ずしも疑問があるとはいえない。この点で、7種のイントネーションは大きく二つのタイプに分けられる。また、さらに前者においては、急上昇調にはさらに「直前発話・情報を受け入れられない」という機能、平坦調には「情報を受け入れつつある」という機能、下降上昇調には「気軽に聞けなくて躊躇っている」という機能が加わっている。また、このタイプの中の上昇調は、それに付け加わる機能は特になく、「疑問を持ち、それを問いかける」という機能のみを持つと考えられる。一方、後者においては、問いかけるという機能に、高平坦調では「話題を展開する」、下降調では「情報を受け止めた上、ある程度答えがわかっている」、浮き上がり調では「相手の意見や許可を伺って提案する」という機能が加わっている。それをまとめて示せばつぎのようになる。



ただし、急上昇調、平坦調は付加的な機能が現れず、上昇調と同様の機能で実現することもある。また、音声的に平坦調や上昇調に近い下降上昇調はそれに対応する意味を持つようになる。なお、本発表では便宜的に 4.00Hz/ms を超えるものを急上昇調としたが、どれくらいの上昇で急上昇となるのかは個人によって違うため、急上昇調に上昇調のものが混在しているという可能性もある。今回観察した急上昇調における非典型例の発話者は全て女性で、女性は男性の約1.8 倍上昇させる傾向にある(大浜ら 1999)という指摘があるように、女性の上昇度合いがより大きい可能性がある。この点についてはさらなる調査をする必要があると思われる。

#### 6. 終わりに

本発表では「か」疑問文を取り上げ、文末イントネーションの種類と機能について考察した。 結果は上述の(27)の通りである。しかし、当該イントネーションの機能が発揮できていない 例文がいくつかある。これらについて検討するためには、インフォーマントによる音声調査を 行うなどして更なる考察をする必要があると考えられる。

調査資料 宇佐美まゆみ監修(2022)『BTSJ1000 人日本語自然会話コーパス』、科研基盤研究(A)「語用論的分析のための日本語 1000 人自然会話コーパスの構築とその多角的研究」(研究代表者:宇佐美まゆみ)及び、国立国語研究所、機関拠点型基幹研究プロジェクト「日本語学習者のコミュニケーションの多角的解明」(2016~2021)

参考文献 稲垣滋子・佐藤由紀子・鈴木庸子(1999)「『しんにほんごのきそ』1の「か文」文末イントネーション一共 通語話者の上昇調・非昇調についての聴覚的印象から一」『ICU 日本語教育研究センター紀要』国際基督教大学日本語 教育研究センター、pp.1-21/大浜るい子・長岡順子・山中康子(1999)「松山方言話者による疑問文末詞「か」のイントネーションー『しんにほんごのきそ I 』における会話文読み上げ資料の分析一」『日本語教育の交差点で 今田滋子 先生退官記念論文集』溪水社、pp.14-25/郡史郎(2015)「日本語の疑問型上昇調と強調型上昇調の音声的特徴について ―聴取実験による検討―」『大阪大学言語文化学』大阪大学言語文化学会、pp.33-46/郡史郎(2020)「話しことばの「末尾のイントネーション」」『日本語のイントネーションーしくみと音読・朗読への応用』大修館書店、pp.135-186/波多野博顕・石井カルロス寿憲(2017)「日本語自然対話に現れる質問発話の句末音調」『音声研究』、pp.1-11

# 終助詞による命令文の意味の規定 一福井県嶺北東部方言における共通語「ヨ」相当終助詞の分布\*一

# 東京大学大学院総合文化研究科 福田建(Fukuda Takeshi)

#### 1. はじめに

相手に対して何かをするよう要求することは、日常的なやりとりの中で頻繁に見られる行為である。そのときに用いられる言語表現は様々だが、代表的なものとして活用語の命令形を用いた命令文が挙げられる。命令文に後続する終助詞として、日本語共通語では終助詞「ヨ」が代表的だが、「ヨ」以外の複数の終助詞を付加することのできる方言変種も存在する。本稿では、福井県嶺北東部方言を対象に、共通語の終助詞「ヨ」に相当する形態について、命令文及び禁止文での現れを見る。後述するように、共通語「ヨ」は命令文の類型を考える上で大きな役割を果たす。本稿での分析を通じて、終助詞による命令文や禁止文の意味の指定を記述することを目指す。

#### 2. 命令表現について

命令表現一般に対して言語類型論の立場から接近した Aikhenvald (2017) は、言語形式としての命令 (imperative) が、行為としての指図 (command) と必ずしも対応しないことを指摘している (Aikhenvald 2017: 2)。日本語の活用語の命令形を分析した北崎 (2016) は、行為要求表現が満たすべき条件として、1.話し手は聞き手による遂行が自明でない行為の遂行を望ましく思っている、2.行為を遂行する能力を持つ聞き手が存在する、3.未実現の行為は遂行に聞き手の意志が影響するものである、という三点を挙げ、これらを全て充足した場合を命令形の中心的用法、何らかの逸脱を含むものを命令形の周辺的用法として規定している (北崎 2016: 153)。命令形の中心的用法は、Aikhenvald (2017) に即せば、命令という言語形式によって指図という行為を達成している場合とも言えるだろう。

しかしながら、命令形の中心的用法の中にも、下位分類を見出すことができる。井上(1993)は、聞き手が実行すべき動作の内容とその実行のタイミングを話し手が提示することを命令文<sup>ii</sup>の機能としている(井上 1993: 338)。その上で、現在動作実行のタイミングにあるか否かを示すタイミング考慮・非考慮(井上 1993: 339)と、話し手側の提示した命令と矛盾する事態の存否を示す矛盾考慮・非考慮(井上 1993: 343)を基準に命令文を区分する<sup>iii</sup>。

<sup>\*</sup>本発表は、東京大学大学院総合文化研究科令和5年度春学期授業「一般言語理論II」で行った発表「命令表現に後接する方言終助詞:福井県嶺北東部方言を例に」を元にしたものである。調査にご協力いただいた方に感謝申し上げるとともに、授業担当教員としてご指導いただいた渡邊淳也先生と、授業内でコメントをしてくださった受講生の皆さん、そして、草稿にお目通しいただいた川瀬卓先生と小西いずみ先生に御礼申し上げたい。私のあらゆる成果物は、YとTちゃんに捧げられている。

「動作実行のタイミングが明示されない(談話的な省略も想定されない)命令文は、タイミング考慮の解釈を受ける」(井上 1993: 342)とある通り、実際に発話された命令文の解釈はタイミング考慮に偏る。動詞命令形一語のみで構成された(1)は、特別な文脈を伴わず発された場合、発話時点以外で行為を要求するものとは考えづらい。発話時点以外で行為を要求するには、(3)のように、行為を行う時点を明示するといったような文脈の補完が求められるiv。一方、(1)は、命令と矛盾した事態の有無については何の含意もない。矛盾考慮の(2)も、矛盾非考慮の(3)も、その指定の際には等しく文脈を求める。

(1) 渡せ。

[タイミング・矛盾共に無指定]

(2) 文句を言わずに早く渡せ。

「タイミング考慮/矛盾考慮]

(3) 明日忘れずに渡せ。

「タイミング非考慮/矛盾非考慮]

命令表現におけるタイミング考慮と矛盾考慮の有無について、前者については文脈によって判断されるが、後者については、日本語の複数の方言変種で、終助詞の付加による指定が確認されている。ただし、具体的な指定のあり方は方言ごとに異なり、表 1 のように、、異なる終助詞の付与による場合と、同一形態の終助詞の音調の違いによる場合がある。

指定の方法	方言変種	出典	矛盾考慮	矛盾非考慮
異なる終助詞	富山県砺波方言	井上 (1995)		「ヤ」
同じ終助詞における	日本語共通語	井上(1993)	平坦調の	上昇調の
異なる音調	口本韶共旭韶		[a]	[ョ]
同じ終助詞における	<b>宣知明</b> 4. 化七号	母語話者である	平坦調の	上昇調の
異なる音調	高知県土佐方言	筆者の内省	「ヤ」「ヨ」	「ョ」

表 1. 日本語諸方言の命令表現における矛盾考慮・非考慮の指定のあり方

本稿で対象とする福井県嶺北東部方言は、福井県の方言が木ノ芽山嶺を境に南北に分かれるなかで、北部にあたる嶺北方言使用地域の東部で話されている。福井県の方言を記述したものとしては加藤他(2023)が最新のものだが、用例の提示にとどまっており、意味・用法についての記述があまり見られない。

福井県嶺北南部方言の使用地域とされている福井県鯖江市の方言については、今尾 (2003) が命令表現に関する体系的な記述を行っている。命令表現に後続可能な終助詞「ヤ」と「マ」について、「マ」は「禁止 (未然防止)」と「許可・許容」には使えない (今尾 2003: Ch.3)。また、終助詞の音調について、「禁止 (未然防止)」と「禁止 (続行阻止)」はそれぞれ上昇調と平坦調がそれぞれ対応するが、「マ」は平坦調しかとれない (今尾 2003: 8-9)。

# 3. 研究上の問いと調査手法

前節では、命令表現におけるタイミングと矛盾の指定について、前者は語句やイントネーションといった言語的な標示に依らず文脈から判断されるのに対して、後者は終助詞を用

いた区別が可能であることを見た。こうした指定のあり方は他の日本語変種においても共 通して見られるものだろうか。これが本稿における研究上の問いである。

本稿では、日本語の一変種である福井県嶺北東部方言を対象に、当該方言母語話者一名に対して行った面接式質問調査を元に、命令文と禁止文に後続する終助詞についての分析を行う。対象とする命令文と禁止文は次の通り定める。命令文は、子音語幹動詞では-e で終わる形式、母音語幹動詞では-ro で終わる形式(いわゆる命令形)が文末の述部に来る文で、行為を要求するのに用いられるものである。禁止文は、-u ないし-ru で終わる形式(いわゆる終止形)に禁止の接尾辞「ナ」を付加したものが文末の述部に来る文で、行為を制止するのに用いられるものである。動詞連用形や尊敬表現を用いた命令表現は、対象には含めない。

調査は 2023 年の 6 月と 7 月にそれぞれ対面とオンラインで一度ずつ行われ、平叙文や疑問文を含めた「ヨ」を含む共通語の様々な文例について母方言での言い換えをお願いした上で、自発的には用いられなかった形式や音調について確認を行った。調査の際は、調査対象者の同意を得た上で録音・録画を行った。調査対象者は両親とも福井県勝山市出身で、本人の居住歴は、出生時から 2006 年まで福井県福井市、2006 年から 2021 年まで福井県勝山市、2021 年以降東京都世田谷区となっている。調査時年齢は 22 歳である。

# 4. 調査の結果

命令文と禁止文について、まずは同一の文が異なる文脈で用いられる場合について尋ね、使用可能な終助詞に違いがあるか確認した。その後、井上 (1993) の分類に基づいた四つの例文を提示し、使用可能な終助詞を聞いた。提示した共通語の文例を表 2 と表 3 に、調査対象者による回答を表 4 に示す"。

	タイミング	矛盾	文例
(4)	考慮	考慮	(勤務態度の悪い後輩に) ちゃんと働けよ↓。
(5)	非考慮	非考慮	(翌日から勤務を開始する後輩に)ちゃんと働けよ↑。
(6)	考慮	考慮	(夜更かしをしている相手に)おい、いい加減ゲームやめろよ↓。
(7)	非考慮	考慮	(書類の提出を遅らせようとしている相手に) 明日のうちに出せよ↓。
(8)	考慮	非考慮	(相手に対する説明の冒頭で)いいか、説明するからよく聞けよ↑。
(9)	非考慮	非考慮	(仕事を終えた相手に)お疲れ様、帰ったらゆっくり休めよ↑。

表 2. 提示した共通語の文例(命令文)

表 3. 提示した共通語の文例 (禁止文)

	タイミング	矛盾	文例
(10)	考慮	考慮	(勤務態度の悪い後輩に)迷惑かけるなよ↓。
(11)	非考慮	非考慮	(翌日から勤務を開始する後輩に)迷惑かけるなよ↑。
(12)	考慮	考慮	(会議で寝ている相手に)おい、大事な話しているんだから寝るなよ↓。
(13)	非考慮	考慮	(不良の多い高校に進学を考えている相手に)あんな所行くなよ↓。
(14)	考慮	非考慮	(割れ物の入った箱を持つ相手に)その荷物、絶対落とすなよ↑。
(15)	非考慮	非考慮	(明日遠足に行く相手に)明日忘れ物するなよ↑。

禁止文 タイミング 矛盾 命令文 ッテ ヤ 考慮 考慮 (4) (10) $\downarrow$ 非考慮 非考慮 (5)1 ? (11)1  $\times$  $\times$ X 考慮 考慮 (6)  $\downarrow$  $\downarrow$ (12) $\downarrow$  $\downarrow$  $\downarrow$ X 非考慮 (7) $\downarrow$ (13) $\downarrow$ 考慮 考慮 非考慮 (8) 1  $\times$  $\times$ (14)1 X  $\times$ 非考慮 非考慮 (9) $\times$ (15) $\times$  $\times$ 

表 4. 福井県嶺北東部方言話者の回答

表4を見ると、矛盾の別については、終助詞によらず、矛盾考慮の場合は平坦調、矛盾非 考慮の場合は上昇調という、音調による相補分布が見られる。タイミングの別については、 表4からは一見規則的な分布は見られない。以下、個々の終助詞について結果を分析する。

「ヤ」はいずれの例文でも用いることができ、矛盾考慮・非考慮に応じて平坦調・上昇調の両方を取ることができる。また、禁止文でのみ用いられる「ッテ」は、矛盾考慮の文例でのみ使用が確認されたが、いずれも平坦調で出現している。「ヤ」も「ッテ」も、タイミングの別によらず、上昇調でも平坦調でも使用可能となっている。

「マ」については、調査の中で調査対象者から「タイミング考慮かつ矛盾考慮の場合に限定して用いられる」との指摘があった。その他の終助詞ではタイミングの別に関する指定がない以上、タイミング考慮の指定は「マ」の語彙的意味に由来するものと考えるべきである。一方、表4の結果は、(5)と(13)において、調査対象者の指摘と異なる振る舞いをしている。このうち、(13)については、字義通りに解せば、「行く」こと自体は発話時点よりも後の将来における行為だが、相手がその選択をすることを発話時点で禁じているとみなすこともでき、その場合はタイミング考慮の解釈になる(小西いずみ氏の指摘による)viiことを背景に、「マ」の使用が容認されたと考えられる。

(5)について、第1回調査では自発的な使用が認められなかったが、第2回調査で筆者から使用が可能か確認したところ、上昇調で用いることができるとの回答を得た。これは先述の調査対象者の指摘と一貫しない回答であり、「マ」に関して調査で得られた情報からは解釈できない現れである。しかし、「マ」がその他の例では平坦調でしか出現しないのに対して、(5)では上昇調で出現すると回答されている点は興味深い。このことから、矛盾の別と終助詞の音調との結びつきが強く意識されていることが分かるviii。

#### 5. まとめ

調査の結果から、福井県嶺北東部方言について、命令文及び禁止文における終助詞の現れを次のようにまとめることができる。タイミングの別については、特定の終助詞(「マ」)の持つ語彙的意味によって指定されることはあるものの、命令文及び禁止文に接続する終助詞全体に共通する標示のあり方は存在せず、文脈によって指定される。ただし、「マ」によるタイミングの指定は、特定の条件下での解除可能性が示唆される。矛盾の別については、全ての終助詞で、矛盾考慮と平坦調、矛盾非考慮と上昇調がそれぞれ対応している。この結

果は、福井県嶺北東部方言について、3節で提示した研究上の問いを肯定するものである。 福井県嶺北東部方言での終助詞の分布は、分析の枠組みこそ異なるが、今尾(2003)による福井県嶺北南部方言の記述と共通したものである。一方で、井上(1995)の分析した富山県砺波方言の記述とは振る舞いが異なっている。近接した地域で対立のあり方に異同が見られることから、命令文及び禁止文におけるタイミングと矛盾の標示のあり方を解明する上で、北陸周辺地域の日本語諸方言を対照的に分析することの重要性が示唆される。

共通語においては、動詞の命令形に接続できる終助詞は基本的に「ヨ」のみであり、かつ「ヨ」は平叙文や疑問文といった複数の文型に付加できるため、命令文において規定される矛盾考慮・非考慮という分類の言語的な区別が、「ヨ」に特有のものであるのか、終助詞一般に見られるのかが明らかでない。しかし、福井県嶺北東部方言においては、命令文・禁止文に限定して用いられる終助詞が複数あり、その現れを観察することによって、矛盾考慮・非考慮の区別が終助詞一般に生じることが分かる。このことは、共通語における上昇調の「ヨ」と平坦調の「ヨ」が、同音異義語として存在するわけではなく、語と音調との意味的な構成性の元に成立しているixことの傍証ともなる。日本語共通語の言語体系を精緻化していく上でも、また、日本語の通方言的な特徴を明らかにする上でも、地域言語変種への眼差しは、多くを明らかにしてくれるだろう。

# [付録]

本稿では分析の対象としなかったが、調査で得られた回答には、子音語幹動詞の-i で終わる形式、母音語幹動詞の-i ないし-e で終わる形式(いわゆる連用形)に、「ネン」と終助詞を付加した命令表現(仮に「ネン命令」と称する)があった。今尾(2003)では、活用語の連用形に「ネ」のついた命令表現が記述されており、尊敬語助動詞の「ナサル」を用いた命令表現「ナサイ」の転化であるとされている。調査対象者によるネン命令を用いた回答を表Aに示す。なお、「マ」を用いたネン命令では撥音を選択的に脱落させることができるが、調査対象者からの回答でより多く見られた、撥音の脱落した形式で代表させる。

No. 19 INC. N. ISCHOOLEHING THE T. S. I. S					
文例	タイミング	矛盾	P	7	
(4)	考慮	考慮	働きねんや↓	働きねま↓	
(5)	非考慮	非考慮	働きねんや↑	×	
(6)	考慮	考慮	やめねんや↓	やめねま↓	
(7)	非考慮	考慮	出しねんや↓	×	
(8)	考慮	非考慮	×	×	
(9)	非考慮	非考慮	休みねんや↑	×	

表 A. 福井県嶺北東部方言話者のネン命令を用いた回答

# [注]

i共通語で用いられる終助詞については田野村(2002: 144)を参照。なお、田野村(2002: 144)で示されている終助詞「イ」も「行けい」「走れい」のように命令形に後続できるが、現在一般的に使用されている

とは言い難い。

¨井上(1993)では「テ」「テクダサイ」という形式による文を命令文として扱っているが(井上 1993:335)、その分析は動詞の命令形による命令文にも適用できる。

※ ただし、次のような過去の行為に対するタイミング非考慮の文は、未実現の事態に対するものではないため、命令形の中心的用法からは外れる(北崎 2016: 158)。

(i) ちゃんと昨日のうちにレポートを出してくださいよ。

(井上 1993: 349 改)

iv ただし、(1)の形式自体はタイミング考慮・非考慮に依らず使用することができるため、タイミング考慮の解釈への偏りは、その時点で文を発することによる語用論的な推論によって生じており、動詞の命令形自体が持つ意味としてはタイミングも矛盾も共に無指定だと考えられる(小西いずみ氏の指摘による)。実際、(ii)においては、補助動詞の持つ相的な性質によって、タイミング非考慮の解釈が優勢になる。

(ii) 片付けておけ。(obs. #今すぐ片付けておけ。)

[タイミング・矛盾共に無指定]

\*表にある高知県土佐方言とは、高知県の中心部から東部にかけて話される方言である(吉田 1998: 428)。また、執筆者の居住歴は、一年未満の滞在を除いて次の通りである。高知県高知市(99-06 年)/高知県土佐清水市(06-09 年)/高知県高知市(09-18 年)/東京都三鷹市(18-22 年)/東京都杉並区(22-23 年) \*\*表 2-4 では、上昇調と平坦調を表す記号としてそれぞれ「↑」と「↓」を用いる。また、例文にいずれかの音調での記述しか存在しない場合は、その例文において当該終助詞をその音調以外で用いることが語用的に容認されないことを表す。表 4 で、「×」はその終助詞を当該例文において使用することが語用的に容認されないことを表す。さらに、「?」は、二回の調査において異なる判断がなされたことを表す。

\*\*\* 禁止文は特定の行為を行わない状態を維持するよう求めるものであり、命令文に比べてタイミングの別が明確でなくなる場合がある。例えば、(14)は、発話時点のみならず、そこから一定の時間(荷物を運び終わるまで)に渡る禁止となっている(小西いずみ氏の指摘による)。

viii 調査対象者が若年層であることから、共通語「ヨ」の振る舞いに影響を受けている可能性もある(川瀬卓氏の指摘による)。関連して、共通語「ヨ」を言い換えるという調査の形式による影響も考えられる。 i×共通語の終助詞「ヨ」の意味における、語の持つ意味と音調の持つ意味の構成性については、Davis (2009) が動的意味論の枠組みを用いて分析している。

#### [参考文献]

井上優(1993)「発話における「タイミング考慮」と「矛盾考慮」:命令文・依頼文を例に」『国立国語研究所研究報告集』14, pp.333-360./井上優(1995)「方言終助詞の意味分析:富山県砺波方言の「ヤ/マ」「チャ/ワ」」『国立国語研究所研究報告集』16, pp.161-184./今尾ゆき子(2003)「福井県鯖江市方言における命令表現の形式」『福井大学教育地域科学部紀要第1部人文科学(国語学・国文学・中国学編)』54, pp.1-12./加藤和夫・他(2023)『福井県の方言:ふるさとのことば再発見』岩田書院./北崎勇帆(2016)「現代語体系を中心とする活用語命令形の用法の再整理」『日本語学論集』12, pp.143-167./田野村忠温(2002)「『のだ』の意味と用法」和泉書院./轟木靖子(2008)「東京語の終助詞の音調と機能の対応について:内省による考察」『音声言語』6, pp.5-28./吉田則夫(1998)「高知県の方言」日野資純・飯豊毅一・佐藤亮一(編)『中国・四国地方の方言』国書刊行会, pp.425-449./Aikhenvald, Alexandra Y. (2017). Imperatives and commands: A cross-linguistic view. Aikenvald, Alexandra Y. & Dixon, R. M. W. (eds.) Commands: A cross-linguistic typology, pp.1-45, Oxford University Press./Davis, Christopher. (2007). Decisions, dynamics and the Japanese particle yo. Journal of Semantics 26, pp.329-366.

# 「要するに」の使用実態と用法の分析 ―『日本語日常会話コーパス』を用いて―

李 琦 (一橋大学大学院生)

#### 1. はじめに

接続表現の「要するに」は、論理的な飛躍が大きく主観的で論理に欠ける場合があるため、使用には注意が必要な表現であることが指摘されている(石黒 2016)。本発表は、このようなリスクのある「要するに」が、話し言葉においてどのように使用されているのかを明らかにすることを目的としたものである。

「要するに」は従来、「前件をまとめるため」「簡潔に示すため」に使われるとされてきたが(石黒(2001),日本語記述文法研究会編(2009)など),実際の発話では後件が前件より冗長であることがあり,前件のまとめにつながらない状況での使用が観察された。以下の例 1-1 は従来から指摘されている用法で、例 1-2 はそれとは異なる用法である。

例 1-1 [行けない理由をあれこれ挙げる夫に妻が] <u>要するに</u>行きたくないってことね。 (日本語記述文法研究会編(2009:130))

例 1-2 【宿泊施設の部屋で配偶者・息子・友人と雑談】

N10A\_三上 あれはレベルによって違うんですか?

ICO3 夫 うん。難易度っつってたけど。

N10A\_三上 あ。そうなんだ。

ICO3\_夫 難易度とあと所要時間も違うんだって。

N10A\_三上 ふーん。

ICO3\_夫 二人で行くコースは えっと <u>要するに</u>一番難易度が高いって言われているコースで。

N10A\_三上 アドベンチャーとは。おー。楽しそうじゃん。

(CEJC,  $K002 \ 015^1$ )

例 1-2 は雑談の一部であり、話題となっているのは、「フォレストアドベンチャー・箱根」という施設のコースについてである。この文脈で用いられた「要するに」は、先行文脈を総括する役割ではなく、むしろ、一時的な言葉の探索中に「えっと」というフィラーに続いて、自分が本当に言いたいことをすぐに捻り出せないときに使われている。この使用法は、「要するに」を用いることで、先行文脈には現れない自分の言いたいことを端的に述べる予告をしていると考えられる。例 1-2 のような「要するに」は、先行文脈をまとめる機能を持たないと考えられる。

接続表現は書き言葉では前件と後件の間に位置するが,話し言葉では前件と後件が必ずし

<sup>&</sup>lt;sup>1</sup> 本例を含め、例としての読みやすさのため、CEJC からの引用文において文字化テキストの表記 法を一部改変した。

も明らかに提示されているとは限らないということが確認できた。本発表は、例 1-2 のような「前件をまとめるため」「簡潔に示すため」という従来の役割を失い、他の役割を持つようになった接続表現「要するに」が、話し言葉においてどのような拡張的な役割として用いられているのかを明らかにすることを目的とする。

# 2. 本発表での「接続表現」定義,及び「要するに」の意味・機能に関わる研究

接続表現の分類と呼び方は研究者により異なっている。本発表では、品詞論的議論を避け、より広い範囲で議論するために、「接続詞」ではなく、「接続表現」という用語を用いる。本発表での「接続表現」の定義は石黒(2016)で「接続詞」と呼ばれているものを採用する。

石黒(2016)は接続表現を大きく四種十類に分けている。具体的には「論理の接続詞<sup>2</sup>」「整理の接続詞<sup>3</sup>」「理解の接続詞<sup>4</sup>」「展開の接続詞<sup>5</sup>」の 4 つのタイプと、「順接」「逆接」「並列」「対比」「列挙」「換言」「例示」「補足」「転換」「結論」の 10 類に分けられている。接続表現「要するに」は「理解の接続詞」の下位分類である「換言」に分類されている。「換言」の接続表現は、前件で述べたことを後件で内容をできるだけ保持しつつ、表現を受け取り手にわかりやすくするように言い換えるものであると述べている。しかし、「要するに」の場合は前件と後件の内容の違いが大きく、加工の度合いが大きいという特徴があると指摘している。例 2-1 は石黒(2016)による用例であり、下線は稿者が施したものである。

例 2-1 英語を学ぶには、映画を見たり音楽を聞いたりし、そのセリフや歌詞を口ずさむの が効果的です。ようするに、英語を耳と口で覚えることです。

(石黒(2016:87))

石黒(2016)の指摘のように、「要するに」は加工の程度が大きい場合は、前件と後件が一見、同じ内容には見えないが、よく見ると同等の内容になるものが入るという特徴を持っている。ただし、論理的な飛躍が起きて、論理の破綻を招きやすいため、使用には注意が必要だとも述べられている。

# 3. 調査データの概要と調査方法

本発表では、話し言葉の「要するに」の使用実態と用法を調査するために、『日本語日常会話コーパス』 (Corpus of Everyday Japanese Conversation, CEJC) を用いた。

CEJC は、日常場面の中で当事者たち自身の動機や目的によって自然に生じる会話を対象とすること、多様な場面の会話をバランスよく集めること、音声だけでなく映像まで含め

 $<sup>^2</sup>$  「論理の接続詞」は、「 $P\rightarrow Q(P \text{ ならば } Q)$ 」という条件関係をベースにしたものであり、論理の接続詞があると、因果関係が明確になり、文章の流れが論理的になる(石黒 2016:18)。

<sup>&</sup>lt;sup>3</sup>「整理の接続詞」は、同類のものを並べる加算関係をベースにしたものであり、整理の接続詞があると、長くて複雑な内容も整理され、文章が読みやすくなる(石黒 2016:19)。

<sup>&</sup>lt;sup>4</sup> 「理解の接続詞」は,足りない情報を補う補充関係をベースにしたものであり,理解の接続詞があると,読み手の疑問が解消され,文章の理解が深まる(石黒 2016:19)。

<sup>&</sup>lt;sup>5</sup> 「展開の接続詞」は、話題の展閉をベースにしたものであり、展開の接続詞があると、局部的な理解にとらわれずに文脈が捉えられ、書き手の意図がつかめる(石黒 2016:19)。

て収録・公開し会話行動を総体的に解明するための研究環境を提供することを目指して小磯ら (2022) によって構築され,2022 年 3 月に完全公開されている。CEJC の規模は,会話数 577,異なり話者数 862 名,短単位の語数は約 240 万語となっている。

本発表では、CEJC データ配布サイトで配布されている『ひまわり』(Version1.0)という全文検索システムを使用し、長単位「要するに」を検索した。検索結果として、CEJC に収録された全体のデータの中に「要するに」は 307 件あることがわかった。また、307 件の「要するに」は 121 件の会話に出現し、使用していた異なり話者数は 86 名である。つまり、「要するに」は、全会話の内の 21%の会話に出現し、約 10%の話者が使ったということが確認できた。

母語話者の「要するに」の使用傾向を性別による相違の可能性も踏まえて検討するため、本発表ではCEJCの長単位の総語数を計算し、性別ごとの「要するに」の調整頻度を計算した。長単位の総語数を計算する際に、CEJCの短単位の語数表の算出方法に従い「歌」「伏せ字」「形態論情報付与対象外」「記号一一般」「記号-文字」「喃語」を除外したところ、長単位の総語数は2,183,362 語となった。「要するに」の出現数,及び調整頻度を男女別にまとめ、これを表1に示した。その結果、「要するに」の使用頻度は男性の方が女性よりも高く、男性の使用率は女性の4倍であることが分かった。

性別(sex)	総語数(sum)	出現数(n)	調整頻度(pmw)
女性	1, 184, 993	70	59. 1
男性	998, 369	237	237. 0

表 1 接続表現「要するに」の使用数・調整頻度

# 4. 多様な用法を持っている「要するに」

「要するに」が現れた会話の文字化された転記テキストと映像・音声データの両方を確認し、前後の文脈を理解した上で「要するに」の意味・用法を分析した。その結果、先行研究が指摘している通り、前件をまとめる用法が見られたが、それ以外の用法も多く存在する6ことが確認された。ここで分析した結果、キーワードになりそうな言葉を挙げると、「聞き手配慮」「具体化」「話者の再整理」である。

雑談では、人は話を事前に用意することができず、考えながら話す傾向があり、その際に話が相手に上手く伝わるか否かという心配が生ずることがある。そこで、自身の発話に対し、要点をまとめ分かりやすく聞き手に伝えようとする聞き手配慮が見られる。書き言葉でも、このような配慮はあるが、話し言葉と異なり、文を消したり、変えたりすることができるので、「要するに」のような換言するための接続表現の使い方は、話し言葉より形が固定しやすいと推察される。

日本語記述文法研究会編(2009)では、接続表現の「要するに」は前件をまとめる役割があるため、前件がある程度長いものでないと用いにくいと指摘されているが、話し言葉

-

<sup>&</sup>lt;sup>6</sup> 著者の分析によると,約 1/3 の用法が指摘されているものとは異なる使用実態が確認された。 ただし,これは著者の判断に基づくものであり,研究の精度をさらに向上させるためには,今後複数の日本語母語話者の意見を取り入れて判定する必要がある。

を観察してみると、これとは反対の使い方が確認された。

# 例 4-1 【職員室で同僚と国語科の指導内容について相談】

IC01\_槇原(中学高校の教員で国語を担当している)

どっちがいいと思う? あー <u>要するに</u>毎回の授業の一番最初に五分間やっていく 文章 やるってゆう方法と 週一回で 例えばその反復も含めて ちょっと難しいことじゃなくて ぎっちりやるのって。

(CEJC, T020\_007)

例 4-1 では、協力者 (IC01\_槇原) が同僚と国語科の指導内容について相談し、相手の意見を求めている際の対話例である。協力者と同僚との間で、古典文法の指導方法について話が行われている。授業の初めの 5 分や 10 分程度で復習に取り組む方法と、重複なく次へ次へと内容を進める方法、この二つのアプローチに関して話が進められている。このコンテキストを考慮に入れ、協力者が「どっちがいいと思う?」と質問した後、質問の内容が明確でない可能性を考慮し、「どっち」という表現に具体的な内容を追加して説明している。この場面での「要するに」は、前述の内容を補完するために用いられている。

聞き手に対する話者の配慮を実現するための手段としてはこのほかに、抽象的なものを 具体化するという状況も考えられる。このような状況で「要するに」が使用された例を、 例 4-2 に示す。

# 例 4-2 【塾で友人の息子に受験勉強についてアドバイス】

IC01\_根本(小中高生を対象とする個人指導の塾を自宅で経営している) IC02 由良(習い事などの生徒)

IC01 根本 そんな文句ゆわれないの?

ICO2\_由良 いや。ゆわれないっすよ。

IC01 根本 なんで文句ゆわれないの?みんな周りの人 文句ゆわれてる。

IC02\_由良 えー。

IC01\_根本 だからもう 早くこの世界から脱却したいってゆうさ。もう早くこの世界から 抜けたいってゆうかさ まあ<u>要するに</u>やくざみたいな社会に入っちゃったっ て感じでね。

IC02\_由良 あー。そう。

IC01\_根本 もうやーさんみたいな世界に入って もう ぼこぼこにされてるような毎日ってゆうの。

ICO2 由良 そう。

IC01\_根本 うん。だ 早くこの生活から 抜けたいってゆうわけよ。で この生活から抜けるってゆうことはどうしたら抜けられるかってゆうともう試験に受かるしか道ないわけね。

ICO2 由良 ちょっとすみません。

(CEJC, T018\_022)

例 4-2 では、協力者(IC01\_根本)が友人の息子(IC02\_由良)に、浪人生活は家に居づらく、周りからさまざまなことを言われ、非常に辛い環境だという自分の見てきた状況を前提として話している。このような大変な浪人生活から早く抜け出したいなら、その唯一の方法は試験に合格することだという考え方を伝えようとしている。そこで、「早くこの世界から脱却したい」の「この世界」がどのような世界なのかがわかりづらい点に配慮し、前件を言い換えて「すでに踏み入れたやくざみたいな社会」と具体化することで、聞き手がわかりやすくしていると考えられる。話者は「要するに」に続く後件の話し方が、聞き手にとって理解しやすいと判断したのであろう。

例 4-1 と例 4-2 とは,話し手が聞き手の立場に立ち,聞き手にわかりやすく伝えるという配慮が見られた例である。しかし,聞き手の立場に立つのではなく,自分が言いたいことをうまく言えないときや,言いたいことを忘れたりしてうまくまとめられないときに,「要するに」が挟み込まれた例もあった。このような例には,二つの種類がある。一つは,範囲を徐々に絞り込むことで自分が最も言いたいことにまで辿り付くといったものであり,例 4-3 がその例である。もう一つは,話したいことを忘れ,ほかの言い方がうまく言えないといったものであり,こちらは例 4-4 がそれに該当する。

例 4-3 【大学で上司・同僚・学生とイベント企画の打合せ】 ICO3\_佐伯(大学の教員, 芸術に関する活動に従事している)

ワークショップって <u>要するに</u>先生が ものを みんなにやり方を教える<u>ってゆうのは</u> スクールで ワークショップっ<u>つうのは</u> なんかわかんないけど集まってきた人たちが それぞれ情報を共有して なんかできてく<u>ってか</u> それぞれの問題を解決してく みたいな (CEJC, K007\_018)

例 4-3 では,話者(ICO3\_佐伯)が、ワークショップに関する解釈を打ち合わせに参加している聞き手に伝えようとした意図が観察される。はじめは,ひとことでうまく説明できず、「要するに」「ってゆうのは」「っつうのは」「ってか」といった言葉を通じて、少しずつ解釈を補いながら,最終的にワークショップについての説明を言い切ることができる様子が見て取れる。この場合は,話者が聞き手にわかりやすく説明するための配慮とも考えられるが,話をする中で,自分が持っている情報を他人に共有するための自己の考えの再整理だとも考えられる。

例 4-4 【自宅で配偶者・友人夫婦と飲みながら】 IC01\_健(会社員・役員・公務員・専門職) IC02\_淳(IC01\_健の友人知人・同級生)

IC01\_健 場所 どうゆうとこでやんの?。 (中略)

IC02\_淳 集会所みたいなとこがあってさ。

IC01\_健 うん うん。

IC02\_淳 まあ 要するに集会所だね? あすこね?。

IC01\_健 ふーん。

IC02\_淳 で そこいつも借りてんだけど。

(CEJC, S001\_006)

例 4-4 の前件と後件は、同じく「集会所」について述べられ、文中での「要するに」は、「集会所であるかどうか」を明確にするために使われている。前件は「集会所みたいなとこ」と、述べた場所の特性や性質を曖昧に表現しているのに対し、後件は「要するに集会所だね?」という形で、その場所が実際には「集会所」であるということを繰り返し述べる形になってしまっている。この「要するに」は話者が前件についてほかの言い方が見つけられず、元の言い方に戻ったことを示す用法である。

# 5. まとめと今後の課題

話し言葉における「要するに」にこのような多様な用法が見られる背景としては、「要するに」が言いたい要点を端的に表現するという機能を持つため、言語化された先行文脈を踏まえる必要性が薄く、その場で即興的に話を紡ぎ出せる話し言葉において、書き言葉より自由度の高い用法が許されるようになっているためだと考えられる。つまり、「要するに」の持つ機能は話し言葉との親和性が高く、発話の際には、限られた時間で自分の話の筋が通るように見せるために、実際の話の展開が論理的であるかどうかはともかく、論理性を高く見せられる「要するに」が選好されているのではないだろうか。

本発表では、書き言葉では先行文脈を踏まえて論理的に関係づける接続表現が、日常的な話し言葉に入ると本来の機能を失い、より広範な用法を獲得するようになる様子を「要するに」を例に観察した。こうした接続表現の接続機能の希薄化は、「だから」「つまり」「というか」などにも共通して見られる現象である。今後は、接続表現の接続という機能の希薄化が話し言葉で起きるメカニズムについて、こうした接続表現で共通するものなのか、異なるものなのか、個々の接続表現と向き合うことで明らかにすることを目指したい。

#### 参考文献

石黒圭(2001) 「換言を表す接続語について — 『すなわち』 『つまり』 『要するに』を中心に —」 『日本語教育』 110, pp. 32-41

石黒圭(2016)『書きたいことがすらすら書ける!「接続詞」の技術』実務教育出版

- 小磯花絵・天谷晴香・石本祐一・居關友里子・臼田泰如 柏野和佳子・川端良子・田中弥生・伝 康晴・西川賢哉・渡邊友香(2022)『日本語日常会話コーパス』ー設計・構築・特徴』国立 国語研究所「日常会話コーパス」プロジェクト報告書 6
- 小磯花絵・天谷晴香・居關友里子・臼田泰如・柏野和佳子・川端良子・田中弥生・伝康晴・西川賢哉・渡邊友香(2023) 「『日本語日常会話コーパス』設計と特徴」『国立国語研究所論集』 24, pp. 153-168
- 日本語記述文法研究会編(2009)『現代日本語文法 7 第 12 部談話 第 13 部待遇表現』くろし お出版

# 児童作文における学齢別の話の展開の仕方 一「学校生活・学校行事」についての作文を資料として—

かとうえり 加藤恵梨 (愛知教育大学)・角谷昌節 (愛知教育大学附属岡崎小学校)

#### 1 はじめに

作文を書くことによって、自分の行動や変容を客観視したり、他者に伝えたりすることが可能になる。学校教育において、作文は詳しく、いきいきと書くのが良いとされており、「作文は心の写真」と話す教師もいる。実際の現場においても、「いきいきと」をキーワードとし、そのときの状況や心情が具体的にわかるように書くよう、指導している。「しかし、子どもの行動や変容を客観視できる「学校生活・学校行事」についての作文を見ても、話の展開の仕方や内容は学齢によって異なっている。

そこで本研究では、愛知教育大学附属岡崎小学校で発行している児童文集「ひばり」<sup>2</sup>の70号 (2019年)~74 号 (2023年)に収録されている「学校生活・学校行事」についての作文<sup>3</sup>(1 年 70編、2年44編、3年46編、4年46編、5年75編、6年58編の計339編)を調査資料とし、学齢による話の展開の仕方や内容の違いを、児童の発達段階と突き合わせながら明らかにすることを目的とする。

# 2 先行研究の記述

安藤(2023: 88)は、行事の作文の基本の型は「①行事の前日の様子や気持ち」「②行事の当日、朝起きたときの様子や気持ち」「③学校や集合場所に着いたときの様子や気持ち」「④行事についての様子や気持ち」「⑤行事が終わってからの様子や気持ち」「⑥家に帰ってからの様子や気持ち」のように、出来事が起こった順に書くことであると述べている。なお、①~⑥のすべてについて触れる必要はないことも指摘している。4

<sup>「</sup>いきいきと書いてある作文の方が、後から見返したり、誰かに読んでもらうときに、そのときの様子を具体的に理解することが可能となる。なお、「いきいきとした作文」というのは、そのときの情景や心の描写が手に取るようにわかるとともに、作文の体裁もある程度整っている必要がある。それは、わかりやすさの面で考えたときに、どれだけ描写が詳しくても、読みにくい作文であったら、内容を理解することが困難になるからである。

<sup>&</sup>lt;sup>2</sup> 大正 | 3年 | 月に創刊された。「ひばり」の目的は、優秀な作品を発表するとともに、児童の綴り方や鑑賞の材料とすることである。「ひばり」は令和5年現在も継続し、作文教育の重要な役割を担っている。

<sup>3</sup> 愛知教育大学附属岡崎小学校では、生活日記を毎日書くように指導しており、学校生活や学校行事の作文は、その延長で書いている。学級によって異なる部分もあるが、日々の日記用紙に書く場合もあれば、オリジナルのワークシートに書く場合もある。ワークシートに書く場合はほとんどの場合、教員の朱記が入り、掲示される。書き方の指導としては、書き方自体に関することもさることながら、それ以前に、とにかく書き続けられるようにすることを大切にしている。朱記で子どもの思いに寄り添ったり、作文の内容を話題にして話したりすることで、「書いてよかった」という思いを育んでいる。

<sup>4</sup> 読者への印象を強めるために、書き出しに「ことば」や「内言」を書いたりすることもある。その場合には、必ずしも時系列で書かれるとは限らない。

#### 3 分析

安藤(2023)が挙げている行事の作文の基本の型をもとに、以下で児童作文を分析し、発達 段階に応じて、触れやすい部分と触れずに過ぎてしまう部分の違いなど、学齢別の特徴について明 らかにする。

# 3.1 低学年の特徴

まず、I年生は次の(I)や(2)のように、安藤(2023)の言う「④行事についての様子や気持ち」 しか書いていないものが多く見られるため、話が展開せず、文章も短い。

- (1) きょう、うんどうかいが ありました。ぼくたちは わくわくワンピースと アニマルイヤーと ぴょんぴょんバンドを つかって でんせつの 木を <u>ふっかつ させました</u>。<u>たのしかったで</u>す。でんせつの 木が ふっかつして うれしかったです。(1 年生、74 号)
- (2) きょうは、マラソン大かいを やりました。マラソンたいかいの コースの とちゅうの さかを こえた ところで うしろを むいたら、すこししか いなくて、みんなが おそくて ぼくは はやいんだって おもいました。そうしたら、ゴールへ ついたら 三十いだったから  $\overline{C}$ っくりしました。(1年生、72号)
- (1)や(2)のように、「きょう、○○がありました」といった文から始まり、行事の様子を述べ、それについて「ふっかつさせました」「たのしかったです」「うれしかったです」「びっくりしました」といった感情が記述されている。

一方、2年生は「④行事についての様子や気持ち」だけではなく、次の(3)のように、「⑤行事が終わってからの様子や気持ち」やそのように思った理由についてもふれたり、次の(4)のように、今後の目標を述べて文章が終わっているものも見られる。

- (3) わたしは、しそうよりも 四い 下がって しまいました。ですが、自分では、がんばったと 思って いるので、うれしかったです。 <u>おわってみて 思った こと、考えた ことは</u>、やっと おわったと 思って いる 子も いると思いますが、私は 一年生や 二年生で やった もみ じかけ足、しそう すべてより、せいちょうしたなと 思います。マラソン大会 ちょっと 前の とき、すごく きんちょうしたり はやい じゅんいじゃ なかったらと 思って いましたが、<u>がんばれば いい</u>と 思いました。すごく くやしかったですが、<u>がんばれて すっきりできて よかったです。(2年生、74号)</u>
- (3)では、本番の結果が試走よりも四位下がってしまったが、がんばったのでうれしかったという「④行事についての様子や気持ち」だけではなく、「おわってみて思ったこと、考えたことは」と述べているように、「がんばればいい」と思っていたので、「がんばれてすっきりできてよかったです」など、「⑤行事が終わってからの様子や気持ち」やそのように思った理由を中心として記述されている。
  - (4) ぼくは、マラソン大会で すごく がんばったと 思いました。なぜなら、九位に なったからです。九位に なれた 理由は、ともだちや、ペアの はるとくんが、いっぱい おうえんして くれたからです。ぼくは、みんな いっぱいおうえんして くれていて、すごく うれしかったです。その思いが ぼくを 九位に してくれたのでは ないかと 思いました。ゆうしょう

は できなかったけど ぼくの中では ゆうしょうしたんじゃないかなと、心の中で 思いました。じゅん位の 低い子も 高い子も みんな ゆうしょうしたんじゃ ないかなと 思いました。 これからも いろいろなことを がんばって いきたいです。(2年生、70号)

(4)では、マラソン大会で九位になれたことや、友だちが応援してくれてうれしかったことや、「みんなゆうしょうしたんじゃないかなと思いました」のように「④行事についての様子や気持ち」を説明し、 最後に「これからもいろいろなことをがんばっていきたいです」のように、今後の抱負を述べて文章を終えている。

以上のように、低学年では「④行事についての様子や気持ち」を中心に述べられている。低学年の子どもは、先を読んで行動したり、過去を振り返ったりしながら行動するのではなく、今を生きる傾向にある。目の前のことに熱中し、目の前のことに心を動かされている。そのことが作文にも影響しており、作文で心に残ったことを述べようとした場合、心の変遷というよりは「今、このとき」を述べることに繋がっているのだと考えられる。また、低学年では「⑤行事が終わってからの様子や気持ち」が述べられている。これは、低学年の子どもたちにとって、最も思い出しやすい「④行事についての様子や気持ち」から派生しやすいものが「⑤行事が終わってからの様子や気持ち」だからだと考えられる。

# 3.2 中学年の特徴

続いて、3年生は次の(5)や(6)のように、行事以前の様子や気持ちを述べてから「④行事についての様子や気持ち」を述べ、最後に「⑤行事が終わってからの様子や気持ち」を述べるというように、時間軸にそって様子や気持ちがどのように変化したかを示している。

- (5) 今日は、ペア遠足でした。わくわくしてて、きのうねむれませんでした。大学のお兄さんやおねんさんがやさしかったです。ペアのいちかくんともなかよくできました。馬がエサを食べるようすがすごくかわいかったです。馬とのふれあいや長なわとびにきめてよかったなと思いました。スローガンの「きずなをふかめようさい高のペア遠足」の目ひょうをたっせいできたと思いました。また、行きたいです。(3年生、74号)
- (5)では、「今日は、ペア遠足でした」で文章が始まっているが、「きのうねむれませんでした」のように行事以前の様子を述べてから、それ以降の文で「④行事についての様子や気持ち」を記述している。さらに、「スローガンの『きずなをふかめようさい高のペア遠足』の目ひょうをたっせいできたと思いました。また、行きたいです」のように、「⑤行事が終わってからの様子や気持ち」を述べて文章を終えている。このように、文章から、過去から未来に向かっての筆者の気持ちの変化を読み取ることができる。
  - (6) 学校で運動会がありました。すごく楽しみで、どきどきが止まりませんでした。 さいしょの玉入れで、二組が一いで、一組が二いでした。勝てるかふ安だったけれど、お兄 さんたちがちがうきょうぎで取り返してくれました。そして、一気にぎゃく転することができました。すごくうれしかったです。けれど、さい後には、同点に追いつかれてしまったのでくやしかったです。この勝負は今度のリレーで決まります。とくに、三色リレーが大切だと思います。 ゆう勝して、気持ちよく終わりたいです。 (3年生、70号)

(6)においても、運動会について「すごく楽しみで、どきどきが止まりませんでした」というように行事 以前の気持ちを述べてから、「④行事についての様子や気持ち」を記述し、「ゆう勝して、気持ちよ く終わりたいです」にように「⑤行事が終わってからの様子や気持ち」を述べている。また、④の記 述においても「さいしょの玉入れ」「そして」「けれど、さい後には」のような表現を効果的に使い、時 間軸にそって文章を記述しているので、どのようなことが起こり、筆者がその時々にどのような感情 を抱いたのかを理解しやすい書き方となっている。

一方の4年生は、次の(7)や(8)のように、「①行事の前日の様子や気持ち」の次に「②行事の当日、朝起きたときの様子や気持ち」を述べるというように、書き手の時々の心情を交えながら出来事を時間軸にそって記述しており、臨場感のある文章となっている。

(7) 今日は、ペア遠足でした。<u>わたしは、朝からとても楽しみにしていました。スローガンのよう</u>に、「笑顔と元気で深めよう ペアとのきずな」で遠足に行けたらいいなと思いました。

リトルワールドに着いて、まずまわったのは、かん国の所です。そこで、衣しょうを着ました。 とてもおしゃれで、かん国に住んでいる気持ちになりました。

次に、お昼ごはんを食べました。ほかにもいろいろな所に行けたので、よかったです。ペア遠足で、よい思い出ができました。(4年生、73号)

(7)においても、「今日は、○○でした」という文から文章が始まっているが、「わたしは、朝からとても楽しみにしていました」のように、「②行事の当日、朝起きたときの様子や気持ち」が記述されており、行事が始まる前から筆者がとても楽しみしていたということが良く伝わってくる。また、「スローガンのように」という表現からは、行事前にかかわることが述べられていることがわかる。

- (8) 今日は、マラソン大会でした。<u>わたしの目標は</u>三十位以内でした。試走のときは三十五位で、わたしは自分の走りに自信がもてました。そして、今日、マラソン大会で「わたしならできる」、そう思ってスタート位置につきました。ピストルが鳴った後に、わたしは少し出遅れてしまいました。わたしはそのときに「しまった」と思いながら走っていると、わたしのお母さんの友だちのお母さんが応援してくれてペースを上げて走っていると、わたしのお母さんが応援してくれました。でも、これ以上ペースを上げて走れませんでした。下り坂では松井先生が言っていたように本氣で走らずに上り坂でパワーを残すことを参考にしてたくさん努力したけれど、おしくも四十四位でした。わたしはくやしくて泣いてしまったけれど、ペア給食と四年三学級が優勝した喜びで、くやしなみだはなくなりました。(4年生、70号)
- (8) においても、マラソン大会でスタート位置につくまでの筆者の思いを詳しく述べ、さらに、ピストルが鳴って走っているときの感情の変化も細かく記述している。このように、臨場感あふれる記述が見られるのが 4 年生の特徴である。また、行事前にかかわる「わたしの目標は」や、行事後の様子である「くやしなみだはなくなりました」という記述も見られる。

以上のように、時間軸に沿って、行事の前や後の心情や出来事を詳しく述べ始めるのが中学年の特徴である。個人差はあるものの、中学年では、自分の経験や感情を客観視できるようになる児童が多くなる。そのため、作文においても、行事とは「行事そのもの」だけではなく、行事前の意気込みや行事後の家での会話なども含めて「行事」と認識するなど、行事の前や後の出来事にまで目が向くようになる。そういった子どもの認識の変化が、作文の記述の変化につながっていると考えら

れる。また、学校生活や学教行事にかかわる指導では、教師は、日々の行いや行事に至るまでの過程も大事にするよう指導を行う。中学年になると、そのあたりの感覚も徐々に芽生え始める。そのため、作文において、行事前のことまで述べるようになるのだと考えられる。

#### 3.3 高学年の特徴

5年生は、次の(9)や(10)のように、過去と現在とを比較することで、現在の自身の変化や成長した点を記述し、今後の抱負を述べて終わるというように、内容が分析的である。

(9) <u>私は、マラソン大会はつらかったり、転んだりして、いやな行事だと、この五年間ずっと思っ</u>てきました。

今回も転びそうになったり、走りたくないと思ったりしました。それでもお母さんやみんなが 応えんしてくれたことと、やりたくない<u>自分に負けたくない</u>気持ちがあったので、やめたいと 思うことがあってもがんばれました。そして最後まで走りきると、「自分は最後まで走った」と 達成感が生まれ、また次もがんばろうという気持ちになりました。マラソン大会は、みんなと 自分を比べるのではなく、最後まであきらめなければ自分にプラスになるものだと、今回初めて思いました。

来年はこの思いをわすれて、心がおれるかもしれません。でも、あきらめずにがんばったら得られるこの達成感を、マラソン大会だけでなく、運動会などの他の行事でも生かせたらよいと思います。(5年生、72号)

(9)では、文頭に「私は、マラソン大会はつらかったり、転んだりして、いやな行事だと、この五年間ずっと思ってきました。」とあるように、五年間のマラソン大会に対する思いと、今回の思いを対比させて記述し、最後に来年の行事に対する抱負が述べられて文章が終っている。行事について感じたことや思ったことを述べるだけではなく、行事に対する過去の思いと今回の思いの変化、それらを経験して今度どうしたら良いかが分析的に記述されている。また、「自分に負けたくない」という表現からは、自分の心と向き合っている様子が見られる。

(10) ぼくが、運動会を通して成長したことは、『カ・カ・カ』の三つの力で、やりきる力と思いを伝える力です。ぼくたち五年生は、『カ・カ・カ』が初めてで、ぼくは成功できるかという不安がありました。今年は、コロナのえいきょうで、何人かで組んで技を見せることができませんでした。一人技しかできない状態でやったので、不安がたくさんあり、協力する力を発きできないと思っていたけれど、一人一人がやりきる力を発きできたので、五年生・六年生の全員で協力する力を発きできたと思います。(後略) (5年生、73号)

(10)は、運動会を通して筆者が成長したことについて述べられている。運動会を振り返り、経験を通して得たことを分析的に記述している。また、「協力」という表現からは、他者とのかかわりを意識した作文が書けるようになっていることがわかる。

加えて6年生は、次の(11)や(12)のように、自身だけではなく、仲間とともにどのように困難を乗り越え、成長したかを記述している。また、今後の目標を述べる際にも他者の利益に結びつくようなことを述べているものが見られる。

(11) 今日は六年生の音楽集会がありました。わたしはこの音楽集会で、六年生としての輝く

姿を魅せられたと思います。理由は、<u>みんなが楽しくステップをやってくれたので</u>、全校が盛り上がり、全校が一つになれたからです。始まる前にあった緊張も、みんなの元気のおかげでなくなりました。悔いのない、最高の音楽集会になってよかったです。

(6年生、71号)

- (11)では、わたしが六年生としての輝く姿をみせられたのは、「みんなが楽しくステップをやってくれたので」などとあるように、自身が何をしたのかではなく、仲間が何をしたか、仲間と何をしたかということを中心として述べられている。また、「六年生として」からは、自身が置かれている立場や求められている役割を踏まえて書かれていることがわかる。
  - (12) 今日は秋の大運動会がありました。ドキドキしながら迎えた本番。「みんなの心を一つにして絶対勝ちたい」そう思っていました。そして、六年生の出番。最初は姉妹行進です。ペアと仲良く、楽しくできたと思います。次は、ムカデリレー。チームの子と力と息を合わせて、見事一位がとれました。そして、カ・カ・カ。練習以上にみんなが一つになって最高の演技ができたと思います。今の三組は三位です。水曜日、リレーでがんばって優勝がとれるといいです。(後略) (6年生、70号)

(12)においても、みんなの心を一つにし、ペアやチームと協力しながら一位をとれたことや、みんなで一つになることで練習以上の最高の演技ができたことなどが記述されている。「みんなが一つになって」という表現からも、他者とのかかわりを意識した作文が書けるようになっていることがわかる。

以上のように、高学年では、中学年よりも一層自分を客観視することで、自分の心と向き合った 内容や、他者とのかかわり、自分の立場や役割を踏まえた内容の作文が見られるようになる。高学 年では、「学校のために」「みんなのために」という意識を子どもたちがもてるような指導が多く行 われる。同時に、子ども自身が、学校やみんなのためになることをしたいと、主体的に考え始める発 達段階でもある。そういった要因が影響し、作文に反映されているのだと考えられる。

## 4 まとめ

以上のように、作文では、話の展開の仕方や内容に発達段階に応じた変遷がみられる。指導を進めていくにあたり、一律に指導内容を決めるのではなく、その子の発達段階に応じた支援を講じることによって、子どもの姿や内面がよりいきいきと表された作文を書くことができるのだと考える。

#### 謝辞

本研究は、令和5年度愛知教育大学学長裁量経費(連携推進分野)の助成を受けたものである。

# 引用文献

安藤英明(2023)『小学校 6 年生までに必要な作文力が I 冊でしっかり身につく本 ステップアップ編』かんき出版

# 

#### 1. はじめに

本発表は、三省堂の「今年の新語 2020」や株式会社 AMF の「2021 年のトレンド予測」のコトバ部門として選ばれ現在もネットを中心に使用されている「まである」の意味機能に関して、「まである」が「レトリック性」を有するという事実を明らかにすることを目的としたものである。

本研究における研究対象である「まである」は、三省堂(2020)において「②[動詞句・ 形容詞句に接続して]ある予想や基準をこえたことをおこなう。また、そのような状態であ る。『その絵が好きすぎて、日に五回見に行った―』」とされている表現に該当する。

また、他にも、「『〇〇まである』(まるまるまである)とは、『~の可能性さえある』『~とすら思える』などの意味を示す若者言葉。」(エキサイト株式会社 2021)といった説明もなされている。このように「まである」の説明には「さえ」や「すら」のような取り立て助詞が用いられていることが多い点を踏まえると、「まである」は予想以上の極端な事柄の実施や状態を提示するだけでなく、「取り立て」の機能も強調されていることが窺える。しかしながら、仮にそうであるとすれば、「まである」の説明に頻繁に用いられている「さえ」や「すら」といった取り立て助詞を用いた「さえある」や「すらある」でないのはなぜなのかという疑問が残る。それでは、「まである」が「まで」と「ある」で構成されていることの理由は如何なる点にあるのであろうか。本発表では、その理由が「レトリック性」にあるという点を主張したい。

# 2. 使用場面から見る「まである」のレトリック性

まず、使用場面から「まである」の機能を分析し、「まである」のレトリック性を明らかにしたい。例えば、以下の例を見てみよう¹。

- (1) A「待って、ママ待って、みたいな。何そのディスり、と思って。」
  - B「なんかルリちゃんがママってゆうの意外かもしれん。」
  - A「あ、やばい。お母さんて言えばよかった。母とかゆえばよかった。うーん、母上まである。」
  - B「ないわ。」

(『日本語日常会話コーパス』2)

<sup>&</sup>lt;sup>1</sup> 本研究における用例はすべて、コーパスーパス検索アプリケーション『中納言』を使用して検索・抽出 したものである。

<sup>&</sup>lt;sup>2</sup> 『日本語日常会話コーパス』では、音声データと音声データの文字化が搭載されている。そのため、文字化された文章には句読点記号はなく、代わりにポーズなどの記号が表示されている。また、該当のデ

(1)は、Aが母親のことを「ママ」と呼ぶことにBが「意外」だという評価を下したのに対して、Aが他の呼び名をすべきであったと後悔するという場面における会話である。ここで注目したいのは、3つ目と4つ目のAとBの発言である。Aは「お母さん」、「母」のような「ママ」以外の呼び名を列挙した後、「母上」というあまり一般的ではない呼び名を挙げている。それに対し、Bは即座に「母上」という呼び名は「ない」といった評価を下しAの発言を否定している。たしかに、この一連の会話から、Aが母親に対し「母上」と呼ぶという一般的ではない例を挙げることは、予想以上の極端な事柄の実施や状態を取り立てて提示しているという説明とも合致する。したがって、「まである」に「取り立て」の機能があるというのは確かなようである。

一方で、Aの発言に対してBが即座に「ない」と反応していることに対する説明は、「取 り立て」機能だけでは十分ではなかろう。なぜなら、「取り立て」の機能はただその要素を 強調するという役割を担っているに過ぎないためである。この点を考えるには、Aがここで 「母上」を「なぜ取り立てたか」を考える必要がある。これを考えるにあたって重要なのは、 「即座に否定」しているという事実であろう。つまり、BはAの挙げた「母上」という呼び 名が「嘘」であるということを理解したからこそ、否定することができたとも言えよう。な ぜなら、一般に日本語の言語表現においては、相手の発言を直接的に否定することは避けら れるべき事象であると考えられているためである。これは野口(2020)において、「言いに くいことや相手の発話に対する否定のように相手のフェイスを侵害する恐れのある言語行 為にあっては、直接的な表現を避けることも多い。」(p. 15) と述べられていることからも窺 える。それでは、なぜ(1)でBは「嘘」であることが即座に判別できたのであろうか。そ の理由は、「誇張法」に垣間見ることができる。「誇張法(hyperbole)とは、ある現実を描 写するのに並のことばでは足りず、極端に大げさなものの言い方をする表現法」(瀬戸1997, p.77) である。すなわち、Bが「嘘」であることを見抜けたのは、Aが誇張法を用いている ということを理解できていたからに他ならないのである。そしてこれが理解できたのは、 「まである」の「取り立て」機能に他ならない。なぜなら、瀬戸(1997)で指摘されている ように、「誇張法は、人目を引くために、ウソと承知のうえで過剰な表現をする」必要があ り、それを伝えるためには「取り立て」て目立たせる必要があるためである。そしてこの点 は、「まである」の文法的な側面にも通ずる。

# 3. 文法的側面から見る「まである」のレトリック性

「まである」の文法的側面として、ある特徴が挙げられる。それは、「文法」もしくは「語用」の面において「非文」であると捉えられるという点である。例えば、(2)~(3)

ータは話者2名による雑談であるが、文字化データを見る限りではどの話者がどの発言をしたのか、即座に判別することは難しい。そこで可読性の観点から、ここでは話者を特定できるように話者2名をそれぞれA、Bとし、さらにポーズには読点を、文の切れ目には句点を付した。なお、A、Bと句読点の位置は、音声データと文字化データの両方を筆者が確認したうえで判断した。

を見てみよう。

- (2) これ、ある意味法に触れているまであると思うのです(『国語研日本語ウェブコーパス』)
- (3) つーか僕自身がもう一回読むまである(『国語研日本語ウェブコーパス』)

上記の例を見てみると、名詞の後に「まである」が続く例、動詞の後に「まである」が続 く例、 副詞の後に「まである」が続く例など、様々な品詞の後に「まである」が用いられ ており、共通性は見られないようにも思われる。しかしながら、上記すべての用例は、いず れも「文法」もしくは「語用」の点において従来「非文」とされてきたものに該当する。例 えば、(2) や(3) では「触れている」や「読む」という動詞の原形の直後に「まである」 が後続しているが、「まで」の文法規則に従えば「動詞の辞書形」を取り立てることはなく、 「文法」の面において「非文」と言える (庵ほか 2001, p. 364)。それでは、なぜ「まであ る」は「非文」で表現されているのであろうか。北澤(2016)では、読み手の注目を浴びる ための技巧的な表現として、「破格の表現」を挙げている。「破格の表現」とは、「文法に則 った規範的な表現からの意図的な逸脱」(北澤 2016, p. 37)である。つまり、あえて非文と なるような表現を用いることによって、よりその内容に注目を集め、強調することが可能と なるということである。その点において、「まである」は「破格の表現」の一種であるとも 捉えられよう。他方、北澤(2016)によると、「破格の表現」は、「規範からの逸脱といって も、無条件に文法上の逸脱が許されるわけではなく、むしろ(略)『文法上の逸脱』にはな んらかの制限がある」(p.37) とされている。そこで次に、「まである」が「まである」であ る必要性がどこにあるのか、という点について検討したい。

# 4.「まで」と「ある」が選択された理由

「まである」の文法上の制限を検討するためには、「まで」と「ある」が選択された理由を探る必要がある。言い換えれば、なぜ「まで」と「ある」が選択されたのかということである。そのために、まず「まである」における「まで」と「ある」の用法を確認した上で、「まで」と「ある」が選択された理由を他の類似する要素と比較しつつ検討を行うこととする。

まず、「まである」の「まで」は、上述してきた通り、「取り立て」の「まで」に該当する。取り立ての「まで」について、茂木 (2014) では、「極端な例を挙げて、事態の意外性を表す」(p. 595) と述べられている。また、これは庵ほか (2001) で「社会通念や予想では考えられないような事物を当然だと思われる事物に付け加える場合には、『まで』を用いるのが適当」とされている点とも通ずる。つまり、「まである」の「まで」は「極端性」と「意外性」を表現する機能を有するということである。このうち、「意外性」にのみ着目した場合、取り立て助詞「さえ」も同様の機能を有する。これは、茂木 (2014) で

も、「同様の意外性はサエによっても表される」(p. 596) と指摘されている。しかしながら、「さえ」は、「まで」が有している「極端な例に至るまでの序列を明示しやすく、累加のニュアンスをより強く帯びる。」(茂木 2014, p. 596) という性質に欠ける。この点は、(1)の例からもわかるように、「まである」を使用する場面において「極端性」を明示するためにも重要な役割を果たしている。したがって、「まである」において「まで」が選択された最大の理由は、「極端性」にあるとも考えられよう。

続いて、「まである」の「ある」について検討したい。「ある」は「存在動詞」の一つで ある。影山(2014)では、「存在動詞」の意味的特徴として、「(i)動詞の状態アスペクト と(ⅱ)主語による動詞選択」が重要であるとされている。そのうち、「状態アスペクト とは、単純現在時制で用いると、いま現実にその物体が存在することを表すことで、これ に該当する動詞は『いる,ある,(おる)』あるいは『存在する』などである」とされてい る。そしてその上で、「いる,ある,(おる)」の選択については「主語名詞の意味特性に 依存」するとされ、「主語が有生物あるいは自ら動く力のある物体の場合は『いる』,それ 以外の主語 (無生物あるいは有生であっても 『植物』 のように自ら動かないもの) には 『あ る』が選択される」と述べられている。この点を踏まえると、「まである」に前接する要 素は基本的に「有生物」以外であるということになる。つまり、「まである」が用いられ ている文においては「有生物」以外が主語であるということになる。仮にそれが(3)の のように一見、有生物主語であるように見える例でも、実際は引用句のように「つーか『僕 自身がもう一回読む』まである」のように捉えることで、文構造もより明確に理解できる ようになる。さらに、存在動詞の「ある」には、安達(2014)でも指摘されているように 判断の反転を想起させやすいという特徴がある。その点において、「まである」における 「ある」は「反語」的な要素をも有していると考えられる。つまり、「反語」の「聞き手 や読み手の知識を利用して、当該の判断の正当性を再認識させる」手段を用いて「質問の 形をとりながら、実際には強い主張を表す」(安達 2014) ことで、「まである」のレトリ ック性に貢献しているとも言えよう。

# 5.「まである」における「まで」と「ある」の役割

以上、本研究では「まである」の意味機能について、「まである」が「レトリック性」を有するという事実を明らかにすることを目的とし、使用場面と文法的側面から分析を行った上で、「まである」が「まで」と「ある」によって構成されている理由について検討してきた。以上を踏まえ、以下では「まで」と「ある」それぞれの「まである」における役割についてまとめた上で、本研究の結論を述べたい。

まず、「まである」における「まで」と「ある」の役割は以下の通りである。

①「まで」は、「まである」における「レトリック性」のうち、「極端性」と「意外性」 の役割を担う。 ②「ある」の存在によって、文構造を明確に示すことができる。また、「まである」の「レトリック性」のうち、「ある」は「反語」的な役割を担う。

以上の分析・考察の結果を踏まえると、「まである」は「レトリック性」を有すると考えられる。特に、「まである」では、「意外性」や「極端性」を「反語」的に示すことで「レトリック性」を表現することが可能となっていると推察される。その点において、「まである」は肯定文におけるレトリック的現象の例として捉えられるのではないかと考えられる。

# 6. 今後の課題

本研究では、「まである」が「レトリック性」を有するという点は明らかになったものの、 統語的特徴や意味的特徴、「レトリック性」の内容については十分な検討は行えていない。 そのため、それらの点について今後さらに掘り下げる必要があると考えられる。また、研究 対象となる用例数についても、一般化を図るにはまだまだ十分とは言い切れないのが現状 である。したがって用例数の増加も今後の課題であると考えられる。

# <参考文献>

- 安達太郎 (2014)「反語<sup>1</sup>」日本語文法学会編『日本語文法事典』pp. 510-511,大修館書店 庵功雄・高梨信乃・中西久実子・山田敏弘 (2001)『中上級を教える人のための日本語文法 ハンドブック』株式会社スリーエーネットワーク
- エキサイト株式会社 (2021)「○○まである」『エキサイトニュース』 (https://www.excite.co.jp/news/article/Numan\_yaGbj/) 2023年7月25日閲覧 影山太郎 (2014)「存在文」日本語文法学会編『日本語文法事典』pp.368-369, 大修館書店 北澤尚 (2016)「広告キャッチコピーにおける破格の表現についての一考察」『東京学芸大学紀要 人文社会科学系1』67, pp.35-48
- 国立国語研究所 (2023)『日本語日常会話コーパス』(CEJC) (バージョン 2023.03) (https://chunagon.ninjal.ac.jp/cejc/search)
- 国立国語研究所 (2022) 『国語研日本語ウェブコーパス』 (NWJC) (バージョン 2022.02) (https://chunagon.ninjal.ac.jp/nwjc/search)
- 三省堂 (2020)「8 位 まである」『三省堂辞書を編む人が選ぶ「今年の新語 2020」』(https://dictionary.sanseido-publ.co.jp/shingo/2020/best10/Preferenceal1.html) 2023 年 7 月 25 日閲覧
- 瀬戸賢一(1997)『認識のレトリック』(株)海鳴社
- 野口芙美 (2020)「真偽疑問文における否定応答表現―形式面に着目して―」『東京福祉大学・大学院紀要』第 10 巻, 第 1-2 合併号, pp. 15-25
- 茂木俊伸(2014)「マデ」日本語文法学会編『日本語文法事典』pp. 595-596, 大修館書店

# 機能語の使い分け問題において機械学習でのアプローチ にシソーラスを用いる有効性

— 受身文における「によって」と「に」を中心に —

総合研究大学院大学 日本語言語科学コース

博士後期課程一年陳柏丞

キーワード:機能語 機能表現 使い分け シソーラス 階層性 機械学習 言語処理

# 1 先行研究と本稿の目的

機能表現の多義性や似た機能表現との使い分けは日本語学においてもさまざまに検 討されてきたのである。とりわけ、複合辞「によって」と二格「に」は、受身文におい ては似た機能表現同士であり、その使い分けは日本語学においても日本語教育学におい ても従来議論の対象となっている。

山崎・藤田(2001:124-125)では、「物事を引き起こす契機・所以を示す用法の一環として、受身文の動作主を示す用法がある。これに関して、助詞「に」などとの使い分けは、さまざまに論じられて来た。例えば、はっきりしたところでは、"生産"的な(物を生み出す)意味の動詞の受け身の場合、「によって」を用いなければならない。しかし、「によって」か助詞「に」か等の選択は、なお規則的に割り切れない部分もあり、むしろ、現代語として揺れのある部分とも言える。」という記述があり、さらに、松木(1993:57)は、「日本語の辞的表現全体に視野を広げ、類似の意味・機能を有する表現群を比較対照することで、各表現がどのように意味・機能を分担しながら存在しているかを確認する作業が必要であり、むしろその過程でこそ逆に複合辞の本質が見えてくるのではないだろうか。」という重要な点を示唆している。受身文の動作主を示す用法において、どちらか一方しか使えない場合もあれば、両方とも使える場合があることも実状である。例えば、

- (2) サービスが相互扶助  $\{{}^{\circ}$ によって $/{}^{\times}$ に $\}$  生産される。
- (3) 言語が語彙 { ° によって / ° に } 構成される。
- (4) 財布が泥棒 {△によって/○に} 盗まれた。
- (5) 国宝は敵国の怪盗  $\{ (c) \in \mathcal{C} \setminus (c) \}$  盗まれた。

山崎・藤田 (2001) だけでなく、日高 (2002) でも創造的行為は「によって」を使い、それ以外のほとんどは「に」が使われるとのこと、また日本語記述文法研究会 (2009) にも動作・行為の結果の意味での動詞は「産出動詞」で、「産出動詞」では「に」より「によって」で表すとの記述がある。日本語記述文法研究会 (2009) ではほかに、感情などを表す動詞の場合は「によって」では表しにくいなどと論じている。しかし、「によって」と「に」の使い分けの問題は、単なる係り受けをなす述語動詞のことをみるだけでは完結にはならない。 (4) と (5) の例文のように、「によって」は書き言葉であるゆえに、物々しい語感があり、文体硬度の側面からも選択に影響してくる場合がある。述語動詞のみに注目するのではなく、それ以外の項についても、砂川 (1984)、細川 (1986)、權 (1991)、林 (1999)、高井 (2014)、菅井 (2001・2007) などの先行研究があり、主語や目的語の二項に関して、「有情」、「非情」(あるいは「有生」、「無生」)の指標が用いられている。「によって」と「に」の使い分け問題は単なる条件や基準では定まらない、規則的に区分されないきらいがある。そのため、「によって」か「に」かを区別するために、周囲の文成分を見てその係り受けさえ分析すればいいもの

の、結局それはさほど簡単に片付けられる問題ではない。どこからどこまでが「によって」しか使えなかったのか、どこからどこまでが「に」しか使えなかったのか、またどこからどこまでが「によって」と「に」の両方を使えたのかなどを明瞭にするために、今まで以上に、周囲の文成分の意味的な係り受けあるいはコロケーションを枠組み化あるいは範疇化(カテゴリー化)にすることが必要になってくる。そして、上記の条件・規制、または基準・ルールが求められる。同時に、それは係り受けを担う文成分の文字面情報だけを頼りにしないことを意味している。

類語階層性を用いた記述については、現に行われている研究は同じ語形を持つ語、しかも内容語に対する多義性解消を中心にした研究は多く(長尾・佐藤・黒橋・角田 1996、内山・板橋 1997、など)、意味役割がある程度かぶり、また異なる機能表現との使い分けに類語階層性を用いた記述はほとんど見当たらない。

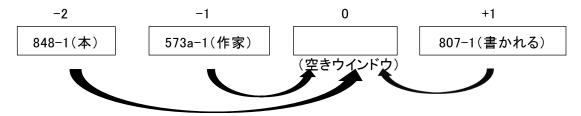
本稿は陳(2023)で言及した複合辞「によって」および二格「に」の使い分け問題を引き継ぎ、シソーラスの考え方を検証すべく、意味階層性のあるシソーラスのアノテーションデータを説明変数(「特徴量」とも言う、以下「説明変数」)とし、機械学習の予測分類モデルに学習させ、「によって」か「に」かという選択同定問題をさせる。評価実験で従来の前処理手法と精度の比較の上、シソーラスの意味階層性を用いた手法が機能語使い分け問題に対しての機械学習の性能、パフォーマンス向上に有効だということの証明を目的とする。

なお、本稿の研究は陳(2023)の研究の続きであり、コーパスからデータの抽出・整形や類語辞書を用いたアノテーション作業、係り受け頻度の計量・統計、およびその結果に対する考察にご興味があれば、ぜひ陳(2023)を参照されたい。

# 2 研究方法

本稿の機能語の使い分けに対して、機械学習でのアプローチにシソーラスの有効性を 検証する考え方は以下、図1にあたる。

# 図 1.周辺テキストにより空きウインドウの埋め込みで実現する予測分類



# 機械学習モデル: "niyotte(によって)"

つまり、周囲のテクスト(係り受け関係のもつ文成分、実質語)のシソーラスの類語 階層性情報(階層数字)を説明変数として用い、空きウインドウである目的変数(機能 語)の解釈(予測分類)をさせるということである。

係り受け関係のもつ文成分(実質語)のシソーラスの類語階層性情報を利用し、「によって」か「に」かという使い分けをさせることを目的とし、接続してくる実質語の組み合わせの係り受けが機能語の選択を成すということを本稿の研究の考え方の根幹とする。

また、意味の入り込んだ類語階層性情報が機械学習にとって有利であることと考える。 そこで、前処理データとして用いた説明変数はシソーラスの階層分類をベクトルとす る本稿の提案手法であるシソーラス手法、ベースライン (Baseline) として用いたベク トルは BoW (Bag of Words) による文字の数値化である。

本稿の対照評価実験に用いたシソーラスは角川類語新辞典、モデルは決定木(Decision Tree) モデルにする。

なお、動作環境は以下である。

表 1.動作環境

	MacBook PRO M1		
パソコンと 0S	メモリ 32GB		
	Ventura 13.0.1		
実行環境	Colaboratory		
モデル	Decision Tree		
ライブラリ	scikit-learn 1.0.2		

以下、実験に入る。

# 3 実験

#### 3.1 前処理

まず、機械学習をするためには、我々が使う自然言語をコンピュータの理解できる言語に変換・加工しておく必要がある。

#### 3.1.1 BoWによる説明変数 (ベースラインベクトル)

まず、想定では、主語(S)・目的語(0)・動詞(V)それぞれを一つの説明変数とし、合計3つの説明変数を一つのデータセットとして使うことであるが、ベクトルが1文ずつのものはデータセットとして使うことができない。また、本データの異なり語数が1140個のため、1140次元のデータを語一つ一つに割り当てると支障¹が出てしまう。さらには、「によって」と「に」のデータそれぞれを処理にかけても、それぞれのデータにおける異なる語が同じタグを持ってしまい、学習のノイズとなるため意味がない。そこで、本稿では、上記のことを考慮に入れ、「によって」と「に」のデータ、合計600行を一列に整形してから、gensimのライブラリでBoW処理をし、BoW format(word ID(序列番号),word frequency(頻度))をアノテーションデータとしてタグをつけ、本稿ベースラインの説明変数とした。以下図2のとおりである。

# 図2.BoWトークン序列

{'ごたごた': 0, 'する': 1, 'ウイルス': 2, 'エリート': 3, 'オゾン': 4, 'カテゴリー': 5, 'ガス': 6, 'ギャップ': 7, 'ギャング': 8, 'クラス': 9, 'グラス': 10, 'グループ': 11, 'グローブ': 12, 'サービス': 13, 'システム': 14, 'シーツ': 15, 'シート': 16, 'スカウトする': 17, 'スタンド': 18, 'センス': 19, 'センター': 20, 'タバコ': 21, 'ダイナマイト': 22, 'チェック': 23, 'テロ': 24, 'テーブル': 25, 'ナチス': 26, 'ナンバー': 27, 'ネット': 28,

図3.BoWトークン序列タグ (word ID, word frequency)

[(0, 1),(1, 5),(2, 2),(3, 1),(4, 1),(5, 3),(6, 1),(7, 1),(8, 1),(9, 1),(10, 1),(11, 2),(12, 1),(13, 1),(14, 3),(15, 1),(16, 1),(17, 1),(18, 1),(19, 1),(20, 1),(21, 2),(22, 1),(23, 1),(24, 2),(25, 1), ただし、説明変数の手入れ方により、結果に影響をもたらすことを想定のうえ、タグ整形の仕方によりBoWを使った前処理では、以下3つのものに分けている。

# 表2.BoWベクトルにおける3つのタグの付け方。

BoWによるベクトル	タグの付け方	例(タバコ(21,2))
BoWによるベクトル ① (ベースライン)	(word ID, word frequency)	$21,2 \rightarrow 21.2$
BoWによるベクトル ②	(word ${ m ID}^{ m 10th}$ , word frequency)	$21, 2 \rightarrow 2.12$
BoWによるベクトル ③	(word frequency, word ID)	$21, 2 \rightarrow 2, 21 \rightarrow 2.21$

# 3.1.2 シソーラスによる説明変数(提案ベクトル)

本稿の提案ベクトルは、すでに前章のアノテーション作業で得られたシソーラスの階層情報を使う。

機械には数字以外のものが読めないため、アノテーションデータにおける細分類 [a,b,c...] を英単語の順番に応じて数字に変換させた(例えば、[a,b,c...]  $\rightarrow$  [1,2,3...])。

さらに、パフォーマンスを考慮に入れ、上記「BoW によるベクトル②」と同様に、頭数字(ここでは、大分類階層を表す数字)の直後に小数点を入れた(例えば、手 [性向 -体格-手足] である「602a-1」を「6.0211」に)。

以上をもって、前処理データの準備は完了とする。

# 3.2 結果と考察

全 600 例を 7:3 に分け、420 例をトレーニングデータ (train data)、180 例をテストデータ (test data) にし、機械学習をさせた。

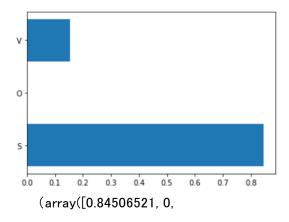
そして、BoWと Thesaurus の手法による分類結果は下記表 3 が示したとおりである。

我 U.DUV L The Saulus (ファー)ハイにある万 規能不				
	パラメータ	パラメータ②	正解率・精度	
前処理手法	1	(random_state)	train	tost sooro
	(max_depth)	(random_state)	score	test score
BoW によるベクトル①	5	0	0. 664	0. 511
(ベースライン)	J	U	0.004	0. 511
BoW によるベクトル②	10	0	0.831	0. 528
BoW によるベクトル③	8	0	0.802	0. 661
Thesaurus によるベク				
トル	3	0	0.833	0.822
(提案手法)				

表 3.BoWとThesaurus(シソーラス)による分類結果

以上の結果は、さまざまな調整の上、性能上もっとも良いパフォーマンスの結果である。そして、表3からはっきりしているように、実験の結果、同BoW手法の間では、タグの付け方により多少正解率は上がってくるが、本稿提案のシソーラスの手法はそれらを遥かに超え、もっとも高い精度を有することが確認できた(太字)。さらに、決定木モデルにとって代表的なパラメータであるmax\_depth(最大深さ)は、本稿の提案手法でわずか3回の分岐(階層としては、分岐前の初期情報である最上層をも加えれば4層になる)でもっとも良い精度を得ることができ、ほかの手法よりも学習する手間が省かれ、より容易に学習できるということとして捉えられるだろう。これは、まさしくシソーラスに優位性があると言える。





3 つデータの散点分布図をも取り上げる。

さらに、feature importance で入力影響度の確認をしたところ、図 22 が示しているとおりである。

入力変数影響度は、各説明変数が結果にどれほどの影響を与えているかを確認することができる。上記図 22 のように、もっとも強力な影響因子は主語(S)の説明変数で、その次は動詞(V)であり、この二つと比べて、目的語(0)の説明変数はまったく役には立たないということになる。

そしてこれを人が直感的に捉えやすいように視覚化すると、以下の散点分布図が得られる。比較として、BoW による

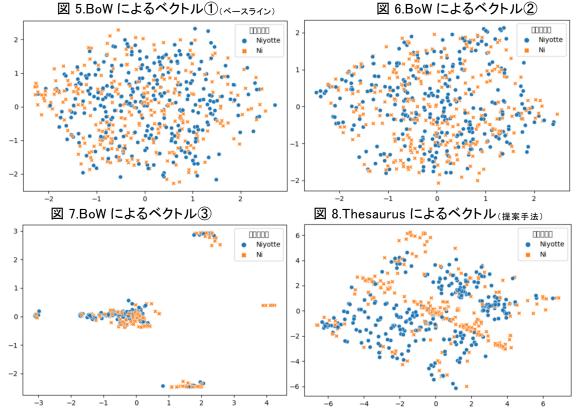


図5と図6で確認できるように、特徴をはっきりとつかむことができないほど無秩序で、混雑している。図7では、分散がある程度の特徴を顕現しており、ところどころ固まった部分は確認できるが、逆に重合しすぎて、これでは「によって」と「に」がほぼ同じ機能表現だということと解釈してしまうことになる。これらと対照的に、図8の提案手法での分散は特徴をつかめるものであり、特に顕著的なのは、真ん中の右肩下がりの線上の分布ははっきりしており、入力影響度と合わせて解釈すると、この斜線状の固まりはおそらく主語(S)に存在する「によって」と「に」を区別する上、もっとも重要な影響因子にあたる。

したがって、主語(S)に使われる有情物のデータが、機械が「によって」と「に」を 区別・判断・推測する上、もっとも有力かつ有効な重み付けあるいは手がかりであると 結論づけることができる。

# 3.3 まとめ

BoW は単語の出現頻度に着目して分散表現を作成する方法であり、共起性は取り込むことができるが、単語間の関連や意味、役割などは考えることができない。一方、シソーラスによる手法は個々の単語がシソーラスの意味概念階層体系分類の中に位置することに着目して分散表現を作成する方法であり、意味情報があり、近い表現は同じグループにまとめられる関連性を持つ。後者のほうが解釈性と利便性、そしてモデル実行の性能上前者よりも優れることを今回の調査と実験で明らかにすることができた。

そして、本来決定木モデルは与えられた学習データ(あるいはトレーニングデータ)に過剰適合しやすい性質を持っており、また今回使用した学習データは総量が非常に少なく、結果的に過剰適合が発生してしまうが十分あると予想していたが、実際にも BoW による手法②および③の test score の最高値を取るため max\_depth を高く設定したせいで過剰適合が発生してしまっているが、最終的に本稿の提案手法には過剰適合などが発生していなく、良い結果としておさめることができた。

# 4 課題と展望

課題として残るのは、入力影響度で目的語(0)は影響因子としてまったく機能しなかったことや、「によって」と「に」の二者とも用いることのできるどうしても割り切れない用例の存在を考慮すべく、いわゆる二者択一より、両方とも使えるパターンも機械が提示できるようにさせるということとなる。そして、以後の研究ではデータを600例よりもさらに増やし、精度を上げることで、予測分類モデルを成熟なツールに仕上げ、応用できるようにさせることが望ましい。また、別のシソーラスとの評価対照も必要となってくる。今回は『角川類語新辞典』に準拠しているが、今度は国立国語研究所の『分類語彙表』を使用し、モデルもBERTの使用を試みる。

もっとも、階層分類番号は数字でなしているため、その数字を機械処理で用いれば、 従来の機械学習の「ブラックボックス」に対する解釈・説明の可能性を担保する。

シソーラスの手法を用いた機能表現研究が、これからの国語学あるいは日本語学における記述文法の構築および解釈、日本語教育学における言語資源や第二言語学習者の学習の契機またその実践の裏付けと支えになれることと期待する。

なお、本稿の例文は筆者の内省によるもの。

本稿は陳(2023)の続きであり、一連の研究は、筆者の修士学位論文「シソーラスと計量的手法および機械学習を用いた機能表現の使い分けに関する統合的研究 ―「によって」と「に」の受身文を中心に ―」の一部である。

# 参考文献

權(権) 奇洙(1991),受身文の動作主マーカーについての一考察:主に「に・によって・から」を中心に、『東北大学文学部日本語学科論集』1,pp.65-79.

菅井三実(2001),現代日本語の「二格」に関する補考,『兵庫教育大学研究紀要 第2分冊』21,pp.13-23.

菅井三実(2007b),格助詞「に」の統一的分析に向けた認知言語学のアプローチ,『世界の日本語教育 日本語教育論集』17,pp.113-135.

砂川有里子(1984), 〈に受身文〉と〈によって受身文〉, 『日本語学』3-7, 明治書院, pp. 76-87.

高井岩生(2014),2 つのニヨッテ受身文と 1 項化,『九州大学言語学論集』34,pp.97-111.

陳 柏丞 (2023),機能語におけるシソーラスの可能性-「によって」と「に」の受身文を中心に,青山学院大学大学院日本語文論考『緑岡詞林』47,青山学院大学日文院生部会,pp. 1-20.

長尾真・佐藤理史・黒橋禎夫・角田達彦 (1996),『自然言語処理』岩波講座 ソフトウェア科学 15(5),岩波書店.

細川由紀子(1986),日本語の受け身文における動作主マーカーについて,『国語学』144, 国語学会,pp. 13-24.

日本語記述文法研究会[編] (2009),『現代日本語文法』2(第3部・第4部)(格と構文・ヴォイス)くろしお.

林美秀(1999),有情の受身文と非常の受身文における格助詞の違い~「に」、「によって」と「から」を中心に~,『岡大国文論稿』27,pp.52-42.

日高水穂(2002),ヴォイス(受動文を中心に),大西拓一郎[編]『方言文法調査ガイドブック』科学研究費補助金研究成果報告書.

松木正恵 (1993),現代日本語論への新しい視点 — 複合辞,『國文學:解釈と教材の研究』38(12)學燈社,pp. 54-59.

山崎誠·藤田保幸(2001),現代語複合辞用例集,国立国語研究所,pp. 1-267.

内山将夫・板橋秀一(1997),シソーラス上に動的に構成される標本空間における動詞の多義性解消,『自然言語処理』4(3),pp. 27-50.

# 新聞コラムに見られる文体特徴 一社説との比較を通して一

劉霄妮(東北大学大学院生)

### 1. はじめに

文体とは、文章のスタイルのことである。文体を把握するためには、計量的な方法がよく用いられる。樺島・寿岳(1965)は短編小説100編から各80文を無作為抽出し、作品間の異なる文体を検討した。これは個人的な文体の分析である。また、ジャンルによって文体の使い分けがなされることも明らかになっている。石田・安形・野末他(2004)は文末・文頭表現や接続詞から、学術論文、日記、および新聞記事の文体特徴を分析した。新聞記事は欄ごとに異なる文体を持つ可能性が高いと考えられるが、異なる欄の文章の文体差異については検討が少ない。そこで、本発表では新聞内の異なる欄に焦点を当て、文体の違いを明らかにすることを目的とする。

## 2. 先行研究

文章の文体特徴を客観的に捉える指標に、「名詞比率」と「MVR」がある(樺島・寿岳 1965)。

名詞比率は自立語<sup>(1)</sup>の総数に対する名詞の数の割合である。名詞の使用率が高い場合は「事がらの骨組みだけを書く」要約的文章となり、低い場合は「事がらの細かい部分まで書こうとする」描写的文章となる。

MVR とは、文章がものごとのありさま、様子を描写するものか、あるいは動きを描写するものなのかを測る尺度である。形容詞、形容動詞、副詞、連体詞の組の数(M)を動詞の数(V)で割った値に 100 をかけたものである(M(形容詞、形容動詞、副詞、連体詞) / V 動詞 × 100)。MVR 値によって、描写的文章はさらに「ありさま描写」と「動き描写」に分類できる。MVR の値が大きいほど文章はありさま描写的であり、小さいほど動き描写的であるとされている。MVR と名詞比率の関係から樺島・寿岳(1965)は文体を次の 3 つに分けた。

- ①要約的な文章:名詞率が大きく、MVR が小さいもの。
- ②ありさま描写的な文章:名詞率が小さく、MVR が大きなもの。
- ③描写的な文章:名詞率が小さく、MVR が小さいもの。

「名詞比率」と「MVR」の他に、文長<sup>(2)</sup>も文章の特性を捉える上で重要な指標となる。 文長に関する研究では、平均値が特徴量として利用されてきた。また、文長の平均だけ でなく、前川(1995)では、さらにそのばらつきに注目して分析を行った。

樺島・寿岳(1965)では、新聞記事は要約的文章の代表として扱われているが、新聞内における差異や具体的な品詞構成について記述されていない。また、樺島・寿岳(1965)の指標は小説がベースとなっているが、田貝(2012)はスポーツ記事や評論文章を研究対象に、これらの指標が他のジャンルにおいても有効であることが検証している。したがって、以下で名詞比率、MVR および文長に焦点を当て、新聞記事に対して更な

る分析を行う。

## 3. 研究方法

# 3.1 調査対象

調査にあたり、「天声人語」(朝日新聞)、「編集手帳」(読売新聞)、および「余禄」(毎日新聞)のコラム記事と、これらの新聞社の社説を用いる。

「社説」は、目立つところ(紙面最上部)に掲載されており、「新聞の顔」と呼ばれる。社会問題や政治、経済の動向などについて、その背景を解説すると同時に、新聞社の主張や見解を表明する。一方、「コラム」は「その時の関心事」「社会現象」「特別な話題」などを、短評・寸評・随筆のような形で、特集記事的に枠で囲んで掲載されているものであり、「囲み記事」ともいう。

2022 年 12 月~2023 年 5 月の「コラム」と「社説」から、毎月 5 篇ずつを無作為に抽出し、計 180 編を収集した。

# 3.2 分析方法

形態素解析ツール「Web 茶まめ」<sup>(3)</sup>を利用し、「コラム」と「社説」各 90 編に対して形態素解析を行う。各記事の品詞<sup>(4)</sup>を集計し、名詞比率、MVR および文長を計算する。得られた計算結果に基づき、「コラム」と「社説」の文体特徴を判断し、両者がどのように異なるかを把握し、さらに新聞社間の違いを明らかにする。

# 4. 結果と考察

# 4.1 名詞比率

名詞比率は名詞の数が自立語の総数に占める割合である。以下で、「コラム」と「社説」の自立語数と名詞数を調べ、名詞比率を計算した結果を表1にまとめる。

		自立語数	名詞数	名詞比率(%)
	「天声人語」(朝日)	6044	3467	57. 4
「コラム」 (90)	「編集手帳」(読売)	4559	2713	59. 5
	「余禄」(毎日)	6295	4075	64. 7
	合計	16898	10255	60. 7
	「朝日」	11700	7195	61. 5
「社説」(90)	「読売」	10272	6627	64. 5
	「毎日」	9194	5795	63. 0
	合計	31166	19617	62. 9

表1 「コラム」と「社説」の名詞比率

表1に示すように、「コラム」と「社説」の名詞比率は両方とも60.0%を超えている。「コラム」は60.7%であり、「社説」は62.9%である。両方の差が僅か2.2%であるため、t検定を行った。その結果、P値は0.001となった。つまり、「コラム」と「社説」の差は有意なものである。「社説」は名詞比率が高く、より要約的であると言える。

「コラム」間の名詞比率を比較すると、「天声人語」の名詞比率が57.4%で最も低く、「余禄」は64.7%と最も高い名詞比率を持っている。「毎日新聞」の「余禄」は他のコラムに比べ、名詞がより多く使用されていることが分かる。また、「社説」間の比較を見てみると、最も名詞比率が高いのは「読売新聞」の「社説」となり、次に「毎日新聞」、「朝日新聞」が続く。

全体的に言えば、「社説」が要約的であるが、「毎日新聞」のコラム「余禄」が社説よりも高い名詞率を持っている。「余禄」は他のコラムと異なる文体特徴を持っていることが明らかになった。

#### 4.2 MVR

MVR は形容詞、副詞、連体詞の総数の動詞の総数に対する割合である。「コラム」と「社説」の各 90 編における形容詞・副詞・連体詞の数および動詞の数を調べ、MVR を計算した。結果は表 2 にまとめる。

	自立語総数	形・副・連体詞	動詞	MVR	評語
「コラム」 (90)	16898	897	3878	23. 1	ありさま描写的
「社説」(90)	31166	1074	6969	15.4	動き描写的

表2「コラム」と「社説」の MVR による評語

表 2 によれば、「コラム」の MVR は 23.1 であり、「社説」は 15.4 である。よって、「コラム」は「ありさま描写的」となり、「社説」は「動き描写的」となる。

名詞比率と MVR の組み合わせから見ると、「コラム」は名詞比率が小さく、MVR が大きいため、ありさま描写的な文章と言える。一方、「社説」は名詞比率が大きく、MVR が小さいため、要約的な文章と位置付けられる。

## 4.3 文長

「コラム」と「社説」の平均文長とそのばらつきを計算する。結果は以下の表 3 のとおりである。

表3 「コラム」と「社説」の文長

文数	自立語数	平均文長	最大値	最小値	最大値と	標準偏差
					最小値の差	

	「天声人語」	657	6044	9.2	14. 1	6. 3	7.8	1.9
「コラム」	(朝日)							
(90)	「編集手帳」	440	4559	10.4	15.9	8.6	7. 3	1.8
	(読売)							
	「余禄」	551	6295	11.4	14.9	8. 1	6.8	1.5
	(毎日)							
	合計	1648	16898	10.3	_	_	_	1. 9
	「朝日」	839	11700	13.9	18.8	10. 9	7. 9	1. 7
「社説」	「読売」	731	10272	14. 1	17.6	13. 9	3. 7	1.5
(90)	「毎日」	750	9194	12.3	16.9	9. 5	7.4	1. 7
	合計	2320	31166	13. 4	_	_	_	1.8

表3によれば、「コラム」では平均文長が10であり、「社説」は13であった。「社説」は平均文長がやや長いことが分かる。また、新聞社ごとに見てみると、コラムにおいて、「毎日新聞」の「余禄」が最も平均文長が長く、「朝日新聞」の「天声人語」は最も短い。社説において、「読売新聞」が最も平均文長が長く、「毎日新聞」が最も短いことが分かる。

文長の標準偏差を見ると、「コラム」の方が大きいため、文章の文長が平均の10からよりばらついていることが明らかになった。さらに、文長の最大値と最小値の差を見ると、「コラム」において、「天声人語」では差が大きく、記事内で長文と短文が混在していることが分かる。一方、「余禄」は差が小さく、文長が安定していることが分かる。社説において、「朝日新聞」の「社説」では最大値と最小値の差が大きく、「読売新聞」の社説では最も差が小さい。要するに、「コラム」においても「社説」においても、「朝日新聞」の記事では長文と短文が混在して使用されていることが示唆される。

# 4.4名詞比率と文長

樺島 (1979)では、名詞の比率が高くなると文長の平均値も大きくなると述べられている。つまり、名詞と文長の間に正の相関がある。「コラム」と「社説」では名詞比率と文長の関連を明らかにするため、相関係数を計算する。結果を表 4 に示す。

相関係数として、 $\pm 0.2 \sim \pm 0.4$  は弱い相関、 $\pm 0.4 \sim \pm 0.7$  は中程度の相関、 $\pm 0.7$  以上は強い相関があるとされているが、本発表では0.4 以上を相関があると見なす。

表 4 「コラム」と「社説」の名詞比率と文長の相関関係

	相関係数
「コラム」 (90)	0. 498
「社説」(90)	0. 177

表 4 から分かるように、「コラム」では、名詞比率と文長の相関係数は 0.498 (四捨五入すると、0.5) となった。この数値は名詞比率と文長の間に相関関係があることを示している。「コラム」の文章では名詞比率が高いほど、文長も増える傾向があると言える。 一方、「社説」では相関係数が 0.177 (四捨五入すると、0.2) となり、相関があるとは言い難い。

相関係数の結果から、「コラム」では名詞比率と文長に正の関係があり、名詞比率が高い場合、より多くの情報を伝えるために文長が増える傾向があることが明らかになった。しかし、「社説」では名詞比率と文長の間に相関が見られなかった。

## 4.5 名詞比率と MVR

樺島・寿岳(1965)は名詞比率と MVR の相関に注目し、両者の間に負の相関があると指摘している。次に、名詞比率と MVR の相関係数を計算し、両者の相関を明らかにする。 結果を表 5 に示す。

表 5 「コラム」と「社説」の名詞比率と MVR の相関関係

	相関係数
「コラム」 (90)	-0.387
「社説」(90)	-0. 213

表 5 によれば、「コラム」では相関係数が-0.387 (四捨五入すると、-0.4) となり、「社説」では-0.213 (四捨五入すると、-0.2) となった。つまり、「コラム」では、名詞比率と MVR の間に弱い負の相関があり、名詞比率が増加すると、MVR は減少する傾向がある。これに対し、「社説」では相関が見られなかった。

### 5. おわりに

本発表は「コラム」と「社説」を対象に、名詞比率、MVR および文長という文体の差異を検討してきた。結果は以下のようにまとめられる。

名詞比率を見ると、「社説」は「コラム」に比べてやや高い。つまり、「社説」はより 要約的であると言える。しかし、「毎日新聞」の「余禄」では他のコラムとは異なる文体 特徴が示され、「社説」よりも高い頻度で名詞が使用されていることが分かる。

MVR から見ると、「コラム」は MVR 値が高く、「ありさま描写的」と評価され、「社説」は MVR が低く、「動き描写的」となる。名詞比率と MVR の関係から判断すると、「コラム」は名詞比率が小さく、MVR が大きいため、ありさま描写的な文章となる。一方、「社説」は名詞比率が大きく、MVR が小さいため、要約的な文章と位置付けられる。

平均文長に関して、「コラム」に比べ、「社説」が長い平均文長を持っていることが分かる。文長の標準偏差を見ると、「コラム」では標準偏差が大きいため、文章の文長が平

均から、よりばらついていることが明らかになった。さらに、文長の最大値と最小値の 差を見ると、「コラム」においても「社説」においても、「朝日新聞」の記事では最も差 が大きく、長文と短文が混在して使用される傾向があることが分かる。

また、名詞比率と文長の相関に関して、「コラム」では正の相関があり、名詞比率が高いほど文長も長くなる。一方、「社説」ではこのような相関がなかった。名詞比率と MVR 相関については、「コラム」では、名詞比率と MVR の間に弱い負の相関が見られ、名詞比率が増加すると、MVR は減少する傾向があるが、「社説」では相関が見られなかった。

本発表では、名詞比率、MVR および文長に注目し、「コラム」と「社説」の違いを明らかにした。この違いから、それぞれの構造がどのように異なるかを理解することができるだろう。さらに、同じ「コラム」もしくは「社説」であっても、違いがあることも明らかにした。しかし、政治や経済など、主題の違いによって、文体の特徴が変化する可能性があると考え、今後の課題としたい。

#### 注

- 1) 自立語とは、助詞と助動詞以外の品詞である。
- 2) 樺島・寿岳(1965)によれば、文長は1文に含まれる自立語の数である。
- 3) Web 茶まめ(https://chamame.ninjal.ac.jp/)
- 4) 各記事の品詞を集計する際に、「Web 茶まめ」の品詞大分類を参考にする。具体的には、形状詞、形容詞、助詞、助動詞、接続詞、接尾辞、代名詞、動詞、副詞、名詞、連体詞が含まれる。

### 使用資料

朝日新聞クロスサーチ https://xsearch.asahi.com/(2023年8月10日確認)

毎索 (毎日新聞データベース) https://dbs.gsearch.or.jp/WMAI/WMAI\_ipcu\_login.html (2023年8月10日確認)

ョミダス歴史館 (読売新聞データベース) https://database.yomiuri.co.jp/rekishikan/ ((2023 年 8 月 10 日確認)

Web 茶まめ https://chamame.ninjal.ac.jp/ (2023年8月13日確認)

### 参考文献

石田栄美・安形輝・野末道子・久野高志・池内淳・上田修一(2004)「文体からみた学術的文献の特徴分析」『三田図書館・情報学会研究大会発表論文集』2004年度, pp. 33-36.

樺島忠夫・寿岳章子(1965)『文体の科学』綜芸舎.

樺島忠夫(1979)『日本語のスタイルブック』大修館書店.

田貝和子 (2012)「日本語の計量的分析 ―教養ゼミナールでの試みから―」『秋田高専研 究紀要第 47 号』pp. 106-111.

前川守(1995)『1000 万人のコンピュータ科学〈3〉文学編 文章を科学する』岩波書店.

## 現代日本語におけるキャラ語尾の位置づけおよびリソースについて

### 1. はじめに

現代日本のフィクション作品において、特定のキャラクターやキャラ<sup>①</sup>を特徴づけるため、(1)と(2)「クポ」「ナリ」のような特徴的な文末表現が存在する。金水(2003)では、このような「特定のキャラクターやキャラに与えられた語尾」を「キャラ語尾」と呼んでいる。

- (1) 何かご用クポ?
- (2) 拙者が行くナリ。

定延(2007)と定延・張(2007)は、キャラ語尾という概念を拡大させ、キャラコピュラ (「だ・である」)、キャラ終助詞(終助詞に相当)、キャラ助詞<sup>②</sup>(終助詞の後ろにも現れる 自己のキャラを表す助詞)という三種類があると指摘している。

しかし、筆者の観察によれば、キャラコピュラ<sup>®</sup>に収めるべきキャラ語尾は、コピュラから逸脱する用例がある。キャラ終助詞およびキャラ助詞に収めるキャラ語尾も、元の用法と異なる用例もある。

- (3) ケロロ: 我が輩が侵略者ということを忘れるな<u>であります</u>。(『ケロロ軍曹(1stシーズン)』: 1話)
- (4) ラム:ダーリンはしのぶなんか嫌いだっちゃよお一<u>っちゃ</u>。(『うる星やつら第1シーズン』: 6話)
- (5) メップル:これは大事なしっぽメポ!! (『ふたりはプリキュア』:3話)
- (6) ドロロ: 君の青春は輝いているでござるか? (『ケロロ軍曹 (1st シーズン)』: 41 話)

(3)のように、「だ/である」のような「判定詞」(寺村 1982) に相当する「であります」、および(4)のような方言文末詞(佐藤 2009) 由来のキャラ終助詞「っちゃ」が、それぞれ終助詞の後ろに現れる用例もある。また、(5)のような形式上「キャラ助詞」と位置付けるべき「メポ」は、名詞述語を成す「だ」の位置に現れる用例もある。しかも、生起環境によって、(6)のような必ずしも上記の三分類に収められない用例もある<sup>4</sup>。ゆえに、キャラ語尾は日本語の文においてどのような位置づけなのかはまだ検討されていない。

また、キャラ語尾のリソースについて、定延・張(2007)と秋月(2012)では、キャラ助詞および動物キャラ語尾のリソースを中心に考察してきた。日本語において現存の言語形式がキャラ語尾と位置付ける考察(川瀬 2010)もある。しかし、キャラ語尾のリソースに関する全体的な検討が足りないのが現状である。

ゆえに、本発表では、現代日本語においてキャラ語尾の位置づけおよびリソースの検討を行うのが目的とする。本発表の用例は、すべて筆者自身で構築している「アニメデータベース」から集めたものである。まず、現代日本語に現存する言語形式との類似性から、「創造型」と「既存型」に分け、キャラ語尾のリソースについて検討を行う。次に、生起環境から観察を行い、(6)のような動詞述語(または形容詞述語)と終助詞の間に知れる例

環境から観察を行い、(6)のような動詞述語(または形容詞述語)と終助詞の間に現れる例を「キャラ助動詞」と名付け、日本語の文におけるキャラ語尾の位置づけを解明する。

<sup>&</sup>lt;sup>®</sup> 本発表での「キャラクター」と「キャラ」という概念は、メイナード(2023)の定義に従う。

② 定延(2005)の記述によれば、拡大された前の「キャラ語尾」にほぼ相当する。

<sup>®</sup> 本発表で扱っている「キャラコピュラ」は、形だけでなく、登場人物のキャラクターやキャラと結びついていると共に、意味機能において「主概念と賓概念を結びつく」を表すコピュラ(寺村(1984)では判定詞と呼ぶ)のことである。

<sup>®</sup> 定延(2007)の分類においては「キャラコピュラ」と位置付けられる。しかし、(6)の「でござる」は、体言または体言相当の語句に接続する用例ではないので、本発表では「キャラコピュラ」と位置付けないことにする。

# 2. 先行研究の概観

本節では、本発表に関連する先行研究を紹介する。まず、本発表においてキャラクターとキャラという概念を紹介する。次に、これまでのキャラ語尾に関連する先行研究を紹介する。最後は、先行研究のまとめと問題点である。

### 2.1. キャラクターとキャラ

フィクションの登場人物は、ステレオタイプ的なイメージを立てる話し方があれば、一時的別人のようなイメージを繰り出す話し方もある。金水(2011)では、「発話者の本来のキャラクタと異なるキャラクタを、発話を通じて臨時的に表現する場合もある」という指摘がある。メイナード(2023)は、前者を「キャラクター」、後者を「キャラ」と位置付け、キャラとキャラクターを部分と複合体の関係でとらえ、「相互連関的に作用しながら変化するイメージの複合体」であると指摘している。

# 2.2. キャラ語尾に関連する先行研究の概観

本節では、キャラクターやキャラと結びつくキャラ語尾に関する先行研究を概観する。 まずキャラ語尾において重要な下位分類に基づいて、リソースについての先行研究を概観 する。次にキャラ語尾の内部関係に関する事例研究を概観する。

# 2.2.1. キャラ語尾の下位分類とリソース

キャラ語尾の下位分類について、定延(2007)、定延・張(2007) は、キャラコピュラ、キャラ終助詞、キャラ助詞という三種類に分けている。キャラコピュラとは、コピュラの変異体と考えられる。キャラ終助詞は、話し手像が男の「ぜ」や「よ」より幼めの「お」である。キャラ助詞は、「ぴょーん」のような終助詞の後ろに現れ、キャラを際立たせるために加えられたものである。

- (7) おいどん、もともとバックプリント重視の人間でごわす。
- (8) 恥をかかされたと怒る人は、その人を恐がっても怒るんだお。
- (9) 今回の話はどうなるのかぴょーん?

(定延・張2007)

つまり、日本語において既存のコピュラ<sup>⑤</sup>と終助詞も、拡大されたキャラ語尾の枠組みに収められている。キャラ語尾の下位分類には、キャラ助詞のリソースが幅広いのである。定延・張(2007)によれば、キャラ助詞のリソースはオノマトペ、名前、鳴き声、挙動などに由来し、臨時形成的なキャラ助詞もある。秋月(2012)は、動物キャラ語尾<sup>⑥</sup>の由来について、鳴き声オノマトペ型、挙動オノマトペ型、種名型、名前型に分けている。

以上の先行研究では、キャラコピュラとキャラ終助詞は既存型のキャラ語尾に、キャラ 助詞は創造型のキャラ語尾に収められると思われる。

### 2.2.2. キャラ語尾の内部関係に関する事例研究

キャラ語尾の内部関係について、川瀬(2010)と金水(2014)は既存型のキャラ語尾 を、秋月(2012)は創造型のキャラ語尾を対象に考察している。

川瀬(2010)は、キャラ語尾「です」の統語的な特徴について考察を行い、「キャラコピュラと考えられるが、キャラ助詞のふるまいをも見せる中間的な存在」と位置付ける。 金水(2014)では、「アルヨことば」を観察し、従来の「ある語法」<sup>©</sup>は「だ/である」

<sup>®</sup> 定延(2011)では、「話し手のさまざまなキャラクタによって異なる」ため、動詞に接続する「だ/である」などもキャラコピュラに収めている。

<sup>®</sup> キャラ語尾の下位分類によれば、動物キャラ語尾は形としてキャラ助詞に収められる。

<sup>© 「</sup>ある語法」は、ピジン型のキャラ語尾として、「です」のような既存型キャラ語尾と位置付けにくいが、日本のフィクションにおいて早い時期に現れた。ゆえに、本発表では既存型に収める。

の位置に用いるが、テレビアニメ『ヘタリア』の「ある語法」は、訛った否定辞、命令形につく用例もある。キャラコピュラからキャラ助詞へ進んでいると指摘している。

秋月(2012)は動物キャラ語尾の観察を行い、「ショーアップ語(オノマトペ)→動物キャラ助詞→動物キャラ終助詞」という文法化もプロセスがあると指摘している。

上記の先行研究から、既存型のキャラ語尾「です」と「ある」は、モダリティを超えて 文の外部に進んでいるのに対し、創造型の動物キャラ語尾は、文の外側からモダリティに 拡張し、文の内部に進んでいる。

### 2.3. 先行研究のまとめと問題点

上述したように、拡大されたキャラ語尾は、特定的だけでなく、特徴的なキャラクターやキャラを喚起させるための文末表現である。しかも、キャラ語尾のリソースは既存のコピュラと終助詞があり、幅広いリソースを持つキャラ助詞もある。事例研究では、既存型の言語形式由来のキャラ語尾と創造型のキャラ語尾は、同じく動的変化が見られる。

しかし、従来の研究では、キャラ語尾のリソースおよびについて全体的に明らかにされていないのが現状である。(6)のような動詞と終助詞の間に現れる「でござる」はキャラ語尾のどの分類なのか。現代日本語の文において、キャラ語尾はどのような位置づけなのか。これらの問題点は3節で考察を行う。

## 3. 考察

### 3.1. キャラ語尾のリソースについて

筆者は自分で構築している「アニメデータベース」からキャラ語尾の用例を集め、前述 した「創造型」と「既存型」によって分類を行い、表1のようにまとめる。

キャラ語尾の分類	創造型のキャラ語尾		既存型のキャラ語尾	
キャラ語尾の用例	ニャー(160例)	鳴き声オノマトペ型	ある(51例)	ピジン型
および用例数	ブー (52例)		っちゃ (1104)	方言文末詞型
	っほ(12例)		じょ (34例)	
	ザケンナ( <b>71</b> 例)	名前完全型	ズラ(21例)	
	カール (5例)	名前短縮型	だに (5例)	
	コロ (117例)		だら (5例)	
	ペン (6例)		びよん (28例)	
	メポ(737例)		ざます (35例)	判定詞型
	ミポ (345例)		じゃ (33例)	
	ポヨ(15例)		であります(690例)	
	すっし (6例)	職業型	でござる(106例)	
			ですう(211例)	
			(なの)ですよ(33例)	
			ネ(11例)	終助詞型
			ゾ(573例)	

表1 キャラ語尾のリソース

本データベースから集めたキャラ語尾リソースは表1のようである。創造型のキャラ語尾の先行研究と一致する「鳴き声オノマトペ型」と「名前型」があり、「名前型」は、さらに「名前完全型」と「名前部分型」に分けられる。それに、発話人物の名前と音と異なり、どのような職業に従事するという特徴も創造型のキャラ語尾のリソースの一つであり、「職業型」と名付ける。既存型のキャラ語尾は、先行研究の指摘した「判定詞型」と「終助詞型」のほか、「ピジン型」、「方言文末詞型」がある。3.2節では、具体的な用例を取り上げて、キャラ語尾の新たな下位分類について考察を行う。

# 3.2. キャラ助動詞というキャラ語尾の新たな下位分類

なぜキャラ助動詞と名付けるかについて、「判定詞型」のキャラ語尾の用例を通して説 明する。「判定詞型」のキャラ語尾®は、基本的にキャラコピュラの用法であるが、キャラ コピュラから逸脱する用法もある。

- (10)石川五ェ門:目立つ行動は危険でござるぞ。(『ルパン三世 PART Ⅲ』:6話)
- (11)ケロロ軍曹: ゲローッ どうすればいいでありますかぁー。

(『ケロロ軍曹(1st シーズン)』:8話)

(12)ケロロ軍曹:な 夏美殿も一緒に行くでありますか?

(『ケロロ軍曹(1stシーズン)』: 20話)

- (13)スネ夫のママ:こっ これって…。どうなってる<u>ざます</u>? (の) (『ドラえもん』: 484
- (14)タママ:クルル曹長、あの女も逃がすなですう!

(『ケロロ軍曹(1st シーズン)』: 22 話)

(10)はキャラコピュラの用例で、(13)と(14)は、それぞれキャラ終助詞とキャラ助詞の用 例である。(11)と(12)の用例は、活用語と終助詞の間に現れ、活用はしない®のが特徴的で ある。現代日本語において丁寧さを表す「です」<sup>⑩</sup>と似ている。寺村(1984)では「判定 詞」の「です」と区別し、活用語と終助詞の間にも現れる「です」を「助動詞」<sup>⑩</sup>と位置 付ける。キャラ終助詞と異なり、主に前接する活用語のために働いている。丁寧さの「デ ス 2」(益岡 2007) と同じ、文の成立において必要な要素である。ゆえに、(11)と(12)のキ ャラ語尾は、キャラ助動詞と位置付ける。「判定詞型」のキャラ語尾は、キャラコピュラ から、キャラ助動詞とキャラ終助詞を経由し、キャラ助詞まで拡張するという動的変化が あると考えられる。

それに対し、創造型のキャラ語尾は、文の外側に位置づくキャラ助詞からキャラ終助詞 とキャラ助動詞を経由し、キャラコピュラまで拡張する現象がある。

- (15)富田太郎: 退治してくんなきゃ学級委員の資格ないぞブー! (『ちびまる子ちゃん』: 1244 話)
- (16)メップル: なぎさ~~! なぎさ~~~!! 美墨なぎさ:だめよメップル、学校にいる間はねむってる約束でしょ… メップル:何を寝ぼけてるメポ! (か/の)(『ふたりはプリキュア』:18話)
- (17)コロリちゃん:双葉さん、双葉さん、ぐったりしてる暇はないコロよ。(『それが声 優!』:1話)
- (18)コロリちゃん:一月半ぶりのオーディションだったから、双葉さん随分落ち込んだ コロね。(『それが声優!』: 13 話)
- (19)ポヨン:実はこいつらタレントと偽った宇宙犯罪者<u>ポヨ</u>。 (『ケロロ軍曹(1st シーズ ン)』:11話)

(15)は、終助詞「ぞ」の後ろに現れるキャラ助詞であり、(16)は、疑問詞「か/の」の機 能を果たすキャラ終助詞である。(17)と(18)は、活用語と終助詞の間に現れるキャラ助動詞 だと思われ、(19)は、判定詞のコピュラと同じ効果を持つキャラコピュラである。

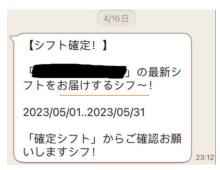
⑤ 「判定詞型」のキャラ語尾には、推量形の用例は活用語に後接して推量を表すから、本調査の範囲外とする。

<sup>®</sup> 日本語の助動詞には「だろう」のような活用できない助動詞がある。

<sup>◎</sup> 研究者によって、「断定の助動詞」、「指定詞」などのような言い方があるが、本発表では寺村(1984)の用語、「判定 詞」と「助動詞」を使う。

<sup>&</sup>lt;sup>⑩</sup> 砂川(2012)では、丁寧さの「です」の「活用しない」という特徴から、「終助詞化」と位置付けられたが、本発表で は寺村(1984)の「助動詞」の用語を使う。

キャラ助動詞は、主に前接する活用語のために存在し、SNSでも同じ用例が現れる。図1のようにLINEでのシフト管理システム「らくしふ」に現れた「創造型」のキャラ語尾の例である。



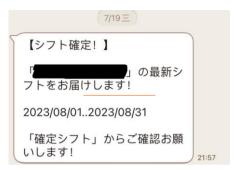


図1 キャラ語尾の付いている用例

図2 キャラ語尾を取った用例

図1において、「創造型」のキャラ語尾「シフ」が付いているが、図2において、「シフ」がなくなった場合の用例である。図1の下線部の「~するシフ」は、図2においては「~します」になっている。つまり、動詞「する」の基本形につき、図2の「~します」と同じ働きを果たすことが示されている。

つまり、キャラ助動詞は、丁寧さの「デス2」と似ている位置につくが、登場人物の丁寧さではなく、特徴的なキャラクターやキャラと結びつくためのキャラ語尾の下位分類の一つである。

## 3.3. 現代日本語の文におけるキャラ語尾の位置づけ

これまで記述したように、キャラ語尾の下位分類から見れば、キャラ語尾は、日本語の文において「コト」の部分には入らずに、コピュラの位置につくキャラコピュラから、終助詞の後ろ<sup>®</sup>にも現れるキャラだけを表すキャラ助詞まで渡っている。「創造型」のキャラ語尾は「形としては変わらない」という特徴があり、「既存型」のキャラ語尾は、「判定詞型」のキャラ語尾がキャラコピュラの機能を果たす場合に活用できるが、キャラコピュラから逸脱したら活用できなくなる。「終助詞型」のキャラ語尾と「方言文末詞型」のキャラ語尾(例(4))は、特徴的なキャラクターやキャラと結びつく場合、元の文法機能と同じ用法があれば、キャラ助詞への拡張のような用法がある。

(20) (幼稚園で昼ご飯を食べるシーン)

野原しんのすけ:フウ… お腹減ったゾ~。

(弁当を開けて)

うわつ! 昼もですか…!

(場面が変わる)

野原みさえ:う~ん 2日目にして早くもレパートリーが尽きたわ。

これから どうしよう?そうだ! いい考えが。

(『クレヨンしんちゃん』: 965 話)

(20)は野原しんのすけの独話場面の発話である。しんのすけを特徴づけるカタカナ表記の「ゾ」は、(20)の独話場面では、平仮名表記の「ぞ」の独話場面における「既存の認識が変化する」(野田 2002) という意味がなく、わざとしんのすけの特徴的なキャラクターを提示するためのキャラ助詞である。

<sup>®</sup> 厳密に言えば「発話の終わりらしい終わりの部分」である。挨拶表現や感動詞などのような独立成分だけで存在する 文の後ろに付く場合、発話の終わりの部分に位置付けられる。つまり、直接に独立成分の文につくキャラ語尾は、既存 型でも創造型でも、キャラ助詞だと思われる。

つまり、キャラ語尾の日本語の文における位置づけは、図3のようである。

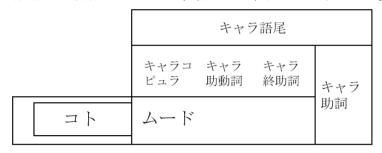


図3 日本語の文におけるキャラ語尾の位置づけ

### 4. おわりに

本発表では、先行研究を踏まえ、現代日本語におけるキャラ語尾の位置づけとリソースを検討した。キャラ語尾のリソースについて、現代日本語の言語形式との類似性から、

「創造型のキャラ語尾」と「既存型のキャラ語尾」に分けている。活用語と終助詞の間に現れるキャラ語尾を、キャラ助動詞と名付け、キャラ語尾の新しい分類を提唱している。キャラ語尾の4分類に基づき、日本語の文におけるキャラ語尾の位置づけを明らかにしている。キャラ語尾の内部における動的変化があるという現象は、特徴的なキャラクターやキャラに結びついていると気づいたが、その理由の解明は今後の課題にしたい。

# 参考文献:

秋月高太郎(2012)「動物キャラクターの言語学」、 尚絅学院大学紀要 64:43-57.

益岡隆志(2007)『日本語モダリティ探求』. くろしお出版.

川瀬卓(2010)「キャラ語尾「です」の特徴と位置付け」. 九州大学学術情報リポジトリ. 文獻探究. 48. 1-14.

金水敏(2003)『ヴァーチャル日本語--役割語の謎』. 岩波書店.

金水敏 (2011)「現代日本語の役割語と発話キャラクタ」. 金水敏 (編). 『役割語研究の展開』. くろしお出版. 7-16.

金水敏(2014)『コレモ日本語アルカ?--異人のことばが生まれるとき』、岩波書店、

定延利之(2005)『ささやく恋人、りきむレポーター――口の中の文化』、岩波書店、

定延利之(2007)「キャラ助詞が現れる環境」. 金水敏(編). 『役割語研究の地平』. 27-48. 東京: くろしお出版.

定延利之・張麗娜 (2007)「日本語・中国語におけるキャラ語尾の観察」. 彭飛 (編). 『日中対照言語学研究論文集』. 99-119. 和泉書院.

定延利之(2011)「キャラクタは文法をどこまで変えるか?」. 金水敏(編). 『役割語研究の展開』. くろしお出版. 17-26.

佐藤亮一(2009)『都道府県別 全国方言辞典』. 三省堂.

砂川有里子(2012)「丁寧さのモダリティ―「です」と「ます」の文法化」. 富谷玲子・堤正典(編). 『神奈川大学言語学研究業書 2 モダリティと言語教育』. ひつじ書房. 1-20.

泉子・K.メイナード(2023)『ミステリードラマの日本語』. くろしお出版.

寺村秀夫(1982)『日本語のシンタクスと意味 I』. くろしお出版.

寺村秀夫(1984)『日本語のシンタクスと意味Ⅱ』. くろしお出版.

野田春美(2002)「第8章 終助詞の機能」。宮崎和人・安達太郎・野田春美・高梨信乃(2002) 『新日本語文法選書 4 モダリティ』。くろしお出版。

# 現代語における二重撥音化と撥音連続回避現象

坂本 麻輝 (金沢大学大学院生)

### 1. 研究対象と目的

本稿では、現代日本語における次のような音韻現象を扱う。

(1) それ聞いたらわか<u>ん</u>だけど#そうゆうふうには聞こえなかったよな

「わかる+のだけど」 (CEJC: 会話 ID T015 005, 開始位置 59660)

- (2) どうすんだろうってゆってるけど [どうする+のだろう] (CEJC: T023\_007,69700)
- (3) あたしねマカロンね自分があんま好きじゃないからあんま作りたくないなって 思って**ん**だよね [思って**る**+のだよね] (CEJC: C001\_003, 48620)

この現象は「ラ行音の脱落」と説明されることがある。近藤(2005:291-292)は、ラ行音に脱落を生じた用例を整理する中で、(4)を「ノダ形のまえの動詞語尾のルの省略」の例として掲げる。

(4) a. 「お鍋でも焦がして $\underline{\lambda}$ じゃないの?」コガシテ $\underline{\nu}$  (p.291)

b. 「馬鹿かお前ら。男女でおどんだよ」 オドル (p.292)

また、福池 (2020:85-86) は漫画作品におけるラ行音の撥音化傾向を分析するにあたり、(5)を「ラ行音の脱落」の例として掲げ、その脱落の過程を「「ル」が撥音化し、さらに後続の撥音と同化したものと考えると、この類の脱落もラ行音の撥音化の一種と言える」と説明する。この説明は、音脱落に加えて「る」の撥音化を考慮している点で、近藤 (2005) の説明と異なる。

(5) 発話例 6-2 『きのう何食べた?』3巻 p.45

ケンジ: へー 東京でも そういう行事って やるもんなの?

史郎: いやー あんまりないだろ お隣にお孫さんが生まれてから毎年みんなでやってんだって (pp.86-87)

しかし、以上の分析にはいくつかの問題点が指摘できる。まず、単純に「る」が脱落したのであれば、(1')「わかるのだけど」が「\*わかのだけど」となる変異もあり得るはずである。しかし、実際には「\*わかのだけど」は不適格であり、この分析の予測とは一致しない。この不一致は、「の」の撥音化が当該現象の音韻プロセスとして考慮されていないという問題点によって生じている。さらに、先行研究では(4)(5)の撥音が準体助詞と見做されている点にも問題がある。「る」と「の」のどちらにも撥音化が生じ得ることを考慮する場合、当該現象が生じた(1)~(5)の撥音は、形態的には「る」と「の」のどちらに由来するものであるかを明確に区別することはできない。先行研究で「る」が脱落したようにみえるのは、このような形態的曖昧性を有する(1)~(5)の撥音を準体助詞と見做しているからである。これらの問題点より、当該現象を単純に「る」の脱落とみることは妥当ではないといえる。

一方、以上とは異なる観点から分析をおこなう先行研究も存在する。斎藤 (1986:213,218-219) は、「の」の撥音化に関わる制約を検討する中で、「帰る $\underline{o}$ だ」のように「語幹が/r/で終わる子音語幹動詞、母音語幹動詞、および不規則動詞の現在形」(p.213)に「のだ」が後続するとき、その動詞の末尾「る」と「の」のどちらかもしくは両方が撥音化する形(「帰 $\underline{o}$ だ~帰る $\underline{o}$ だ~帰んだ」)が存在し得ることを指摘している。とくに、「る」と「の」の両方に撥音化が生じる場合について、その撥音化によって生じる/NN/という連続を/N/にする「/NN/単純化規則」が適用されることで、「帰んだ」のような語形が生じると説明する。斎藤(1986)は動詞の場合しか想定していないが、「の」の撥音化を考慮している点で、「ラ行音の脱落」よりも妥当な分析

だといえる。

以上を踏まえ、本稿では当該現象を次のように説明する。すなわち、助動詞/動詞連体形語末拍「る」と準体助詞「の」が連続するとき、「る」の撥音化 (e.g.今何して $\mathbf{3}$ 0~して $\mathbf{6}$ 0の) と「の」の撥音化 (e.g.本当に見た<u>の</u>だ~<u>ん</u>だ) が二重に生起することで生じる撥音連続が、撥音は連続して現れることができないという音素配列則上の制約\*NN によって回避され、単モーラ化 (/NN/ $\rightarrow$ /N/) する結果として(1)~(5)の形が現れる、と説明する。この分析は、「ラ行音の脱落」からは予測される「\*わかのだけど」が予測されない点で優れており、また(1)~(5)の撥音が形態的曖昧性を有する点についても、「る」と「の」の撥音化で生じた/NN/が単モーラ化によって回避される過程に、その理由を求めることができる。

本稿では、「る」と「の」の撥音化が重なって生じる現象を「二重撥音化」と呼び、この二重撥音化と単モーラ化という音韻プロセスを経て生じる一連の現象を「撥音連続回避現象」と呼ぶこととし、これら二重撥音化と撥音連続回避現象を研究対象とする。

### 2. 「撥音化」に関する先行研究

本節では、撥音連続回避現象の音韻プロセスの一つ「撥音化1」に関する先行研究を概観する。まず、「の」の撥音化に関する先行研究には、那須(1996)、小磯他(2005)、野間(2022)等がある。とくに、小磯他(2005)は『日本語話し言葉コーパス』(CSJ)を用いた調査を通して、助詞「の」の撥音化に関わる言語内/外的要因を検討する。たとえば、準体助詞に助動詞「です」「だ」が後続する場合に極めて高い確率で撥音化が生じていることが調査結果に認められたことから、(後部)歯茎音[d, s, 3]が後続するという音環境が撥音化の言語内的要因として分析されている²。さらに、野間(2022)では『日本語日常会話コーパス』(CEJC)と『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(BCCWJ)を使用し、準体助詞「の」の撥音化条件について検討がなされており、話し言葉か書き言葉かというスタイルの違い、そして「です」「だ」の後続の有無が撥音化の生起に関わると分析する。

次に、「わからない~わかんない、来るな~来んな、それじゃ~そんじゃ」といった例にみられるラ行音全般の撥音化については、ラ行拍に鼻音あるいは有声音が後続する多様な環境で生じることが知られている(土岐 1975/2002; 斎藤 1986/1991; 中村他 2003; 近藤 2005; 福池 2020 等)が、撥音化の要因についての詳細な検討はほとんどなされていない。個別のラ行拍の撥音化について検討する研究(那須 2015 等) はあるが、本稿で扱う連体形語末拍「る」の撥音化の生起に関わる要因を検討する研究はなく、またラ行音の撥音化を対象としたコーパス調査も管見の限りおこなわれていない。

以上より、本稿では撥音連続回避現象(以下、回避現象)と連体形語末拍「る」の撥音化を対象に、コーパス調査をおこなう。次節以降では、回避現象と「る」の撥音化の各生起頻度の調査、および各現象が生起した語の後続環境の調査を通して、各現象の生起条件を検討する。

-

 $<sup>^1</sup>$ 「撥音化」という語は、ある分節音の連続が[n]等の鼻音として実現される音声的変異を指すのか、/rV/ないし/no/と/N/の音韻的交替を指すのか等が曖昧で、多義的な術語である。この術語の厳密な定義には、「る」と「の」の撥音化が同じ音声学・音韻論レベルで扱うべき現象か否かという問題(cf.岡田 2006)もかかわるが、本稿ではこの問題を紙幅の都合上扱うことができない。よって、本稿では「撥音化」を、/ru/ないし/no/が撥音/N/として実現される現象を指す語としてとりあえず用いる。

 $<sup>^2</sup>$  ただし、小磯他(2005:11)は「助詞「の」に歯茎音が後続する音環境であっても、撥音化率は必ずしも同じではない」とも指摘する。本稿 4.1 節の調査結果にも一部認められるように、「の」に「で」が後続する場合や、「が、か、は」等の助詞が後続する場合には、撥音化頻度が他の後続語の場合と比べて著しく低くなるという。小磯他(2005)は、このように撥音化頻度が低くなる要因についても検討している。

### 3. 調査方法

調査資料には CEJC と BCCWJ を使用し、検索には「中納言」(短単位検索、コア・非コア)を使用する。検索対象となる助/動詞は、連体形の助動詞「てる、れる、られる、せる、させる」と動詞「~る」である。調査には、次の検索条件によって得られたデータを使用する。回避現象の生起頻度の調査では、キーを【品詞:助動詞/動詞,語彙素:てる/れる/られる/せる/させる/%る,活用形:連体形】とし、後方共起条件に【語彙素:の】を設定する。回避現象を生じた助/動詞の後続環境の調査では、キーを【条件を指定しない】とし、前方共起条件1に【品詞:助動詞/動詞,語彙素:%る,活用形:連体形】、前方共起条件2に【語形:の/ん】を設定する。そして、「る」の撥音化頻度の調査では、キーを【品詞:助動詞/動詞,語彙素:てる/れる/られる/せる/させる/%る,活用形:連体形】と設定する。「る」の後続環境の調査では、キーを【条件を指定しない】とし、前方共起条件に【品詞:助動詞/動詞,語彙素:%る,活用形:連体形】を設定する。なお、回避現象を生じた助/動詞の用例は【連体形ー省略】で、「る」に撥音化を生じた助/動詞の用例は【連体形ー撥音便】でみることができる。ただし、回避現象によって生じる撥音は、コーパス上では助/動詞とは別の形態素として登録されている。

#### 4. 調査結果と分析

### 4.1 撥音連続回避現象

まず、各コーパスにおける回避現象の生起頻度を調査した結果を表1に示す。「(非)回避形」 とは、ここでは回避現象が生じた(生じていない)助/動詞を指す。

表 1. 各コーパスにおける回避現象の生起頻度 $^3$ 

	数 1. 自 1 / 八 1 6 6 7 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6										
「てる」	回避現象生	起頻度(	$\chi^2 = 2245$	.29, df=1	, p<.001)	「れる」	回避現象生	起頻度(	$\chi^2 = 1265$	.50, df=1,	p<.001)
	回過	迚	非回流	壁形	総数		回過	迚	非回	避形	総数
CEJC	1541	28.99%	3775	71.01%	5316	CEJC	22	10.00%	198	90.00%	220
BCCWJ	1267	6.21%	19123	93.79%	20390	BCCWJ	0	0.00%	13239	100.00%	13239
「せる」	「せる」回避現象生起頻度( $\chi^2$ =67.27, df=1, p<.001) 「られる」回避現象生起頻度( $\chi^2$ =249.71, df=1, p<.001)										
	回過	产	非回流	壁形	総数		回過	部	非回	避形	総数
CEJC	2	4.88%	39	95.12%	41	CEJC	5	6.02%	78	93.98%	83
BCCWJ	0	0.00%	2477	100.00%	2477	BCCWJ	0	0.00%	5131	100.00%	5131
「させる」	」回避現象	生起頻度	$(\chi^2 = 12.6)$	60, df=1,	p<.001)	動詞 回過	<sup></sup>	頁度(χ²=	8207.96,	df=1, p<.	001)
	回過	迚	非回流	壁形	総数		回過	部	非回	避形	総数
CEJC	1	20.00%	4	80.00%	5	CEJC	882	8.82%	9116	91.18%	9998
BCCWJ	0	0.00%	261	100.00%	261	BCCWJ	60	0.06%	99940	99.94%	100000

表1全体をみると、助/動詞どちらについても、BCCWJよりも CEJC で回避現象の生起頻度が高いことがわかる。したがって、回避現象は書き言葉(文字言語)よりも話し言葉(音声言語)で生じやすい現象であるといえ、話し言葉か書き言葉かというスタイルの違いが回避現象の生起条件の一つだと考えられる。さらに、表1を詳しくみると、「てる」を除く助/動詞において回避現象は基本的に、書き言葉では生じず、話し言葉で生じる現象であるといえる。一方、「てる」の場合は他の助/動詞よりも、話し言葉と書き言葉のどちらのスタイルにおいても回避現象の生起頻度が高くなっており、他形式と比べて回避現象が生じやすい形式だと考えられる。このように、個々の助/動詞によっても回避現象の生起頻度が異なることがわかる。

次に、CEJCにおける非/回避形それぞれの後続環境を調査した。非回避形には、「る」「の」ともに撥音化が生じていない形「るの」と、「る」にのみ撥音化が生じた形「んの」、「の」にのみ撥音化が生じた形「るん」の3通りが想定できる。よって、非回避形については、「るの」「んの」「るん」それぞれの後続環境の分布を調査した。なお、「の」に撥音化を生じた回避形

 $<sup>^3</sup>$  BCCWJの「れる」「られる」には、ともに検出された用例「るる/るゝ」「らるる/らるゝ」を含まない。また、BCCWJの動詞はその検索結果が 100,000 件を超えたため、「中納言」の仕様上そのうちの 100,000 件をダウンロードし、そのデータを調査に用いる。(4.2 節の表 3 においても同様)

および「るん」の後続環境の分布については、先行研究(2節参照)から予想することができる。 小磯他(2005)の調査によれば、準体助詞に(「だ」の連用形「で」を除く)助動詞「です」「だ」 が後続する場合に、極めて高い確率で撥音化が生じるという。したがって、回避形および「るん」 の後続環境に分布する多くの語は「です」「だ」である、という予測が成り立つ。以上を踏まえ、 非/回避形の後続環境の調査結果を表2にまとめた。

表2. CEJC における非/回避形の後続環境の分布

助動詞の非/回避形の後続語の分布 (CEJC)

切割削の弁/ 凹速形の後腕指のが布(CEJC)										
助動詞	回避形		Γる	の」 「るん」		「んの」		「の」 +® ÷ //-	回避現象	
後続語	(総数1	,570)	(総数	731)	(総数1	,431)	(総数	700)	撥音化	生起頻度
		· ′	,,,,,,	-			,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,		頻度	
です	250	15.92%	0	0.00%	545	38.09%	0	0.00%	100.00%	31.45%
終止形「です」	119	7.58%	0	0.00%	442	30.89%	0	0.00%	100.00%	21.21%
終止形省略「す」	45	2.87%	0	0.00%	54	3.77%	0	0.00%	100.00%	45.45%
未然形「でしょ」	66	4.20%	0	0.00%	28	1.96%	0	0.00%	100.00%	70.21%
意思推量形「でしょう」	19	1.21%	0	0.00%	17	1.19%	0	0.00%	100.00%	52.78%
連用形「でし」	1	0.06%	0	0.00%	4	0.28%	0	0.00%	100.00%	20.00%
だ	1307	83.25%	106	14.50%	858	59.96%	4	0.57%	95.16%	57.45%
終止形「だ」	962	61.27%	3	0.41%	613	42.84%	1	0.14%	99.75%	60.92%
連用形融合形「じゃ」	206	13.12%	1	0.14%	76	5.31%	0	0.00%	99.65%	72.79%
連用形「だっ」	17	1.08%	2	0.27%	16	1.12%	0	0.00%	94.29%	48.57%
未然形「だろ」	39	2.48%	0	0.00%	6	0.42%	0	0.00%	100.00%	86.67%
意思推量形「だろう」	69	4.39%	0	0.00%	31	2.17%	0	0.00%	100.00%	69.00%
連用形「で」	12	0.76%	100	13.68%	115	8.04%	3	0.43%	55.22%	5.22%
仮定形「なら」	2	0.13%	0	0.00%	1	0.07%	0	0.00%	100.00%	66.67%
合計	1557	99.17%	106	14.50%	1403	98.04%	4	0.57%	96.42%	50.72%

動詞の非/回避形の後続語の分布 (CEJC)

動詞 後続語	回過(総数		「る (総数2	_	「る (総数4	_	「ん( (総数)	_	「の」 撥音化 頻度	回避現象 生起頻度
です	132	14.97%	2	0.09%	1301	30.21%	1	0.14%	99.79%	9.19%
終止形「です」	68	7.71%	2	0.09%	1025	23.80%	0	0.00%	99.82%	6.21%
終止形省略「す」	4	0.45%	0	0.00%	136	3.16%	0	0.00%	100.00%	2.86%
未然形「でしょ」	48	5.44%	0	0.00%	72	1.67%	0	0.00%	100.00%	40.00%
意思推量形「でしょう」	12	1.36%	0	0.00%	49	1.14%	1	0.14%	98.39%	19.35%
連用形「でし」	0	0.00%	0	0.00%	19	0.44%	0	0.00%	100.00%	0.00%
だ	740	83.90%	377	16.85%	2903	67.40%	2	0.28%	90.58%	18.40%
終止形「だ」	526	59.64%	3	0.13%	2023	46.97%	1	0.14%	99.84%	20.60%
連用形融合形「じゃ」	133	15.08%	0	0.00%	371	8.61%	0	0.00%	100.00%	26.39%
連用形「だっ」	11	1.25%	0	0.00%	136	3.16%	0	0.00%	100.00%	7.48%
未然形「だろ」	16	1.81%	0	0.00%	17	0.39%	0	0.00%	100.00%	48.48%
意思推量形「だろう」	51	5.78%	1	0.04%	142	3.30%	0	0.00%	99.48%	26.29%
連用形「で」	3	0.34%	371	16.58%	196	4.55%	1	0.14%	34.85%	0.53%
仮定形「なら」	0	0.00%	2	0.09%	18	0.42%	0	0.00%	90.00%	0.00%
合計	872	98.87%	379	16.93%	4204	97.61%	3	0.42%	93.00%	15.98%

表2の結果は、先述の予測とおおよそ一致している。助/動詞どちらにおいても、回避形および「るん」の後続環境には「です」「だ」が多く分布しており、また「です」「だ」が後続する場合に「の」の撥音化頻度(回避形+「るん」/総数)が非常に高くなっていることがわかる。また、「で」が後続する場合には撥音化頻度・回避現象生起頻度ともに低くなっていることも、先述の予測と一致する。このように、非回避形「るの」「んの」と異なり、「の」に撥音化を生じた回避形および「るん」の後続環境には「です」「だ」が広く分布していることが確認された。他に表2で注目される点は、「の」の撥音化頻度と回避現象生起頻度の差である。「の」については、「で」を除くすべての後続語において極めて高い確率で撥音化が生じている。一方、回避現象ついては、後続語による違いはあるが、全体として「の」の撥音化頻度と比べ非常に低いことがわかる。これは、話し言葉における「る」の撥音化頻度が、小磯他(2005)や野間(2022)で調査された「の」の撥音化頻度と比べて非常に低く、「る」の撥音化が「の」の撥音化よりも生起しにくい(次節表3参照)ことに起因していると思われる。つまり、回避現象は「る」と「の」の二重撥音化という音韻プロセスを経て生じる現象であるが、「る」の撥音化頻度の低さが、二重撥音化ひいては回避現象の生起頻度の低さに影響していることが考えられるのである。

### 4.2 「る」の撥音化

まず、各コーパスにおける助/動詞連体形語末拍「る」の撥音化の生起頻度を調査した結果を、表3に示す。「(非)撥音化形」とは、ここでは「る」に撥音化を生じた(生じていない)助/動詞を指す。表3全体をみると、助/動詞どちらについても、BCCWJよりもCEJCで撥音化頻度が高いことがわかる。したがって、回避現象と同様に、「る」の撥音化は書き言葉よりも話し言葉で生じやすい現象であるといえ、話し言葉か書き言葉かというスタイルの違いが「る」の撥音化の生起条件の一つだと考えられる。さらに、表3を詳しくみると、「てる」を除いた助/動詞の撥音化は基本的に、書き言葉では生じず、話し言葉で生じている一方で、「てる」の場合は他の助/動詞よりも、話し言葉と書き言葉のどちらにおいても撥音化が生じている。このように、個々の助/動詞によっても「る」の撥音化頻度が異なることがわかる。

表 3. 各コーパスにおける「る」の撥音化頻度 <sup>4</sup>

「てる」撥音化頻度( $\chi^2$ =5707.03, df=1, p<.001)								
	撥音	化形	総数					
CEJC	3227	37.34%	5415	62.66%	8642		CEJC	
BCCWJ	1195	4.96%	22904	95.04%	24099		BCCV	
「せる」	撥音化頻度	$\xi (\chi^2 = 33)$	39.86, df=	1, p<.001	)		「らオ	
	撥音	化形	非撥音	総数				
CEJC	9	9.38%	87	90.63%	96		CEJC	

BCCM1	16	0.14%	11619	99.86%	11635						
「させる」	「させる」撥音化頻度( $\chi^2$ =80.33, df=1, p<.001)										
	撥音	化形	非撥音	総数							
CEJC	2	14.29%	12	85.71%	14						
BCCWJ	0	0.00%	1007	100.00%	1007						

「れる」撥音化頻度(χ²=6890.28, df=1, p<.001)								
	撥音	化形	非撥音	総数				
CEJC	57	14.92%	325	85.08%	382			
BCCWJ	0	0.00%	46948	100.00%	46948			

_ られる.	001)				
	撥音	化形	非撥音	総数	
CEJC	21	11.35%	164	88.65%	185
BCCWJ	0	0.00%	14755	100.00%	14755

総数		動詞 撥音化頻度(χ²=14790.01, df=1, p<.001)									
邢安义	音化形	非担	化形								
17324	84.88%	1470	15.12%	2620	CEJC						
100000	99.91%	9991	0.09%	89	BCCWJ						
_											

次に、CEJC における非/ 接音化形それぞれの後続環境を調査した。その結果、非接音化形と比べ、接音化形の後続環境の分布には大きな偏りが存在することがわかった。表 4 は、非/ 接音化形に後続する「の/ん」の分布を示している。この表から、接音化形に後続する語のほとんどは準体助詞「の」であり、これは「の」以外にも様々な語が後続する非接音化形の分布と大きく異なることがわかる。このような後続環境の分布から、「後続子音=歯茎鼻音[n]」が「る」の接音化の音声的条件となることが考えられる。そして、「る」の接音化は歯茎鼻音[n]が後続するとき「母音[u]の脱落」と「[r]の後続子音[n]への同化」という音韻プロセスを経て生じる現象だと考えることができる。

表 4. CEJC における非/撥音化形の後続環境の分布 <sup>6</sup>

助動詞 非/撥音化形の後続語「の/ん」(CEJC)

別判門 升/版目に応め接続品「め/ん」(6日6)							
助動詞 撥音化形 (総数1,753)			非撥音化形 (総数6,116)				
1712	97.66%	995	16.27%				
653	37.25%	717	11.72%				
1059	60.41%	278	4.55%				
_	-	1434	23.45%				
_	_	1429	23.36%				
_	_	5	0.08%				
1712	97.66%	2429	39.72%				
	撥音 (総数1 1712 653 1059 — —	接音化形 (総数1,753) 1712 97.66% 653 37.25% 1059 60.41%	操音化形 (総数1,753) (総数 1712 97.66% 995 653 37.25% 717 1059 60.41% 278 1434 - 1429 - 5				

動詞 非/撥音化形の後続語「の/ん」(CEJC)

動詞	撥音	化形	非撥音化形		
後続語	(総数1	(総数1,738) (総数14,7			
Ø	1709	98.33%	3074	20.91%	
助詞-準体助詞	661	38.03%	2207	15.01%	
助詞-終助詞	1048	60.30%	867	5.90%	
٨	_	_	4323	29.40%	
助詞-準体助詞	_	_	4309	29.30%	
助詞-終助詞	-	_	14	0.10%	
合計	1709	98.33%	7397	50.31%	

<sup>4</sup> 表3における撥音化形の用例には、回避現象を生じた用例も含まれている。

助動詞: もん(終助詞 13/0.74%), 時(名詞 4/0.23%), とこ(名詞 2/0.11%) …後続子音[m,t]

動 詞: もん(終助詞 1/0.06%), 時(名詞 7/0.40%), ところ(名詞 1/0.06%), わけ(名詞 1/0.06%), だけ(副助詞 1/0.06%), だろ(助動詞 1/0.06%) …後続子音[m, t, w, d]

(丸括弧内左の数字は用例数、右は総数に占める割合)

 $<sup>^{5}</sup>$  ただし、「後続子音=歯茎鼻音[n]」という条件を満たさない後続語も、少数ではあるが存在する。その例を以下に掲げる(誤解析・フィラー・言いよどみ・言い直しを除く)。これらの例が「る」の撥音化の生起にどのように関わっているのかについては、今後の課題としたい。

<sup>6</sup> 表 4 において「撥音化形+ん」の用例数を示していない。これは、撥音化形に「ん」が後続するときにはその撥音連続が単モーラ化された形としてコーパス上に現れており、表 4 の検索条件では検出されないためである。

### 5. 考察

まず、「る」の撥音化については、話し言葉か書き言葉かという「スタイルの違い」と「後続子音=歯茎鼻音[n]」の2つの生起条件が明らかになった。このうち、前者は「の」の撥音化と共通する一方、後者の音声的条件は「の」の撥音化条件「後続子音=歯茎阻害音[d, s, 3]」とは異なる。どちらの撥音化も母音脱落と同化という音韻プロセスを経るが、この音声的条件の差異は、母音脱落と同化の内実が「る」と「の」では異なることを意味する。つまり、同じ「撥音化」とはいえ、その生起の過程や動機は「る」と「の」で必ずしも同一ではないのである。

回避現象ついては、「る」と「の」の撥音化と同様に、話し言葉か書き言葉かという「スタイルの違い」がその生起に関わることが明らかになった。そして、後続環境の調査では、「の」に撥音化を生じた回避形と「るん」のどちらにおいても、その後続環境に「です」「だ」が広く分布していることが確認された。この分布は、「の」の撥音化の音声的条件「後続子音=歯茎阻害音[d,s,3]」を、回避現象の生起条件としても見做すことができることを意味する。そして、このような生起条件の一致は、回避現象が「スタイルの違い」という生起条件を「る」ないし「の」の撥音化と共有している点や、回避現象生起の前提となる統語的環境「るの」が「る」の撥音化の音声的条件「後続子音=歯茎鼻音[n]」を満たしている点にも認められる。つまり、回避現象の生起には、「る」の撥音化と「の」の撥音化それぞれの生起条件が関与することが考えられるのである。これは換言すると、回避現象は、「る」の撥音化ないし「の」の撥音化と生起条件を共有しているということである。このような回避現象と「る」ないし「の」の撥音化の関係は、回避現象が経由する音韻プロセスが二重撥音化であることを踏まえれば、十分に予想し得ることではあるが、コーパス調査をおこなうことによって、具体的にどのような撥音化条件が回避現象と共有されるのかを実証的に示すことができたといえる。

#### 6. まとめと今後の課題

本稿では、二重撥音化と撥音連続回避現象を研究対象とし、コーパス調査を通して、撥音連続回避現象および「る」の撥音化の生起条件を検討した。その結果、「る」の撥音化条件として「スタイルの違い」と「後続子音=歯茎鼻音[n]」が明らかになった。そして、撥音連続回避現象は、「る」の撥音化ないし「の」の撥音化と生起条件を共有することを示した。

ただし、本稿で検討した生起条件が全てというわけでは決して無い。たとえば、4節の調査結果に認められた、助/動詞によって「る」の撥音化および撥音連続回避現象の生起頻度が異なるという語彙的な問題や、「る」と「の」の撥音化頻度の違い、等については本稿では十分に議論できなかった。今後は、本稿では扱えなかったその他の生起条件についても検討する必要がある。

### 調査資料・参考文献

【調査資料】『現代日本語書き言葉均衡コーパス』(中納言 2.7.2、データバージョン 2021.03、国立国語研究所)/『日本語日常会話コーパス』(中納言 2.7.2、データバージョン 2023.03、国立国語研究所) 【参考文献】岡田祥平(2006)「「縮約形」再考」『阪大日本語研究』18、pp.49-78./小磯花絵・間淵洋子・前川喜久雄(2005)「助詞の撥音化現象:『日本語話し言葉コーパス』を用いた音声転訛現象の分析」『言語・音声理解と対話処理研究会』43、pp.7-12./近藤雅恵(2005)「日本語の口語的変形」『人間文化論叢』8、pp.289-296./斎藤純男(1986)「話し言葉におけるラ行音およびナ行音のモーラ音素化」『日本語教育』60、pp.205-220./――(1991)「現代日本語における縮約形の定義と分類」『東北大学日本語教育研究論集』6、pp.89-97./土岐哲(1975)「教養番組に現れた縮約形」『日本語教育』28、pp.55-66./――(2002)「日本語音声の縮約とリズム形式」玉村文郎編『日本語学と言語学』pp.55-65、明治書院./中村フサ子・小泉美礼・樽田ミエ子(2003)「テレビドラマの会話に見られる縮約形の調査・分析」『東海大学紀要留学生教育センター』23、pp.85-100./那須昭夫(1996)「現代日本語での「の」と撥音の交替:音声上の特徴から見た撥音形の容認性に関する一傾向」『日本語と日本文学』22、pp.24-35./――(2015)「縮約音声における二種類の撥音:ピッチ動態の比較」『文藝言語研究(言語篇)』68、pp.97-120./野間純平(2022)「現代日本語における準体助詞「ノ」と「ン」:撥音化に関わる文法的条件」『国語と国文学』99(5)、pp.98-110./福池秋水(2020)『漫画に見られる話しことばの研究:日本語教育への可能性』ひつじ書房.

# 近代における日本と中国の外来語・翻訳語形成に関する一考察 -- 「経済」「政治」「大学」などの言葉を例として--

# 鄭 祚明(山形大学)

### 1 はじめに

発表者は日中両国の近代外来語語彙を調査し、語彙の変化とその経緯、要因を解明しようとしている。方法としては、現在、辞書文献などを中心として調査をしている。

本発表はその調査結果の一部を分析してまとめるものである。

日本語の方では、主に『和英語林集成』1867 年版、1872 年版、1886 年版および『新訳和英辞典』(井上十吉,1911)による。中国語の辞書としては、主に『英華字典』(ロブシャイド,1866-1869)、『増訂英華字典』(井上哲次郎,1884)、『商務書館英華新字典』(商務印書館編譯所,1913)により、さらに厳復、梁啓超などの近代中国人学者が訳したもの、または個別の語によって他の出典が確認されるものを重要参考にして利用した。これらについて通時面と共時面の両方からアプローチして分析する。これによって、日本語にはなぜ音訳カタカナ語が増え、それに対して中国語にはなぜ漢字意訳語が増えたか、という両言語の相違点とその経緯をあきらかにすることを試みたい。

## 2 先行研究

岡本佐智子(2004)¹は外来語・翻訳語に漢字語が多いため、当時の庶民には負担になることをカタカナ語が増加する一要因として述べる。また、両言語間での交流・借用について、沈国威(2020)²は中国語は実際日本語を介して古典漢語の借用することを述べる。しかし、方維規(2008)³によれば当時の中国人学者は「経済」を含む和製漢語を避けようとしたと述る。以上、両方を対照して社会背景や学者思想などの分析がまだ不足であるため、発表者はそれについて考察を試みたい。特に、中国語に関する和製漢語の回避から借用までの変化を発表者は着目したい。

### 3 研究資料と方法

本研究は以下の文献を主要文献としてランダムサンプリングで 150 語から 200 語範囲で語を選出し、『現代漢語常用詞表(草案)』(商務印書館, 2008)(以下、「常用詞表」)に照合し、それに収録される場合は対象語彙に収録する。

『英華字典』(Robert Morrison, ロバート・モリソン, 1822)、『英華字典』(Wilhelm Lobscheid, ウィルヘルム・ロブシャイト, 1866-1869, ロブシャイド『英華字典』)、『増訂英華字典』 (井上哲次郎, 1884)、『商務書館英華新字典』 (商務印書館編譯所, 1913) は中央研究院近代史研究所英華字典資料庫 4をアクセスして利用する。『和英語林集成 第一版』(James Curtis Hepburn, ジェームス・カーティス・ヘボン, 1867)、『和英語林集成 第二版』(ヘボン, 1872)、『和英語林集成 第三版』(ヘボン, 1886)は明治学院大学・和英語林集成デジタルアーカイブス 5をアクセスして利用する。『新訳和英辞典』(井上十吉, 1911) 6は国立国

<sup>1</sup> 岡本佐智子(2004)「外来語の受容と管理:言語政策の視点から」『北海道文教大学論文集』第 5 号 P53

<sup>2</sup> 沈国威(2020)『新語往還:中日近代語言交渉史』社会科学文献出版社 P622

<sup>3</sup> 方維規(2008) 「"経済" 訳名約沉及相关概念之厘正」『学術月刊』第 40 巻 P137

<sup>4</sup> https://mhdb.mh.sinica.edu.tw/dictionary/index.php

<sup>5</sup> https://mgda.meijigakuin.ac.jp/waei/search

<sup>6</sup> https://dl.ndl.go.jp/ja/pid/870153/1/1

会図書館デジタルコレクションをアクサスして利用する。語の現在を確認するため『コリンズ英語辞典』(桐原書店,2020)、『明鏡国語辞典 第三版』(大修館書店,2020)を利用する。次に、収録した語についてそれぞれの形成について主要文献及びそれら以外の文献を参考して分析・討論する。収録する語は現在198語があり、すべて「新語新概念」「既存語新概念」「既存概念新語」いずれかに当てはまるものである。

## 4 用例

# 4.1「政治」と「経済」

Economy および Political という外国語における外来語・翻訳語吸収のタイムラインをまとめておく。

Economy Politics

中国語	日本語	中国語	日本語
1822:節用、節儉;勤儉	1867:倹約、簡略、始末、節倹、タ	1822:國政之事、國政	1867: —(未収録)
	マカ;Political Economy 経済学		
1869:治家者、治家之道、齊家	1872:倹約、簡略、始末、節倹、タ	1869:政、國事;Political	1872:せいじ(政治);
之道;節度、節用者、慳廉之實;	マカ; Political Economy 経済学	economy 國寶學、理國寶之事	Political 政治にかかわりたる
Political Economy 治國之道、			
治國之法			
1884:治家者、治家之道、齊家	1886:倹約、簡略、始末、節倹、タ	1884:政、國事; Political	1886:せいじ(政治)、せいじが
之道;節度、節用者、慳廉之實;	マカ; Political Economy 経済学、	economy 國寶學、理國寶之事	く(政治学);Political せいじ
Political Economy 治國之道、	理財学		0
治國之法			
1913:家政、理財、法度、節用;	1911:経済	1913:政、政事、政治學、國	1911:政治
經濟學、理財學、計學		事	
現在:経済、経済学	現在:経済、経済学	現在:政治、政治学、政治的	現在:政治、政治学、政治的

両単語およびそれらの派生語が外来語として輸入される際に意義・表記が混同されているため同項目にまとめる。本例を選んだのは、まず両単語混同が珍しく、この両単語も同様に元々古典漢語であることが興味深いからである。

# 4.2「大学」

College/University に おける外来語・翻訳語吸 収のタイムラインをまと めておく。

大学という単語を用例 に選んだのは、まず当時 中国の教育体系が世界と は大きく違い、そのもの が存在しなく、単純な日 常のものでもなく、経済 や政治と同様な抽象概念 でもないのである。また、

中国語	日本語
1822:college 書院;國子監、國學;翰林院;學院	1867:college 學校、學問所/University
/university—(未収録)	一(未収録)
1869: college 會院;儒會、博士院;翰林院、、	1872: college 學校、學問所/University 大學
詞林館;修書院;府學、學宮;學宮/university	校
翰林院	
1884:college 會院;儒會、博士院;翰林院、、	1886:college 大學校/University 大學校
詞林館;修書院;府學、學宮;學宮/university	
翰林院、黌宮	
1913: college 會、院、書院、高等學堂、專科學校、	1911:college 分科學校、専門學校
醫院;學校/university 大學校	/University 大學校、大學
現在:大學;學院;专科學校;學院;公學	現在:カレッジ、大学、専門学校

時代的に19世紀後期に数多くなった日本留学をする中国人は当時の大学を介して和製漢語 を紹介した背景には大学自体はどう理解されたかが興味深い。

### 4.3「ビール」「啤酒」

Beer (Bier) における外来語・翻訳語吸収のタイムラインをまとめておく。

中国語	日本語
1822:一(未収録)	1867:—(未収録)
1869: 啤酒、大麥酒、麥酒; 苦酒、酐、酠	1872:むぎざけ、ばくしゅ
1884:啤酒、大麥酒、麥酒;苦酒、酐、酠	1886: びいる
1913: 啤酒、大麥酒	1911: ビール; 麥酒(びいる)
現在:啤酒	現在:ビール

この言葉を用例に選んだのは、 中国語訳の「啤酒」という表現は 単純な意訳でも音訳でもないの でり、「部分音訳」と言えるもの として現在まで定着したことが 興味深いのである。また、単純な ものであるため、語やもの自体の 普及はそれほど学者に影響され ないかと発表者は予想したので ある。

## 4.4「科学」

科学という言葉における外来語・翻訳語吸収のタイムラインをまとめておく。

表を通じて、科学という言葉における近代後期までの形成がわかる。中国語にも日本語にも「科学」が定着するのは近代後期ということであろう。

中国語	日本語
1822:學	1867:學、術
1869:學、智、知、理、智慧、學文、知學	1872:學、術、学問
1884:學、智、知、理、智慧、學文、知學	1886:學、術、学問
1913:科學、格致、專門學、理學、知識、原理	1911:学術;科学;理科
現在:科学;自然科学	現在:科学、自然科学、理科

科学という言葉を用例に選んだのは、時代的にそれが代表するものは日本のほうは対照的に発展・吸収が早く、中国のほうは大量に日本との交流を介して欧米から吸収したのである。言い換えれば、科学という概念自体には時代的な代表性があると考えられる。

### 5 考察

以上、「経済」「政治」「大学」「ビール」「科学」を例として発表者が現在までの研究を説明した。近代における日本と中国の外来語・翻訳語形成には学者・訳者個人の思考がそれらの語に深く影響し、中国人学者は自負、または日本を含む海外のものに対する抵抗思想があるのが著しく、外国人学者・訳者のほうがより客観的であり、特に日本人が創った和製漢語を吸収する時点では厳復が代表する中国人学者の抵抗と和製漢語が結局定着するという事実が対照的である。郭嵩燾(外交官,後述『ロンドンとパリス日記』著者)が代表する当時に外国文化と接触する最前線に立つ中国人学者や官僚はまだ外国のものを「蛮夷」だと考え、また、はっきりではないが厳復などもわざわざ和製漢語を回避するのもおそらく日本をまだ「倭窓」だと思っていたからのであろうか。

また、1890年から当時の中国政府が進めた日本留学が深刻な影響を外来語・翻訳語に与えたと考えられる。

# 5.1 学者の傾向における積極的な影響

4.1 では、後期の中国語に「経済」が定着するのは、1900年に東京に結成される日本書

籍を翻訳する中国人留学生団体、訳書匯編社<sup>7</sup>が代表する日本に留学する中国人学者組織と それらの出版物などの成果が深く影響していると考え、留学生らが中心となる近代・晩清 教育機関がその影響力をさらに拡大したと言える。したがって、現在まで定着する和製漢 語が数多く取り入れられる。

「政治」については、当時の中国語には「政治」ということばは存在するが今の「政治」とは違い、「Politics」の意味がなく、「Govern」や「Administration」など「統治」と「管理」のことばである。すなわち、「政治」は名詞ではなく動詞として使用された。「経済」という中国語自体は古代中国語に存在するが、現代言語では一致する日中両言語の「経済」とは意味が違い、「世の中のすじ道を正し民を救う」という意味で、政治的なことを指す用語であった。辞書以外に、郭嵩濤は『ロンドンとパリス日記』では「Political」について「…善言經濟之學,洋語曰波裏地科爾」(…経済の学が得意であり、その経済の学というのは洋語では波裏地科爾という。)と述べ、「波裏地科爾(ピンイン:bōlǐdìkē ěr)」と訳して「経済之学」(經濟之學)と解釈する。

日本語の方では、経済学および中国語と同じような理財(理財学)があるが、それらは Economy ではなく Political Economy の訳語であり、両者は事実上関連し、現在の訳し方の 兆候でもあろう。ただし、その時期にはまだ Economy のほうが相対的に個人の経済を指す ことばであり、経済学という概念は国や社会のことを指す。

前述の訳書匯編社が活躍するまで、当時に代表的な辞書と政府が開設した後世へ深く影響を及ぼした学校の教材は異なる表現を使用することは注目すべきであろう。日本では神田孝平(1867)<sup>8</sup>が Economy を経済と訳し、その後、日本人学者の杉栄三郎(1902 年に京師大学堂教習<sup>9</sup>を担当する)が編纂した教材では、「経済」<sup>10</sup> という言葉が用いられ、今まで継承されてきたと推論できる。

しかし、同じ日本人学者である井上哲次郎が『増訂英華字典』では「経済」という表現がない。それはおそらくその時期の学者たちはまだある程度和製漢語の借用を拒否したのであり、井上哲次郎自身も学界の傾向に従って借用を避けようとしたのであろう。

# 5.2 学者の傾向における消極的な影響

厳復を含む当時の中国人学者の多くは日本語「経済」を知るものの、古代文献にある「経済」と違う意味があるため「計学」(厳復)「資生学」(梁啓超)などと訳し、特に「日本では経済という」と注する。それに対して、「Economy」自体も節約する意味があり、キリスト教の「勤倹」という思想の影響でモリソンを含む宣教師らが「節用」、「倹約」という表現を使用した。とはいえ、現代中国語ではそれは「経済」である。

また、ロブシャイドが遠慮なく彼自身が身に着けた中国語を最大限に利用したのに対して、『ロンドンとパリス日記』第6巻では、郭嵩燾が「…亦中國聖人之教所必不容者矣。」(日本語:…中国の聖人の教には許されぬことである。)と書く。つまり、郭嵩燾は海外の技術や発明などに驚いたものの、西洋思想などの受け入れられる物ではないと考えているとは言えよう。それが多くの中国人学者が古典漢語を使用せず、わざわざ音訳をした一理由であろう。

# 5.3 社会現状の影響

4.2 では、表を通じて、「大学」もしくは「大学校」「学院」という語における両言語の

<sup>7</sup> 訳書匯編社(1901)『訳書匯編』第7期『経済学研究之方法』「…因原文通用此名,故仍之。」(…原文ではこの訳が通用されるため、そのままにする。)

<sup>8</sup> 国立国会図書館蔵書, 義里士 著, 神田孝平 訳, 紀伊国屋源兵衛(1867)『経済小学』 https://dl.ndl.go.jp/pid/1089402/1/1 9 京師大学堂, 現在の北京大学の前身, 1912 年に改名。教習, 教授を指す。

<sup>10</sup> 北京大学図書館古籍部蔵書, 杉栄三郎著(1901)『経済学』

変化過程がわかる。中国語では「翰林院」という表現が多い。「翰林院」とは、皇帝の諮問に応ずるために設けられた官庁で、学者、文人、技術者などを集めて詔勅を起草する任に当たる文学の士に翰林学士の称号を与えた政府機関であり、現在の大学とはまったく異なる。それに対して、日本の方はより早い時期に「大学校」という表現が存在する。時代的特徴を目にすると、それは日本のほうがより積極的に開放しているのに対して、中国は強制的に不平等条約で開放されているため、外国のものと語を取り入れるのが緩慢である。古典漢籍を探ると、四書の中では『大学』というものがあるが、ここでは学校のことではなく、「成人が学ぶべき道」である。

ただ、College/Universityを大学と訳した学者はそれが大学で成し遂げることだと考えているのかもしれない。または、これも和製漢語受容現象のもう一つではあろうか。

そのほか、意訳・古典語「翰林院」、「修書院」、音訳語「優尼維賓地」「哥理支」(厳復)、「由尼法希諦」(郭嵩濤)などの表現が現代中国語にすでに死んでいるのは、その物自体(古代の翰林院など)が消えたか、もしくは双音節語「大学」よりは「優尼維賓地」「由尼法希諦」が長たらしく、自然に不効率のほうが消えると思われる。

中国語の方では1913年の『商務書館英華新字典』では現在まで定着してくる表現が現れるが、日本語の方では「カレッジ」(英語:College)というカタカナ語が現代に現れ、それが「単科大学」という語である。しかし、実際、単科大学の「日本体育大学」を例とすると、英語訳は「Nippon Sport Science University」になる。そのほか、「北見工業大学」の英語訳は「Kitami Institute of Technology」になり、「College」でも「University」でもない。『コリンズ英語辞典』によれば institute は「学会」「学館」と訳され、「殊に研究や教育などのような特定な活動のために結成される組織である。」「the National Cancer Institute 国立がん研究所」という例もあげられている。それと意味が近い英語の「Institution」は同辞書では「(大学・教会・銀行などの)機関」「(精神病院・孤児院などの)施設」「慣行」と説明されている。また、『新和語英大辞典』(研究社,2003)では、「制度」「法令」「慣例」「協会」「院」などであり、「学会」が大学・学校に近い意味をするとはいえるであろうが、学校というものではないであろう。

University、College、Institution はある意味同位語ではあろうが、Institution を調査では「大学」の項に入れていないのは、文献による記載が少なく、その語自体の意味も大学・学校とは微妙にゆれるのである。ただし、実際広く使用される語が調査語彙にないということは、本研究の不足を示しているであろう。

4.3 では表を通じて、Beer (Bier)の外来語・翻訳語の変化がわかる。異なる時代の文献には時代的・作者個人的(知識面)原因があると思われるが、「啤酒」(ピンイン:pí jiǔ)または同じ発音の「皮酒」がより広く理解されており、定着してきた。また、中国語の方は「酒」という類を説明する字が残り、日本語のほうは消えるということが対照的である。

「大麥酒、麥酒」という訳は、翻訳というより「解釈」と称するのが適当であろうか、または、そのものは麥が原料であることを説明する新造語。実際、早期の外来語輸入には、こういった「解釈」が多く見られる。本調査「啤」と「皮」の中国語の発音も音素的に「Beer」(Bier)の「bi」と一致する。ただし、「大麥酒、麥酒」「啤酒」と「苦酒」三種類の翻訳があり、「苦酒」という表現も「味の苦い」という特徴を表すと同時に「酒」を加えて作った新漢語と考えられる。また、「酒」が加わるのはやはり訳者の傾向や思想にもかかわらず、「経済」のような抽象的なものとは異なり、当時の学者ではなく一般人の方に近いものとしては漢字の使用はおそらく避けられないであろうか。或いは、このような単純なものにはないだろうと発表者は考えるが、経済が定着すると同様に、前例「大学」とは

位相が違い、それを使用する一般人が多いため、自然に普及され、訳者には抵抗する力がないのであろうか。ただ、日常用語ではあるが、表現が定まらない(1869, 1884)要因は「Beer」(Bier)というもの自体も語もまだ広い範囲では普及されていないのであろう。

日本語も同じく「麥」(むぎざけ、ばくしゅ)などの表現があり、音訳の「びいる(biiru)」という表記もある。ここでは、「びいる(biiru)」が注目すべきであろう。それは、「びいる(biiru)」という音訳語は「ビール」との発音がまったく一緒とはいえる。これが現在の「ビール」の前身もしくはこれが音訳傾向の兆候と言っても過言ではないであろう。

同じ意味・概念を指す語・外来語両言語に存在するが、両方ども同じ原語から語を吸収したわけではない場合もある。例えば、日本語が「ビール」で中国語が「啤酒」であるが、日本語のほうがドイツ語の「Bier」を訳したのに対して、中国語のほうが英語の「Beer」を訳したのである。

これはおそらく、両国当時の語彙交流の対象、すなわち文化や経済的に影響を受けていた主要となる国・文化圏が異なるのであろう。ほぼ同時期の 1860 年代の文献『和英語林集成』のほうにはまず「Beer」または「Bier」が収録されないのに対して、『英華字典』(ロブシャイド)では「啤酒、大麥酒、麥酒;苦酒、酐、酠。」 <sup>11</sup> と記載される。それに対して、10 年後に書かれる『ロンドンとパリス日記』には「皮酒」という「啤酒」とまったく同様な発音をする語があるが、ビールを表す語は本文献にそれ以外はないため、関係があるとは言えないであろう。ただ、「皮」と「啤」は発音が同一であるため、おそらく両者まったく無関係とでも言えない。

4.4では、日本では発表者が確認した現在、福沢諭吉(1873)『学問のすすめ』<sup>12</sup>では「一科一学」が書かれ、その後省略されて「科学」になり、西周(1874)『知説』<sup>13</sup>にも「科学」が書かれるが、「百学連環」の授業では西がそれを「学」という。また、西は「百学連環」では人々が「学」と「術」を混同することを指摘する。その混同は『和英語林集成』では確認できる。おそらく、ヘボンも西がいう人々の一人であり、厳復も日本経由の現代知識を取り入れる時代の流れでそれを受け入れ、和製漢語を回避しようとした彼は、ここで「学術」という表現が妥当だと理解し、使用したのであろう。

厳復などが代表となり、学者や社会の傾向と思想は外来語・翻訳語の形成に重大な影響を与えるが、その影響は最後の定着までもあるとは限らない。日中両国を対照すると、特に中国の方では語の吸収・創造が傾向と思想によって、ある程度社会と語彙の発展に逆効果を与えることもあることがわかる。中国近代早期の翻訳活動における和製漢語回避が新概念や新思想の輸入と普及をある程度止めていたと言っても過言ではないであろう。それが漢字語が活用されない理由の一つであろう。

### 6 おわりに

本発表では、両国の近代における外来語・翻訳語をある程度解明したが、まだ調査語彙の範囲・代表性もまだある程度不足し、英語以外の外来語語彙および調査対象の範囲は十分広いとは言えない。今後は、調査語彙の拡大もしくは代表性の改善、多言語の外来語または方言経由の外来語における調査範囲の拡大が課題であり、特に『英華字典』などで現れる広東方言のみに存在する特殊な表現「嘅」「打臣」などが興味深かったため、今後は方言もしくは地方特徴を着目して外来語・翻訳語に関する調査をしていきたい。

<sup>11『</sup>玉篇・酉部』(顧野王(こやおう)編、543年)「酠, 苦酒也。」

<sup>12</sup> 岩波文庫(1978), 福沢諭吉 著『学問のすゝめ』P1-P2

<sup>13</sup> 西周(1874)「知説 四」『明六雑誌』14 第 22 号「…然トモ所謂科学ニ至テハ両相混シテ判然区別ス可ラサル者アリ。譬へハ化ケ…」

# 訓点データベースの作成と活用について

九州大学 蛭沼芽衣 福岡女子短期大学 藤田優子

# 1. 目的と概要

近年、国立国語研究所を中心にコーパス開発が盛んにおこなわれ、通史的な研究における用例収集や数量研究に大きく貢献している。最近では『日本語歴史コーパス』として西大寺本『金光明最勝王経』も公開され、幅広い資料を総合的に扱えるようになってきている。

しかし、『金光明最勝王経』の収録は現在巻1のみであり、春日政治氏の研究成果である読み下し文に依拠したものである。訓点資料の解読には、単に訓点を読んでいけばいいわけではなく、テニヲハや語彙、構文など解読者が補わなければならない部分も多い。漢文の理解が必要であり、解読者によって訓読結果が一致しないこともある。

「中納言」の構造上必要な措置ではあるものの、訓点資料の読み下し文は、加点や文脈から推定された、研究者による補読を含む「解釈」が多分に含まれるものである。訓点資料は、ヲコト点や仮名点によって語彙や語法が示されるだけではなく、声点から字音声調やアクセントを、返り点などから統語構造を、仮名点の字体から仮名字体の変遷などをも知ることができる、実に情報量の多い資料群である。訓読文を主体としたデータベースでは、文脈には関与しない仮名点の字体や声点といった補足的な情報も捨象されてしまう。

そこで、研究者による解釈を最小限に抑え、原本になるべく忠実に、訓点資料に示される様々な情報を兼ね備えたデータベースを作成したいと考えた。確定できない読みは保留にしておくデータ形式は、言語研究への利用に不向きにもみえるが、データの採録者による解釈をあえてしないことで、利用者による自由な解釈を可能にする。採録資料が増えれば、いずれデータ化した他の資料から読みを推定できる可能性もある。訓点を俯瞰的にとらえやすくなるので、訓読文を作成する際にも検討しやすくなるだろう。

現在、現存する訓点資料の量に比して、公刊された読み下し文が少ないため、訓点語研究者以外にとって訓点資料は利用しにくい状況である。訓点資料のもつ様々な言語情報は、和文資料とともに日本語研究の中で活用されるべきものである。そのためには、もちろん訓読文の状態が、言語研究のための資料としては望ましい。しかし、まずは訓点の情報だけでもデータ化することに意義があると考える。

# 2. 使用資料

(1) 石山寺旧蔵『金光明最勝王経』(九州大学附属図書館蔵)

折本 10 巻 10 帖 写年不明

ヲコト点:白、朱ともに東大寺三論宗点 加点年不明

石山寺旧蔵の本書は、「金光明最勝王経」10巻を揃えた貴重な一本である。もとは巻子本だったものを折本に改装したようで、天地が切断され、書き入れや本文の一部が失われている箇所がある。折本十帖からなり、識語や奥書は存しないが、春日(1984)は、本文は奈良朝の書写、訓点は平安中期~後期に加点されたものと推定している。仮名点は、書体や字体が巻によって異なるところから、数人の手によって成ったものと考えられる。一方、ヲコト点は10巻を通じて同一で、朱墨ともに東大寺点(三論宗点)に属するものである。

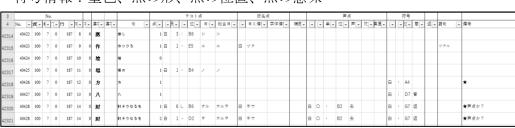
画像データは九州大学附属図書館のWebページ」にて公開されているため、再検討も容易である。朱墨は褪せており見にくくなっているため、本データは白墨のみを対象とした。

# 3. データの概要

訓点のデータをとるため、データの基準は漢字1字ずつとした。データ項目は次のと おりである。

- (2) a. 位置情報:番号、資料番号、巻、丁<sup>2</sup>、行、字
  - b. 割注行の別:本文行の字を 0、割注を 1 とする
  - c. 漢字
  - d. 漢字に仮名点、ヲコト点を付した読み
  - e. ヲコト点情報:点番号、墨色、点の形、点の位置、点の読み
  - f. 仮名点情報:墨色、仮名点の読み
  - g. 声点情報:墨色、点の形、単点・複点の別、点の位置、声調、梵漢の別
  - h. 符号情報:墨色、点の形、点の位置、点の意味



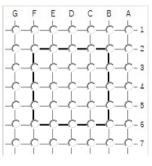




https://catalog.lib.kyushu-u.ac.jp/opac\_details/?lang=0&amode=11&bibid=1001531810

<sup>2</sup>巻子、折本の場合は「0」とした。

検索の便を考慮し、見出し字は旧字体で統一し、資料中の字形は別に項をたてた。ヲコト点は1字に対して複数加点されていることがあるため、「点番号」を振りそれぞれの点を別データとして採録した。そのため、複数のヲコト点を総合した読みも別に項をたてた。ヲコト点の読みは築島(2009)に従っており、確定したものではない。ヲコト点の位置は、これも検索の便を考慮し、数字とアルファベットによる座標表示にした。



ヲコト点位置

# (3) 巻ごとのヲコト点の加点状況(巻8まで)

巻	1	2	3	4	5	6	7	8
字数	6522	6618	5563	5738	6245	6959	5278	6873
1 つ以上点のあ る字数	2054	3239	2387	1972	3129	3564	2214	3118
加点率	31%	49%	43%	34%	50%	51%	39%	45%

# (4) 巻ごとのヲコト点の使用状況 (字数 巻8まで)

ヲコト	巻 、点の形	1	2	3	4	5	6	7	8	総計
1	•	1345	2092	1639	1399	2050	2064	1334	2135	14058
3		248	448	388	226	581	613	318	552	3374
6	L	76	154	119	63	112	128	89	102	843
2	_	52	100	51	61	138	141	92	144	779
5	/	21	44	37	10	93	98	52	74	429
4		62	64	26	76	73	28	29	39	397
9	人	5				47	41	70	58	221
17	+	1				29	43	17	38	128
14	$\wedge$	1				13	26	16	23	79
8	フ	4	7	4	8	24	1	13	5	66
20	Z					1	20	25	16	62
26	$\circ$					19	18	7	12	56
15	Ŀ					3	3	5	23	34
18	1					9	5	3	17	34
16	レ					5	6	7	11	29
10	F					11	2	1	11	25
27	T					2	14		3	19
23	七						4	4	8	16
11	:						6	5	3	14
7						3	1	1	2	7
37	×					4	1		2	7
53	丁					2	5			7
19						1	2		3	6
31	4					3			1	4

29	ク			1		1
38	Ш				1	1

巻ごとのヲコト点の使用のしかたをみると、巻5以降で明らかに加点方法が異なっていることがわかる。春日(1984)は加点者について「少なくも三四人の手になるものである」と述べるが、そのことを示したものと考えられる。紙幅の都合上割愛するが、より細かい加点方法や仮名点の字体などを総合すれば、加点者の状況をより詳しく知ることができるだろう。

# 4. データベースを利用した考察

本データベースに収録された石山寺旧蔵『金光明最勝王経』については、春日(1958)、 勝山(1984)等の研究により、すでに概要は記述されている。本考察は、それらの先行研究をもとにデータベースを用いて行った調査の結果を示すものである。

# 4.1. ヲコト点と仮名点の加点傾向―「者」の読み

「者」の読みについて、「ヒト」から「モノ」への推移が訓読史上の現象として観察されることが門前(1959)に指摘されており、春日(1985)は、旧石山寺蔵『金光明最勝王経』の「者」の読みについて「旧石山寺本はヒト・モノの混用(p.167)」と指摘している。そこで、本データベースを用いて「者」字の加点状況の調査を行ったところ、「者」字の加点には、次のような特徴がみられることが分かった。

- (5) a. ヲコト点を用いて「ヒト」の読みを示す例はみられない
  - b. 巻1~巻4は、仮名点「モノ」「ノ」を施して「モノ」の読みを示す
  - c. 巻 5~巻 10 は、ヲコト点「の」又は「も」を施して「モノ」の読みを示す





↑「者」 (巻 3・141 行)

↑「者」(巻 3・103 行)



「経を受持する 者 を」 (巻 8・61 行) →

石山寺旧蔵『金光明最勝王経』は、「少なくとも三四人の手に成るものである(春日 1984:2)」と指摘があり、複数の加点者によるものと思われるが、その詳細は明らかでない。そのほかの事象もあわせて検討する必要があるが、(5)のように読み下し文ではなく加点の情報から検索が可能であるからこそみえてくる傾向もあると思われる。

# 4.2. ヲコト点の位置—「べし」

築島(2009)に示される東大寺点のヲコト点図によると、右端中央(加点位置 B4)の「レ」点が「ヘシ」と読まれている。しかし、石山寺旧蔵『金光明最勝王経』においては、右端上部(加点位置 B2)の「レ」点も「ヘシ」と読めるようである。「當」字に施された右端上部の「レ」点を「ヘシ」と読むことについては、春日(1986)にすでに指摘があるが、本データベースを使用し、ヲコト点の位置に注目してその傾向を調査した。

(6) 「レ」点・右端中央(加点位置 B4)の例 「讃歎すべし」(巻 5・398 行)





(7) 「レ」点・右端上部(加点位置 B2)の例 「解悟すること得て、生死を出離す當し」

(巻5・323-324行)

「レ」点は、「當」字の場合、(7)に示すように右端上部(加点位置 B2) に施される。一方で、(6)のように動詞の場合は、右端中央(加点位置 B4)に加点されるようである。

「べし」をあらわすヲコト点には、他に「當・可・須」字に「シ」(「|」・加点位置 B6)を施すものなどがあり、加点される字によってヲコト点の傾向差がみられるようである。

# 4.3. ヲコト点の解釈―サ変動詞

東大寺點の右端中央の「\」点は、築島(2009)所収のヲコト点図に「ヘリ」とあるが、括弧書きで「シキ」も併記されている。本データベースで、右端中央(加点位置 B4)の「\」を検索すると、「ヘリ」ではなく「シキ」と読むべき例がみつかる。

- (8) 「本座に還復しき」(巻7・245行)
- (9) 「願じ」(巻4・70行)





(10) 「生死を出離して妙菩提處に至らむと願{へり/じき}」

(巻 10·179 行)



(10)のように、この例だけでは「願へり」と読むのか、「願じき」とサ変動詞として 読むのか判別できない場合があるが、他の字に施されたヲコト点を確認することで、よ り正確な読みを選択することができる。

# 5. 今後の課題

現在作成しているデータは試作のものであり、研究利用に充分とはいいがたい。たとえば仮名点の語形は活用したものや、「マフ(=給う)」のように語の一部であることがある。訓点や訓点を含めた語彙情報が必要となる。ただし、上述のように読みが確定できないものも多いため、語彙を完備することは難しい。現在、単字をデータの単位としているが、熟語などは単字での読みでは意味をなさない。たとえば、「菩薩は」は「薩は」だけでは成り立たないが、漢語の場合どこまでを「単語」とするかも課題となる。また、「頂上」が「チョウジョウ」という一語なのか、「頂ノ上」と語の組み合わせなのかも訓点や、解釈にゆだねられる部分である。

仮名字体の情報は、加点年や加点者の系統などがわかる重要な情報であるため、仮名字体情報も必要と考える。しかし、字体の差異が細かく、記号化(活字化)は困難である。厳密を期すなら画像を貼り付けるべきであるが、検索には不向きである。どのようにデータ化するのが最善か、今後の課題である。

現在は「書かれた情報」しか収集できていない。本データはそれが最大の目的であるが、実際の研究活用を考えると「書かれてない情報(付加情報)」は必要であろう。何がどの程度必要となるか、どのように確定していくべきか、さらなる検討を重ねていきたい。

# 参考文献:

春日和男(1985)「比較訓読について(1)」『帝京大学文学部紀要国語・国文学』17(『語文叢考』勉誠出版(2004)所収)

春日政治(1958)「石山寺本最勝王経古点より」『国語国文』27(11)(『春日政治著作集 6 古訓点の研究』風間書房(1984)所収)

門前正彦(1959)「漢文訓読史上の位置問題(二)―「ヒト」より「モノ」へ―」『訓点 語と訓点資料』11

勝山幸人(1984)「金光明最勝王経の古訓法について」『野州国文』33

築島裕(2009)『訓点語彙集成 總論・載録文獻一覽』汲古書院

蛭沼芽衣(2015)「石山寺旧蔵本『金光明最勝王経』口絵・解題」『文献探究』53

# 『辞書語彙データベース』の構築と展望

# ―異種古辞書連携のためのキー策定を目指して―

## 1 『辞書語彙データベース』の構築

本発表は、古辞書のデータ横断検索システムを構築するための工夫、問題点と課題について報告するものである。

発表者らは現在、『本草和名』『和名類聚抄(底本:古活字本)』『三巻本色葉字類抄』『<u>落葉集</u>(本篇)』『文明本節用集』『増続大広益会玉篇大全』『和訓栞』を収録する『辞書語彙データベース』(https://jisho-goi.kojisho.com、図1)を構築中である(以上下線は全文データを作成済みのもの。一部データ公開中)。



図 1 『辞書語彙データベース』 のホームページ画面 (2023 年 9 月 23 日)



図 2 『落葉集』検索結果画面(2023年9月23日)

現段階では各文献のテキスト検索が可能な状態であるが、今後、文献をまたいだ「語の検索」を可能とするためには、語の同定が必要になる。しかし、①同じ語であっても文献によって表記 (漢字字体や仮名遣いを含む)が異なること、②現段階では文献ごとの性格に合わせたデータ構造となっていること(そのため検索用の見出しデータが収納されたテーブルの設計も異なること)により、横断検索のための語を同定したり、代表形を自ら設定することは必ずしも容易ではない。

# 2 『日本国語大辞典 第二版』(ジャパンナレッジLib) の項目を共通キーとして活用

そこで発表者らは、表記やデータ構造の差異を克服するために、既存の語彙集(索引)として、『日本国語大辞典 第二版』(以下『日国』)の見出し語を共通キーとして各古辞書の語彙と結び付けることを試みることとした。具体的には、その第一歩として、すでに全文を公開した『落葉集(本篇)』(図 2)のうち「い」「ろ」部を対象に、『日国』(ジャパンナレッジ Lib 所収)の項目URL(以下、『日国』URL)を付与する作業を手動で行った。

『日国』を用いるメリットは、古辞書が収録する漢語や和語、連語の類を通時的に幅広く収録する唯一の現行辞書である点、ジャパンナレッジ Lib を用いるメリットは、項目ごとの単一 ID (URL)を持つ点にある。一方、デメリットとして、『日国』内部の問題(今野 2018、藤本 2023など参照)、ジャパンナレッジ Lib が有料である点などが考えられる(ただし後者については本研究の目的である共通キーとしての活用という観点からは原理的に問題とならない)。

研究への糸口としてキリシタン版『落葉集』(1598) 「を用いた理由は、内部構造が古辞書の類型として代表的で、かつ単純であることにある。また『落葉集』が内容的にも古代語と中世語の両方を含んでおり、『日国』の「辞書」「表記」欄の使用文献に挙がっていないことからも、初出を示す『日国』との関連を考えるための好材料となり得ると考えた。次節以降、URL 付与の具体的手順、問題点などについて述べる。

### 3 『落葉集(本篇)』項目と『日国』項目の結び付け(指針)

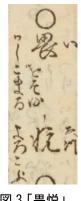


図3「畏悦」 Gallica よ り

『落葉集(本篇)』はいろは引きの漢語辞書であり、見出し語(代表字に連なる熟字群)の右に平仮名で字音、左や下に仮名で和訓を示す(図3では代表字「畏」に字音「い」と和訓「かしこまる/をそる」、熟語「畏悦」の「悦」に字音「ゑつ」と和訓「よろこぶ」)。右傍の字音は熟語としての熟合形を想定したものと考えられるが、和訓はあくまでも各単字の注である。また原則として代表字のみの(熟語を持たない)項目が存在しないことからも、あくまでも『落葉集(本篇)』は音読みによる熟語辞書であり、代表字の掲出は熟語の「一字目」としての役割が大きいものと考えられる。しかし今回は、他の単字字書や単字掲出のある辞書類との連携を見据えて、代表字(図3「畏」)も「語」として捉え、『日国』URLを付与することを試みた。一方、熟語の単字和訓(図3「よろこぶ」)については代表字の和訓と同様の性質であるものとして作業対象からは除外した。すなわち、下

記の要素を『日国』と結び付けることとなる。

# ①代表字の漢字表記・語形(字音・和訓) ②熟語の漢字表記・語形(字音のみ)

『落葉集(本篇)』の語は、仮名による「語形」と「漢字表記」の二要素を持つが、「語形」を欠く項目があることや、同音同義異表記語、同音類義語との同定などの問題に絡み、場合によって表記と語形の重みを斟酌する必要がある。第 4・5 節に、具体的な手順を示す。

<sup>1 『</sup>落葉集(本篇)データベース』はイエズス会本部文書館蔵本およびパリ国立図書館蔵本を底本とする。

## 4 『落葉集(本篇)』項目と『日国』項目の結び付け(単字の基準)

 代表字(単字)について、次の方針を立てた。

## (1) 代表字(単字)の音読み2

- ①『日国』を『落葉集』掲出漢字(新字)で検索(「見出し/完全一致」)し、その字音の読みと完全一致する<u>「語」</u>を採る。
- ②『日国』を『落葉集』掲出漢字(新字)で検索(「見出し/完全一致」)し、その字音の読みと完全一致し、内容に 当該漢字を含む「字音語素」を採る。
- \*①②がそれぞれ複数掲出される場合は、『日国』昇順で並べる。

図4 『日国』を「一」で検索した結果(見出し・完全一致、昇順)

(例 1) 落葉集「一 (いち)」に対しては、(**図 4**)「4.いち 【一・壱】| および「3.いち (字音語素)」、「一 (いつ)」

に対しては「7.いつ【一・壱】」および「6.いつ(字音語素)」が該当する。

# (2) 代表字(単字)の訓読み3

- ③ 『日国』を『落葉集』掲出語形(ないしその現代語形、終止形4)で検索し、見出し語の表記が当該漢字と一致する「語」を採る。<u>ただし当該漢字が見出しの表記(【 】内)に見えない場合でも、作業者が任意に同定した場合がある5。</u>
- \*『落葉集』掲出語形が複数ある場合は、漢字の左、左下、右下の順に並べる。

 $<sup>^2</sup>$  他に次の  $a\sim d$  のような条件を立てた。a.意味(語釈)は問わない。b.用例の有無や初出時期は問わない。c.『落葉集』 に示された以外の読み方は採らない(図 4 「1.イー」「2.いいち」のような別語形のもの、「易(い)」での立項に対する 「えき」、「勇(いう)」に対する「ゆ」「よう」のようなものは採らない)。d. 空項目は採らない(「伊(い)」に対して 「「イタリア(伊太利)」の略。 $\Rightarrow$ い〔字音語素〕」のみが示されるような項目は採らない)。

<sup>3</sup> 他に次の a~d のような条件を立てた。a.仮名遣いは問わない。b.別語形は採らない(「衣(ころも)」に対する「こるも」、「衣(きぬ)」に対する「きん」、「違(たがふ)」に対する「ちがう」、「勇(すくやか)」に対する「すこやか」、「囲(かこむ)」に対する「かくむ」「かこう」「かくう」のような形は掲出語形でない限りは採らない)。c.同訓異義語で『日国』に複数掲出され、かつそれぞれ『日国』の見出し表記に含まれる場合は、全て採る(「威(おどす)(をどす)」など)。ただし語源が同じと考えられる同訓語でも『日国』で別項とされる場合は、見出しの表記が一致するもののみを採る(『落葉集』「陰(かげ)」は、『日国』【陰・蔭・翳】のみを採り、【影・景】は採らない)。d.原則として同表記による固有名詞は採らない(「伊勢(いせ)」に対して平安歌人名は採らない)が、『落葉集』での掲出が地名等であると判断される場合には採る(「伊勢」「伊賀」など)。

<sup>4</sup> いわゆる形容動詞は語幹を採り、作業者が必要であると判断すれば次に関連語形を採る(「異(ことなり)」の場合、「こと」「ことなる」の順に採る)。いわゆる連用形名詞の語は、終止形でも採る(「勢(いきほひ)」の場合、「いきおい」「いきおう」の順に採る)。動詞と助詞等による複合辞は、掲出語形の他、動詞の終止形でも採る(「以(もって)」の場合、「もって」「もつ」の順に採る)。

<sup>5 『</sup>落葉集』「異(あやし)」に対する『日国』「あやしい【怪・妖・奇】」、同じく「衣(かとり)」に対する「かとり【練】」、「帷(かたびら)」に対する「かたびら【帷子】」のようなものを採った。また『落葉集』「院(おりいのみかど)」は『日国』では「おりいの帝」と漢字仮名混用、同じく「逸(いみし)」は『日国』では「いみじ」という仮名での立項であるが、これらも採った。なお『日国』の画像埋め込み字は Excel 作業時には「〓」としてある。

## 5 『落葉集(本篇)』項目と『日国』項目の結び付け(熟語の基準)

(名) (「いち」は「一」の呉音、「じつ」は「日」の漢音)「いちにち(一日)」に同じ。\*文 明本節用集〔室町中〕「有"能一日(イチジツ)用"其力於仁"」\*日葡辞書〔… (名) (1)午前零時から午後一二時までの間。古くは、ある日の一時点から次の日のその時点までの 間をさすこともあり、また、朝から翌朝までの間をさすこともある。いちじ、 3.いち-んち【一日】 (名)「いちにち(一日)」の変化した語。\*滑稽本・浮世床(1813~23)初・下「旦那に 透を待居(まって)ちゃア一日(イチンチ)埒明ねへから」\*人情本・春色梅児... 「いちにち(一日)」の変化した語。\*雑俳・川傍柳〔1780~83〕三「一(イッ)ち 日(二チ)憎まれ口へ紅をさし」.. 5. つい-たち【朔日・朔・一日】 (名) (「つきたち (月立)」の変化した語) (1)月の初め頃。月の上旬。初旬。\*伊勢物語 (10 C前) 二「時はやよひのついたち、雨そほふるに」\*蜻蛉日記 (974頃) ... 6. ひっと‐い […ひ] 【一日】 (名) (「ひとひ (一日)」の変化した語) いちにち。\*かた言 (1650) 三「一日 (ひとひ)を、日っとひ」 [方言] (1)いちにち。 (ひって) 岩手県上閉伊郡097 山 ... 7. ひてえ【一日】 [方言] (名) ⇔ひひとひ (日−日) 8. ひと-い […ひ] 【一日】 (名) ⇔ひとひ (一日) 9. ひと-え [・・ヘ] 【一日】 〔名〕「ひとひ(一日)」の変化した語。 \* 浮世草子・嫁久一世〔1685〕下・三「ひとへの日 は又日和よかれ、やろか信濃の雪国へ」\*浮世草子・近代艶隠者〔1686〕 - ... 10. ひと-ひ【一日】 (名) (「ひとい」の時代も) (1)日の数一つ。いちにち。また、いちにちの間。一日中。終日。日 一日。\*万葉集(8C後)一五・三六〇四「妹が袖別れて久になりぬれど比…

熟語について、次の方針を立てた。

- ① 『日国』を『落葉集』掲出漢字(新字)で 検索し、漢字6・語形7の両方が一致した「語」 を採る。
- ② 『日国』を『落葉集』掲出漢字(新字)で 検索し、漢字は一致するが、音読みの語形が 異なるものを採る。
- \* <u>語</u>釈、用例などから明らかに別語と判断されるものは除く。

(例 2) 落葉集「一日(いちじつ)」に対しては、(図 5)「1.いちじつ」が上記①、「2.いちにち」が上記②に該当する。それ以外の訓読みの語、江戸期以降の別語形などは採らない。

図5 『日国』を「一日」で検索した結果 (見出し・完全一致、昇順)

### 6 結び付け作業の結果について

以上の基準に従って、以下のように『日国』URL を付与した。(作業者は Excel 形式で管理)

(例3)「医(い/くすい)」に対する『日国』URL付与

①い 【医】 https://japanknowledge.com/lib/display/?lid=2002002d3425QGRCWhur ②い 〔字音語素〕 https://japanknowledge.com/lib/display/?lid=2002002d1f803iR24li8

③くす・す 【薬】 https://japanknowledge.com/lib/display/?lid=2002013c1f27Kx51r8Yi

(例 4)「帷幕(いまく)」に対する『日国』URL 付与

①レンーまく[ヰ・・] 【帷幕】https://japanknowledge.com/lib/display/?lid=200200502fbei2P1YoXC

②い-ばく [ヰ・・] 【帷幕】https://japanknowledge.com/lib/display/?lid=2002004e8cf4H2iSvy9X

本節では、作業結果のうち、今後の他辞書との連携にむけ、特に確認、報告すべき事項を抽出 して示す。

<sup>6 『</sup>落葉集』「囲遶」(『日国』「囲繞」)、『落葉集』「硫磺」(『日国』「硫黄」)など、<u>作業者が任意で異表記を設定して</u>検索した結果を同定した場合がある。

 $<sup>^7</sup>$  清濁(「医学士(いがく $\underline{\upsilon}$ )」⇔『日国』「いがくし」など)、字音仮名遣いの揺れは問題にせず、同定する。

## 6-1 代表字(単字)の音読み—イ部34字、ロ部13字(計47字)

以下の通り、47字中異なり17字について、『日国』URLを付与できなかった。

- ・『日国』に「語」としての掲出がなかった 15 語(下線は「字音語素」でも非掲出<sup>8</sup>) 違(い) 委(い) 依(い) 以(い) <u>硫(い)</u> 伊(い) 畏(い) 逸(いち) 逸(いつ) <u>隠(いん)</u> 慇(いん) 茵(いん) 路(ろ) 籠(ろ) 六(ろつ)
- ・『日国』に「字音語素」としての掲出がなかった 6 語 硫(い) 音(いん) 飲(いん) 隠(いん) 籠(ろ) 六(ろつ)

## 6-2 代表字(単字)の訓読み—イ部 34字、ロ部 13字(計 47字)

『落葉集』の和訓は基本語が中心であり、また「院 (おりいのみかど)」のような複合語も『日国』に立項があったため、すべての語に日国 URL を付与することができた。ただし、以下の例のように、『落葉集』の漢字表記が『日国』の代表表記に見えないものもあり、機械的な同定作業だけでは処理できない場合もあった。

```
      (落葉集) 易 (やすし/かはる)
      (日国) かわ・る [かはる] 【代・替・変・渝】

      (落葉集) 委 (くはし/つぶさ/ゆだぬ)
      (日国) つぶさ 【具・備】

      (落葉集) 囲 (かこむ/めぐる)
      (日国) めぐ・る 【巡・廻・回】

      (落葉集) 依 (よる/たのむ)
      (日国) たの・む 【頼・恃・憑】
```

なお、発表者らの作成した凡例通り、『落葉集』「一(ひとつ/はじめ/ひとり)」の「はじめ」などには、『日国』の「はじめ 【始・初】」と「はじ・める 【始】」両者の URL を手動で付与したが、これらは『日国』項目内部の関連語彙連携情報があれば、省くことのできる作業であると考えられる。

## 6-3 熟語—イ部 405 語、ロ部 61 語 (計 466 語)

以下の62語は、『日国』と語形が一致しない項目である。9

医法(いはう)	易難(いなん)	一続(いちぞく)	一香(いつかう)	驢事 (ろじ)
異行 (いぎやう)	易戦(いせん)	一斉(いちざい)	一廻 (いつくはい)	籠具 (ろぐ)
異口(いこう)	易修(いしゆ)	一縁(いちえん)	一聖(いつせい)	六万(ろくまん)
意情 (いじやう)	囲地 (いぢ)	一雅意 (いちがい)	一姓(いつしやう)	六千 (ろくせん)
意行(いぎやう)	一郡(いちぐん)	一万 (いちまん)	一性(いつしやう)	楼前(ろうせん)
意舞(いぶ)	一屋(いちをく)	一由旬(いちゆじゆん)	印杖(いんぢやう)	漏器(ろうき)
違情(いじやう)	一牛(いちぎう)	一車(いつしや)	因種(いんしゆ)	
違誡 (いかい)	一馬(いちば)	一孤(いつこ)	飲吸(いんきう)	
違行(いぎやう)	一魚(いちぎよ)	一識(いつしき)	引弓(いんきう)	
威鳳(いほう)	一医 (いちい)	一返 (いつぺん)	露花(ろくは)	
威音(いいん)	一舌(いちぜつ)	一障(いつしやう)	露珠(ろしゆ)	
威名(いみやう)	一学(いちがく)	一鑑(いつかん)	露栄(ろえい)	
衣儀(いき)	一願(いちぐはん)	一劫(いつこう)	路人(ろにん)	
易法(いほう)	一問(いちもん)	一翰(いつかん)	路歌(ろか)	

<sup>8</sup>「籠」は『落葉集』に「ろ」「ろう」、「六」は「ろく」「ろつ」の二種の音が示されており、あくまでも「ろ」「ろつ」は、 籠具(ろぐ)、六根(ろつこん)、六境(ろつきやう)、六界(ろつがい)、六方(ろつぱう)、六角(ろつかく)といっ た熟語形のための字音読みを別途立項したものである。

<sup>&</sup>lt;sup>9</sup> ただし「威名」は「いめい」、「一斉」は「いっせい」、「一姓」は「いっせい」、「路人」は「ろじん」として掲出がある。いずれも用例としても『落葉集』を採らない。「一姓」は漢字表記の用例(『蔭凉軒日録』)のみで辞書欄もないため、『落葉集』が語形推定の一助となる可能性がある。

#### 7 『日国』の補遺と語誌研究への応用

『落葉集』の語を調べたところ、『日国』が辞書欄を設けていない語が散見された。それらは「医学士」(https://japanknowledge.com/lib/display/?lid=2002003138d5Z1BZ4t52) のように用例として『落葉集』を挙げるものもあるが、「異俗」「意根」のように用例にも挙げないものの方が多い。また「異法」のように、辞書欄がなく、かつ初出が近代(金子筑水)のものや、「依然」のように辞書欄が近代辞書『言海』のみの場合もある。

さらに、『日国』「いぎ 【異儀】」「いぎ 【異議・異儀・異義】」のように、『落葉集』「異儀(いぎ)」と表記・語形が同一の語が二つに分けて立項される場合がある。この例では内容上(語釈)の差異も不明瞭であり、一方(前者)には辞書欄がない。作業上は二つの URL を熟語①として付したものである。「一郷(いちがう)」は『日国』に「いちごう」「いっきょう」として挙がるが、語釈は同義、初出用例はそれぞれ近代、近世のもので、いずれも辞書欄はない。処理上は①「いちごう」②「いっきょう」となる。他に注9に示したような例もあり、『日国』の不統一な記述に対してどのように対応するかは、ある程度機械的に決定しておく必要がある。

当然これらの情報は、『日国』の記述の補填につながるのみならず、個々の語誌研究発展への 足がかりともなり得るであろう。紙幅の関係で、概要の報告にとどめる。

#### 8 横断検索実装にむけての展望

本発表では、古辞書データベースの横断検索のための共通キーとして『日国』の項目を想定し、『落葉集(本篇)データベース』を対象として『日国』URL 付与を行った過程と結果について述べた。第6節で示したように、イ部・ロ部の466語中62語が『日国』に非掲載であることや、本稿で二重下線を引いた箇所などでは作業者が恣意的な判断を行ったこと、そもそも最も単純な構造を持つ『落葉集』においても様々な課題が浮かび上がったことなど、URL 付与を複数辞書に拡大するためには、さらに検討の必要があることが明らかとなった。

なお、『日国』の欠を補う措置としては、例えば国立国語研究所で構築中の『語誌情報ポータル』(https://goshidb.ninjal.ac.jp/goshidb/)や『日本語歴史コーパス』(https://clrd.ninjal.ac.jp/chj/)の語彙素等との連携を視野に入れて進めることも可能ではないかと発表者らは考えている。後日の検討を期すとともに、さしあたっては『辞書語彙データベース』の他の辞書にも『日国』URLを付し、『日国』の項目を介した横断検索のためのシステム設計・実装を目指すこととする。

#### 参考文献

今野真二 (2018) 『日本国語大辞典をよむ』、三省堂

藤本灯(2023)「色葉字類抄の語彙の性格」『日本語学 特集:辞書を編む・辞書を引く』42-2、明治書院

謝辞 本研究は、科研費(21K18364、21H00529、23KJ1822) および東京大学史料編纂所「データ駆動型 歴史情報研究基盤の構築」プロジェクト、国立国語研究所「多様な語彙資源を統合した研究活用基盤の共創」のサブプロジェクト「語彙資源ポータル拡張」の成果の一部である。

## 日本語学会2023年度秋季大会 ワークショップ

## コーパスと語彙資源の連携

小木曾智信\* 近藤明白子\* 窩橋雄太\* 片山 久留美\* 浅原 芷幸\* \*国立国語研究所 \*東京大学 \*明治大学

本ワークショップの主旨と関連データ等の紹介

小木曾 智信 (国立国語研究所)

『現代日本語書き言葉均衡コーパス』『日本語歴史コーパス』をはじめとする全文に形態論情報が付与されたコーパスが日本語研究に広く用いられるようになった。これらのコーパスは、短単位の見出し語データベースから作られた形態素解析用辞書 UniDic によって形態論情報が付与されている。一方、UniDic は、コーパスに正しく形態論情報を付与したデータを元に機械学習を行うことで自動形態素解析が可能になっているし、コーパスに現れた未知の語をデータベースに追加することで見出し語が整備されていく。このように、コーパスと見出し語辞書は車の両輪のような関係にある。この UniDic のような電子化辞書は、語彙資源と呼ばれるものの一つである。

コーパスに現れる語彙を全て集計した語彙表も語彙資源の一つと言える。各見出し語が、レジスター別・時代別・作品別にコーパスでどれだけ用いられているかという頻度情報は、国語辞典の語誌記述に極めて有効である。コーパス以前から使われているシソーラス『分類語彙表』も語彙資源の一つである。もともと UniDic やコーパスとは無関係に作られたものだが、近年公開された「分類語彙表番号 – UniDic 語彙素番号対応表」によって、コーパスの形態論情報と分類語彙表番号を連携させることができるようになった。

こうした語彙資源は、単独ではなく、他の語彙資源やコーパスと相互に関連付けて用いることで活用の幅が大きく広がるものである。そこで近年、国立国語研究所では、UniDic の語彙素 ID(辞書見出しを一意に同定できる数字)を、コーパスや語彙資源などでキーとして利用できるようにしてきた。コーパス検索アプリケーション「中納言」では、以前から利用できた『日本語歴史コーパス』に加え『現代日本語書き言葉均衡コーパス』や新た

に公開した『昭和・平成書き言葉コーパス』でも検索結果に語彙素 ID を出力している。 これらのコーパスの語彙表にも語彙素 ID を出力しており、各見出し語がどれだけの頻度 で使われていたのかが容易に比較できるようになっている。また、上述の「分類語彙表番 号ーUniDic 語彙素番号対応表」も語彙素 ID がコーパスと分類語彙表をつなぐキーとなっ ている。さらに、自分が用意したテキストを短単位に解析して出力する事のできるウェブ サービス「Web 茶まめ」でも、新たに語彙素 ID の出力に対応した。これにより(自作の データを含む)コーパスと各種語彙資源の連携が容易に行えるようになった。

一方、近年の自然言語処理では、同じ文脈で登場する単語は似た意味を持つという語彙分布仮説の観点から、コーパス中の共起語の頻度をもとに単語の意味をベクトルで表現する単語埋め込み(Word embedding)の手法が発達してきた。見出し語の意味を扱うWord2vec のような単語埋め込みから、BERT のように文脈を考慮した単語の意味を扱うことのできる文脈化単語埋め込みへと発展し、多義語の文脈上の意味を捉えることも可能になり増発展を遂げている。これも、コーパスと語彙資源が連携することで成り立つ新しい語彙・意味研究の方法である。

本ワークショップでは、上述した各種の語彙資源とコーパスの連携方法やツール・手法 について、研究例とともに紹介する次の3つの研究発表を行う。

- ・ 近藤 明日子「通時的な語彙表から見る日本語の語彙の消長」
- · 髙橋 雄太・片山 久留美「分類語彙表を活用した CHJ と SHC の分析」
- ・ 浅原 正幸「分布意味論に基づく語彙研究」

発表後の質疑応答と意見交換の時間を通じて、参加者が今回紹介したデータやツール等を 自身の研究に活かすことができるようにすることを目指したい。

## 謝辞

本研究は、国立国語研究所共同研究プロジェクト「多様な語彙資源を統合した研究活用基盤の共創」の成果の一部である。

## 通時的な語彙表から見る日本語の語彙の消長

# 近藤 明日子(東京大学)

#### 1. はじめに

本稿は、複数のコーパスの語彙頻度表を結合・集計して通時的な語彙表を作成する方法と、それを利用した語彙の量的な消長を探索する分析例について述べるものである。利用する語彙表は、『日本語歴史コーパス』(CHJ)、『昭和・平成書き言葉コーパス』(SHC) のそれぞれの統合語彙表である。CHJ は奈良時代から明治・大正期までの資料を収録し、SHC は昭和・平成期の資料を収録することから、この2種のコーパスの語彙表を結合することで、上代から現代まで時代別に各語の頻度を集計した通時的な語彙表を作成することができる。この語彙表は語彙史研究の基礎資料となり得るものである。

#### 2. 通時的な語彙表の作成

CHJと SHC はそれぞれ語彙頻度表が以下のとおり公開されている。

『日本語歴史コーパス』統合語彙表 (バージョン 2023.03)

https://doi.org/10.15084/0002000042

『昭和・平成書き言葉コーパス』短単位語彙表 (バージョン 2023.05)

https://doi.org/10.15084/0002000043

このうち短単位の語彙表は、一般の PC の表計算ソフトで扱えるように、それぞれ 3 個、計 6 個の CSV ファイルに分割されている (詳しくは各統合語彙表の README ファイル参照)。ここでは、 Microsoft Excel を使用してこの 6 ファイルを結合・集計し、通時的な語彙表を作成する方法に ついて述べる。

## (1) 複数の CSV ファイルを結合して 1 個の表として扱えるようにする

Excel で新規にブック「CHJ-SHC 語彙表結合」を作成し、メニュー「データ」―「新しいクエリ」―「ファイルから」―「CSV から」をクリックする。「データの取り込み」ウィンドウで統合語彙表の CSV ファイルを一つ指定し「インポート」ボタンをクリックする。CSV ファイルの概要を示すウィンドウで、「読み込み」―「読み込み先」をクリックする。「読み込み先」ウィンドウで「接続の作成のみ」にチェックし「読み込み」ボタンをクリックする。「ブッククエリ」ウィンドウにクエリとして読み込まれた CSV ファイルが表示される。他の CSV ファイルも同様にクエリとして読み込む。

メニュー「データ」―「クエリの結合」―「追加」をクリックする。「追加」ウィンドウで「3つ以上のテーブル」にチェックし、すべてのクエリを「追加するテーブル」に追加し、「OK」ボタンをクリックする。「Power Query エディター」ウィンドウ内の「クエリの設定」ウィンドウの「名前」ボックスに「CHJ/SHC 結合」と入力し、「ホーム」メニュー―「閉じて読み込む」をクリックする。読み込みの途中で「ブッククエリ」ウィンドウに「ワークシートへの読み込みに失敗しました。」と表示されるので、それをポイントし「CHJ/SHC 結合」の概要を示すウィンド

ウで「データモデルへの読み込み」をクリックし、読み込みを続けて完了させる。

## (2) ピボットテーブルで集計し、粗頻度語彙表を作成する

「ブッククエリ」ウィンドウで「CHJ/SHC 結合」をダブルクリックする。「Power Query エディター」ウィンドウで「品詞」列を選択、メニュー「変換」―「列の分割」―「区切り記号による分割」をクリックする。「区切り記号による列の分割」ウィンドウで「―カスタム―」を選択し、「―」(半角ハイフン)を指定する。分割地点は「区切り記号の出現ごと」にチェックし、「OK」ボタンをクリックする。「品詞」列が「品詞. 1」「品詞. 2」「品詞. 3」の3列に分割される。「Power Query エディター」ウィンドウの「ホーム」メニュー―「閉じて読み込む」をクリックする。元のブックの画面に戻り、「CHJ/SHC 結合」が読み込まれる。

「挿入」メニューー「ピボットテーブル」をクリックする。「ピボットテーブルの作成」ウィンドウで「このブックのデータモデルを使用する」と「新規ワークシート」にチェックし、「OK」ボタンをクリックする。「ピボットテーブルのフィールド」ウィンドウで、行ラベルに「語彙素ID」「語彙素読み」「語彙素」「語種」「品詞.1」、列ラベルに「時代」、値エリアに「freq」(集計方法:合計)を配置し、集計表を作成する。この際、「ピボットテーブルツール」ー「デザイン」メニューでは「小計」ー「小計を表示しない」、「総計」ー「列のみ集計を行う」、「レポートのレイアウト」ー「表形式で表示」「アイテムのラベルをすべて繰り返す」を選択する。またフィルター機能を使用し、「語彙素 ID」は「0 と等しくない」、「品詞-大分類」は「名詞・代名詞・連体詞・形容詞・形状詞・動詞・副詞・接続詞・感動詞・接頭辞・接尾辞」に絞り込む。

このピボットテーブルをコピーし、新規ブック「通時的語彙表」の新規シート「粗頻度語彙表」 に数値として貼り付ける。行1が列名データとなるよう冒頭の余分な行を削除し、各語の粗頻度 を時代別に集計した語彙表を完成させる。

#### (3) 粗頻度語彙表から相対頻度語彙表を作成する

新規シート「相対頻度語彙表」にシート「粗頻度語彙表」の列  $A\sim E$  と行 1 をコピーする。セル F2 に式「=粗頻度語彙表!F2/粗頻度語彙表!F\$176919\*1000000」を入力し、相対頻度(100 万語あたり)を表示する。セル F2 は最終列および最終行までコピーし、各語の相対頻度を集計した語彙表を完成させる(表 1)。

語彙素ID	語彙素読み	語彙素	語種	品詞.1	1奈良	2平安	3鎌倉	4室町	5江戸	6明治	7大正	8昭和	9平成
63	ア	ア	外	名詞	0	0	0	0	0	0	0.693074	2.035965	2.92769
65	ア	ア	固	名詞	0	0	0	0	0	0	0	0	0.266154
66	ア	亜	漢	接頭辞	0	0	0	0	0	0	0	4.07193	3.459997
67	アア	ああ	和	感動詞	0	3.236052	4.56856	596.2491	1410.437	482.783	269.9523	126.5556	125.2253
68	アア	ああ	和	副詞	0	0	0	0	65.77168	24.29422	42.27751	67.02398	43.24996

表 1 CHJ・SHC の通時的な相対頻度語彙表 (一部)

表 1 にあるように、この語彙表では語の同定に「語彙素 ID」「語彙素読み」「語彙素」「語種」「品詞. 1」の 5 列を使用している。語彙素 ID は UniDic の語の階層構造のうち最上層の語彙素レベルを一意に同定する ID である。よって、語彙素 ID が定まれば語彙素レベルの情報である語彙素読み・語彙素・語種も定まる。しかし品詞は語彙素レベルの下層の語形レベルの情報であり、一つの語彙素 ID の下に複数の品詞が属する場合がある。よって、品詞を語の同定に利用するか

否かによって作成する語彙表の異なり語数も異なってくる。研究の目的に応じて語を同定する要素を選択する必要がある。

## 3. 通時的変化の類似性による語のクラスタリング

2 で作成した通時的な語彙表は、各語の上代から現代までの量的変化を表した時系列データである。そこで、時系列クラスタリングの手法<sup>1</sup>を用いて、通時的変化の類似性による語のクラスタリング(グループ分け)を試みる。

相対頻度語彙表から全時代の相対頻度の合計を算出し、その合計頻度が上位の名詞 100 語について、時系列間の距離計量によく利用される DTW (dynamic time warping:動的時間伸縮法) 距離に基づき Ward 法による階層的クラスタリングを行った $^2$ 。図 1 がそのデンドログラムである。図 1 に破線で示した位置で 4 個のクラスターに分割した。図 2 がクラスター別の時系列データ、表 2 が各クラスターに属する語のリストである。

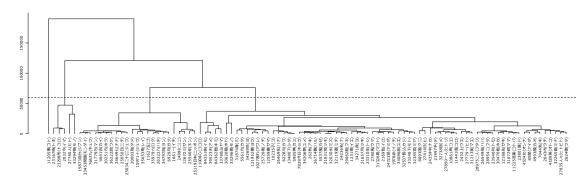


図1 名詞頻度上位 100 語の DTW 距離による階層的クラスタリング (Ward 法)

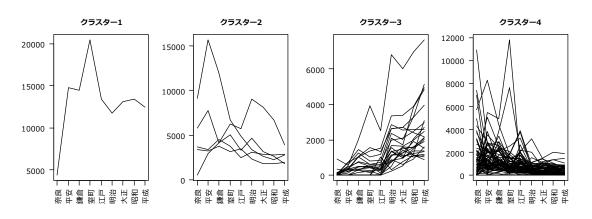


図 2 名詞頻度上位 100 語のクラスター別時系列データ

<sup>1</sup> Nielsen (2021) の「第9章 機械学習による時系列解析」や小森 (2022) の「Chapter 5 時系列データ同士の関係の評価」等を参照。

<sup>2</sup> DTW 距離の算出および階層的クラスタリングは、プログラミング言語 R (https://cran.r-project.org/) の {TSclust} パッケージを利用して行った。

表 2 名詞頻度上位 100 語のクラスター別語リスト

クラスター	語 <sup>※</sup>
1	12836事(コト)
2	31500人(ヒト), 37875物(モノ), 26231時(トキ), 26373所(トコロ), 2460今(イマ)
3	2050ー(イチ), $28181$ 二(二), $14499$ 三(サン), $28927$ 年(ネン), $18157$ +(ジュウ), $22686$ 為(タメ), $28455$ 日本(ニッポン), $13327$ 五(ゴ), $39551$ 四(ヨン), $8121$ 月(ガツ), $40932$ 六(ロク), $28375$ 日(ニチ), $29802$ 八(ハチ), $28353$ 二十(ニジュウ), $18036$ 自分(ジブン), $27908$ 七(ナナ), $38048$ 問題 (モンダイ), $36123$ 万(マン), $8929$ 九(キュウ), $40560$ 零(レイ), $5605$ 会(カイ), $34378$ 方(ホウ), $41224$ 訳(ワケ)
4	12615心(ココロ)、34771程(ホド)、37877者(モノ)、120142君(キミ)、38413山(ヤマ)、27572中(ナカ)、10282国(クニ)、3206内(ウチ)、36235身(ミ)、31499ー(ヒト)、2957上(ウエ)、31098日(ヒ)、38982世(ヨ)、6595方(カタ)、35465前(マエ)、29962花(ハナ)、5456女(オンナ)、29132後(ノチ)、24877手(テ)、11786子(コ)、37241目(メ)、168間(アイダ)、36678皆(ミナ)、1580家(イエ)、38761故(ユエ)、5063男(オトコ)、12455声(コエ)、38984夜(ヨ)、24485月(ツキ)、36514道(ミチ)、26386年(トシ)、120118妹(イモ)、27435名(ナ)、31575一人(ヒトリ)、9128今日(キョウ)、251333様(ヨウ)、15396下(シタ)、5985顔(カオ)、34603他(ホカ)、37818下(モト)、7355川(カワ)、35597真(マコト)、13107頃(コロ)、14373様(サマ)、37012昔(ムカシ)、13950先(サキ)、8263気(キ)、31560人々(ヒトビト)、24683常(ツネ)、32968船(フネ)、36417水(ミズ)、1312哀れ(アワレ)、32873二人(フタリ)、46521天(アメ)、7071神(カミ)、35989侭(ママ)、3362馬(ウマ)、3181歌(ウタ)、30256春(ハル)、382秋(アキ)、27990涙(ナミダ)、38906夢(ユメ)、6570風(カゼ)、30052母(ハハ)、32850二(フタ)、2401命(イノチ)、36830宮(ミヤ)、12860言葉(コトバ)、26643共(トモ)、2613色(イロ)、26947度(ド)

※表示形式は「語彙素ID語彙素(語彙素読み)」、掲出順は相対頻度合計昇順

図2から各クラスターの通時的変化の特徴を見ていくと、クラスター1は時代を通じて非常に高頻度、クラスター2は時代を通じて高頻度かつ減少傾向、クラスター3は低頻度から増加傾向、クラスター4は低頻度へ減少傾向あるいは低・中頻度で一定傾向、と捉えられ、名詞の消長パターンの概略を知ることができる。表2で各クラスターに属する語を見ていくと、直感にそった語が並ぶ一方、思いも至らなかった語もまた見られる。分析対象の品詞や範囲を変えて分析を行えば、また新たな知見が得られよう。このような手法によって語彙の通時的変化の構造・特徴を理解することは、個別の語史研究をより深めるための背景知識ともなるはずである。

#### 4. おわりに

以上、CHJとSHCの語彙表を利用して上代から現代までの通時的な語彙表を作成し、それを使用した語彙の通時的変化の分析例について述べた。大規模コーパスに基づく複数の語彙表を複数結合・集計することで、日本語の歴史全体をカバーする語彙史研究の基礎資料となり得るデータが得られた。それに適した分析手法とともに利用することで、今後の語彙史研究に新たな展開が期待される。

#### 謝辞

本研究は、国立国語研究所共同研究プロジェクト「多様な語彙資源を統合した研究活用基盤の共創」の成果の一部である。

## 参考文献

Nielsen, A. (著)、山崎邦子・山崎康宏(訳)(2021)『実践時系列解析―統計と機械学習による 予測』オライリー・ジャパン

小森政嗣(2022)『R と Stan ではじめる心理学のための時系列分析入門』講談社

## 分類語彙表を活用した CHJ と SHC の分析

高橋 雄太\* 片山 久留美\*\* (国立国語研究所)

## 1. はじめに

本発表では、『日本語歴史コーパス (CHJ)』および『昭和・平成書き言葉コーパス (SHC)』の見出し語と分類語彙表番号を対応させ、各コーパスにおける語彙の意味の分布 や、特定の語の共起語の意味分類を分析する方法について解説する。

## 2. CHJ・SHC の検索結果と分類語彙表番号の対応付け

『分類語彙表』は語を意味によって分類したシソーラスで、各分類項目に「分類番号」を付している。「分類番号」は、整数 1 桁と小数点以下 4 桁から成り、最初の整数 1 桁は「類」、小数点 1 桁目は「部門」、小数点 1・2 桁目は「中項目」、小数点 3・4 桁目は「分類項目」を表している。コーパスで検索した語とこの「分類番号」の対応付けを行うことで、コーパスから得た多量の用例を語の意味の面から考察することが容易に可能となる。まず、CHJ・SHC の検索結果と分類番号の対応付けを行う方法について述べる。

- ① 検索アプリケーション「中納言」で用例を検索し、結果を Excel 形式でダウンロードする。検索結果のシートに分類番号を表示するための列を 1 列追加しておく。
- ② 「分類語彙表番号-UniDic 語彙素番号対応表¹」(以下「対応表」と呼ぶ)をダウンロードし、①でダウンロードした Excel の新しいシート上で開く。
- ③ ①の検索結果のシートに追加しておいた列に、XLOOKUP 関数を入力する。「検索値」 の引数で語彙素 ID が入力されているセルを参照し、「対応表」から語彙素 ID に対応す る分類番号を取得する。
  - こうして取得した分類番号のデータには、次のような問題がある。
- I. 語彙素 ID に対応する分類番号が存在しない場合がある
- II. 一つの語彙素 ID が複数の分類番号に対応することがある

I については分類語彙表に掲載のない助詞・助動詞類、古語などが該当する。Ⅱはある語が多義である場合、一つの語彙素 ID に対応する分類番号が複数存在する。上記のように XLOOKUP 関数を使用すると、「対応表」において最も上に位置する分類番号のみを取得することになる。こうした問題を認識したうえで、取得した分類番号の人手による確認・修正が必要となる。

具体的な事例として、CHJと SHC における「風 (カゼ)」という語を修飾する形容詞の意味分類について通時的な変遷を検討する。「中納言」を用いて CHJ・SHC 全データにおける語彙素「風 (カゼ)」の1語前および後文脈5語以内に現れる形容詞を検索し、上記の手順により分類番号を取得した。語彙素「いみじい」など対応する分類番号がない例、語彙素「痛い」のように文脈に応じ複数の語義が想定される例2などが見られたが、宮島

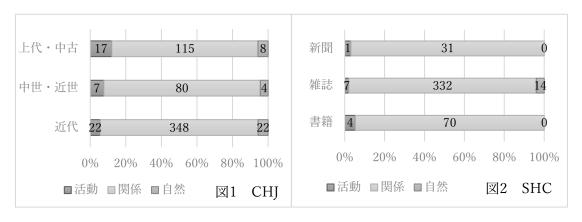
<sup>\*</sup> ytaka@ninjal.ac.jp \*\* kurumi katayama@ninjal.ac.jp

<sup>1</sup> https://github.com/masayu-a/wlsp2unidic

<sup>2</sup> 万葉集・八代集などに見られる「風をいたみ」の形の場合は分類語彙表番号「3.1920,相-関係

ほか(2014)を参考に修正を行い、すべての語に適切な分類番号を付与した。

CHJでは時代別に、SHC はジャンル別に分類番号の「部門」の割合をグラフにしたのが図1・2である。いずれにおいても多数を占める「関係」には「涼しい」などの「量-寒暖」、「強い」などの「力-力」といった下位分類が含まれており、これらの意味分野と「風」という語との共起しやすさが確認できる。「活動」では「心細い」「嬉しい」など中項目「心」に分類される例が SHC に比して CHJ で多く見られる。また、CHJ ではいずれの時代でも「自然」の例が見られるのに対し、SHC の新聞および書籍では1例もない。「自然」に含まれる「におい」や「色」を用いた表現が使われにくい傾向が窺える。



#### 3. SHC の統合語彙表と分類語彙表番号の対応付け

加藤ほか (2019) では、『現代日本語書き言葉均衡コーパス (BCCWJ)』のコアデータの書籍・雑誌・新聞レジスターの一部 (約35万語) に分類語彙表番号を付与し、レジスター別の意味の分布についての調査結果を報告している。本発表では、3300万語規模の SHCのようなビッグデータで、どこまで意味の分布を正確に測ることができるのか検証を試みる。SHCでは、ベストセラー書籍・雑誌・新聞のレジスター別に各語彙素の出現頻度を集計した統合語彙表 (小木曽 2023) が公開されており、同表には語彙素 ID が実装されているため、分類語彙表番号の対応付けが可能である。

統合語彙表の語彙素 ID と分類語彙表番号を対応させるまでの手順は、2 節の分析例と共通である。SHC の各レジスターと分類語彙表番号を対応させると、分類語彙表番号の対応しないレコードは全体の約4割に及ぶ。この対応なしのレコードを可能な限り減らすために、次のAからDの手続きを行った。

A.加藤ほか(2019)に倣い、大半が分類語彙表番号に未対応の助詞や助動詞や、同じく 未対応の動詞「於く」・形状詞「様」などの高頻度の機能語を削除する。

- B.記号類を削除する。
- C.SHC で行われた伏字処理によって語彙素 ID が「0」のレコードを削除する。
- D.文脈がなくとも意味分類を同定できる品詞「名詞-固有名詞-地名-国」「名詞-固有名詞-

<sup>-</sup>量-程度」に該当するが、近代雑誌に現れた「 $\underline{a}$ い」風の刺激に逢ふ」の例では「3.3001,相-活動-心-感覚」が適切であると考えられる。

地名-一般」「名詞-固有名詞-人名-姓」「名詞-固有名詞-人名-名」の分類語彙表番号未対 応のレコードに、一律で類似する語彙素の番号を付与する<sup>3</sup>。

以上の4つの手続きによって、対応なしのレコードはSHC各レジスターで3%強となった。加藤ほか(2019)では外国語の機能語や固有名詞の一部など分類語彙表番号を付与できない「分類対象外」の枠を設けており、これが全体の3%程度のため、この段階でおおよその比較が可能になったと考える。

文脈情報のない統合語彙表においては、複数の語彙表番号を有する語彙素の正しい語義を選択することができないことや、「名詞-普通名詞-形状詞可能」といった可能性に基づく短単位の品詞認定されている語彙素が一律で「体」類に分類されることなどが問題として想定されるが、これらがどの程度調査結果に表われるかについても検証する。

## 3.1 類分布の比較

次の表 1 には、SHC の統合語彙表の各レジスターと、加藤ほか(2019)掲載の BCCWJ のコアデータにおける類分布を示した。

	レジスター	1. 体	2. 用	3. 相	4. 他	対象外
	ベストセラー書籍	55.00%	28.79%	10.84%	2.14%	3.11%
S H	雑誌	60.56%	25.17%	9.44%	1.59%	3.24%
C	新聞	70.77%	18.16%	6.78%	0.84%	3.45%
	総計	59.83%	25.17%	9.94%	1.51%	3.55%
В	書籍	55.01%	26.43%	13.18%	2.21%	3.17%
C C	雑誌	62.81%	21.51%	11.43%	1.45%	2.80%
W	新聞	73.53%	16.40%	6.65%	0.61%	2.81%
J	総計	64.42%	21.10%	10.20%	1.37%	2.91%

表1 SHC・BCCWJにおけるレジスター別の類分布

表 1 の SHC と BCCWJ を比べると、例えば「体」の類においては新聞、雑誌、書籍の順に多いなど、各類における序列はすべて共通している。総計には最大で 5%程度の比較的大きなずれが見られるが、これは SHC のレジスターごとの語数が均等でなく、雑誌の言語量が他のレジスターに比べて 10 倍程度であることに起因すると考えられる。

#### 3.2 部門分布の比較

次の表 2 には、SHC と加藤ほか(2019)掲載の BCCWJ における部門分布を示した。表 2 の SHC と BCCWJ を比べると、「関係」「活動」「主体」の順に多い点は両コーパスに共通するものの、部門分布の大部分を占める「関係」と「活動」の数値に 5%から 9%程度の大きなずれが見られ、SHC では「関係」が多い代わりに「活動」が少なく、「生産物」と「自然」の部門も BCCWJ に比較して少ない。

<sup>&</sup>lt;sup>3</sup> 外国人名、日本人も含むあだ名類、神仏名などを含む「名詞-固有名詞-人名-一般」や、元号、企業名、商品名などを含む「名詞-固有名詞-一般」は多様な分類語彙表番号が対応するため、一律での番号の付与を見送った。

2. 主体 4. 生産物 レジスター 1. 関係 3. 活動 5. 自然 対象外 2.23% 2.94% 55.60% 12.43% 21.40% 3.11% ベストセラー書籍 S 23.36% 2.02% 54.30% 14.90% 2.18% 3.24% 雑誌 Η 新聞 54.97% 15.57% 21.01% 2.23% 2.07% 3.45% C 14.33% 21.82% 総計 56.02% 2.03% 2.19% 3.55% 46.25% 12.07% 28.97% 4.32% 5.22% 3.17% 書籍 В C 47.68% 10.99% 28.41% 4.94% 5.18% 2.80% 雑誌  $\mathbf{C}$ 45.61% 16.45% 29.22% 3.08% 2.82% 2.81% 新聞 W J 総計 46.49% 13.32% 28.88% 4.07% 4.33% 2.91%

表2 SHC・BCCWJにおけるレジスター別の部門分布

このようなずれが生じたのは、多義語の分類語彙表番号の対応のさせ方によるところが大きいと考えられる。今回の手法では、多義を持つ語彙素の番号のうち最も上に位置する分類番号、すなわち最も番号が小さい分類番号を取得するため、部門番号「1. 関係」が、「3. 活動」より優先されて一律に付与されている。部門に「関係」と「活動」の双方を持つ語彙素のうち最も頻度の高い語彙素が「為る」であり、「関係」部門の用例の7.1%を占める(次点が「出来る」の0.4%)。「為る」は8種の分類番号を擁する語彙素であり、このうち最も番号の小さい「2.1211, 用-関係-存在-発生・復活」が一律で付与されたことによる影響が大きい。このような極端に頻度が高く分布に偏りを生じさせる語彙素に限って、ランダムサンプリングによる用例分析によって、複数ある語義の出現比率を概算して分析に適用するなどの工夫をすれば、ずれを軽減することができるだろう。

#### 4. まとめと今後の展望

本発表では分類語彙表番号と CHJ や SHC の「中納言」での検索結果や統合語彙表の語彙素 ID を利用して、語彙の意味分布の調査を行った。正確性が不足する部分はあるものの、手作業による分類番号の修正を施すことで、意味分布の傾向を測ることは実現したと考える。なお、現在、「説明 | する」のような複数短単位にまたがる見出しの分類番号にも対応した分類語彙表のデータが構築中であり、3.2 の「為る」にまつわる問題をはじめとして、自動の分類番号の付与の正確性についても、今後進展することが期待される。

## 付記

本発表は、国立国語研究所共同研究プロジェクト「多様な語彙資源を統合した研究活用基盤の共創」の成果の一部です。

## 参考文献

小木曽智信(2023)「『昭和・平成書き言葉コーパス』 短単位語彙表(バージョン 2023.05)」 https://repository.ninjal.ac.jp/records/2000043

加藤祥・浅原正幸・山崎誠 (2019)「分類語彙表番号を付与した『現代日本語書き言葉均衡コーパス』の書籍・新聞・雑誌データ」『日本語の研究』第 15 巻 2 号、pp.134-141.

国立国語研究所(2004)『分類語彙表増補改訂版データベース』(ver.1.0)

宮島達夫・鈴木泰・石井久雄・安部清哉編(2014)『日本古典対照分類語彙表』笠間書院

## 分布意味論に基づく語彙研究

浅原 正幸\* (国立国語研究所)

#### 1. はじめに

分布意味論(Distributional Semantics)は、言語学や自然言語処理の分野で用いられる概念の一つ である。単語や文の意味を、その周囲の文脈や他の単語との関連性に基づいて捉える方法論である。分 布意味論の基本的な考え方は、「単語の意味は、その単語がどのような文脈で使われるかによって決ま る」というものである。つまり、特定の単語が似たような文脈で使用されると、その単語の意味も類似 しているとみなすという考え方である。分布意味論は、大規模なテキストデータから統計的な関連性を 抽出し、単語や文の意味表現を数値ベクトルとして捉える手法(ベクトル空間モデル)を用いる。ベク トルは、数学的な概念であり、多次元空間上の点や方向を表すものである。ベクトルは大きさ(長さ) と方向を持ち、一般的には座標の組み合わせとして表現される。自然言語処理の文脈で単語を表現する 手法としてベクトルが用いられるのは、単語や文の意味を数学的に捉えるためである。単語をベクトル 空間に埋め込むことから単語埋め込みと呼ばれる。単語埋め込み技術は、そのベクトル同士の距離や関 係性を計算することで意味的な情報を得ることができる。例えば「 $king-man+woman \simeq queen$ 」 のような類推関係を捉えるために利用されたり、単語・文・文書の分類やクラスタリングなどに応用さ れる。分布意味論を用いて単語や文をベクトル空間に埋め込むことで、意味的な関連性を数値的に扱い やすくすることができる。従来の単語埋め込みは単語のタイプに対するベクトル割り当てであったが、 近年の単語埋め込みは単語のトークンに対するベクトル割り当てである文脈化単語埋め込みを使用する ことが一般的である。文脈化単語埋め込みは、特定の単語が文脈に応じて異なるベクトル表現を持つこ とを可能にする。以下では単語埋め込み技術について概観し、国語研で整備した単語埋め込み関連の言 語資源について紹介し、単語埋め込みを用いた語彙研究の可能性について示す。

#### 2. 単語埋め込み技術

## 2.1 単語文書行列と系列(共起行列)

分布をとらえる手がかりとして単語文書行列と共起行列の2種類について考える。まず出発点としてあるコーパスの語彙頻度表を考える。語彙頻度表は、各単語に対してコーパス中の頻度を割り当てたものである。実質的に一次元空間に対する単語埋め込みとみなせる。n個の文書の語彙頻度表を連結するとn次元空間に対する単語埋め込みとみなせる。この複数文書の語彙頻度表のことを単語文書行列と呼ぶ。他の手法として、ある単語を中心として前後に共起する単語の度数をベクトル化したものも単語埋め込みとみなせる。単語文書行列を構成する際に生頻度(Raw Frequency)の代わりに単語頻度(TF: Term Frequency)と逆文書頻度(IDF: Inverse Document Frequency)をかけ合わせたものを用い、単語の特異性を強調したり、文書間での差異を強調することが行われる。系列の中での文脈における共起語に基づき、共起語の頻度ベクトルを構成した行列を共起行列と呼ぶ。いずれも単語ベクトルを構成するものであるが、疎な(0が多い)ベクトルであることから空間計算量が大きいという問題を持つ。

#### 2.2 単語文書行列に基づく単語埋め込み

以下では疎な単語文書行列を次元削減する方法について示す。

<sup>\*</sup> masayu-a@ninjal.ac.jp

潜在意味解析 (LSA: Latent Semantic Analysis) は高次元の行列を,主成分分析 (PCA: Principal Component Analysis) いう線形代数的手段で低次元に縮約する。

Hofmann (2000) は確率的潜在意味解析 (PLSA: Probabilistic Latent Semantic Analysis) 手法を提案した。次元削減のために統計的な確率モデルを構築し、意味的な関連性を抽出する。PLSA は、文書の生成モデルとして考えられる。モデルは、文書に潜在的なトピック(意味的なテーマ)が存在し、各トピックに対して単語が確率的に生成されるという仮定を基に構築される。PLSA では、モデルのパラメータ(トピックの分布や単語の分布)を推定するために、最尤推定や期待値最大化アルゴリズムなどの手法を使用する。これによって、文書とトピックの関連性、単語とトピックの関連性が推定される。

Blei et al. (2003) は潜在ディリクレ割り当て法 (LDA: Latent Dirichlet Allocation) 手法を提案した。観測データに基づく各トピックの現れやすさをモデル化するもので、単語数はポアソン分布に従うとし、文書ごとの潜在トピックの出現分布として多項分布を用いる。各トピックがどのような単語を生成しやすいか、各文章がどのようなトピックかをベイズ推定する。

#### 2.3 系列に基づく単語埋め込み

Mikolov et al. (2013) は 2 層の順伝搬型ニューラルネットを用いて系列から単語のベクトル表現学習する方法を提案した。文脈から単語を推定する CBOW (Continuous Bag-of-Words) モデルと単語から文脈を推定する Skip-gram の 2 つを提案した。その後、内部にループを持つ回帰型ニューラルネットワーク (RNN: Recurrent Neural Network) の一つである長短期記憶 (LSTM: Long Short-term Memory) を双方向に組み合わせた、文脈化単語埋め込み (Peters et al. 2018) の推定手法が提案された。さらに 2017 年に注意機構 (Attention) を有する Transformers と呼ばれるモデルが言語処理の分野で提案された (Vaswani et al. 2017)。次の単語を予測する言語モデル OpenAI GPT (Radford et al. 2018) や BERT (Devlin et al. 2019) が提案された。これらのモデルでも文脈化単語埋め込みを出力することができる。

#### 3. 分布意味論に関連した言語資源(国語研整備のもの)

分布意味論に関わる言語資源は近年言語モデルという形式で公開されている。以下では国語研が整備 した、分布意味論に関連した言語資源について紹介する。

まず、単語文書行列を構成する語彙表は、国立国語研究所学術情報リポジトリ (https://repository.ninjal.ac.jp/) のインデックスツリー「言語資源」以下に、各コーパスの「語彙表」という形式で公開されている。サンプルより大きなレジスタ単位で集計されているが、PLSA や LDA などの単語文書行列に基づく単語埋め込みの訓練に利用することができる。

系列に基づく単語埋め込みとして、『国語研日本語ウェブコーパス』(NWJC) (Asahara et al. 2014) から訓練した NWJC2vec (新納ほか 2017) (https://www.gsk.or.jp/catalog/gsk2020-d/) が公開されている。また、形態素解析器 Sudachi と NWJC を用いた単語埋め込み chiVe (真鍋ほか 2019, 河村ほか 2020, 久本ほか 2020)(https://github.com/WorksApplications/chiVe) がワークスアプリケーションズ社より公開されている。

さらに、文脈化単語埋め込みを生成するモデルとして NWJC-BERT (浅原ほか 2020)(https://www.gsk.or.jp/catalog/gsk2020-e) を公開している。あらかじめ NWJC-BERT を用いてコーパスのすべての単語に文脈化単語埋め込みを付与した BERTed-BCCWJ (浅原・加藤 2020a) や BERTed-CHJ (浅原・加藤 2020b) を整備した。また、形態素解析器 Sudachi と NWJC を用いた Transformers モデル chiTra (勝田ほか 2022) (https://github.com/WorksApplications/SudachiTra) がワークスアプリケーションズ社より公開されている。

#### 4. 単語埋め込み・文脈化単語埋め込みの利用法

通常の単語埋め込みは、ベクトルの距離(小さいほど近い)もしくは類似度(大きいほど近い)を用いて、2語の間の置き換え可能性を評価する。よく利用される距離として、ユークリッド距離(コサイン類似度)が用いられる。

系列に基づく単語埋め込みでは数百次元のベクトルを構成することが多く、2次元もしくは3次元に次元削減を行って可視化することが多い。先に述べた主成分分析 (PCA) は、データの主要な情報を保持する新しい座標軸(主成分)を見つけ出し、データをこれらの主成分に射影する。線形な方法であり、計算が効率的でデータの分散を最大化する一方、クラスタリングには向かない手法である。t-SNE(t-distributed Stochastic Neighbor Embedding) は非線形変換の手法で、高次元データを低次元空間に埋め込む手法で、高次元データで類似したデータポイントが低次元空間でも近くなるよう(異なるデータポイントは離れた位置に配置されるよう)に設計されている。具体的には、高次元データポイントのペアの間の類似度を表す確率分布(近さを考慮)と、低次元での埋め込みにおけるデータポイントのペアの間の類似度を表す確率分布を比較し、KLダイバージェンスを最小化するように低次元の埋め込みを調整する。しかしながら、計算コストが高く、高次元データに対しては時間がかかることがある。UMAP(Uniform Manifold Approximation and Projection) は t-SNE に似ている非線形変換の手法で、高次元空間での局所的な構造を保持しながらデータを低次元空間に写像する。具体的には、データはあるリーマン多様体の上に一様分布にあるものだと仮定し、そのリーマン多様体を推定した上で、低次元ユークリッド空間と同距離写像が引けるよう推定する。t-SNE と比べて、計算コストが低く、高次元データに対しても有効である。

しかしながら単語埋め込みは言語の生産実態のデータであるコーパスから訓練したものである。ヒトが近い用法と考える単語対が、単語埋め込みに基づく距離においては遠いことも確認されている (浅原ほか 2020)。ヒトの語義分類に合わせるために、分類語彙表ラベルが付与されたコーパスなど (加藤ほか 2019, 浅原ほか 2023) から訓練する (Asada et al. 2023) などの作業が必要となる。

#### 5. おわりに

本予稿では、分布意味論に基づく語彙資源としての単語埋め込み技術について概観するとともに、国語研が整備した分布意味論に関連した言語資源について紹介した。ワークショップでは、実際に日本語単語埋め込みデータを配布し、 Embedding Projector (https://projector.tensorflow.org/) を用いて、演習形式で分布意味論に基づく語彙研究について体験していただく予定である。

## 謝辞

本研究は国立国語研究所共同研究プロジェクト「実証的な理論・対照言語学の推進」によるものです。

#### 文 献

Thomas Hofmann (2000). "Learning the Similarity of Documents: An Information-Geometric Approach to Document Retrieval and Categorization." Advances in Neural Information Processing Systems 12, pp. 914–920.: MIT Press.

David M. Blei, Andrew Y. Ng, and Michael I. Jordan (2003). "Latent Dirichlet Allocation." *Journal of Machine Learning Research*, 3, pp. 993–1022.

Tomas Mikolov, Kai Chen, Greg S. Corrado, and Jeffrey Dean (2013). "Efficient Estimation of Word Representations in Vector Space." *CoRR*, abs/1301.3781.

- Matthew E. Peters, Mark Neumann, Mohit Iyyer, Matt Gardner, Christopher Clark, Kenton Lee, and Luke Zettlemoyer (2018). "Deep contextualized word representations." Proceedings of the 2018 Conference of the North American Chapter of the Association for Computational Linguistics: Human Language Technologies, Volume 1 (Long Papers), pp. 2227–2237.
- Ashish Vaswani, Noam Shazeer, Niki Parmar, Jakob Uszkoreit, Llion Jones, Aidan N. Gomez, Lukasz Kaiser, and Illia Polosukhin (2017). "Attention is all you need." *Advances in neural information processing systems*, pp. 30–38.
- Alec Radford, Karthik Wu, Rewon Child, David Luan, Dario Amodei, and Ilya Sutskever (2018). "Improving language understanding by generative pretraining." OpenAI Technical Report.
- Jacob Devlin, Ming-Wei Chang, Kenton Lee, and Kristina Toutanova (2019). "BERT: Pre-training of Deep Bidirectional Transformers for Language Understanding." Proceedings of the 2019 Conference of the North American Chapter of the Association for Computational Linguistics: Human Language Technologies, Volume 1 (Long and Short Papers), pp. 4171–4186. Minneapolis, Minnesota: Association for Computational Linguistics.
- Masayuki Asahara, Kikuo Maekawa, Mizuho Imada, Sachi Kato, and Hikari Konishi (2014). "Archiving and Analysing Techniques of the Ultra-large-scale Web-based Corpus Project of NINJAL, Japan." *Alexandria*, 26:1-2, pp. 129–148.
- 新納浩幸・浅原正幸・古宮嘉那子・佐々木稔 (2017). 「nwjc2vec: 国語研日本語ウェブコーパスから構築した分散表現データ」 自然言語処理, 24:5, pp. 705-720.
- 真鍋陽俊・岡照晃・海川祥毅・高岡一馬・内田佳孝・浅原正幸 (2019). 「複数粒度の分割結果に基づく 日本語単語分散表現」 言語処理学会第 25 回年次大会 (NLP2019).
- 河村宗一郎・久本空海・真鍋陽俊・高岡一馬・内田佳孝・岡照晃・浅原正幸 (2020). 「chiVe 2.0: Sudachi と NWJC を用いた実用的な日本語単語ベクトルの実現へ向けて」 言語処理学会第 26 回年次大会 (NLP2020).
- 久本空海・山村崇・勝田哲弘・竹林佑斗・高岡一馬・内田佳孝・岡照晃・浅原正幸 (2020). 「chiVe: 製品利用可能な日本語単語ベクトル資源の実現へ向けて」 第 16 回テキストアナリティクス・シンポジウム, pp. IEICE-NLC2020-9. 電子情報通信学会.
- 浅原正幸・西内沙恵・加藤祥 (2020). 「NWJC-BERT: 多義語に対するヒトと文脈化単語埋め込みの類似性判断の対照分析」 言語処理学会第 26 回年次大会 (NLP2020), pp. 961–964.
- 浅原正幸・加藤祥 (2020a). 「BERTed-BCCWJ: 多層文脈化単語埋め込み情報を付与した『現代日本語書き言葉均衡コーパス』データ」 言語処理学会第 26 回年次大会 (NLP2020), pp. 161-164.
- 浅原正幸・加藤祥 (2020b). 「『日本語歴史コーパス』の文脈化単語埋め込みに基づく意味空間」 じんもんこん 2020 論文集, 2020, pp. 241-246.
- 勝田哲弘・林政義・山村崇・Tolmachev Arseny・高岡一馬・内田佳孝・浅原正幸 (2022). 「単語正規化による表記ゆれに頑健な BERT モデルの構築」 言語処理学会第 28 回年次大会 (NLP2022).
- 加藤祥・浅原正幸・山崎誠 (2019). 「分類語彙表番号を付与した『現代日本語書き言葉均衡コーパス』 の書籍・新聞・雑誌データ」 日本語の研究, 15:2, pp. 134-141.
- 浅原正幸・池上尚・鈴木泰・市村太郎・近藤明日子・加藤祥・山崎誠 (2023). 「『日本語歴史コーパス』 に対する分類語彙表番号アノテーションとその利用」 日本語の研究, 19:3.
- Soma Asada, Kanako Komiya, and Masayuki Asahara (2023). "All-Words Word Sense Disambiguation for Historical Japanese." The 37th Pacific Asia Conference on Language, Information and Computation (PACLIC 37).

## 縦断作文コーパスに見る学習者の日本語習得過程

本多由美子(国立国語研究所) 陳燕青(中国・福建師範大学) ライ・タイン・ホア(一橋大学大学院生) レー・ティ・トゥー・ハー(筑波大学大学院生) 真角(国立国語研究所)

#### 1 ワークショップの趣旨

日本語学習者に文章の書き方を指導する場合、学習者の日本語習得の実態を知り、習得上の困難点がどこにあるかを把握する必要がある。それには学習者作文コーパスの構築が不可欠であり、そうしたニーズに応えるために、数多くの横断コーパスがすでに開発・公開されてきた。これらの学習者作文コーパスはそれぞれ優れた特徴を有するが、日本語習得過程の解明を考えた場合、経年的な調査に基づくものではないという共通した問題点があった。その中の優れた例外として、東呉大学の『LARP at SCU 語料庫』、湖南大学の『湖南大学学習者中間言語コーパス』、北京師範大学の『北京日本語学習者縦断コーパス (B-JAS)』が挙げられる。しかし、それらはいずれも中国語を母語とする学習者のものであり、より広範な学習者を対象にした学習者作文コーパスが求められている現状にある。

本ワークショップは、国立国語研究所の共同研究プロジェクト『日本語学習者の作文の縦断コーパス研究』の取り組みを紹介するものである。当該プロジェクトでは、中国語圏のみならず、ベトナム、韓国、タイ、フランスなど、多くの国で並行して日本語学習者の作文データを継続的に収集している途上にあり、将来的には縦断作文コーパス(『W-CoLeJa (Written Corpus of Learner Japanese、ダブコレ)』)として公開する予定である。本ワークショップでは中国とベトナムのデータを例として取り上げ、4つの角度から行った分析の試みを報告する。発表をとおして、縦断コーパスの可能性やよりよい分析の方法を参加者とともに考えたい。

## 2 データ収集の概要

当該プロジェクトは海外の大学で日本語を学び始めた学習者が大学 4 年間で文章力を身につけていく過程を、学習者の書いた作文データを通じて明らかにすることを目指している。本コーパスの構築にあたり、中国語圏のみならず、韓国、ベトナム、タイ、フランスなどの複数の大学と連携し、作文データを 1 年生から 4 年生までの 4 年間にわたり、年に 3 回収集している(図 1)。作文のテーマには A と B があり、大学によって異なる。各学習

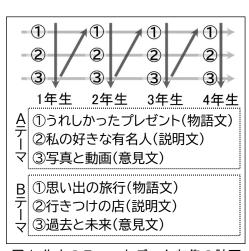


図1 作文のテーマとデータ収集の計画

者は年に 3 回異なるテーマで作 文を執筆し、それを 4 年間継続 する。これらのデータにより、あ る学年におけるテーマ間の比較 や 1 つのテーマで習得の過程を 追うことが可能となる。

また、日本語による作文のほかに「母語による対訳」「作文の執筆メモ」「作文の執筆過程」「学



図2 データ収集画面

習者の背景情報」のデータを収集している。これらのデータの収集はすべてオンライン上で行っている(図 2)。図 2 の画面上で作文の執筆をするとキーボードの打鍵のデータも記録され、学習者の作文執筆のプロセスが分析できる。

本プロジェクトではデータ収集を 2021 年にスタートした (開始時の調査協力者数約 800 名、一部の大学では開始年が異なる)。2023 年 9 月現在、多くの大学で 3 年目のデータ収集が終わり、4 年目(最終学年)に入っている。今後もデータの収集および整理を続け、多様な観点からの分析を試みながら、データの公開へ向けての準備を進めていく計画である。

#### 3 本ワークショップの構成

趣旨説明「縦断作文コーパスに見る学習者の日本語習得過程」本多由美子

- 発表①「学習者コーパスの分析方法―分析観点としての語彙・文法・結束性―」陳燕青
- 発表②「学習者縦断作文コーパスに見る語彙の習得研究の可能性―多様性・複雑性・結束性 の観点から―」ライ・タイン・ホア
- 発表③「学習者縦断作文コーパスに見る条件表現の習得―処理可能性理論に基づく分析―」 レー・ティ・トゥー・ハー
- 発表④「学習者縦断作文コーパスに見る修正の分析―執筆プロセスのデータ分析から―」 呉丹

#### 参考資料

東呉大学『LARP at SCU 語料庫』

湖南大学『湖南大学学習者中間言語コーパス』

北京師範大学『北京日本語学習者縦断コーパス(B-JAS)』

#### 付記

本研究は、科研費 JP21H04417 および国立国語研究所の共同研究プロジェクト「日本語学習者の作文の縦断コーパス研究」(共同研究番号 L411062227) の研究成果を報告したものである。本研究の遂行にあたり、国立国語研究所の上記プロジェクトのスタッフ各位、調査協力校の教員・学習者のみなさまのご協力を得た。記して感謝申し上げる。

## 学習者コーパスの分析方法 ——分析観点としての語彙・文法・結束性——

陳 燕青(中国・福建師範大学)

#### 1 はじめに

学習者作文コーパスは学習者の産出能力を観察する重要な手がかりである。特に、学習者縦断作文コーパスを考察することは、学習者の産出の発達過程を明らかにすることができる。本発表では、学習者縦断作文コーパスを使ってどういう分析が可能なのかを提示することを目的とする。

## 2 学習者縦断作文コーパスの概要

本発表では「海外縦断作文コーパスの構築に基づく文章産出能力の発達過程の実証的研究(代表者:石黒圭)」という研究プロジェクトの一環として、筆者が携わる福建師範大学日本語学科の50名学生を対象に行った調査に基づいて報告する。本調査は2020年から発足し、現時点ではすでに3年間で合計9回分(450本)の作文を回収している。作文調査の概要は表1のようになる。

実施時間	調査回数	ジャンル	テーマ	字数
2020.9~	第1回(2021.3)	体験文	思い出の旅行	最低 200 字
2020. 9	第2回(2021.5)	説明文	行きつけの店	目安 400 字
2021.0	第3回(2021.6)	意見文	過去と未来	日女 400 子
2021.9~	第4回(2021.11)	体験文	思い出の旅行	最低 400 字
2021. 9	第5回(2022.3)	説明文	行きつけの店	目安 800 字
2022.0	第6回(2022.6)	意見文	過去と未来	日女 600 子
2022 00	第7回(2022.11)	体験文	思い出の旅行	最低 600 字
2022. 9~ 2023. 6	第8回(2023.3)	説明文	行きつけの店	目安 1200 字
2023.0	第9回(2023.5)	意見文	過去と未来	日女 1200 子

表 1 学習者縦断作文調査の概要(福建師範大学)

#### 3 分析の枠組み

学習者の作文執筆能力が向上していくプロセスを明らかにするために、語彙レベル、統語レベルとテキストレベルにわけて考察することが可能である。

#### 3.1 語彙レベルの分析

語彙的複雑さは語彙レベルが反映される重要な指標とされている。語彙的複雑さとは、学習者がいかに高次の洗練された語彙の運用をしているかを説明するための指標を総称したものである(Wolfe-Quintero et al.1998)。語彙的複雑さを測る指標には、語彙の豊かさを量的に示す「語彙の多様性」、語彙リストに基づく使用頻度の少ない語彙(洗練語)の使用比率を示す「語彙の洗練性」、産出語彙における内容語の占める割合を示す「語彙の密度」と、誤った語彙の使用率を示す「語彙の誤用率」がある(Read2000)。各指標の測定方法は以下の公式に従う。

(1) 語彙の多様性= (log 述べ語数)<sup>2</sup>/ (log (述べ語数-異なり語数)

(2) 語彙の洗練性=低頻度語/述べ語数

(Laufer & Nation (1995) を参照)

(3) 語彙の密度=テキストに含まれる内容語の数/テキストに含まれる述語をもつ節 (ranking clause) の数

(佐野、丸山 2008, 佐野ほか (2009) を参照)

(4) 語彙の誤用率=語彙の誤りの数/述べ語数 (張建華・幺恩鵬(2020)を参照)

同じテーマで書いてもらった縦断データを対象とすることによって、語彙的複雑さはどの学習段階においてどのような変容が観察されるかという精度の高い研究ができる。語彙的複雑さに関する考察では、学年が上がるにつれて学習者の語彙の多様性、語彙の洗練性、語彙の密度、語彙の誤り率にどのような変容が見られるかを明らかにすることができる。

## 3.2 統語レベルの分析

統語レベルについても、語彙レベルと同様の観点から統語的複雑さを取り上げる。統語的複雑さ(syntactic complexity/syntactic maturity)とは学習者がいかに統語的に複雑な文を運用しているかを説明する指標を総称したものである(鮑貴 2009)。統語的複雑さは文の長さと節の密度に分けて考えるのが適当であり、文の長さは、1T 単位(minimal terminable unit)あたりの語数である W/T 値と、1 節あたりの語数である W/C 値によって測られ、節の密度は、1T 単位あたりの節数である C/T 値と、1 節あたりの従属節数である DC/C 値によって測られる(鮑貴 2009)。

統語的複雑さに関する考察では、学年が上がるにつれて学習者の作文における文の長さ (W/T 値と W/C 値) と節の密度 (C/T 値と DC/C 値) という指標にどんな変容が見られるかを明らかにすることができる。

## 3.3 テキストレベルの分析

テキストという意味的まとまりを持つ文連続に、意味的まとまりを与える最も重要な働きが「結束性」である。結束性とは、「ある要素がその解釈を他の部分に依存し、そのことによって文連続をテキストたらしめる」ものである(Halliday & Hasan 1976:4)。ここでは、「結束性」を取り上げてみていきたい。結束性は、語彙的結束性と文法的結束性に分けられ、前者は再叙とコロケーションに、後者は接続、指示、代用、省略に細分されうる。

テキストレベルでの考察では、学年が上がるにつれて語彙的結束性と文法的結束性という面においてどのような変容が見られるかを明らかにすることができる。

## 4 ケーススタディ――統語的複雑さについての考察

以下では、ケーススタディとして一年次から二年次まで合計 6 回分のデータに基づいて、 統語的複雑さの各指標の変容を見ていく。

文の長さを測る指標には W/T と W/C がある。語数は日本語文章難易度判別システム (http://jreadability.net/) で計算し、節数は人手で統計する。なお、T 単位は迫田・細井 (2020) の認定の仕方を用いる。統計的な分析を行った結果、W/T に関しては、学年の境目である 3 回目と 4 回目を除き、全体的に向上している (p=0.000<0.01)。 どのジャンルにおいても T 単位の長さに有意な伸びが認められた。一方、W/C に関しては、全体的に下がる傾向が見られる (p=0.000<0.01)。 物語文の場合のみ、節の長さに後退が観察されたが、

説明文と意見文の場合は節の長さに有意差が認められなかった。

節の密度を測る指標には C/T と DC/C がある。いずれの指標においても、学年の境目である 3 回目と 4 回目を除き、全体的に向上していることが観察された(p=0.000<0.01)。 どのジャンルも T 単位あたりの節数と節あたりの従属節数には有意な伸びが認められた。 このように、統語レベルにおいては、初級日本語学習者は T 単位の長さに関しても節の複雑度に関しても顕著に伸びてはいるが、節の長さだけ後退や停滞が見られた。このことから、初級日本語学習者はまだ複雑な統語構造を使いこなせず、特に物語文を書く場合、簡単な単文を使う傾向があることを示している。

## 5 おわりに

本発表では、学習者縦断作文コーパスを利用する際に可能な分析の枠組みを示し、ケーススタディとして一年次から二年次までの統語的複雑さの変容を見てきた。今後語彙、統語、テキストという三つのレベルにおける作文の特徴をさらに細かく分析し、学習者の全体的な発達過程を明らかにしていきたい。

#### 参考文献

鲍贵(2009)英语学习者作文句法复杂性变化研究《外语教学与研究》4,pp291-297.

- 张建华、么恩鹏(2020)《日语学习者书面语语料库》的特色、功能与使用《汉日语言对比研究论丛(第11辑)》, pp.289-304.
- 佐野大樹、丸山岳彦(2008)「システミック文法に基づく書きことばの複雑さ測定」『言語処理 学会第 14 回年次大会発表論文集』, pp.1097-1100.
- 佐野大樹・丸山岳彦・山崎誠・柏野和佳子・秋元祐哉・稲益佐知子・田中弥生・大矢内夢子(2009) 「語彙密度を利用した『現代日本語書き言葉均衡コーパス』テクスト分類の試み」『国立 国語研究所内部報告書(LR-CCG-08-02)』, pp.1-61.
- 迫田久美子、細井陽子(2020)「異なった学習環境における日本語使用の正確さと複雑さ」『計量国語学』第7号, pp.403-418.
- Jarvis, S.(2002)Short texts, best-fitting curves, and new measures of lexical diversity. *Language Testing*(19):pp.57-84.
- Halliday, M.A.K.&Hasan R.(1976)Cohesion in English .London :Longman
- Laufer, B. & P. Nation.(1995)Vocabulary size and use: Lexical richness in L2 written production. *Applied Linguistics*(16):307-322.
- Wolfe-Quintero, K., Inagaki, S.& Kim, H. (1998). Second language development in writing: Measures of fluency, accuracy, & complexity. University of Hawaii Press
- Vermeer, A. (2000) Coming to grips with lexical richness in spontaneous speech data. *Language Testing* (17):65-83.

## 

ライ・タイン・ホア (一橋大学大学院生)

#### 1 はじめに

学習者縦断作文コーパスを経年的に観察する意義は、日本語の学習年次が上がるに伴い、 同一学習者の日本語の発達過程が見られることである。本発表では、学習者縦断作文コーパ スのデータのうち、語彙の側面から日本語の発達過程をとらえる研究の可能性を提示する。

## 2 A さんの3年間の作文

本発表で紹介する作文の執筆者(以降は A さんと呼ぶ)はベトナム語母語話者の学部生であり、大学に入学して初めて日本語を学び始め、「行きつけの店」というテーマについて1年次から3年次まで毎年1編の作文を執筆した。A さんによる3年間の作文では、下線を引いた「行きつけの店」を指す表現から、学習者の語彙使用の発達はどのように整理できるだろうか。

## 1年次作文:「古い喫茶店」

8月ぐらい前に、私はダナンへ来ました、○○大学の学生になりましたから。ダナンはきれいな町ですよ。ダナンは私のふるさとよりにぎやかです。私はあまり遊びに行きません、お金がありませんから。でもコーヒーが好きです、それで、時々にコーヒー屋へ飲みに行きます。でも、物価が高いです,町のコーヒーは高いです、ちょっとつまらないです。3月ぐらい前にに先生は私にこの古い喫茶店を紹介しました。ほんと物価が安いです。たぶん古い店ですから、でも飲み物はおいしいです。それで、人気があるんです。店の中にあまり広くない、壁の前にえを掛けます、低ブルの上に花瓶があります。暇の時に友達とこの店へ飲みに来ました。

## 2年次作文:「古いコーヒー屋」

2020年に大学生になって、ダナンという大きくて、賑やかな町に勉強しに引っ越し しました。ふるさとにさようならと言わなければなりません、最初に心の中で少し寂しい ことがありました。しかしいろいろな面白いことを発見されました。

大きい町なので、物価や家賃などふるさとより高いです、最初の時間まだ新しい生活に慣れなくて、困ることもあって、ストレスもあって、生活は大変でした。ある晩「今どうする、この学生の生活はよくなれるかな〉と考えながら、道に歩いて、路地の中で、光が見えて、小さいクラシックという音楽も聞こえて、好奇心が生まれられて、行ってみました。中に入ると、私の目の前に喫茶店があって、規模はあまり広くなくて、すべてテーブルは五つしかがありません。家具付きと壁の飾る方法を見て、自然に自分のふるさとを覚えられました。メニューを見て、「ほかの店より安いなと思いました」、後で、一杯コーヒーを注文して、飲んで、「自分の考えることより、美味しいかな」と思いました、音楽を

聞いて、隣のテーブルに知らない二人は象棋を打つことを見て、いつかすべてストレスなどを忘れて、気持ちがよくになりました。「本当に<u>ここ</u>にいる時リラックスができるな」と思っていて、三十分ぐらい後、この象棋が終わったようになって、知らない二人も、私もコーヒーを飲むお金を払って、帰りました。

今まで、<u>この店</u>でよく来ています、私は。<u>店</u>の名前がないけど、<u>古いコーヒー屋</u>と言われて、皆さんは誰でも<u>そう</u>呼んでいて、私もです。甚割に<u>この店</u>に来るのは私のストレスを解消方法の一つになりました。

#### 3年次作文: 「60Sカフェー」

数か月前に新しいカフェーがヌイタイン通りでできて、その店の名前は<u>608</u>である。 うちのアパートに近いし、サービスもいいし、値段もそんなに高くないし、よく行っていた。いつの間にか好きになっていた。

今三年生なので、宿題としなければならないことが多いである。宿題などをしやすい場所を選ぶことが大切である。前はほとんど大学の図書館で宿題などをし、最近とても暑く、人も大勢で、最もいい学習場所を移動することを決めた。ある日学校から帰った際、60Sカフェーが見つけた。店の中に入ってみ、学習場所をここに移動するということを決めた。本当に学生と生徒に適してい、カフェが24時間営業からである。内装が他の店とだいたい同じだが、サービスと店員の態度が本当にいいと思っている。60Sという名前がお客様の注文する際から60秒でお客様のコーヒーができるということである。

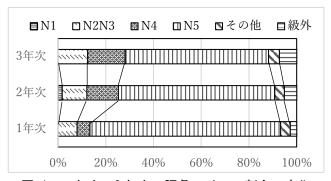
カフェが2階建てである。一階が二階より大きく、ソファーもあり、若い者は最も一階が人気がある。エアコンが24時間に働い、今の暑い天気に非常にいいである。24時間営業のため、いつでもお客様がいる。多数は学生である、もしかしたら学生たちは24時間営業というカフェーを選ぶ理がは遅いまで働くので24時間営業カフェーが最も便利である。私もそうするため、よく二の店に行っている。

店員たちはほとんど学生なので、話しやすいである。店員さんがお客様の宿題を手伝ったこともあり、確かに学生に適す店だと思う。みんなが学生だったら行ってみ、好きになるかもしれないである。学生ではない皆さんもできれば行ってみてください。これからこの店に友を誘ってくるつもりである。

#### 3 A さんの使用語彙の発達

#### 3.1. 量的な発達

A さんの使用語彙の発達を語種の観点からみると、1 年次から 3 年次にかけて和語の使用の割合は 73.3%→72.7%→67.8%であるのに対し、漢語の使用の割合は 9.1%→9.7%→17.3%となっており、漢語の使用が次第に増加する傾向が観察できた。一方、語彙のレベルでは、いずれの学生では、NS しないの語彙の割合が既



の学年でも、N5 レベルの語彙の割合が顕 図 1:1年次~3年次の語彙レベルの割合の変化

著に高い(図1)。

このように、A さんは、3 年間、やさしい語を選択する傾向が見られ、量的な観点から語彙のレベルを見た場合、漢語使用の増加という傾向が見られたものの、大きな成長があったと判断するのは難しい。

#### 3.2. 質的な発達

よく使う言葉を繰り返し使用する場合、その言葉を類義語や関連語等に言い換えたときのバリエーションの広がり、つまり多様性の変化を観察することもできる。1年次は本作文のキーワードである「行きつけの店」を指す語は「店」「喫茶店」の2種類であるが、2年生になるとこれに「ここ」「コーヒー屋」が加わって4種類になる。3年生でも「店」に加えて「カフェー」「学習場所」「60S」の4種類が使われており、多様性が増している。

また、複雑性の観点からも発達が見られる。1年次での長い名詞句は「この古い喫茶店」、2年次では「古いコーヒー屋」に限られるが、3年次では「新しいカフェー」「最もいい学習場所」「24時間営業カフェー」「学生に適す店」といった長く複雑な名詞句が使われている。さらに、文章レベルでは学年の進行につれ、単純な反復を避けて、より多様な表現を用いようとする。結束性の観点から見ると、1年次では普通名詞の単独使用が多く、指示語の使

用は「この」に限られる。これに対し、2年次には「ここ」のような指示語の単独使用や文脈指示の「そ」の使用も見られ、省略も自然になる。そして、3年次には複雑な指示、すなわち固有名詞による言い換えや連体修飾節による言い換えなども用いられ、言い換えの方法が多様になるといった変化が見られた。

## 4 おわりに

本発表では、1名の学習者の3年間で執筆した作文を材料に、学習者縦断作文コーパスを利用する際の可能な分析例を示した。学習者は易しい語彙から難しい語彙に、単純な語彙から複雑な語彙に変化すると一般には考えられがちであるが、それほど単純なものではなく、多様性、複雑性、結束性といった多様な観点から発達はとらえられる。実際、語彙習得研究では陳(2022)等の計量的研究がある一方、藤森(2005)、馬場(2006)、庵(2007)のように文章にある語彙的多様性・複雑性・結束性に焦点を当てる研究も少なくない。学習者縦断作文コーパスを観察することは、これらの研究を踏まえてさらに学習者の使用語彙の変容を多角的に見るのに有効であると言えよう。

#### 参考文献 · 資料

庵功雄(2007)『日本語におけるテキストの結束性の研究』くろしお出版 馬場俊臣(2006)『日本語の文連接表現―指示・接続・反復―』おうふう

陳玲(2022)「日本語縦断学習者コーパス「B-JAS」のストーリーライティングタスクに見る中国 人日本語学習者の語彙習得過程: 語彙量・語彙多様性・語彙難度・品詞・特徴語の計量的分析」『統計数理研究所共同研究リポート』456, p1-20, 統計数理研究所

藤森弘子(2005)「結束性の観点からみた初級日本語学習者の作文」『東京外国語大学留学生日本 語教育センター論集』31、pp.95-109

## 学習者縦断作文コーパスに見る条件表現の習得 ——処理可能性理論に基づく分析——

レー・ティ・トゥー・ハー(筑波大学大学院生)

#### 1 はじめに

条件表現の使用が日本語学習者にとって習得が難しいことは、多くの先行研究で既に指摘されている。条件表現の「なら」「ば」「たら」「と」という 4 形式は多様な用法を持ち、相互に類義的な用法もある。ニャンジャローンスック (2001) は、OPI の手法を用いて収集された KY コーパスの分析を行い、中国語・韓国語・英語話者の条件表現の出現状況から条件表現の各用法の習得階層モデルを立てている。用法は、「反事実 (一過去)」「反事実 (+過去)」「仮説」「予定」「一般」「反復・習慣 (一過去)」「反復・習慣 (+過去)」「確定」の人つに分類され、そのうち、「仮説」「予定」「確定」は習得が容易で、「反復・習慣 (一過去)」も比較的容易で、「反事実 (一過去)」「反事実 (+過去)」「反復・習慣 (+過去)」が習得困難とされている。しかし、「確定」は果たして「仮説」と同様に習得が容易なのだろうか。事実、寺島 (2006) では、KY コーパスの発話内容は被験者によって異なるため、ニャンジャローンスック (2001) の習得階層モデルは、出現頻度が被験者の違いによる影響を受けてしまっていると指摘されている。そのため、同一の被験者の習得過程が見られる学習者縦断コーパスを使って分析することが重要である。本発表では、認知的な側面から条件表現の各用法に着目し、ベトナム語話者がどのような順序で条件表現を習得していくのかを、学習者縦断コーパスを用いて明らかにすることを目指す。

## 2 分析の枠組み

#### 2.1 条件文の分類

ニャンジャローンスック(2001)の条件表現の用法の分類は優れたものではあるが、話し言葉のコーパスから帰納された分類であり、書き言葉を扱う場合、より広い用法を扱える分類が必要となる。そこで、本発表では、下図の前田(2009)をもとに用法の分類を行う。

					レアリ	ティー						
					前件	後件						
				事実的	事実	反事実	(1					
	仮	反	事実		反事実	反事実	(2					
	仮定的	仮	説		仮説	仮説	(3					
条			事実的		事実	仮説	(4					
条件的な用法		多回的反		般・恒常	(不問)	(不問)	(5					
な用	非仮定的						的	反	復・習慣			@
法		非仮定的一回的	非仮定的 一.	様	連続			(7				
				=	_	々	きっかけ	事実	事実	(8		
	,		な状況	発現			(9					
			況	発見			Œ					

ニャンジャローンスック (2001) との対応 関係は( )で示す。【仮定的反事実】①「事 実的な反事実条件文」(非対応)、②「反事実 的用法」(反事実(+過去/-過去))、【仮定 的仮説】③「仮説的用法」(仮説、予定)、④ 「事実的な仮説条件文」(非対応)、【非仮定 的多回的】⑤「一般・恒常」(一般)、⑥「反 復・習慣」(反復・習慣(+過去/-過去))、 【非仮定的一回的】⑦「連続」(確定)、⑧「き っかけ」(確定)、⑨「発現」(確定)、⑩「発 見」(確定)

## 2.2 Pienemann (1988) の Processability Theory (処理可能性理論)

Pienemann (1998) の言語処理可能性理論は、発話モデルに基づき第二言語習得の理論的枠組みを再構築したものであり、言語発達の段階で学習者の習得の難しさを予測する理論である。この理論では、言語処理は最初、低レベルのタスクから始まり、段階的に自動化されていくと説明される。また、ワーキングメモリの処理能力には限界があり、言語処理が自動的に行われない場合、意識的に言語処理を行う必要があり、その結果、記憶容量を超えてしまい、話すことに限界が生じる。

#### 3 調査

本発表では、ベトナム語話者を対象にし、W-CoLeJa 縦断作文コーパス(B テーマ)の中から、1 学年から 2 学年までの 2 年間にわたる日本語能力(SPOT90 で判定)に向上がみられ、かつ、調査期間内に提出した 21 名、年に 3 回の合計 126 作文のデータを扱い、条件文を抽出する。なお、非条件的な用法やテーマの指定文から写した条件文は排除する。

## 4 結果・考察

表 1 条件文の各用法の使用分布

	日本語	① 事実的 反事実	⑨ 発現	④ 事実的 仮説条	⑤ 一般· 恒常	® きっか け	⑥ 反復· 習慣	⑦ 連続	⑩ 発見	② 反事実 的用法	③ 仮説的 用法	
学習者ID	レベル	条件文		件文		-						Total
VVC016B.2	上M				1						1	2
VVC016B.1	上L							1	1	1	1	4
VVC020B.2	中日						1	1	1	1	1	5
VVC018B.2	фM						1	<u> </u>		1	1	3
VVC001B.2	中M								1	1	1	3
VVC026B.2	中M							1			1	2
VVC029B.2	中L								1		1	2
VVC045B.2	中L									1	1	2
VVC020B.1	中L									1	1	2
VVC005B.2	中L										1	1
VVC098B.2	初日					1	1			1		3
VVC125B.2	初日								1	1	1	3
VVC014B.2	初日								1	1	1	3
VVC010B.2	初H								1		1	2
VVC002B.2	初日									1	1	2
VVC097B.2	初H									1	1	2
VVC006B.2	初H										1	1
VVC053B.2	初H										1	1
VVC109B.2	初H											0
VVC033B.2	初M						1			1		2
VVC026B.1	初M									1	1	2
VVC053B.1	初M									1	1	2
VVC072B.2	初M									1		1
VVC098B.1	初L							1		1	1	3
VVC018B.1	初L									1	1	2
VVC045B.1	初L									1	1	2
VVC125B.1	初L									1	1	2
VVC002B.1	初L			1							1	2
VVC117B.1	初L									1		1
VVC097B.1	初L								1			1
VVC117B.2	初L										1	1
VVC072B.1	初L										1	1
VVC001B.1	初L										1	1
VVC006B.1	初L											0
VVC091B.2	入門					1		1		1	1	4
VVC005B.1	入門								1		1	2
VVC010B.1	入門										1	1
VVC014B.1	入門										1	1
VVC109B.1	入門										1	1
VVC091B.1	入門									1		1
VVC029B.1	入門											0
Total (n=41	)	0	0	1	1	2	4	5	9	22	32	

縦軸は学習者のレベル順であり、横軸は当該の用法の産出の順である。表からみると、条件表現の用法の難易度は易しい順に、③「仮説的用法」 $\rightarrow$ ②「反事実的用法」 $\rightarrow$ ⑩「発見」 $\rightarrow$ ⑦「連続」 $\rightarrow$ ⑥「反復・習慣」の順であり、⑧「きっかけ」、⑤「一般・恒常」、④「事実的な仮説条件文」、⑨「発現」、①「事実的な仮説条件文」はいずれも習得困難だと考えられる。大きく見ると、【仮定的仮説】 $\rightarrow$ 【仮定的反事実】 $\rightarrow$ 【非仮定的多回的】 $\rightarrow$ 【非仮定的多回的】となり、「仮説」や「反事実」といった仮定的条件に比べ、「確定」や「一般」のような非仮定的条件のほうが難しいと考えられる。

表 2 テーマ別の産出状況

	テーマ	(1)	テーマ	(2)	テーマ	(3)
	思い出	の旅行	行きつ	けの店	過去と未来	
	1年次	2年次	1年次	2年次	1年次	2年次
①事実的な反事実	0	0	0	0	0	0
②反事実的用法	0	0	0	1	16	16
③仮説的用法	0	4	14	9	9	22
④事実的な仮説	0	0	0	0	1	0
⑤一般·恒常	0	0	0	0	0	1
⑥反復·習慣	0	2	0	2	0	1
⑦連続	0	3	1	0	1	0
®きっかけ	0	2	0	0	0	0
9発現	0	0	0	0	0	0
⑩発見	0	7	1	1	2	0
Total	0	18	16	13	29	40

<u>テーマ3</u>は事実に反する、仮定的な事柄を書いてもらう課題であるため、②「反事実的用法」と③「仮説的用法」の産出が多い。②「反事実的用法」は認知的に難しいとされているが、本調査では支障がなく産出できていた。その理由は、母語にも同じ用法があり、同じ条件形式で②と③二つの用法を表すことができるため、母語からの転移により早く習得されたためであると考えられる。

<u>テーマ2</u>は、反復・習慣となりやすい場面であり、⑥「反復・習慣」が産出しやすいと予想されたが、観察された用例はわずかであり、代わりに、③「仮説的用法」の産出が多くみられた。

<u>テーマ1</u>は過去に起こったことを書いてもらう課題であり、確定用法が産出しやすいと考えられる。そのため、⑩「発見」はレベルを問わずに産出が多くみられたが、それ以外の用法の産出は少なかった。

## 5 おわりに

本発表では、学習者縦断コーパスを用い、ベトナム語話者の条件表現の習得順序を検討した。今回の分析結果からは、ニャンジャローンスック(2001)の主張する習得順序に従っておらず、仮定的条件文が非仮定的条件文に先行して習得され、反事実的仮定のほうが確定条件や一般条件よりも先行して習得される傾向があることがわかった。今後は、両者の結果がなぜ食い違ったのか、その理由を、例を増やして考察していきたい。

#### 参考資料

スニーラット・ニャンジャローンスック (2001)「OPI データにおける「条件表現」の習得研究――中国語、韓国語、英語母語話者の自然発話から」『日本語教育』111, pp.26-35.

寺島佳子(2006)「学習者コーパスに観察される条件表現ト・バ・タラ・ナラの使用と習得の関係」『日本語教育と異文 化理解』5, pp.17-25 愛知教育大学国際教育学会

前田直子(2009)「条件文」『日本語の複文 条件文の原因・理由文の記述的研究』pp.35-113 くろしお出版

Pienemann, M. (1998) . Languege processing and second language development: Processability Theory. Amsterdam: John Benjamins

## 学習者縦断作文コーパスに見る修正の分析

## ――執筆プロセスのデータ分析から――

· 异 (国立国語研究所)

#### 1 はじめに

学習者の作文を考察対象とした研究には、書かれた作文を分析するものがほとんどであり、作文の執筆プロセスを分析するものはあまりない。とくに、文字を入力する際のキーストロークとタイムラインに注目して分析を行った研究は管見の限り見当たらない。しかし、執筆プロセスを分析することを通して、学習者が作文を書きあげるまでのプロセスを客観的に観察できるだけでなく、学習者の自己修正を分析でき、学習上の困難点を把握することができると思われる。

本発表では、学習者縦断作文コーパスの執筆プロセスのデータを利用し、学習者が作文の中でどこをどのように修正したのかについて、語彙レベル、統語レベル、テキストレベルから質的に考察を試みる。それに加え、キーボード操作のタイムラインにも注目して修正箇所にかかった時間も考察し、執筆プロセスの分析方法と分析の意味を検討する。

#### 2 先行研究

日本語学習者の作文執筆プロセスを対象に自己修正を考察する研究には、田中・石黒(2018)と布施・石黒(2018)がある。本節で簡単に紹介する。

田中・石黒(2018)は、中国人日本語学習者、韓国人日本語学習者、日本語母語話者の作文の執筆プロセスを対象に、それぞれの作文の修正数、修正の種類、修正の位置を分析している。さらにそれにおける中国人日本語学習者、韓国人日本語学習者、日本語母語話者の間の異同についても考察している。布施・石黒(2018)は田中・石黒(2018)に続き、執筆プロセスにおける自己修正の理由を7類24種に分けて考察し、修正理由の全体的な傾向と作文ジャンル別の修正理由、母語別の修正理由を明らかにしている。

#### 3 執筆プロセスデータの特徴

本プロジェクトでは、執筆プロセスのデータを、作文データとともに、自作の作文執筆システム EssayLoggerTS を使って収集している。この EssayLoggerTS は、文字を入力する際にキーボード操作とタイムラインをすべて記録できる。これによって、書かれた作文だけでなく、作文を書く過程を研究することも可能になる。このように、執筆プロセスが可視化され、より客観的に学習者の作文を分析することができる。

## 4 研究方法

#### 4.1 分析資料

本発表では、1年生から3年生までに執筆した9本の作文のプロセスデータを用い、質的に分析する。作文は年3回執筆しており、各回のテーマは「うれしかったプレゼント(体験文)」、「私の好きな有名人(説明文)」、「写真と動画(意見文)」である。なお、字数は最低字数が設定されており、第1学年は200字以上・目安400字、第2学年は400字以上・目安800字、第3学年は600字以上・目安1200字である。

#### 4.2 分析方法

本発表では、布施・石黒 (2018) で指摘されている修正理由の分類を参考に、語彙レベル、統語レベル、テキストレベルから具体例を観察し、そしてその修正にかかった時間を考察する。具体的には、作文の執筆プロセスを Excel ファイルに出力し、上下の行の文字列の内容の差異を比べ、どのような修正が行われたかを観察する。それに加え、田中・石黒 (2018)、布施・石黒 (2018) で言及されていない修正にかかった時間という点も注目し、それぞれ修正した箇所において、修正を入れた時点から修正が完了まで、どれくらい時間がかかったかを考察する。

## 5 修正の種類と修正の時間についての考察

本節では、学習者縦断コーパスの特徴を生かし、学年ごとのよく見られる修正種類と修正時間を考察し、学習者が自己修正においてどのような変化や成長を見せているのかをさぐってみる。分析するにあたって、布施・石黒(2018)の修正理由の分類を参考に、その修正が語彙レベル、統語レベル、テキストレベルのどちらのものなのか、また、その修正にかかった時間に注目する。

#### 5.1 1年次によく見られる修正

【入力操作の修正】

(1) 修正前:二年後、私は弾き語りが<u>でじた</u> 修正後:二年後、私は弾き語りができた

例(1) は入力操作の修正の例である。キーボードの「k」をその左隣にある「j」と間違えて打ってしまい、もともと「できた」という語を入力しようとしたところを「でじた」と誤入力している。その後、入力ミスに気づき、修正している。

## 【語彙選択の修正】

(2) 修正前: 私は<u>子供</u>の時から音楽がすきだ。 修正後: 私は中学生の時から音楽がすきだ。

例(2)では、「子供」から「中学生」という、より適切だと思われる語に修正している。 「中学生の時」という更に正確な情報を表すために、「中学生」という語を選択していると 推測できる。

1年次の作文の修正には、上記の(1)(2)のような、入力操作の修正や語彙・助詞の選択の修正をめぐるものが多い。これらの修正は、語彙レベルのものであり、比較的小さい単位での修正だという特徴がある。

#### 5.2 2年次によく見られる修正

【係り先修正】

(3) 修正前:いつかある舞台で演奏するという想像が修正後:いつかある舞台で演奏するという画面を

修飾先:想像した。

例(3)では、途中でこのまま書くと不適切な修飾関係になってしまうことに気づき、修飾先である「想像した」との修飾関係を適切な修飾関係に整えるために、「いつかある舞台で演奏するという画面を想像した」のように修正している。

## 【文法形式選択修正】

(4) 修正前:撮影術が発明する前に、

修正後:撮影術が発明される前に、

この例では、学習者が書いている途中で、「撮影術が発明する」という文法形式が不適切だということに気づき、適切な受身形の文法形式「撮影術が発明される」に修正している。

上記の例(3)(4)はいずれも統語レベルの修正であるが、このような統語レベルの修正は1年次の時にはあまり多く見られず、2年次になって多く見られるようになった。

#### 5.3 3年次によく見られる修正

【先行文脈精緻化修正】:

- (5) 修正前: そして、写真はデジタルの形にかかわらず、印刷されて、常に身近に持つことができる。動画は再生設備が必要で、電源が切れば、思い出も浮かべなくなってしまうのだろう。
  - 修正後:そして、写真はデジタルの形にかかわらず、印刷されて、常に身近に持つことができる。家人の写真を財布に入れて、机の上に置くなど、写真で思い出を保存することはよく見られる。でも動画は再生設備が必要で、電源が切れば、思い出も浮かべなくなってしまうのだろう。
- 例(5)では、先行文脈と後続文脈の関係をより緊密にするように、その間に下線の文を 挿入し、修正している。
- 例(5)はテキストレベルの修正であり、5.1 節と 5.2 節で見た語彙レベル、統語レベルの修正と比べ、3 年次に入ってから多く見られるという傾向がある。これは、学年が上がるにつれて、1 年次に語彙の修正、2 年次に語彙の修正だけでなく、文法の修正も現れ、更に 3 年次に上がると、語彙、文法形式だけでなく、更に複雑な文章構造の面の修正・推敲もできるようになったという発達過程が見られたものと推測できる。

更に、修正箇所にかかった時間については、1年次から3年次の順に、修正時間が徐々に長くなるという傾向もみられるが、これは学年が上がるにつれて、修正箇所が語彙レベルからテキストレベルという、小さい単位から大きい単位への修正箇所が増えるということと関係すると考えられる。

### 6 おわりに

本発表では、学習者縦断作文コーパスの執筆プロセスデータを利用し、学習者が作文の中でどこをどのように修正したのか、語彙レベル、統語レベル、テキストレベルからそれぞれ事例を紹介し、修正箇所にかかった時間にも注目し考察した。今後は、修正箇所と修正時間の対応関係などの量的な分析や学習者の経年的変化の分析、他言語を母語とする学習者の特徴との比較分析もしていきたい。これらの研究の結果により、学習者の学習上の困難点を把握し、日本語教育の現場に示唆を与えることができるようになるだろう。

### 参考文献

- 石黒圭 (2015)「母語話者・学習者の作文執筆プロセスにおける修正の諸相」第 56 回 NINJAL コロキウム講演資料, 2015 年 2 月 17 日,於:国立国語研究所.
- 田中啓行・石黒圭 (2018)「日本語学習者の作文執筆修正過程―中国人学習者と韓国人学習者の修正の位置と種類の分析から―」『国立国語研究所論集』14, pp.255-274.
- 布施悠子・石黒圭 (2018)「日本語学習者の作文執筆過程における自己修正理由―上級中国人学習者,上級韓国人学習者,日本語母語話者の作文の比較から―」『国立国語研究所論集』15, pp.17-42.

# 日本語学会 2023 年度秋季大会 シンポジウム 日本語学と国語教育との接点 (学会創立 80 周年記念大会プレ企画)

パネリスト 勘米良祐太(武蔵野大学)

喜屋武政勝 (沖縄大学)

\* とうえいきく 佐藤栄作(愛媛大学名誉教授)

指定討論者 矢澤真人 (筑波大学名誉教授)

司会 山東功 (大阪公立大学)

企画担当 中高生日本語研究コンテスト実行委員

山東功(大阪公立大学)

小林正行 (群馬大学)

佐藤栄作 (愛媛大学名誉教授)

田中牧郎 (明治大学)

大会企画運営委員

池上尚(埼玉大学)

澤村美幸(和歌山大学)

#### 趣旨

1948 (昭和 23) 年刊行の国語学会誌『国語学』第1輯には、遠藤嘉基「国語教育について」が、また 1952 (昭和 27) 年刊行の全国大学国語教育学会誌『国語科教育』第1号には、時枝誠記「国語学と国語教育との交渉―言語過程説の立場における」が掲載されている。日本語学会の前身である国語学会においても、国語教育は重要な研究領域として意識されていたが、日本語学会への改称が進むことにより、その流れはどのように継承されていったのであろうか。これは、日本語学にとって、国語教育の意味するところが、一体何であるのかを問うことへとつながる。また、民間教育研究運動においても、日本語学や国語教育との関係を顧みることは、学会という組織のあり方を、改めて問い直すことへと通じる。本シンポジウムでは、日本語学と国語教育との接点について注目することにより、言語研究領域と教育実践領域との交渉が、その組織(日本語学会)や学知(日本語学)にもたらす意味を考えることをねらいとしたい。具体的には、日本語史や国語教育史、民間教育研究運動史の観点から話題提供を頂く。

## 構成

14:00-14:10 趣旨説明・パネリスト紹介 山東功

14:10-14:40 報告1 勘米良祐太「日本語学と国語教育学との接点」

14:40-15:10 報告 2 喜屋武政勝「教育科学研究会・国語部会における言語教育について

一文法教育のばあい一」

15:10-15:40 報告3 佐藤栄作「多様な子どもたちが学ぶ「国語」の当事者として

―日本語学からみた国語教育との接点―」

15:40-16:10 休憩

16:10-16:25 指定討論者との質疑応答 矢澤真人

16:25-16:45 パネルディスカッション

16:45-17:00 全体討論

質問フォーム

URL

https://forms.gle/i64rQULHiTr9rm2C8

QR コード



## 日本語学と国語教育学との接点

武蔵野大学 勘光良 祐太

## 1. 両分野の接点をさぐる経緯

本発表では、日本語学・国語学を主たる対象とする学会と国語教育学を主たる対象とする 学会が、設立当時どのように接点を持とうとしたのかを明らかにする。具体的には、それぞ れの学会が文法教育についてどのようにコミットしようとしていたか論じる。そのような 分析を通して、最終的に日本語学と国語教育学が(とくに文法教育に関して)さらなる接点 をどのようにもちうるか示唆を得ることをめざす。

日本語学会の前身となる「国語学会」が設立されたのは1944年、学会誌『国語学』の第1輯が刊行されたのは1948年である。また国語教育の分野では、全国大学国語教育学会(以下「全国大学」)が設立されたのが1950年、学会誌『国語科教育』の刊行が始まったのが1952年である。『国語学』『国語科教育』の刊行初期には、国語学者、国語教育学者の両者が両紙の別を問わず論考を発表していた(後述)。その意味で、この時期における「国語学会」と「全国大学」の接点は複数あったといってよい。

しかしながら、同時期における国語科の文法教育にはすでに課題があった。『国語学』が 刊行された翌年の1949年や翌々年の1950年には、第1期(1947年版)学習指導要領を根拠として教科書検定がはじめて行われた。そのさい、中学校国語科の教科書として、以下の4社の口語文法教科書が検定を通過している。

- ・岩淵悦太郎ほか編 (1949)『口語の文法』秀英出版
- ·中等文化研究会編(1949)『国語文法口語篇』教育図書
- · 東條操編(1949)『新制中学国文法口語篇』星野書店
- ・岩井良雄編(1950)『新文法口語篇』二葉株式会社

第1期学習指導要領は、それ以前の文法教育が「国語科のなかで孤立していた」こと、「文法を現実の社会生活における言語活動と結びつけなかった」ことを批判していた(第五章「文法の学習指導(小学校・中学校)」)。上記の教科書の刊行、および学習指導要領の記述からわかることは、文法と社会生活・実生活との関連をうたう第1期学習指導要領下においても、文法単独の教科書が編纂されるとともに、その教科書が検定を通過しているという事実である。

さらに指摘しなければならないのは、その内容がいずれも文の単位として文節を認め、自立語・付属語と活用の有無によって品詞分類を行う『中等文法』(文部省、1944年)に準じていることである。『中等文法』編者の岩淵悦太郎は、「国語に存する理法」を明らかにすることによって、「国語の論理性」を知らしめることを目標においていた(岩淵 1944)。つまり第 1 期学習指導要領において文法教育の目標が大きく転換したにもかかわらず、同学習指導要領下における 4 社の教科書は、それ以前の『中等文法』と同様の内容を教え続けていたのである。

ここからは、次のような問いを立てることができる。

・第1期学習指導要領において文法教育の目標が転換したにもかかわらず、1949年以降 に刊行された文法教科書はなぜ変わらず『中等文法』に準じた内容を示したのか。

上記の問いに対するアプローチとしては、終戦直後の混乱期という事情、教科書の販売促進に関する事情など、さまざまな考察が可能である。そのなかでも本発表は、設立期の「国語学会」「全国大学」における議論に着目する。それは主としてアカデミックな議論に着目することで、「国語学会」「全国大学」がこの問いにどのようにコミットしようとしたのかを明らかにできるためである。現在においても(批判されつつも)上記『中等文法』に準じた内容が教えられ続けていることをふまえると、この考察は今日における文法教育の課題や、「国語学会」「全国大学」における接点の持ち方を考えることにつながる。

## 2. 設立期における文法教育に関する議論

#### 2.1.対象とする巻号

分析の対象とするのは、第1期学習指導要領(1947年)および第2期学習指導要領(1951年)下において刊行された『国語学』第1~35輯、および『国語科教育』第1~5集である。これらの巻号を分析することによって、新検定制度下における文法教育に関する議論の特徴を明らかにする。第1期(1947年)だけでなく第2期(1951年)も分析の対象としたのは、『国語科教育』が第2期学習指導要領以降のみの刊行(1952年以降)であること、第1期と第2期がいずれも文法と社会生活・実生活との関連を主張しており」、おおむね共通の課題をもっていたと考えられることによる。

実際の分析にあたっては、これらの巻号から、主に初等中等段階の文法教育について論じていると考えられる論考を抽出し、論じている内容を分析する。各論考が「主に初等中等段階の文法教育について論じている」かどうかは、タイトルから判断する場合と、内容を検討して判断する場合の2通りがある。その結果、対象となる論考は『国語学』9編、『国語科教育』7編の計16編となった。

No	筆者名	刊行年	論考名(一部副題を省略)	掲載誌
1	遠藤嘉基	1948	国語教育について	『国語学』1
2	遠藤嘉基	1949	国語教育について (承前)	『国語学』3
3	渡辺修	1951	国語教育の単元学習に対する反省	『国語学』5
4	上甲幹一	1951	新しい文法の学習指導計画	『国語学』6
(5)	井上治夫	1952	小学校の文法教育	『国語科教育』1
6	時枝誠記	1952	国語学と国語教育との交渉	『国語科教育』1
7	増淵恒吉	1952	現場の国語教師から	『国語学』8
8	手崎政男	1952	国語教育における文法	『国語学』9

「第2期学習指導要領(1951年)においても、「実生活に必要なことばのはたらきを身につけることが、文法学習の目的である」と述べられている(中学校高校国語科第六章「国語科における文法の学習指導」)。

**— 176 —** 

9	石井庄司	1953	国語教育学の完成を期して	『国語科教育』2
10	佐藤喜代治	1955	言語活動の指導としての国語教育	『国語学』22
11)	西尾実	1956	ことばの生態的考察	『国語学』24
12	遠藤嘉基ほか	1956	文法教育の諸問題	『国語学』26
13	遠藤嘉基	1957	義務教育における文法学習指導	『国語科教育』4
14)	野地潤家	1957	「文法教育」共同研究の基本問題	『国語科教育』4
15	細川浩一	1957	子どもの指示語の理解	『国語科教育』4
16	松下貞三	1957	文法文体教育について	『国語科教育』4

表1 分析の対象とする「国語学」「国語科教育」上の論考

なお以下の議論において、論考の掲載誌が『国語学』『国語科教育』のどちらであるかは問題としない。各論考の筆者名を見ればわかるように、この時期には、国語学の研究者が『国語科教育』において文法教育を論じるケースがあるとともに(時枝誠記など)、国語教育の実践家が『国語学』において国語教育学を論じるケースがある(増淵恒吉など)。前述のとおり、この時期の『国語学』『国語科教育』は多くの接点をもっており、研究領域が整然と分かれているわけではない。そのため、以下の分析では2誌を一括して分析する。

#### 2.2. 両学会における議論の特徴

以下、抽出した論考から指摘できる当時の議論の内容を2点述べる。

## (1) 具体的な教科内容の不在

④上甲 1951 は、主述の関係や修飾の関係がとりづらい文を見た際、「この文は複雑な構造をもってはいるが、文法的には正しい」という以外に、「文法的には正しいにしても、わかりにくい。それはなぜだろう。また、この意味をもっとわかりやすく言い表すにはどうすればいいだろうか」という視点を学習者がもてるようになることが重要であるとする(p.104)。そのうえで、「文法体系はいわばこうした仕事をする際の基礎をなすわけで、つまるところ、文法体系を無視したり軽視したりするのではなく、それをふまえた上で、充分に言語生活の能率をあげようとするのがそのねらいなのだ」(同上)と述べる。ここで上甲は、「文法体系」の重要性を指摘しつつも、それにとどまらず、文法が「言語生活の能率をあげ」ることを求めている。

これは永野 (1958) なども述べる、「文法学」と「文法」の峻別である。永野は、言語規則を認識、説明するために体系化された「文法学」ではなく、事実として存在する言語規則である「文法」の指導を求めていた(pp.8-14)。あまりに「文法学」の指導を重視してしまうと、国語科全体の目標から乖離し、「文法学」を教えることが自己目的化してしまうおそれがあるためである。

しかし上甲が述べる新しい教科内容としては、「文の種類」「文節の関係」「助動詞」「格関

係」といった事項を列挙し、概説を述べるに留まる (pp.106-107)。また、「そのコースの立て方については、お互に (引用者注:小学校と中学高校の双方が)もう少し研究してからでないとハッキリしたことは言えないように思う」 (p.108)とも述べる。ここからは、新たな「文法」の必要性が主張されつつも、それを具体化する教科内容が明確でないという課題を見いだせる。

類似の構造を見いだせるのが①遠藤 1948 である。遠藤は、訓詁注釈的な読解指導への批判から生まれた、文章そのままを読み味わう「鑑賞主義」に対して、次のように批判する。「正確な日本語についての知識がなくて、真の鑑賞などがありうるはずのものではないのである。いふ意味は、たとへば文法がわかるといふことと鑑賞とは表裏の関係だといふのである。思へば今までの国語教育には、この点が最も欠けてゐたのではなかったか」(p.117)。ここで遠藤は、読解と関連づけた新たな文法教育の必要性を主張している。

しかし遠藤はまた、「こんにちのやうな文法教授のあり方」では、あたらしい文法教育の実現に「大いに危惧の念をいだいて」いると述べる(pp.117-118)。つまり遠藤の述べるような「文法」と「鑑賞」を「表裏の関係」におく内容の内実は、まだ遠藤にも十分に明らかになっていなかったのである。「今とは異なるなにか」が必要であるという認識は共有できたが、その具体的なすがたを示すのは困難であった。

このように、「文法」としての目標が変わっても具体的な教科内容を示し得なかったことが、『中等文法』に準じた内容が続けて示された一因である<sup>2</sup>。

#### (2)「実践」におけることばの研究の不足

⑩佐藤 1955 は、国語教育の前提となる「実際」の言語に関する研究を求める。

国語教育が言語に焦点をすゑて行はれるべきことは今まで述べてきたところであるが、更に進んで言語そのものの正体を明らかにしなければ、正しい言語教育を行ふことができない。言語の性質を明らかにした上で、これを教育の場に応用するのが当然の順序である。(中略) 国語教育においても、(中略) 研究と実践との緊密な提携が望ましいわけで実際家に学問的な反省が必要であると同時に、研究家も実際の中から問題を採り上げる勇気を要するであろう。(p.108)

ここで佐藤は、「実際の中から問題を採り上げる勇気」の必要性を述べている。これはつまり、「実践」で用いられることばに関する研究の不足を指摘したものである。

同様の指摘を行っているのが⑥時枝 1952 である。時枝は、従来の国語学研究について以下のように批判する。

先づ、戦後、国語教育学者と云はれてゐる人たちから放たれた国語学に対する批判に 耳を傾ける必要がある。それらの批判の一つは、国語教育で取扱ひ、問題にする国語

<sup>&</sup>lt;sup>2</sup> ⑫遠藤ほか 1956 において、林大は、従来の六活用形と異なる文法学を示そうとすると、「これ、売れないからやめてくれ」という批判の声が上がると指摘している (p.70)。これは部数確保のための教科書編集の方針と学問研究の衝突を意味すると考えられる。

は、具体的な場面において、具体的な事柄について表現され、また理解される言語活動そのものである。(中略) ところが国語学者の研究対象とする国語は、そのやうな具体的な言語活動以前の、抽象された国語である。そのやうな抽象された国語の知識が、具体的な言語活動を問題にする国語教育にどれだけの効果と寄与をもたらすかは甚だ疑はしいといふのである。(p.8)

ここで時枝は、国語教育における「具体的な場面」「具体的な事柄」に関わる「言語活動 そのもの」の研究が不足していると指摘している<sup>3</sup>。このような「実践」のことばに関する 研究の不足が、「国語に存する理法」を理解するという目標設定を超えにくかった一因であ る。

# 3. これからの日本語学と国語教育学

前章では、1945年以降の検定制初期における『国語学』『国語科教育』両誌の議論の内容を素描した。しかしこれらの議論はかならずしも「過去の議論」というわけではない。学校文法に対しては、今日まで数々の批判が行われてきている。それにもかかわらず、今日においても(出版社によって細部の異同はあれ)検定教科書では『中等文法』に準じた内容が示され続けている。ここからいえることは、社会生活・実生活と学校文法との乖離が批判され続けているにもかかわらず、日本語学会(国語学会)・全国大学国語教育学会両学会の活動期間に渡って、『中等文法』に代わる教科書内容は見いだしきれていないということである。この点で、前章で指摘した課題は今日においても共通の課題である可能性が高い。そうだとすれば、この「根の深い」課題を乗り越えるため、前章の議論からどのような示唆が得られるだろうか。

## 3.1.「文法」としての教育目的の構築(とくに前章の(1)に対応して)

仮に現在の学校文法を刷新して別の教科内容を立てても、教えるべき「文法」のすがたが不明なままでは、別の「文法学」となり同じ自己目的化に陥ってしまう。そうだとすれば必要なのは、文法を教える目的の再設定である。これはたとえば「書くこと」や「読むこと」に資することを目的として文法の教育内容を再構築する取り組みである。たとえば、文法を書く文脈と関係なく体系的に指導すると、かえって作文のパフォーマンスが落ちるというデータがある(Graham ほか 2007、p.21)。これは教科内容の再構築にあたって、何のために文法を教えるかという目的の議論が必要であることを示唆する。

野田編(2005)は、日本語教育の文脈において、「聞く」「話す」「読む」「書く」などどのようなコミュニケーションの手段をとるかという目的に応じた文法、つまり「オーダーメイ

<sup>3</sup> なおこのような課題は、今日の国語教育学における課題でもある。たとえば学習者が作文において産出する文法的な不整合の研究は、伊坂(2012)を嚆矢としたここ 10 年の成果が主である。国語教育の文脈においても、現場のことばにおける文法、語彙などの実態をさらに分析していく必要がある。

ドの文法」が必要であるとする (p.7)。このような日本語学や日本語教育学の知見に学びつ つ、国語教育における文法の教育目的を再設定する必要がある<sup>4</sup>。

# 3.2. 「実践」のことばを対象とする研究の拡大(とくに前章の(2)に対応して)

安部・橋本(2014)は、全国学力・学習状況調査(中学校3年生)における「この絵の特徴は、どこから見ても目が合います」という名詞述語文の修正問題が低い正答率(50.8%)にとどまったことを指摘する。そのうえで、名詞述語文がとる名詞によっては、そもそも適切な文末が見つけにくいケースもあると指摘する(「性質」など)。

安部・橋本の研究が示唆するのは、学習者の「書くこと」の支援のためには、学習者が産 出する実際の文章を対象とする必要があるということである。しかし同時にこのような研 究は、対象の焦点を学習者の言語活動という「実践」におくことで、従来は見逃されていた 文法現象を見いだしている。つまり学習者の産出する文に注目することで、名詞述語文にな りにくい名詞にはどのようなものがあるのか、またそれらの名詞にはどのような特徴があ るのかといった新たな問いを立てられるのである。

研究の対象を「実践」におくことは、その研究がある社会生活の文脈にかぎられた議論になるのではないかというおそれを生む。しかしそれはかならずしも研究の不完全さを意味しない。研究の対象を「実践」におくことで、応用という明確な目的をもつとともに、これまでと異なる研究のアプローチを生む場合がある<sup>5</sup>。それは日本語学、国語教育学双方において有益な知見になると考えられる。

### 参考文献

Graham, Steve and Perin, Dolores(2007), Writing Next, Alliance For Excellent Education. 安部朋世、橋本修(2014)「いわゆるモナリザ文に対する国語教育学・国語学の共同的アプローチ」全国大学国語教育学会編『国語科教育研究 大会研究発表要旨集』126、pp.273-276

伊坂淳一(2012)「中学生の日本語表現における文法的不適格性の分析」『千葉大学教育学部研究紀要』60,千葉大学教育学部、pp.63-71

石黒圭(2020)『段落論』光文社新書

岩淵悦太郎(1944)「国定文法教科書に就いて」『国文学 解釈と鑑賞』9(4)、至文堂、pp.28-34

永野賢(1958)『学校文法概説』朝倉書店

4 さらに今日、日本語非母語話者や、障害によって言語活動を不得手とする学習者を包摂 することも求められている。文法を含めた言語教育が考察すべき課題である。

<sup>&</sup>lt;sup>5</sup> 石黒の一連の研究(2020 など) も、かならずしも現場への応用のみを意図しているわけではないが、「段落」といった学習者の「実践」でも表われる事項を対象とすることで、教育にも大きな示唆を与えている。

教育科学研究会・国語部会における言語教育について 一文法教育のばあい― 喜屋武 政勝 KYAN Masakatsu (沖縄大学)

キーワード: 奥田靖雄、「すぐれた日本語のにない手に」、言語の教育と言語活動の教育、 単語と文、文法テキスト

## 1. はじめに

言語学者 奥田靖雄(1919~2002)」の国語教育論の歴史的位置づけや詳細な評価については、高瀬匡雄 2014『奥田靖雄の国語教育論 一子どもたちをすぐれた日本語のにない手に一』むぎ書房刊にくわしい。言語学(日本語学)と国語教育(日本語教育)、さらに文学教育における、20 世紀後半のすぐれた研究者であり、教育者であり、組織者であった奥田の足跡の全貌を正確に記録し、歴史的意義づけをおこなった同書は、のちの言語学・国語教育学の基礎資料となる貴重なものである。本稿における記述のよりどころとした。

## 2. 国語教育の目標・内容・構造

奥田靖雄の理論的指導のもと組織され、方向づけられた、民間教育研究団体「教育科学研究会・国語部会(教科研・国語部会)」の運動の理念は、奥田靖雄1957「すぐれた日本語のにない手に」<sup>2</sup>に詳述されている。そこでは「教育という全体系のなかで、国語教育がしめている位置、他教科からそれを区別する特殊な性格」をあきらかにするなかで、「子どもたちをすぐれた日本語のにない手にそだてあげること」(56年テーゼ)が国語教育の基本目標であることが提示されている。

これらをふまえ、国分一太郎 1964 が『国語教育の理論』むぎ書房刊の「序章 国語科教育とわたしたちの研究」において、「国語科教育の内容・構造」として次表の一覧にまとめた。(p.8)

- (一) 言語教育=系統的に教える日本語指導
  - (1) 文字(正書法)の指導
  - (2) 発音・音声の指導
  - (3) 文法の指導
  - (4) 語い論の指導

# (二) 言語活動の教育

- (1) よみ方指導(教育)
- (2) 文学教育
- (3) つづり方指導(教育)
- (4) はなしことばの教育
- 1 奥田靖雄の業績については、以下の刊行物(いずれもむぎ書房刊)を参照。

言語学研究会編 1983『日本語文法・連語論(資料編)』、奥田靖雄 1984『ことばの研究・序説』、『奥田靖雄著作集 1 (文学教育編) 』 2011、『奥田靖雄著作集 2 (言語学編 1) 』 2015、

『奥田靖雄著作集 3 (言語学編 2) 』 2015、『奥田靖雄著作集 4 (言語学編 3) 』 2015、『奥田靖雄著作集 5 (国語教育編)』 2017、『奥田靖雄著作集 6 (補遺編)』 2022

<sup>2</sup> 初出は 1957『教育』76 号(国土社;のちに奥田靖雄・国分一太郎編『読み方教育の理 論』1963 国土社、1974 よりむぎ書房。2017『奥田靖雄著作集 5 (国語教育編)』所収) 日進月歩する学問の研究成果が、学校現場の教育実践によってたしかめられ、またあらたなレベルの研究に反映される、というあり方が、研究と教育との理想的な関係であるという原則は、言語学(日本語学)と国語教育(日本語教育)についても、当然指摘できる。研究者と教師が相互にまなびあうことが、学問と教育の相互補完的なあり方であるといえるだろう。「教師は研究者の最新の知見にまなび、研究者は教師の実践にまなぶ」。このことは、教師集団である教科研・国語部会と研究者集団である言語学研究会の先輩方が実践されてきたことである。このような学問と教育のより具体的な協働の形式としてあらわれてくるのは、すぐれた「テキスト(教材)」であるだろう。

# 3. むぎ書房刊の文法テキストについて3

前掲の高瀬匡雄 2014 の「第3章 言語教育の理論と方法」に成立の経緯が詳述されているが、現在むぎ書房より公刊されている文法テキストをあげれば、つぎのとおりである 4。

- ① 『にっぽんご 2 もじ はつおん ぶんぽう』 $小1 \sim 2$  対象 (明星学園・国語部) 1964
- ② 『にっぽんご3の上』小2~3対象 (明星学園・国語部) 1973 5
- ③ 『にっぽんご4の上 文法』小学校高学年対象 (明星学園・国語部) 1968 その後、「にっぽんご」シリーズとはべつに、新シリーズとしてつぎのテキストがむぎ書房より公刊されている。
  - ④ 『一年生のにっぽんご 上・下』小1対象(教科研・国語部会)1987
  - ⑤ 『二年生のにっぽんご』小2対象(教科研・国語部会)1990

さらに、1991年より 2001年にかけて、これにつづく未公刊の文法テキスト案がくりかえし改訂されながら報告されている。おもなものをあげれば、つぎのとおり 6。

『三年生のにっぽんご』小3対象(教科研・国語部会)1991 『小学生のためのにっぽんご』小3対象(東京国語部会)1994

- 3 本稿の3、4については、2014 喜屋武政勝「小学生用文法教科書『あたらしい にっぽんご』 一その構成と教授学的意義について―」『教職実践研究』第4号をもとにしている。
- 4 いわゆる「にっぽんご」シリーズは、ほかに以下のものがある。

『にっぽんご 1 もじのほん』明星学園・国語部

『にっぽんご 5 発音と ローマ字』教育科学研究会・秋田国語部会

『にっぽんご 6 語い』教科研・群馬国語部会・語い研究サークル

『にっぽんご 7 漢字』明星学園・国語部

- 5 なお、『3の上』の旧版にあたる『にっぽんご3 もじ ぶんぽう』小2~3対象(明星学園・国語部)1965は、『4の上』の出版と連動させて、絶版となっている。また、『3の上』、『4の上』につづくテキストとして、構文論編が当初予定され、つぎの原案が完成したものの、未公刊のままである。『にっぽんご3の下』小3~4対象(明星学園 国語部)、『にっぽんご4の下』小学校高学年(教科研・国語部会岡山サークル)1974
- 6 この間の詳細な経緯については、笠松郁子 2006「あたらしい『にっぽんご』シリーズのつづきを刊行しよう」(小原集会報告)、高瀬匡雄 2014 を参照されたい。

そして、1995年より、さらにおおはばな改訂作業がおこなわれ、上記ふたつのテキストとはことなる、まったくあたらしいテキストとして、『小学生のための日本語』(第1稿)小3以上対象(教科書編集委員会)が2000年にまとめられる。

奥田靖雄が最晩年、病にたおれるまでとりくんできた文法テキスト『小学生のための日本語』は、2000年10月に第2稿の改訂作業が再開され、『教育国語』第4期1号(2001年)に第1章「文」が、2号(2002年)に第2章「単語」が報告された。第1章「文」への教師むけ解説草稿がかかれた(2000年11月)あと、奥田靖雄は病にたおれ、約1年の闘病生活ののち2002年3月に不帰の客となる。文法テキストは第1稿のまま公刊されずにいた。その後、2007年より言語学研究会によって用例の補充と全体の校閲がなされるとともに、国語部会の集会において順次教師むけの解説がなされた(『教育国語』第4期12号(2012)~第4期21号(2021)むぎ書房刊)。第2稿が2010年6月にまとめられ、さらに学校現場での実践と検討がくわえられ、2012年8月には第3稿がまとめられた。そして、『小学生のための日本語』が改題され

⑥『あたらしい にっぽんご』(原案:奥田靖雄、編集:教科研・国語部会) として2014年にむぎ書房より刊行された。

なお、上記の『あたらしい にっぽんご』とはべつに、『にっぽんご宮城版』と通称されている文法テキストについては、その成立の経緯、テキスト本文、さらに関連する奥田靖雄の論文の断片が整理された未公刊の労作、佐藤里美編 1998「日本語文法の基礎 奥田靖雄著『にっぽんご宮城版』1984~93 をもとに」が、

⑦2021 奥田靖雄著 教育科学研究会国語部会編『現代日本語文法の基礎―『にっぽんご 宮城版』とその理論―』むぎ書房刊

として公刊され、中学生以上~大学生、一般を対象とする文法テキストとしてひろく入手可能となっている。

#### 4. 『あたらしい にっぽんご』について

『にっぽんご 4の上』1968年、およびその解説書としての鈴木重幸1972『日本語文法・形態論』は発刊以来、現在にいたるまで、小学校高学年対象の文法指導のテキスト・解説として、またよみ方指導、つづり方指導のよりどころとして、全国の教師に支持されてきた。文の通達的なタイプ、文の部分について、単語について、あわせ文についての序論(構文論)のあと品詞各論の本論(形態論)が展開される、きわめてオーソドックスな文法書である。その学問的、教育的な意義は色あせることはない。

『4の上』以後、連語論のさらなる論究、動詞論、アスペクト論、そして文の陳述論研究へと、奥田靖雄はつねに日本語学研究の最先端をきりひらきつづけてきたが、一方で、現場教師を指導しながら、文法教科書づくりにとりくみつづけた。その作業にくわわったものには周知のとおりであるが、奥田靖雄の文法教科書づくりにむかう姿勢は、児童生徒むけだからといって、けっして妥協することがなく、むしろ子どもたちの言語教育には最高のものをあたえたいとの信念から、言語学の最新の研究成果をとりこみ、なおかつ教授学上の原則を

反映させながら、とりくんできた。ひとつの文法テキストがしあがると同時に、さらによい ものをめざして、あらたに改訂作業がはじまることがつねであった。奥田靖雄が最後にのこ した文法テキスト『あたらしい にっぽんご』も、そうしてうみだされた労作である。

その内容の面から、このテキストの特徴を指摘すれば、一貫して文の問題を中核にすえながら、それとむすびつけて、連語、そして単語の問題があつかわれているということがあげられる。つまり、構文論と連語論と形態論がきりはなされずに、有機的にしかもたくみにくみあわされながら記述されていることがおおきな特徴として指摘できる。従来の「にっぽんご」シリーズで学習した子どもたちも、新シリーズ『一年生のにっぽんご 上・下』『二年生のにっぽんご』で学習した子どもたちも、あるいは、とりたてて文法指導をうけてこなかった子どもたちも、あらたな発見とともに文法理論をまなぶことが期待される。これは、文法指導に、さまざまな程度にかかわってきた教師にとっても同様であって、知的興味を喚起しつつ、しかもじゅうぶんに実用的なテキストでもある。『あたらしい にっぽんご』の章立てはつぎのとおり。

1.	文
2.	単語
3.	文の くみたて(1)
4.	みとめと うちけし
5.	ふつうの いい方と
	ていねいな いい方

6.	くっつき(1)
7.	くっつき(2)
8.	できごとの 時間
9.	動作と 変化
10.	かまえ
11.	動詞の なかどめ

12.	文のくみたて(2)
13.	形容詞
14.	副詞
15.	能動と うけみ
16.	漢字の つかい方
17.	あわせ単語

巻頭言には「日本語のべんきょう」と題する文章がのせられており、このテキストの目的 が明解にのべられている。

わたしたちは この 教科書を つかって, これから 日本語の べんきょうをはじめます。 日本語は, わたしたちが まいにち はなしたり, かいたり するときに つかう ことばです。 ですから, 日本語に ついての ちしきを たくさんもって いなければ, じょうずに はなしたり, きいたり, かいたり, よんだりする ことが できません。 たとえば, 日本語の 単語を たくさん しって いなければ, じぶんの かんがえを じょうずに つたえたり, ともだちの かんがえをせいかくに ききとったり する ことが できません。 単語を つかって, 文をくみたてる きまりを しって いなければ, 文を つかって じぶんの 意見をあい手に つたえたり, あい手の 意見を ただしく うけとったり する ことができません。 ですから, 日本語の べんきょうを たくさん して, 単語や 文のつくり方の ちしきを たくさん もたなければ なりません。(p.1)

「日本語の 単語」と「文の つくり方」(すなわち、文法)の知識が、より質のたかい 言語活動を保障するものであるという文法学習の意義が小学生にも理解できるようにてい ねいにかたられている。ふだんの生活のなかでは、はなしたりきいたり、あるいは、かいたりよんだりする言語活動が言語(すなわち単語と文法)をもちいてくみたてられる文による反映=通達活動であることは、ほとんど自覚されない。文法指導は、そのような、無自覚のままおこなわれている言語活動そのものに注意をむけさせ、文と単語、そして文法を学習の対象として科学的にとらえさせることを前提とする。文法指導は、子どもたちを「ことばの科学」へとみちびく。具体的な文法現象を観察しながら、文法用語と、その概念をあたえることで、子どもたちの言語活動は意識的なものへと飛躍してゆく。

# 5.「文のくみたて」の授業から

笠松郁子 2021「小学生の文法指導 一文のくみたて一」『教育国語』4・22 むぎ書房では、『あたらしい にっぽんご』の「第3章 文のくみたて(1)」の実践報告がなされている (毎週1時間、4年生の1クラス)。そこでは、授業づくりにあたって、つぎのようなこと に留意したとのべられている。

・例文を観察し、自分たちで日本語のきまりを発見できるように。・学習のつみかさねにより、らせん状に理解がふかまっていくように。・課題解決から、またあたらしい問いがうまれるように。・学習のながれがわかり、見通しをもって、活動できるように。・学習をふりかえり、自分のことばでまとめられるように。・むずかしい文法用語にふりまわされるのではなく、日本語のおもしろさが実感できるように。・まず、教師自身が日本語のおもしろさをあじわい、それにこどもたちをまきこんでしまうように。(p. p73~74)

テキストの規定と照応したかたちで指導計画(9時間あつかい)が以下のとおりくまれている(p.74。用例等、加筆は喜屋武)。

#### (1) 文の一次的な部分

①名詞と動詞とをくみあわせた文 (動詞述語文)

「<u>犬が</u> ほえる。」「<u>たろうが</u> はしる。」(動作) / 「<u>せんべいが</u> われる。」「<u>もちが</u> ふくらむ。」(変化) / 「海が あれる。」「じろうが ふるえる。」(状態)

②名詞と形容詞とをくみあわせた文(形容詞述語文)

「<u>お医者さんは</u> <u>やさしい</u>。」「<u>かんごしさんは</u> <u>しんせつだ</u>。」「<u>ぞうは</u> <u>おおきい</u>。」 「ありは ちいさい。」「ちゅうしゃは いたい。」「薬は にがい。」(とくちょう)

③名詞と名詞とをくみあわせた文(名詞述語文)

「<u>チョウは</u> こんちゅうだ。」「<u>ペンギンは</u> <u>鳥だ。」「銅は</u> <u>金ぞくだ。」「ダイヤモンドは</u> こうぶつだ。」「<u>おじいさんは</u> りょうしだ。」「<u>おとうさんは</u> だいくだ。」(質) ④主語と述語 (①~③のまとめ)

- (2) 文の二次的な部分
- ⑤動詞が名詞をしたがえること(補語) 「ぼくは パンを やいた。」など
- ⑥動詞が副詞をしたがえること(連用修飾語)「たろうが げらげら わらった。」など
- (7)名詞が形容詞をしたがえること(連体修飾語1)

「にいさんは くろい 自転車に のった。」など

⑧名詞がほかの名詞をしたがえること(連体修飾語2)

「たろうが 家の まどを あけた。」など

⑨まとめ (①~⑧のまとめ)

4時間目のこどもの学習プリントから(抜粋)

○だんだん文がどのように作られるかということや、最初が主語で最後に述語という順番も分かりました。2年生よりも2倍、3倍と分かってうれしかったです。3つの種類の文の作り方があることも分かれてよかったです。そして述語になる理由がいろいろあることもわかりました。/○この前から、(文を) くみたてる勉強をやって、名詞+動詞、名詞+形よう詞、名詞+名詞とやってきて、こんなに文ができてびっくりしました!!名詞は主語にも述語にもなるとわかりました。/○述語がちがうとくっつきの「が」「は」もちがって、述語が動詞だと「が」で、述語が形容詞、名詞だと「は」になってたのに気づきました。もう、文の勉強は終わりなんでしょうか? 来週楽しみにしています。(p. 89)

#### 6. おわりに

小学校の検定教科書には、文づくりの基礎となる主要 4 品詞 (名詞・動詞・形容詞・副詞) がとりあげられていない。単語は文の直接の材料となるものであって、カテゴリカルな意味によって、《人、もの、いきもの》をさししめす名詞、《動作、変化、状態》をさししめす動詞、《とくちょう》をいいあらわす形容詞、《ようす、程度》をいいあらわす副詞に、それぞれ分類できる。そして、名詞と動詞とをくみあわせることによって動詞述語文が、名詞と形容詞とをくみあわせることによって形容詞述語文が、そして名詞と名詞とをくみあわせることによって名詞述語文が、それぞれできあがる。前掲のこどもの感想には、述語にすえられる単語の品詞別によって、主語の位置に配置される名詞のくっつきの形のちがい(「が」/「は」)の発見があった。「このように、単語(品詞)の学習、文(の部分)の学習は、小学生にとってもじゅうぶん理解できるし、知的な興味をひきつける内容である。8

奥田靖雄は、ことばの学習によろこびをみいだす子どもたちのもつ可能性を信じていた。 そして、「子どもたちをすぐれた日本語のにない手にそだてあげること」をその研究と教育 をもって探求しつづけた。「ならうより なれろ」式で日本語のとりたて指導をなおざりにす るのか、「ことばの科学」として、日本語を指導=学習の対象にすえ、子どもたちに日本語 の法則をしるよろこびをあじわわせ、言語運用能力をたかめることをめざすのか。きびしい 教育現場のなかにいる、わたしたち教師のあり方が、とわれつづけている。

<sup>「</sup>第7章 くっつき (2)」では、特徴をあらわす形容詞述語文(ほしがき<u>は</u> あまい。)のほかに、状態をあらわす形容詞述語文(空<u>が</u> あおい。)をまなぶこととなる。笠松郁子 2022 「小学生の文法指導 (3) —とりたて一」『教育国語』 $4\cdot 24$  むぎ書房参照。

<sup>\*</sup> 教科研・国語部会の言語教育の実践記録については、『教育国語』むぎ書房刊(1期 1965~1991、2期 1991~1997、3期 1998~2000、4期 2001~)を参照されたい。

# 多様な子どもたちが学ぶ「国語」の当事者として

-日本語学からみた国語教育との接点 - 佐藤 菜作 (愛媛大学名誉教授)

キーワード: 教員養成、学習指導要領、言葉の正誤、日本語・ことばに関わる説明的文章、 日本語指導、中高生日本語研究コンテスト

#### はじめに

かつて、国語教育について「文学教育 VS 言語教育」論争があったが、教科「国語」が「ことばの教育」であるなら、「文学教育」=「国語」でないことは明らかである。しかし、旧制中学の教科を見ると、「国語」は、国語で書かれた文章の読解と作文と国文法を合わせたものであり、1947年の学習指導要領国語編(試案)や1951年の改訂版の「ことば」への傾斜の方がむしろ異色で、文学作品を中心とする「国文」の読解が「国語」であるという認識は戦前から継続してきた。戦後、「国語」の学としての国語科教育学が確立する一方、国語学の呼称は日本語学へ移行し、字面では「国語」の学ではなくなった。そして現在、例えば「日本語研究の成果を「国語」の授業改善に生かす」は、日本語学(日本語研究)と「国語」との近さよりもむしろ距離の存在を示しているように、発表者には感じられる。

しかし、多様な子どもたちが「国語」を学ぶこととなった今、新しい「国語」のためには、 日本語学(日本語研究)が「当事者」として参画することが必要だと考える。

#### 教員養成と日本語学

現行「教育職員免許法実施規則」は、国語科教員の免許取得のために必要な「教科に関する科目」として、「国語学(音声言語及び文章表現に関するものを含む。)」、「国文学(国文学史を含む。)」、「漢文学」、「書道(書写を中心とする。)」を義務付けている。このことは、教員養成においては、依然として「国語」(中学校)=「国語学+国文学+漢文学+書道」であることを示している。また、(「書道」を除くと)「国語」の文学以外の部分は、全て「国語学」が担わされているようにも読める。語学教育のいわゆる4技能と重ね合わせるなら、「話す」「聞く」が軽く、それを充実させるなら、これも「国語学」の担当となってしまう。文学作品やさまざまな文章が中心であるが、「話し言葉」も扱うようにと、「国語学」に括弧付きで「音声言語」がわざわざ注記されているのだととらえられる。日本語研究と「国語」とが遠くなったと述べたが、国語科教員養成においては、教科内容において「国語学」のカバーすべき領域はあまりに広く、果たす役割はあまりに大きいことになる。

国語科教員養成において、この「国語学」(実際には「日本語学概論」等として置かれる)を担当するのは、日本語学を専門とする大学教員である。全ての国語科教員の日本語・日本語学についての知識・理解、就中「音声言語」と「文章表現」の知識・理解について、その責任は「国語学」科目の担当者、ひいては日本語学界にあるということになる。

例えば、中教審の答申、それに基づく学習指導要領の改訂において、日本語の特質について言及されたり、言語能力の向上が求められたりする場合、それに応えるための教員養成科目の充実や変更・改善は、(それぞれの大学の教員養成カリキュラムではあるが、内容については)一義的には、日本語研究者である「国語学」担当教員が対応すべきことになる。

「教育職員免許法実施規則」では、学校教員全てに関わる必修科目として「日本国憲法」「体育」に「外国語コミュニケーション」と「情報機器の操作」が加わっている。加わった二つの科目は、社会のグローバル化、高度情報化という現代的課題への対応であり、日本語研究と国語教育との関係においてもポイントになりうると考える。

## 学習指導要領と日本語学

国語教育は「ことばの教育」であるが、日本語母語話者を対象としてきたため、「0から日本語を習得していく」という部分がほぼ欠落し、高度な言語運用の成果物である文学作品の「読解」に重きが置かれてきた。国語科教員の養成においても、「文学が読める者」が適格者とされてきた。今回(平成 29、30 年)の学習指導要領の改訂によって、高等学校国語科の科目が様変わりしたが、その設置の理由は「ことばの教育」として自然なものであると思われるが、「文学軽視」「古典軽視」という声が挙がったことは、「国語」が「国文学」中心であることを図らずも裏付けることになった。この議論の中で、発表者が興味深かったのは、新設「論理国語」の目的は文学作品を対象とすることでクリアできるとする紅野謙介氏が「非日本語話者の生徒」を含め「日本語をしっかり教えていくプログラム」が重要であると指摘している点である。「国語」における文学の扱いの如何に関わらず、多様化する子どもたちへの配慮は欠くことのできないものであり、様々な議論の前提となる。そこには、日本語研究の成果や日本語教育の実績が、当然必須事項となるはずで、かつての国語学と国語教育との関係への回帰ではなく、今から将来への「当事者」としてである。

平成 29 年告示の学習指導要領に大きな影響を与えた前年 12 月の中教審答申には、「メタ 認知」への言及があり、学習指導要領・同解説にも、それに関わる記述が指摘でき、最新の 国語教科書もそれに対応している。「国語」における日本語研究の出番になろう。そんな中、 発表者が注目するのは学習指導要領解説「総則編」の「言語環境の整備」の一節である。

①教師は正しい言葉で話し、黒板などに正確で丁寧な文字を書くこと、②校内の掲示板やポスター、生徒に配布する印刷物において用語や文字を適正に使用すること、③校内放送において、適切な言葉を使って簡潔に分かりやすく話すこと、④より適切な話し言葉や文字が用いられている教材を使用すること、⑤教師と生徒、生徒相互の話し言葉が適切に用いられているような状況をつくること (小学校では「生徒」 $\rightarrow$ 「児童」)

教員によって、児童・生徒の取り巻く「言語環境」は大きく変わってしまう、つまり、教員は「言語環境」そのものなのである。ここは日本語学と国語教育との重大な接点となるはずである。多様な児童・生徒にとっての「生きて働く国語力」をどのように設定するかは、そのまま、その手本・見本としての教員の「国語力」が関わり、言葉遣いや文字・表記などについての教員の知識・技能は、教員養成における教職科目で培われる。万一、教員が不適

切な言葉遣いや不適当な文字・表記の運用しかできない場合、その原因は教職科目としての 「国語学」にあり、それを担当する(採用後の研修も含め)日本語研究者となる。

もう一つの問題点は、「正しい言葉」「正確な文字」「用語・文字の適正な使用」「より適切 な話し言葉 | にみられる「正しい | 「正確 | 「適正 | 「適切 | とは何かである。言葉(言語) の「正しさ」は単純な事柄ではない。例えば、文法において「非文」認定があるが、グレー ゾーンも存在する。 小学校学習指導要領解説は「昨日,私は,母がおやつにクッキーを焼い てくれました。」を「不適切」な例として挙げ、主語・述語の「適切な係り受け」が求めら れているが、単純な問題ではなかろう(参考「モナリザ文」の分析)。漢字の正誤について は、たびたび物議をかもしているが、文化庁の「常用漢字表の字体・字形の指針」にあるよ うに、一つの漢字について、字体はほぼ一つであるが、実現する字形には幅がある。この幅 の中の字形は「誤り」ではなく「正しい」。アクセントについては、「正誤」でとらえられな い。語の表記については、確かに学習した漢字は定着のために使用するように指導されるが、 それを用いていないからといって日本語として「誤り」ではない。「異字同訓」は、本来一 つの和語に複数の漢字を宛てたところから生じたのであるから、置き換え不可能となった ものがある一方で、併用可能なものも多い。類義語・同義語も、確かに文体によって適・不 適があったとしても、全くの「誤り」とはしづらい。言葉にとって、「よりふさわしい」は あっても、「正誤」という切り分けは総じて馴染まない。ところが、学習指導要領は、「言語 感覚」を養うことを「国語」の目標とし、「正誤」「適否」「美醜」を挙げる。確かに、Aで もBでも「正しい」では教育にならないのかもしれないが、そもそも、言葉とはそのような 一面を持つものでもある。この点については、言語の研究に携わる「専門家」は、学習指導 要領の記述に対して何らかの意見を具申すべきであり、特に、多様な子どもたちが学ぶこと を念頭に置けば、「誤り」についてはよほど慎重でなければならないはずである。

## 国語の授業・国語教材と日本語学

「日本語研究の成果を「国語」の授業改善に生かす」と言っても、そのための研修が必要なら、現場教員にとっては負担増でしかない。たとえ、日本語研究の新たな成果を教科書に加え、言語に関わる事項を充実できたとしても、現状手一杯なら、結局、新たに増補された部分は軽く流し、定番教材に力を集中するだろう。日本語研究の成果の「国語」への還元が、国語教員を手助けするものであるなら理想的だと言える。矢澤真人氏らの「作文を支援する語彙・文法的事項に関する研究」はそうした研究・実践と位置づけられよう。

本発表では、負担を増やさない工夫として、日本語・ことばに関わる説明的文章の比率を高めること(差し替え)を提案したい。すぐには無理でも準備をしておきたい。例えば、新野直哉氏の「全然」の研究が国語教科書にあればインパクトは絶大だろう。すでに田中ゆかり氏の「方言コスプレ」、庵功雄氏の「やさしい日本語」を掲載する高校教科書があるが、可能ならより低学年で子どもたちに出会わせたい。金水敏氏の「役割語」、笹原宏之氏の「方言漢字」など、説明的な文章として教科書にあれば、教員の教材研究はそのまま日本語学の研究成果を取り入れる機会となる。学会として売り込めないだろうか。

新たな成果ではないが、基本的な知識・理解も説明的文章で教材となるのが望ましい。特に、従来の「国語」は、日本語母語話者なら身についている発音(音声・音韻)についての扱いが小さい。外国語(英語)が小学校で教科となり、他言語との比較が言語能力の向上に有効であると学習指導要領にも明記されているのだから、母音の口形の写真を示すだけでなく、例えば「腹話術(と読唇術)」あるいは、「聞き間違いとダジャレ、言い間違いと早口言葉」というような説明的文章を小学校で学ぶのはどうだろう。説明的文章「手書きの文字と印刷の文字」があれば、漢字の正誤について教師と子どもたちで考える機会となる。中学校では(可能なら小学校で)、「「よる」と「とる」」、「あけぼの文(=ウナギ文)」などはどうか。前者は「方言と共通語」の単元として、後者は古典に親しむ「春はあけぼの」と合わせて学ぶことで、子どもたちの興味・関心を引き出すことができると考える。東京書籍(令和5年検定)の小6の国語教科書には「のである」「からである」についての説明があり、画期的だと感じた。小学校1年生から、ほぼ毎学年複数掲載されている説明的文章は、その多くが文章の最末尾を「のです。」で締めくくる。一部に「のだ文」を回避していると見受けられる教科書もあるが、どこかの段階で、「のだ文」についての説明的文章がほしい。

次に、現在ある定番教材を用いた授業改善の提案である。令和5年検定の小学校教科書には、全てQRコードが付いた。光村図書の小学校3年下の「モチモチの木」では「青じし」の脚注「かもしかのこと」にQRコードがあり、そこから「ニホンカモシカ」の写真に飛べる。その写真から、「青じし」が blue の獣でも、green の獣でもないことが一目でわかる。「ニホンカモシカ」は普通のシカやイノシシのような茶色でなく、グレーっぽい。ここから、日本語において、「あお(あを)」が blue だけを表す語ではないこと、green を含め、さらに広い色を指してきたことを体感できる。「アオサギ」の写真を準備しておけばさらによくわかる(『日本国語大辞典』の記述を紹介する)。これを経験しておくことで、児童は「ごんぎつね」の「青いけむり」も理解できるだろう。教員も、「青い」という語が「悲しみ」や「後悔」を表すという「読み」には飛躍があると気づくだろう。さらに「ちいちゃんのかげおくり」の「青い空」や、「やまなし」の「青いげんとう」などへ広がれば、「主体的・対話的で深い学び」が実現できる。高校になって「白馬(あをうま)の節会」と合わせてもよい。blueや green との違い、灰色・gray との関係など、他言語との比較に興味を膨らませる子どもも期待できる。これらは、教科書の工夫(別立てのコラムから本文へ取り込むこと)で、それほど大きな過重にならず、教科の目標達成への授業改善になるように思う。

学習指導要領には「国語の特質」を理解することが「国語」の目標だとしていながら、日本語の第一の特質と言ってもいい複数文字体系の用い分けについて、十分に理解させ自覚化できていないように感じる。小学校でカタカナで書く語を学ぶが、外来語、外国の地名・人名、擬音語(擬声語)という説明に留まっている。例えば「川とノリオ」(教育出版小6)を扱う際に、「ノリオ」、「ハイキュウ(配給)」のカタカナ表記を考えることは、「国語の特性」の学習であるとともに、この作品の「読解」にも直結している。

# 「日本語指導」と日本語学

「腹話術」による音声の説明や「のだ文」の説明、これらは「専門的すぎる」のだろうか。確かに詳しい説明は難しい。ただ、ここにはすでに触れた教員養成も絡んでいるのではないか。国語科教員免許の必修科目「国語学」は、小学校教員免許では必修ではない。小学校教員免許の「国語」関係の必修科目は「初等国語科教育法」だけである。選択必修として「初等国語」があるが、選択科目であり、日本語学はその中身の一部に過ぎない。中学国語と合わせて免許を取得する者を除くと、日本語学を学ばなくても小学校教員免許は取得可能なのである。日本語の基礎、言語(ことば)とはいかなるものか、そういう学習経験なしに、今まさに日本語を習得しつつある子どもたちの「国語」を担当することは大問題である。

今、日本には母語が日本語でない子どもや親が日本語母語話者ではない子どもが増えつつあり、その子たちも地域の小学校・中学校で学ぶ。学習指導要領にも、そうした「日本語の苦手な子どもたち」への「日本語指導」を「組織的に」実施するように書かれている。おそらく、そういう子どもたちは、「抜き出し」での「日本語指導」と「合同」での「国語」や他の教科の授業を受けることになるが、いずれにしても、「日本語指導」を担当する教員はもちろん、他の教員にも、日本語学、日本語教育、第二言語習得についての知識・理解が必要なのは明らかである。そうなると、国語科教員免許の必修「国語学」を小学校教員にも課す程度では足りない。教員免許必修科目「外国語コミュニケーション」を、日本語を含む「言語コミュニケーション」に拡張し(内容に第二言語習得の学習も含め)てほしい。

すなわち、小学校教員の全て、中学高校においても国語科以外の教員も、「日本語」に関わる科目を習得していなければ、教員免許が取得できないような教員養成のしくみが必要になっているのではないか。この方向性について日本語学界・学会としてコンセンサスを得て、声を挙げるべきだと思う。合わせて、「日本語」科目が教員免許必修になった場合に、対応できるということを、大学レベルでなく学会・学界として示す必要があるだろう。担当コマ増となれば、個々人の覚悟だけでなく、教員増を求めることになる。

端的に言うなら、「小学校教員養成課程だったので国語学は知らない」「古典文学専攻(近代文学専攻)だったので国語学はわからない」というような学生に、「国語」を担当する教員になってもらってはまずい。さらに、「文法(音韻)が卒論だったので、音韻(文法)はよくわからない」というのでも困るのである。(採用後の支援の方が現実的であろうが)

日本語学関係科目の充実、そして必修化が実現できれば、「専門的すぎる」という批判は おのずと小さくなると予想する。もちろん、そうなっても、一教員がなんでも説明できるわ けではない。しかし、たとえ説明できなくても、重要な事象が重要であることは動かないし、 子どもたちが興味・関心を持ってくれることと、説明し尽くせないことは別のことであろう。

# 日本語学会・学界の動き

最新の検定教科書には、学習指導要領の改訂を受けて、新たな試みや変更が加わっている。 そこには、ひと昔前にはなかった、日本語学的な、言語学的な教材、コラムなどがいくつも 見える。日本語研究者は、「国語」の改善・改革に参画し、進めつつある。

日本語学界においても、新たな動きが始まり、すでに成果を挙げつつある。日本語学会会

員を主たる構成員とする日本語習熟論学会、実践方言研究会が立ち上がり、現場に直結する、より実践的な研究を進めている。多文化共生社会における日本語の在り方を示した庵功雄 氏らの「やさしい日本語」は、まさに新しい「国語」そのものと言え、「やさしい日本語」 に共感する教員の養成、その実践の場としての「国語」、これは発表者の主張と重なる。

日本語学会では、昨年度から「中高生日本語研究コンテスト」を実施し、日本語研究に興味・関心を持つ生徒やそれを指導する教員への手厚い支援体制を築いている。これは、新しい時代の「国語」への準備として、教科書の中の日本語学関係事項や、まだ教科書には載っていないが普段の生活の中で気になっている日本語に関する事象について、現在の現場教員個人では、指導・対応しきれないことがあった場合に、アドバイスや指導のヒントをくれる日本語研究者とつながる体制の構築への第一歩である。「手厚すぎる」と言われるこの体制は、教員養成の仕組み、教員の仕事量、教科書の現状からすれば、現段階において必要なのだと考える。すでに、第一回コンテストにおいて、聾学校から手話と音声言語とを比較する研究があった。他言語との比較も出て来るだろう。多様な子どもたちは、多様・多彩な研究の種を見つけるはずである。言語研究、日本語研究の領域やテーマは広い。その広がりを理解する人材の育成こそ、日本語研究者、日本語学会・学界に託された責務である。

最後になったが、国がICT教育、GIGAスクール構想を推し進める中、国立国語研究所の日本語コーパスの構築は極めて時宜にかなったものである。学校現場から直接、日本語コーパスを検索し、現代日本語の実態や日本語の歴史的変遷を見渡すことができる、そんな授業の実現のために、日本語研究者は皆コーパスの確認作業・整備に協力すべきであろう。

# おわりに

教育の力は大きい。「国語」の授業は、日本語習得の場であり、未来の日本語の生まれる場である。厳しすぎる正誤の判定によって漢字嫌いになった子が、「国語」嫌い、学校嫌いになったという話を聞くと、国語教育が未来をつぶしていることであり悲しい。学校にはディスレクシアの子ども、ギフティッドの子ども、非日本語母語話者の子どももいる。多様な子どもたちが日本語によって自らを表現し、多文化社会の一員として社会に貢献できるために、日本語の研究は不可欠である。まずは、国語科教員養成の当事者であるという点を確認し、未来の「国語」が担当できる人材が養成できることを社会に示さなければならない。

(大学入試の「国語」と人工知能については、紙幅の関係で触れられなかった。)

文献 安部朋世・橋本修 2014「いわゆるモナリザ文に対する国語教育学・国語学の共同的 アプローチ」全国大学国語教育学会国語科教育研究:大会研究発表要旨集

庵 功雄 2016『やさしい日本語―多文化共生社会へ』岩波書店

紅野謙介 2023 『ことばの教育 日本語で読み、書き、考える』 青土社

全国大学国語教育学会編 2022『国語科教育学研究の成果と展望Ⅲ』渓水社

田近洵一1999『戦後国語教育問題史(増補版)』大修館書店

森 篤嗣 2013「「やさしい日本語」と国語教育」庵功雄他編『「やさしい日本語」は 何を目指すか 多文化共生社会を実現するために』第 13 章 ココ出版 日本語学会2023年度秋季大会予稿集

発行日(ウェブ公開日):2023年10月12日

大会会期: 2023年10月28日·29日

# 〔大会企画運営委員会〕

石黒圭(委員長) 庵功雄(副委員長) 池上尚 大田垣仁 太田陽子 小木曽智信(副委員長) 苅宿紀子 北﨑勇帆 鴻野知暁 坂井美日 澤村美幸 田中啓行(委員長補佐) 田中祐輔 中川奈津子 松浦年男 宮澤太聡(委員長補佐) 李婷

〔オンライン大会スタッフ〕

\*中川奈津子(連絡会長) \*庵功雄 \*池上尚 \*石黒圭 遠藤佳那子 \*大田垣仁 \*太田陽子 \*\*\*岡田一祐 \*小木曽智信 \*苅宿紀子 \*北﨑勇帆 \*鴻野知暁 \*坂井美日 \*澤村美幸 高木千恵 \*田中啓行 \*田中祐輔 \*\*野間純平 \*松浦年男 \*宮澤太聡 \*\*\*村山実和子 \*\*八木下孝雄 \*\*山田昌裕 \*李婷

(\*大会企画運営委員兼任, \*\*事務局委員兼任, \*\*\*広報委員兼任)